貝元遺跡 I

九州自動車道筑紫野I.C.建設に伴う筑紫野市
所在弥生・古墳時代大集落の発掘調査報告

1998

福岡県教育委員会

貝元遺跡 I

九州自動車道筑紫野I.C.建設に伴う筑紫野市
所在弥生・古墳時代大集落の発掘調査報告

1998

福岡県教育委員会

(1)　貝元遺跡上空より太宰府方面を望む

(2)　4号土坑祭祀遺物出土状況

序

このたび，既設の九州自動車道に新たなインターチェンジが付設されることになり，その建設に伴って，当教育委員会では平成７～８年度に埋蔵文化財の発掘調査を実施しました。

本書は，筑紫野市西側山麓における弥生・古墳・奈良時代の巨大集落跡と，そこから出土した夥しい量の貴重な遺物について報告いたします。弥生時代の巨大建物跡や430軒に及ぶ竪穴住居跡，多量の土器･石器の出土など，極めて特筆されるべき内容であります。

本書が，文化財愛護思想の普及，研究・教育等の資料として広くご活用いただければ幸甚に存じます。

発刊にあたり，地元の方々をはじめ，数々のご協力をいただいた関係各位に深甚なる謝意を表します。

平成10年３月31日

福岡県教育委員会

教育長　光安常喜

例　言

1　本書は，平成７・８年度に福岡県教育委員会が日本道路公団から委嘱されて，九州自動車道筑紫野インターチェンジ建設に伴って発掘調査を実施した貝元（かいもと）遺跡の調査報告Ⅰである。後半部のⅡは10年度刊行予定。

2　本書に収録した遺跡は，福岡県筑紫野市に所在し，筑紫野I.C.建設予定地内の北半部を福岡県教育委員会が調査担当し，それに接する南半部と西側の部分については筑紫野市教育委員会が担当した。本書においては県教委分のみを収録する。

3　本書掲載の現場における遺構実測図・測量図は，甲斐孝司・松永通明・河合修・服部由美・赤坂亨・岸本圭・重藤輝行・秦憲二・齋部麻矢・吉村靖徳・小池史哲・中間研志が作成した。出土遺物の実測は，平田春美・棚町陽子・坂田順子・堀江圭子・江口幸子・堀之内久美子・安住美代子・大野愛里・原富子・西田美代子・岡泰子・辻啓子・丸山小夜子・進村真之・齋部・秦・吉村が行った。遺構・遺物実測図の製図は，原カヨ子・豊福弥生・吉村・秦・森井啓次・進村・中間が行い，関久江・土山真弓美・山田智子・辻清子・安永啓子がそれを補助した。

4　出土遺物の整理は，九州歴史資料館にて岩瀬正信氏の指導のもとに行った。整理後は県文化課甘木事務所，九州歴史資料館にて保管している。

5　遺構の写真撮影は，中間・小池・吉村・秦・重藤・岸本・甲斐が行い，空中写真はフォト・オオツカ及び空中写真企画による。出土遺物の写真撮影は，九州歴史資料館にて石丸洋氏の指導のもとに北岡伸一が撮影した。（遺物写真はⅡに掲載予定。）

6　石器類の石材鑑定は㈱パリノ・サーヴェイの五十嵐俊雄氏による。

7　本書で使用した方位は，すべて座標北である。

8　本書の作成分担は以下のとおりである。

紡錘車・投弾等の一覧表（第５・６表）作成……進村　真之
玉類の一覧表（第２・４表）作成……齋部　麻矢
砥石・石剣・石斧・鉄器類の一覧表（第７・９表）作成……秦　憲二
石庖丁・打製石器の一覧表（第８・10表）作成……吉村　靖徳・進村
49・89号住居跡の本文執筆，遺構写真図版の編集……吉村　靖徳
上記以外の本文執筆・編集……中間　研志

本　文　目　次

頁

Ⅰ　調査の経過……1

Ⅱ　位置と環境……5

Ⅲ　遺構と遺物……8

A　竪穴住居跡（1～99号）……9

B　土　坑（1～99号）……61

C　河　跡……101

挿　図　目　次

頁

第　1　図　九州自動車道路線図……2

第　2　図　貝元遺跡周辺の主要遺跡（1/25,000）……6

第　3　図　貝元遺跡周辺地形図（1/2,000）……7

第　4　図　貝元遺跡主要遺構配置図（上層）（1/600）……8－9

第　5　図　貝元遺跡主要遺構配置図（下層）（1/600）……8－9

第　6　図　住居跡群配置図（上層）（1/400）……10

第　7　図　住居跡群配置図（下層）（1/400）……11

第　8　図　1～5号住居跡実測図（1/80，1/40）……12

第　9　図　2～6号住居跡出土土器実測図（26･30･33･44～46は1/3，2～20･42･43は1/4，他は1/5）…13

第　10　図　6～9号住居跡実測図（1/80）……14

第　11　図　7～10号住居跡出土土器実測図（10・26・30は1/3，14・31は1/4，他は1/5）……15

第　12　図　10・12・13・20号住居跡実測図（1/80）……16

第　13　図　11・11b・15・16号住居跡実測図（1/80，1/40）……17

第　14　図　11号住居跡出土土器実測図（1～24は1/4，25～30は1/5，31は1/3）……18

第　15　図　12～14号住居跡出土土器実測図（7～9･43･44は1/3，10･11･13･15･20･22～25･42は1/4，他は1/5）…20

第　16　図　15～19号住居跡出土土器実測図（10・13～20・27は1/4，他は1/5）……21

第　17　図　14・17・18・22号住居跡実測図（1/80，1/40）……22

第　18　図　19・21・23～26号住居跡実測図（1/80）……24

第　19　図　20～28号住居跡出土土器実測図（4･53は1/3，1･11･12･14･17･26～37･40は1/4，他は1/5）…25

第　20　図　27～29・32・33号住居跡実測図（1/80，1/40）……26

第　21　図　30・31・34・38・39号住居跡実測図（1/80）……28

第　22　図　30～34号住居跡出土土器実測図（9･10･40･43･44は1/3，13･17･32･34～36･39･41･42は1/4，他は1/5）…29

第　23　図　35～37・40～43号住居跡実測図（1/80）……30

第　24　図　35～42号住居跡出土土器実測図（13･14は1/3，6・7・9～12は1/4，他は1/5）……32

第 25 図 44～47・49号住居跡実測図（1/80, 1/40）……33
第 26 図 43～51号住居跡出土土器実測図（19・20は1/4, 他は1/5）……34
第 27 図 48・50・51・53・54号住居跡実測図（1/80）……35
第 28 図 52・55～57・59・60号住居跡実測図（1/80）……36
第 29 図 52～63号住居跡出土土器実測図（3は1/8, 6·7·25·41～44·45～47は1/3, 34·35·40·48は1/4, 他は1/5） 38
第 30 図 58・61～63・65号住居跡実測図（1/80）……39
第 31 図 64・67～69号住居跡実測図（1/80）……40
第 32 図 64～67号住居跡出土土器実測図（23は1/3, 16は1/4, 他は1/5）……42
第 33 図 66・70～74・76号住居跡実測図（1/80, カマドのみ1/40）……43
第 34 図 68～74号住居跡出土土器実測図（17・55は1/3, 25・47は1/4, 他は1/5）……44
第 35 図 75・77～79・83号住居跡実測図（1/80）……46
第 36 図 75～81号住居跡出土土器実測図（17·44·45は1/3, 10·11·43·46～49·52·53は1/4, 他は1/5） 47
第 37 図 80・81・84・87号住居跡実測図（1/80, 1/40）……48
第 38 図 82・85号住居跡実測図（1/80, 1/40）……50
第 39 図 82～86号住居跡出土土器実測図（8～10·40·50·51は1/3, 1·2·14～16·25～30は1/4, 他は1/5）…51
第 40 図 86・88～90・92号住居跡実測図（1/80, 1/40）……52
第 41 図 87～92号住居跡出土土器実測図（9～11·63·64は1/3, 12·39～43·49～52は1/4, 28は1/8, 他は1/5） 53
第 42 図 91・93・100・124号住居跡実測図（1/80, 1/40）……54
第 43 図 93～96号住居跡出土土器実測図（25～28は1/3, 1～15・49は1/4, 他は1/5）……55
第 44 図 94～99号住居跡実測図（1/80）……56
第 45 図 97～99号住居跡出土土器実測図（1/5）……58
第 46 図 土坑群配置図（上層）（1/400）……62
第 47 図 土坑群配置図（下層）（1/400）……63
第 48 図 1～4号土坑実測図（1のみ1/60, 他は1/40）……64
第 49 図 1・2・5号土坑出土土器実測図（1～8・20は1/4, 他は1/5）……65
第 50 図 3号土坑出土土器実測図（1/5）……66
第 51 図 4号土坑出土土器実測図（その1）（23は1/3, 30・31・34～37は1/5, 他は1/4）…67
第 52 図 4号土坑出土土器実測図（その2）（38は1/4, 39～94は1/3）……68
第 53 図 4・6号土坑出土玉類実測図（実大）（1～52：土4, 53～57：土6）……69
第 54 図 5～8号土坑実測図（7のみ1/60, 他は1/40）……73
第 55 図 6～9号土坑出土土器実測図（19～29は1/3, 1～17・41は1/4, 他は1/5）……74
第 56 図 9～14号土坑実測図（1/60）……75
第 57 図 10～23号土坑出土土器実測図（27・28は1/3, 14・47は1/4, 他は1/5）……76
第 58 図 15～26号土坑実測図（1/60）……78
第 59 図 25～33号土坑出土土器実測図（22は1/4, 他は1/5）……79
第 60 図 27～35・39号土坑実測図（1/60）……80
第 61 図 34～37・39～42・44～46号土坑出土土器実測図（30は1/3, 他は1/5）……82
第 62 図 36～38・40～46号土坑実測図（1/60）……83

第 63 図 43・48～50号土坑出土土器実測図（12～14・26・27は1/3, 7は1/8, 他は1/5） …84
第 64 図 47～54・59号土坑実測図（1/60） ……86
第 65 図 51～66号土坑出土土器実測図（2は1/4, 10・49・50は1/3, 他は1/5） ……87
第 66 図 55～58・60～62号土坑実測図（1/60） ……88
第 67 図 63・64・90～96号土坑実測図（91のみ1/40, 他は1/60） ……90
第 68 図 65～72号土坑実測図（1/60） ……91
第 69 図 67～75号土坑出土土器実測図（11・12・14は1/3, 他は1/5） ……92
第 70 図 73～81号土坑実測図（75・76は1/40, 他は1/60） ……94
第 71 図 76・78～81号土坑出土土器実測図（1/5） ……95
第 72 図 82～86・88・89号土坑実測図（88のみ1/40, 他は1/60） ……96
第 73 図 82～99号土坑出土土器実測図（5・12・14・19は1/4, 他は1/5） ……97
第 74 図 97～99号土坑実測図（1/60） ……98
第 75 図 1号河跡測量図及び断面土層図（1/400, 1/120） ……102
第 76 図 1号河跡出土土器実測図（その1）（1・21～24は1/4, 他は1/5） ……103
第 77 図 1号河跡出土土器実測図（その2）（50・54は1/8, 他は1/5） ……104
第 78 図 1号河跡出土土器実測図（その3）（77・79・80・86・87は1/8, 他は1/5） ……105
第 79 図 1号河跡出土土器実測図（その4）（88・89は1/8, 他は1/5） ……106
第 80 図 1号河跡出土土器実測図（その5）（125・126は1/4, 他は1/5） ……107
第 81 図 1号河跡出土土器実測図（その6）（147は1/8, 他は1/5） ……108
第 82 図 1号河跡出土土器実測図（その7）（156・157は1/8, 他は1/5） ……109
第 83 図 1号河跡出土土器実測図（その8）（1/5） ……110
第 84 図 1号河跡出土土器実測図（その9）（217～219は1/4, 他は1/5） ……111
第 85 図 1号河跡出土土器実測図（その10）（265は1/8, 他は1/5） ……112
第 86 図 1号河跡出土土器実測図（その11）（274～279は1/8, 他は1/5） ……113
第 87 図 1号河跡出土土器実測図（その12）（316～319・328～343は1/4, 他は1/5） ……114
第 88 図 1号河跡出土土器実測図（その13）（354～360・383～388は1/5, 他は1/4） ……115
第 89 図 1号河跡出土土器実測図（その14）（389～392は1/5, 他は1/3） ……116
第 90 図 玉類実測図（実大）（出土遺構は第4表参照） ……118
第 91 図 紡錘車・投弾実測図（1/2） ……119
第 92 図 鉄器実測図（その1）（1/2） ……121
第 93 図 鉄器実測図（その2）（1/2） ……122
第 94 図 石庖丁実測図（1/3） ……124
第 95 図 磨製石剣等実測図（28は2/3, 他は1/3） ……125
第 96 図 磨製石斧実測図（その1）（1/3） ……126
第 97 図 磨製石斧実測図（その2）（1/3） ……127
第 98 図 砥石実測図（その1）（1/4） ……130
第 99 図 砥石実測図（その2）（1/4） ……131
第 100 図 打製石器実測図（34のみ1/2, 他は2/3） ……132

図　版　目　次

巻頭図版(1) 貝元遺跡上空より太宰府方面を望む
(2) 4号土坑祭祀遺物出土状況

図版1 (1) 貝元遺跡　I区全景
(2) 貝元遺跡　I区上層全景
図版2 (1) 貝元遺跡　I－2区全景
(2) 貝元遺跡　I－2区上層全景
図版3 (1) 貝元遺跡　I－2区下層全景
(2) 貝元遺跡　II区全景
図版4 (1) 貝元遺跡　II区西半
(2) 貝元遺跡　II区東半
図版5 (1) 貝元遺跡　III－1区全景
(2) 貝元遺跡　III－2区・IV区全景
図版6 (1) 貝元遺跡　IV区上層全景
(2) 貝元遺跡　IV区下層全景
図版7 (1) V－1区全景
(2) V－2区全景
図版8 (1) 1・2号住居跡
(2) 3号住居跡・2号土坑
(3) 3号住居跡 カマド周辺遺物出土状況
図版9 (1) 3号住居跡 カマド
(2) 同上　完掘後
(3) 4号住居跡
図版10 (1) 5～8・12・28号住居跡他
(2) 5号住居跡
(3) 6号住居跡
図版11 (1) 7号住居跡
(2) 8号住居跡
(3) 9号住居跡
図版12 (1) 11号住居跡
(2) 12・20号住居跡
(3) 14号住居跡
図版13 (1) 15号住居跡
(2) 16号住居跡
(3) 同上　カマド
図版14 (1) 17・18・22号住居跡
(2) 同上　下層完掘後
(3) 17号住居跡 カマド
図版15 (1) 18号住居跡 カマド
(2) 19号住居跡
(3) 同上　遺物出土状況
図版16 (1) 21号住居跡
(2) 23号住居跡
(3) 28号住居跡
図版17 (1) 28号住居跡 貼床除去後
(2) 同上　カマド
(3) 同上　カマド完掘後
図版18 (1) 29号住居跡
(2) 30・31号住居跡
(3) 32号住居跡 土器炉
図版19 (1) 33～38号住居跡
(2) 34号住居跡
(3) 36・37号住居跡
図版20 (1) 39号住居跡
(2) 40号住居跡
(3) 40・43号住居跡
図版21 (1) 41・42号住居跡
(2) 44・48号住居跡
(3) 45号住居跡
図版22 (1) 46号住居跡
(2) 47号住居跡
(3) 49号住居跡
図版23 (1) 49号住居跡ピット内遺物出土状況
(2) 50号住居跡
(3) 51号住居跡
図版24 (1) 52号住居跡
(2) 53号住居跡
(3) 54号住居跡
図版25 (1) 56号住居跡
(2) 57号住居跡

(3) 58号住居跡
図版26 (1) 59号住居跡
(2) 61号住居跡
(3) 62号住居跡
図版27 (1) 63号住居跡
(2) 65・67・69・140号住居跡
(3) 65号住居跡
図版28 (1) 66号住居跡
(2) 67号住居跡
(3) 68号住居跡
図版29 (1) 69号住居跡
(2) 70号住居跡
(3) 71号住居跡
図版30 (1) 73号住居跡
(2) 74・77・81～91号住居跡
図版31 (1) 74号住居跡
(2) 同上　カマド
(3) 同上　遺物出土状況
図版32 (1) 75・82号住居跡
(2) 75号住居跡
(3) 76号住居跡
図版33 (1) 77号住居跡
(2) 80号住居跡
(3) 81号住居跡
図版34 (1) 82号住居跡
(2) 84・90・101・105号住居跡
(3) 84号住居跡
図版35 (1) 84号住居跡 カマド
(2) 85号住居跡
(3) 同上　カマド
図版36 (1) 86号住居跡
(2) 87号住居跡
(3) 88号住居跡
図版37 (1) 89号住居跡
(2) 91号住居跡
(3) 92～99・106～110号住居跡
図版38 (1) 92号住居跡
(2) 同上　カマド
(3) 93号住居跡
図版39 (1) 93号住居跡 カマド
(2) 同上　完掘後
(3) 97号住居跡
図版40 (1) 99号住居跡
(2) 102号住居跡
(3) 104号住居跡
図版41 (1) 104号住居跡 カマド
(2) 106・109号住居跡
(3) 106号住居跡 土器炉
図版42 (1) 107・119号住居跡
(2) 108号住居跡
(3) 110号住居跡
図版43 (1) 111号住居跡
(2) 同上　遺物出土状況
(3) 112号住居跡
図版44 (1) 113・115・116号住居跡
(2) 113号住居跡
(3) 同上　貼床除去後
図版45 (1) 113号住居跡 カマド
(2) 同上　完掘後
(3) 114号住居跡
図版46 (1) 115号住居跡
(2) 117号住居跡
(3) 同上　カマド
図版47 (1) 119号住居跡
(2) 120・121・125号住居跡
(3) 120号住居跡
図版48 (1) 120号住居跡 カマド
(2) 同上　完掘後
(3) 同上　遺物出土状況
図版49 (1) 121号住居跡
(2) 同上　カマド
(3) 122号住居跡
図版50 (1) 123号住居跡
(2) 同上　カマド
(3) 同上　完掘後
図版51 (1) 124号住居跡

(2) 125号住居跡
(3) 同上　カマド
図版52 (1) 126号住居跡
(2) 同上　カマド
(3) 129号住居跡
図版53 (1) 131・134・137号住居跡
(2) 131号住居跡
(3) 135・165号住居跡
図版54 (1) 136号住居跡
(2) 138号住居跡
(3) 139号住居跡
図版55 (1) 140・144号住居跡
(2) 140号住居跡
(3) 144号住居跡
図版56 (1) 145号住居跡
(2) 146号住居跡・94号土坑
(3) 147号住居跡
図版57 (1) 148号住居跡
(2) 150号住居跡
(3) 151・155号住居跡
図版58 (1) 152号住居跡
(2) 154号住居跡
(3) 156号住居跡
図版59 (1) 158号住居跡
(2) 159号住居跡
(3) 同上　カマド
図版60 (1) 160号住居跡
(2) 161号住居跡
(3) 162号住居跡
図版61 (1) 164号住居跡
(2) 167号住居跡
(3) 同上　土器炉
図版62 (1) 168号住居跡
(2) 同上　カマド
(3) 169号住居跡
図版63 (1) 171・172号住居跡
(2) 173号住居跡
(3) 174号住居跡
図版64 (1) 175号住居跡
(2) 176号住居跡
(3) 同上　カマド
図版65 (1) 177号住居跡
(2) 178号住居跡
(3) 179号住居跡
図版66 (1) 180号住居跡
(2) 181号住居跡 南隅焼土
(3) 182号住居跡
図版67 (1) 186号住居跡
(2) 188号住居跡
(3) 189号住居跡
図版68 (1) 192号住居跡
(2) 194号住居跡
(3) 197号住居跡
図版69 (1) 197号住居跡 カマド
(2) 同上　遺物出土状況
(3) 同上　遺物出土状況
図版70 (1) 201・202号住居跡
(2) 201号住居跡 カマド
(3) 202号住居跡 カマド
図版71 (1) 203号住居跡
(2) 224・225号住居跡
(3) 226号住居跡
図版72 (1) 227号住居跡
(2) 230号住居跡
(3) 同上　カマド
図版73 (1) 231号住居跡
(2) 232号住居跡
(3) 同上　カマド
図版74 (1) 233号住居跡
(2) 234号住居跡
(3) 同上　カマド
図版75 (1) 235号住居跡
(2) 236号住居跡
(3) 同上　カマド
図版76 (1) 237号住居跡
(2) 238号住居跡

(3) 239号b住居跡 カマド
図版77 (1) 240号住居跡
(2) 同上 カマド
(3) 242号住居跡
図版78 (1) 243号住居跡
(2) 同上 カマド
(3) 同上 遺物出土状況
図版79 (1) 244号住居跡
(2) 245号住居跡
(3) 246号住居跡
図版80 (1) 247号住居跡
(2) 248号住居跡 カマド
(3) 同上 焚口部天井石除去後
図版81 (1) 249号住居跡
(2) 250号住居跡
(3) 251号住居跡
図版82 (1) 252号住居跡
(2) 254号住居跡
(3) 255号住居跡
図版83 (1) 256号住居跡
(2) 同上 遺物出土状況
(3) 同上 遺物出土状況
図版84 (1) 257号住居跡
(2) 261・266・267号住居跡
(3) 262～265・268・291号住居跡
図版85 (1) 262・263号住居跡
(2) 262号住居跡 カマド
(3) 263号住居跡 カマド
図版86 (1) 265号住居跡
(2) 同上 カマド
(3) 272号住居跡
図版87 (1) 273～275・277～283号住居跡
(2) 273号住居跡
(3) 274号住居跡
図版88 (1) 275・283号住居跡
(2) 275号住居跡 カマド
(3) 277号住居跡
図版89 (1) 278号住居跡
(2) 279号住居跡
(3) 281・282号住居跡
図版90 (1) 287号住居跡
(2) 288・289・305号住居跡
(3) 288号住居跡
図版91 (1) 290・306号住居跡
(2) 292号住居跡
(3) 同上 遺物出土状況
図版92 (1) 292号住居跡
(2) 294号住居跡
(3) 同上 カマド
図版93 (1) 295号住居跡
(2) 同上 カマド
(3) 296号住居跡
図版94 (1) 297・303号住居跡
(2) 298号住居跡
(3) 299号住居跡
図版95 (1) 301号住居跡
(2) 302号住居跡
(3) 同上 貼床除去後
図版96 (1) 306号住居跡
(2) 305号住居跡
(3) 307号住居跡
図版97 (1) 308号住居跡
(2) 309号住居跡
(3) 311・417号住居跡
図版98 (1) 312・317・333・335号住居跡
(2) 314号住居跡
(3) 同上 カマド
図版99 (1) 315号住居跡
(2) 317号住居跡
(3) 318号住居跡
図版100 (1) 319号住居跡
(2) 320号住居跡
(3) 321～323号住居跡
図版101 (1) 325・326号住居跡
(2) 328・329号住居跡
(3) 330・331・343号住居跡

図版102 (1) 343号住居跡 カマド
(2) 332号住居跡・166号土坑
(3) 334号住居跡
図版103 (1) 339・342・344・349号住居跡
(2) 339号住居跡
(3) 同上 カマド
図版104 (1) 340号住居跡
(2) 同上 カマド
(3) 345号住居跡
図版105 (1) 345号住居跡 カマド
(2) 347号住居跡 遺物出土状況
(3) 348・352号住居跡
図版106 (1) 350号住居跡
(2) 351号住居跡
(3) 353号住居跡
図版107 (1) 353号住居跡 カマド
(2) 354・420号住居跡
(3) 355・392号住居跡
図版108 (1) 355号住居跡 カマド
(2) 356号住居跡
(3) 同上 カマド
図版109 (1) 359号住居跡
(2) 361号住居跡
(3) 362号住居跡
図版110 (1) 363号住居跡
(2) 同上 カマド
(3) 364・371号住居跡
図版111 (1) 364号住居跡 カマド
(2) 365号住居跡
(3) 366号住居跡 カマド
図版112 (1) 367号住居跡
(2) 368号住居跡
(3) 370号住居跡
図版113 (1) 372号住居跡
(2) 373号住居跡
(3) 同上 カマド
図版114 (1) 374号住居跡 カマド
(2) 375号住居跡
(3) 同上 土器炉
図版115 (1) 378号住居跡
(2) 379号住居跡
(3) 同上 カマド
図版116 (1) 380号住居跡
(2) 同上 カマド
(3) 381号住居跡
図版117 (1) 382号住居跡
(2) 同上 遺物出土状況
(3) 同上 遺物出土状況
図版118 (1) 383号住居跡
(2) 同上 カマド
(3) 384号住居跡
図版119 (1) 385号住居跡
(2) 同上 カマド
(3) 386・387号住居跡
図版120 (1) 338号住居跡
(2) 392号住居跡
(3) 同上 カマド
図版121 (1) 393号住居跡
(2) 394号住居跡
(3) 395号住居跡
図版122 (1) 398号住居跡
(2) 402号住居跡
(3) 403号住居跡
図版123 (1) 403号住居跡 カマド
(2) 404・408号住居跡
(3) 407号住居跡
図版124 (1) 409号住居跡
(2) 410号住居跡
(3) 412号住居跡
図版125 (1) 413号住居跡
(2) 415号住居跡
(3) 416号住居跡
図版126 (1) 421号住居跡
(2) 同上 カマド
(3) 422号住居跡
図版127 (1) 422号住居跡 カマド

(2) 424号住居跡
(3) 425号住居跡
図版128 (1) 426号住居跡・245号土坑
(2) 427号住居跡・237号土坑
(3) 428号住居跡
図版129 (1) 430号住居跡
(2) 同上　カマド
(3) 432号住居跡
図版130 (1) 1・5・6号掘立柱建物
(2) 2号掘立柱建物
(3) 3・4号掘立柱建物
図版131 (1) 7号掘立柱建物
(2) 8号掘立柱建物
(3) 9号掘立柱建物
図版132 (1) 10号掘立柱建物
(2) 11号掘立柱建物
(3) 12号掘立柱建物，310・316号住居跡
図版133 (1) 13号掘立柱建物
(2) 14号掘立柱建物
(3) 15号掘立柱建物
図版134 (1) 17号掘立柱建物
(2) 18号掘立柱建物
(3) 19号掘立柱建物
図版135 (1) 20号掘立柱建物
(2) 21・26・27号掘立柱建物
(3) 24号掘立柱建物
図版136 (1) 1号甕棺墓
(2) 2号甕棺墓
(3) 3号甕棺墓
図版137 (1) 4号甕棺墓
(2) 5号甕棺墓
(3) 6～9号甕棺墓
図版138 (1) 6号甕棺墓
(2) 7号甕棺墓
(3) 8・9号甕棺墓
図版139 (1) 10号甕棺墓
(2) 11号甕棺墓
(3) 12号甕棺墓
図版140 (1) 13号甕棺墓
(2) 14号甕棺墓
(3) 1号木棺墓
図版141 (1) 2号木棺墓
(2) 1号石棺墓
(3) 同上　蓋石除去後
図版142 (1) 2号石棺墓
(2) 3号石棺墓
(3) 同上　蓋石除去後
図版143 (1) 4・5号石棺墓
(2) 4号石棺墓
(3) 5号石棺墓
図版144 (1) 5号石棺墓 掘り下げ後
(2) 6号石棺墓
(3) 7号石棺墓
図版145 (1) 8号石棺墓
(2) 9号石棺墓
(3) 2号土坑
図版146 (1) 3号土坑
(2) 4号土坑
(3) 5号土坑
図版147 (1) 6号土坑
(2) 7号土坑
(3) 9号土坑
図版148 (1) 8号土坑 集石検出状況
(2) 同上　集石除去後
(3) 同上　人骨等出土状況
図版149 (1) 11号土坑
(2) 12号土坑
(3) 13号土坑
図版150 (1) 14・15・18・21号土坑
(2) 16号土坑
(3) 17号土坑
図版151 (1) 19号土坑
(2) 20号土坑
(3) 22号土坑
図版152 (1) 23号土坑
(2) 24号土坑

(3) 25号土坑
図版153 (1) 26号土坑
(2) 27号土坑
(3) 28号土坑
図版154 (1) 29号土坑
(2) 同上　土層断面
(3) 30号土坑
図版155 (1) 31・32号土坑
(2) 33・34号土坑
(3) 35号土坑
図版156 (1) 38号土坑
(2) 39号土坑
(3) 41号土坑
図版157 (1) 41号土坑 掘り下げ後
(2) 42号土坑
(3) 43号土坑
図版158 (1) 44号土坑
(2) 47号土坑
(3) 48号土坑
図版159 (1) 53号土坑
(2) 54号土坑
(3) 55号土坑
図版160 (1) 56号土坑
(2) 57・89号土坑
(3) 61号土坑
図版161 (1) 62号土坑
(2) 64号土坑
(3) 67号土坑
図版162 (1) 72号土坑
(2) 74号土坑
(3) 75号土坑
図版163 (1) 76号土坑
(2) 77号土坑
(3) 84号土坑
図版164 (1) 85号土坑
(2) 86号土坑
(3) 88号土坑
図版165 (1) 89号土坑
(2) 90号土坑
(3) 91号土坑
図版166 (1) 95・97号土坑
(2) 96号土坑
(3) 99号土坑
図版167 (1) 101号土坑
(2) 102号土坑
(3) 103号土坑
図版168 (1) 104号土坑
(2) 105号土坑
(3) 106号土坑
図版169 (1) 107号土坑
(2) 108号土坑
(3) 109号土坑
図版170 (1) 110号土坑
(2) 111号土坑
(3) 112号土坑
図版171 (1) 113号土坑
(2) 115号土坑
(3) 116号土坑
図版172 (1) 117号土坑
(2) 118号土坑
(3) 119号土坑
図版173 (1) 120号土坑
(2) 121号土坑
(3) 122号土坑
図版174 (1) 123号土坑
(2) 124号土坑
(3) 125号土坑
図版175 (1) 126号土坑
(2) 127号土坑
(3) 128号土坑
図版176 (1) 130号土坑
(2) 131号土坑
(3) 132号土坑
図版177 (1) 135号土坑
(2) 137号土坑
(3) 138号土坑

図版178 (1) 139号土坑
(2) 141・145号土坑
(3) 143号土坑
図版179 (1) 147号土坑
(2) 148号土坑
(3) 149号土坑
図版180 (1) 150号土坑
(2) 151号土坑
(3) 152号土坑
図版181 (1) 159号土坑
(2) 同上　遺物出土状況
(3) 165号土坑
図版182 (1) 167号土坑
(2) 同上　完掘後
(3) 169号土坑
図版183 (1) 171号土坑
(2) 172号土坑
(3) 173号土坑
図版184 (1) 174号土坑
(2) 同上　集石除去後
(3) 175号土坑
図版185 (1) 175号土坑　集石除去後
(2) 176号土坑
(3) 177号土坑
図版186 (1) 179号土坑
(2) 同上　土層断面
(3) 180号土坑
図版187 (1) 181号土坑
(2) 同上　炭化米出土状況
(3) 188号土坑
図版188 (1) 189号土坑
(2) 190号土坑
(3) 195号土坑
図版189 (1) 199号土坑
(2) 200号土坑
(3) 201号土坑
図版190 (1) 202号土坑
(2) 203号土坑
(3) 205・207号土坑
図版191 (1) 206号土坑
(2) 209号土坑
(3) 210号土坑
図版192 (1) 211号土坑
(2) 215号土坑
(3) 216号土坑
図版193 (1) 216号土坑 集石除去後
(2) 217号土坑
(3) 219～221号土坑
図版194 (1) 223号土坑
(2) 224号土坑
(3) 225号土坑
図版195 (1) 226号土坑
(2) 227号土坑
(3) 229号土坑
図版196 (1) 231・237号土坑
(2) 232号土坑
(3) 同上　ドングリ出土状況
図版197 (1) 236・239号土坑
(2) 238号土坑
(3) 240号土坑
図版198 (1) 241号土坑
(2) 242号土坑
(3) 247号土坑
図版199 (1) 248号土坑
(2) 249号土坑
(3) 250号土坑
図版200 (1) 252号土坑
(2) 253号土坑
(3) 254号土坑
図版201 (1) 255号土坑
(2) 258号土坑
(3) 259号土坑
図版202 (1) 260号土坑
(2) 262号土坑
(3) 263号土坑
図版203 (1) 264号土坑

(2) 266号土坑
(3) 267号土坑
図版204 (1) 270号土坑
(2) 271号土坑
(3) 272号土坑
図版205 (1) 1226号ピット　遺物出土状況
(2) 3808号ピット　遺物出土状況
(3) 1・2号須恵器甕
図版206 (1) 1号炉跡
(2) 1号風倒木痕
(3) 2号風倒木痕
図版207 (1) 1・2号溝
(2) 8号溝北半
(3) 8・27号溝南半
図版208 (1) 8号溝土層断面
(2) 13号溝
(3) 同上　鏡出土状況
図版209 (1) 13号溝土層断面
(2) 15号溝土層断面
(3) 16号溝土層断面
図版210 (1) 河跡北半
(2) 河跡南半
(3) 河跡土層断面

表　目　次

頁

第　1　表　竪穴住居跡一覧表……59
第　2　表　4・6号土坑出土玉類一覧表……69
第　3　表　土坑一覧表……99
第　4　表　玉類一覧表……117
第　5　表　紡錘車一覧表……120
第　6　表　投弾一覧表……120
第　7　表　鉄器一覧表……120
第　8　表　石庖丁一覧表……122
第　9　表　磨製石器類一覧表……127
第　10　表　打製石器一覧表……129

I　調査の経過

九州自動車道が開通して以来，九州を縦に貫く大動脈となって，この高速道路は地域の活性化に大きな役目を果してきた。福岡県の中央に位置する筑紫野市においては，更に地元の振興策のために，新たなインターチェンジ建設の構想が持たれた。

これに伴い，建設予定地決定の後，当該地に遺存する埋蔵文化財の取扱いについての問題が浮かび上がった。筑紫野市建設経済部インターチェンジ建設対策室と筑紫野市教育委員会社会教育課との間で協議がなされ，平成７年５月に福岡県教育庁福岡教育事務所職員の立会のもとに，筑紫野市教育委員会によって埋蔵文化財の試掘調査が実施された。

この試掘調査の結果，インターチェンジ本体部分の東半分（ループ地区）の約26,000㎡の全面に遺跡が存在することが確認された。そのうち，その北半から中央東辺部にかけて（11,400㎡）においては遺構希薄地であり，南半部においては遺構密集地（9,800㎡）であると判断された。

以上の試掘調査結果を踏まえて，筑紫野市教育委員会では対応を検討された結果，市教委単独では工期予定内での本調査完了は困難と判断され，福岡県教育庁福岡教育事務所・県文化課に対策を相談された。平成７年６月からこれらの協議がなされ，７月には道路公団福岡管理局久留米管理事務所も含めた具体的協議に入ることになった。

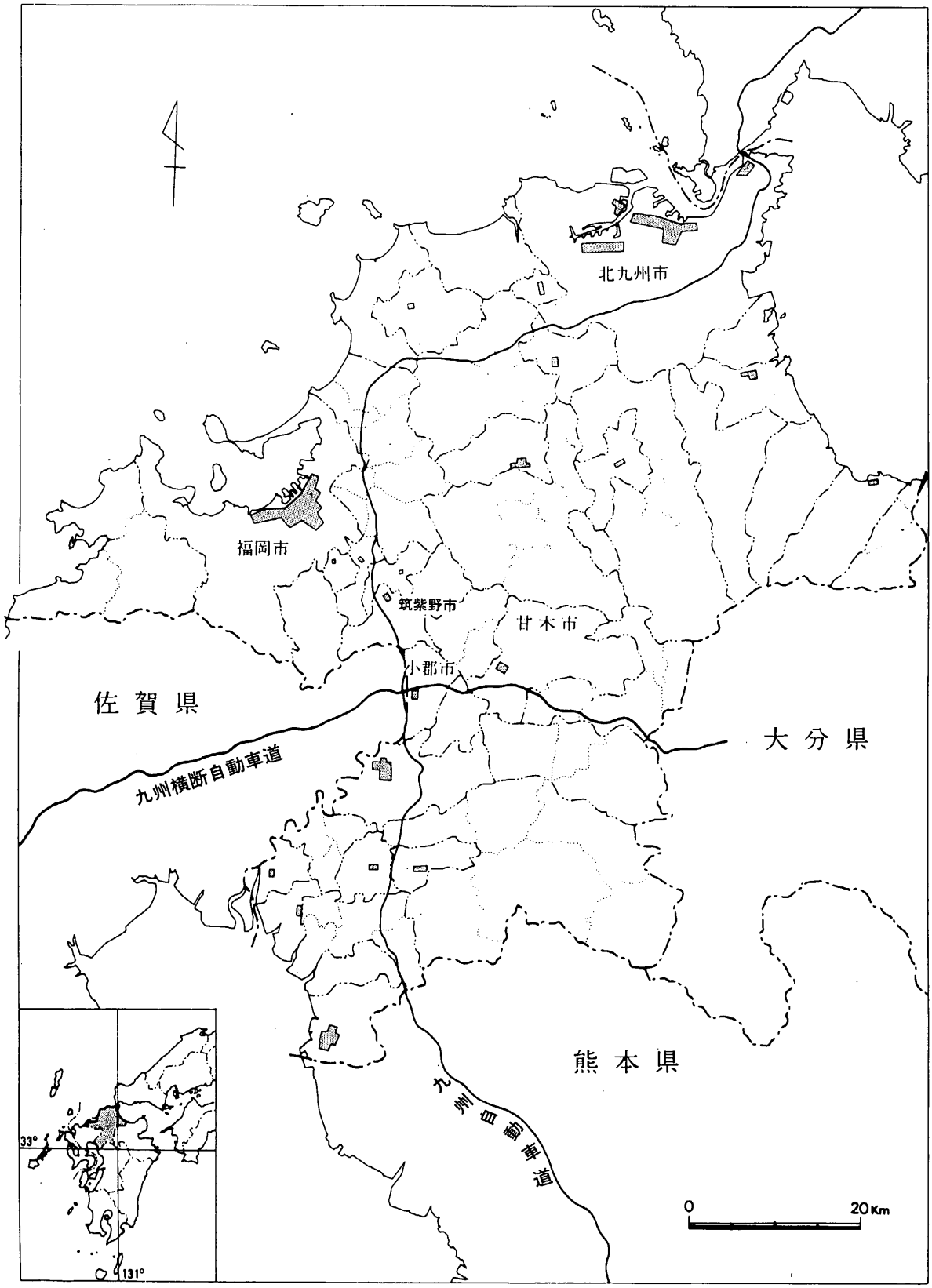
これらの協議の中で，筑紫野市教委，県文化課の各々の平成７・８年度の仕事量等を勘案して，ループ部分北半と南半部のうち東端部分を県文化課が担当し，他の南半部分を筑紫野市教委が調査することとなった。県教委分は12,200㎡となり，筑紫野市教委担当分が9,000㎡となったが，この振分理由としては，県教委担当地域が遺構希薄地であるということによる。

現地の本調査は，筑紫野市教委においては平成７年秋に開始されたが，当県文化課では平成８年１月から開始した。平成７年度分として３月末まで発掘調査したが，その年度だけの調査面積は約2,000㎡であった。

工事工程に合わせて，調査対象範囲をⅠ～Ⅴの５区に分け，北西隅をⅠ区，北東隅をII区，Ⅰ区の南側をIII区，II区の南側の中央東西道路までをIV区とした。更に，中央の道路より南側の東辺部で筑紫野市教委分の東隣をⅤ区とした。工事に合わせて大旨Ⅰ→Ⅴ区の順に発掘調査を実施したが，工事の都合により，結果的には更に細かく７工程に分けて調査せざるを得なかった。よって遺跡の全景写真が得られなかったことは元より，測量の手間や，現場事務所・駐車場の移動等々，効率の悪い条件も多々在った。

平成８年度に入り，継続して調査を行い，最終的に平成９年３月末で現場調査を終了した。都合１年３カ月間かかったが，この間，全く予想外の遺構の極度の密集・重複の状況の中で，かつてない困難さを経験した。工期に間に合わせる為の工夫は，最終の平成９年１月からの段階では，作業員を連日90名以上迎えての，しかも２地区同時並行の作業内容となった。

遺跡の内容の詳細は後章に譲るが，12,200㎡の調査面積のうち，北西隅付近1,600㎡においては重層と遺構の過密な重複によって３回の発掘・図面作成を行い，中央部の大半の6,360㎡分においては２回の調査，他の4,240㎡においては１面だけの通常の調査となり，都合実際の調査面積は21,760㎡



第1図　九州自動車道路線図

に及んだ。

以上のような状況での調査であったが，その成果は極めて特筆すべきものであった。竪穴住居跡

400軒以上，土坑260余基，掘立柱建物30棟，甕棺墓14基，石棺墓10基等々，類をみない数の遺構が検出された。中でも，弥生期の巨大掘立柱建物や，古墳時代の河岸での祭祀遺構等は注目すべき成果である。巨大集落という点でみても，筑紫野市教委調査分も合わせると，ゆうに竪穴住居跡1,000軒近くになろう。かつてない大遺跡と言わざるを得ない。

出土遺物も，遺構の数同様に，種類の多さとともに夥しい量にのぼった。土器の現場での出土量はパンケースで約1,500箱となり，その後の整理・復原段階で大幅に箱数は増えつつある。石器類も，例えば石庖丁は総数296点にも及んでいる。出土遺物で特に注目すべきは，小型仿製鏡２面，青銅製鋤先１点，古墳時代祭祀品の滑石製子持勾玉，臼玉，有孔円板等，弥生～古墳時代の各種ガラス小玉類，鋳造鉄斧，縄文期のものかと思われる玦状耳飾，ナイフ形石器，弥生期の鐸形土製品，手焙り形土器，多量の弥生中期祭祀用の丹塗り土器の精品群等々がみられる。予想だにしなかった多大な成果である。

現地での発掘調査は，厳冬から始まり，真夏の酷暑を過ぎ，再び冬を経て春に至るまで，野外での重労働の連続であった。調査に参加していただいた作業員の方々は延153名に及び，心からその労に感謝申し上げたい。また，地元の方々，数々のお世話いただいた筑紫野市教育委員会の皆様，日本道路公団福岡管理局業務部管理第１課の方々，同じく福岡管理局久留米管理事務所の木下勝也管理助役をはじめとする皆様方には，困難な事業推進の中で多くの協力をおしまれなかったことに対して，心から御礼申し上げたい。

本事業における福岡県教育委員会による調査体制は以下のとおりである。（平成７～９年度）

総　括

教　育　長	光安　常喜
教育次長	松枝　　功
指導第二部長	丸林　茂夫（前任）
同	竹若　幸二
文化課長	松尾　正俊（前任）
同	石松　好雄
文化課参事	柳田　康雄
文化課長補佐	元永　浩士（前任）
同	城戸　秀明
文化課長技術補佐	井上　裕弘
文化課調査班総括	橋口　達也
文化課参事補佐	木下　　修
同	新原　正典

庶務・会計

文化課管理係長	柴田　恭郎（前任）
同	黒田　一治
文化課管理係事務主査	東　　健二（前任）
同	久保　正志

文化課管理係事務主査　鶴我　哲夫

文化課管理係主任主事　田中　利幸

調　査

文化課参事補佐　中間　研志

同　小池　史哲

文化課主任技師　吉村　靖徳

同　齋部　麻矢（現九州歴史資料館）

同　秦　憲二

文化課技師　重藤　輝行（現兵庫県派遣）

同　岸本　圭

発掘調査補助員　甲斐　孝司（現古賀市教育委員会）

同　松永　通明（現福間町教育委員会）

同　河合　修（現志摩町教育委員会）

整理指導員　岩瀬　正信（遺物整理担当）

同　平田　春美（遺物実測担当）

同　豊福　弥生（製図担当）

同　北岡　伸一（写真担当）

発掘作業員（153名　順不同）

松田重朋　藤田巌　市川友義　津上保　浦郷辰巳　浦郷サダ子　竹下善政　尾中光子
鳥尾フミエ　小林妙子　宮崎真由美　萩尾栄子　吉岡東海　満生勉　日永田繁光　和田春代
草場繁人　草場美江子　上原基寛　山岸由紀子　里見美千代　末次初江　池見智幸　山本正子
榎本幸子　森下祐子　一ノ瀬巧　奥野尚　陶山正夫　末永和代　安河内正子　倉田信二
松田サツ子　蒲原敬人　河北安子　田中大文　青木貞子　尾中淳子　山下和矢　森下真希
中町淳子　井上恵里子　村岡敏和　平野友康　服部妙子　佐藤茂子　村山一重　萩尾すなお
江崎敏和　田原量子　寺山次代　西本百合子　東郷春子　井上久美子　松山真紀子
尾中次江　尾中桂太郎　水城ハルミ　大久保トキヨ　赤坂亨　杉本節子　杉本信子　石川愛子
吉郷恒雄　吉郷フジエ　井上繁利　藤本須磨子　上原蔵千　荒木秀明　服部由美　村上義継
藤野藤子　前原義胤　吉田市芳　橋本久美子　岩橋渉　原真樹雄　上田徳孝　池田公見
石川玉子　中村百合子　吉川修平　山下将春　奥野萬千代　岩田幸子　戸川満　小川芳子
市川ハツヨ　永吉明美　柴田勝　山野洋子　野田雅宏　槙山正二　矢野和弘　井本一二三
大崎美子　大田敬子　大田ヤス子　大田八重子　柴田ツキエ　高鍋キミヨ　古川ヨシ子
古川民子　古川トミ子　山本洋子　岩男澄子　早田ミツル　村山龍子　簑原寿美江
川原田美千代　斉野知恵子　中溝洋子　中川令美子　宇田川操子　萩尾泰祐　中村純子
坂田美都子　金子タケ子　石井千鶴子　竹本千佳子　土井良セツ子　中嶋さなみ　田中千恵子
松本英司　長淳子　菊竹登代子　中嶋美代子　宮原圭子　萩須康弘　田部澄博　原邦子
石川孝子　西川光代　日高泉　田中義高　黒岩政広　大屋健造　佐々木靖廣　菊竹保　原康之
力丸墨雄　真名子守　吉田勇一　宮崎晴充　饗庭朋子　宮田清太　岩堀好弘　森岡栄子
成重公輝　久保香代子　宮田恵子　浜田嘉信　砥綿健次

II　位置と環境

貝元（かいもと）遺跡は，福岡県筑紫野市大字古賀字ヘボノ木88－1，89－1，90－1，94－1，95，126－1番地に位置する。「貝元」という小字名は遺跡南半の筑紫野市教育委員会調査部分を示しているが，同一遺跡である事から，県文化課調査分も貝元遺跡の名称に統一した。遺跡の旧状は水田及び畑地である。九州自動車道の筑紫野インターチェンジの本線東側に接するループ部分にあたる。

筑紫野市は，福岡平野と筑紫平野との境に位置し，両者の分水嶺の場所となっており，古来から交通の重要な要となっている。

本遺跡は，九千部山塊の間に走る山口川の大きな谷が，平野に大きく拡がる開口部に位置し，西側背後の山地が急に落ちて山口川の形成した河岸段丘上でも最も山裾際に占地している。この河岸段丘は，本遺跡付近から北東に向かって扇状地状に開いており，その位置に立つと，正面真北に大宰府政庁跡・大野城跡に対峙し，南側背後には基肄城跡がそびえている。

本遺跡の調査においては，弥生時代中～後期を中心に，古墳時代初～後半，７Ｃ後葉～８Ｃ代の遺構・遺物が確認されたので，ここではこれらの時代に限って周辺の遺跡を概観してみたい。

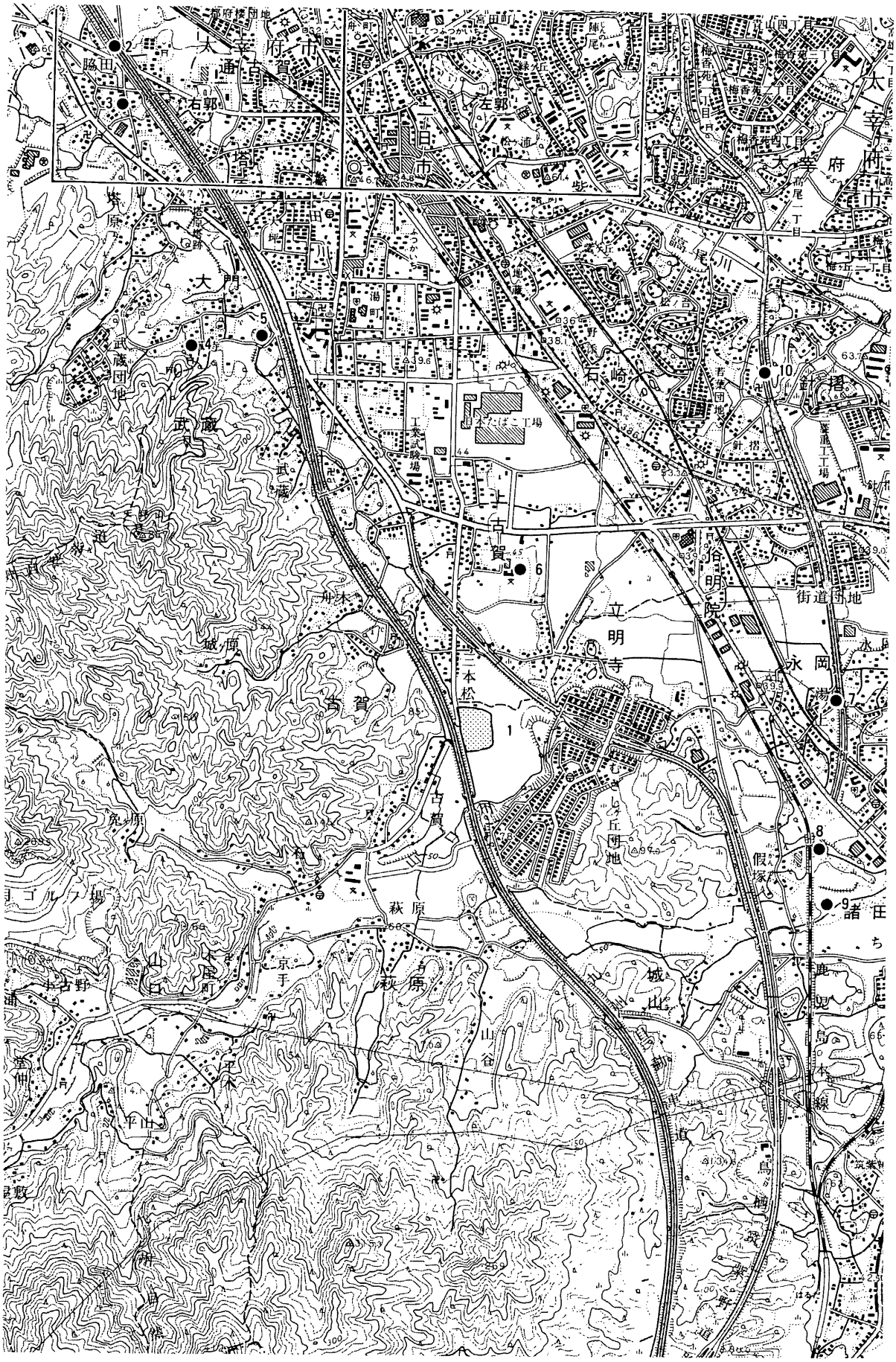
弥生時代中期という時代は，言うまでもなく北部九州域が一早く階級社会形成をなしとげた時期であり，福岡平野南半から当筑紫野市を中心に，南接する小郡市北半・夜須町西半までのわりと狭い地域で，極めて精製の丹塗り磨研土器による祭祀行為が盛行する。これは，既発見遺跡例によれば，当地独自の発展を示した甕棺墓地に対する祭祀状況が顕著である。中期前葉にこの地で成立した祭祀パターンが，次の中期中葉以降には周縁地域まで素早く広まっていることも確認される。特に西方の佐賀県東半への拡散は強かったように思われる。ただし，土器の胎土・精緻な仕上げ技術等は周縁地域に至っては著しく見劣りする状況がある。

貝元遺跡から北へ750mの至近に位置する立明寺遺跡では，中期前葉の二列縦隊甕棺墓地と丹塗りの祭祀土器多量が出土しており，夜須町西端の七板遺跡祭祀土器群とともに，当地域における典型例を示している。

しかるに，今回調査を終了した貝元遺跡においては，小児～中型棺は14基発見されたものの，成人棺の甕棺墓地はついに見ることはできなかった。にも関らず，河跡１や溝14，各土坑から夥しい量の丹塗り土器が出土したのである。このことから，丹塗り土器＝甕棺墓祭祀という従前からの固定概念を，ここでは改めて見直す必要があろう。本遺跡では特に各土坑単位の器種組成の分析によって，集落内における祭祀行為の幾つかのパターンが抽出できるのではないかと期待している。

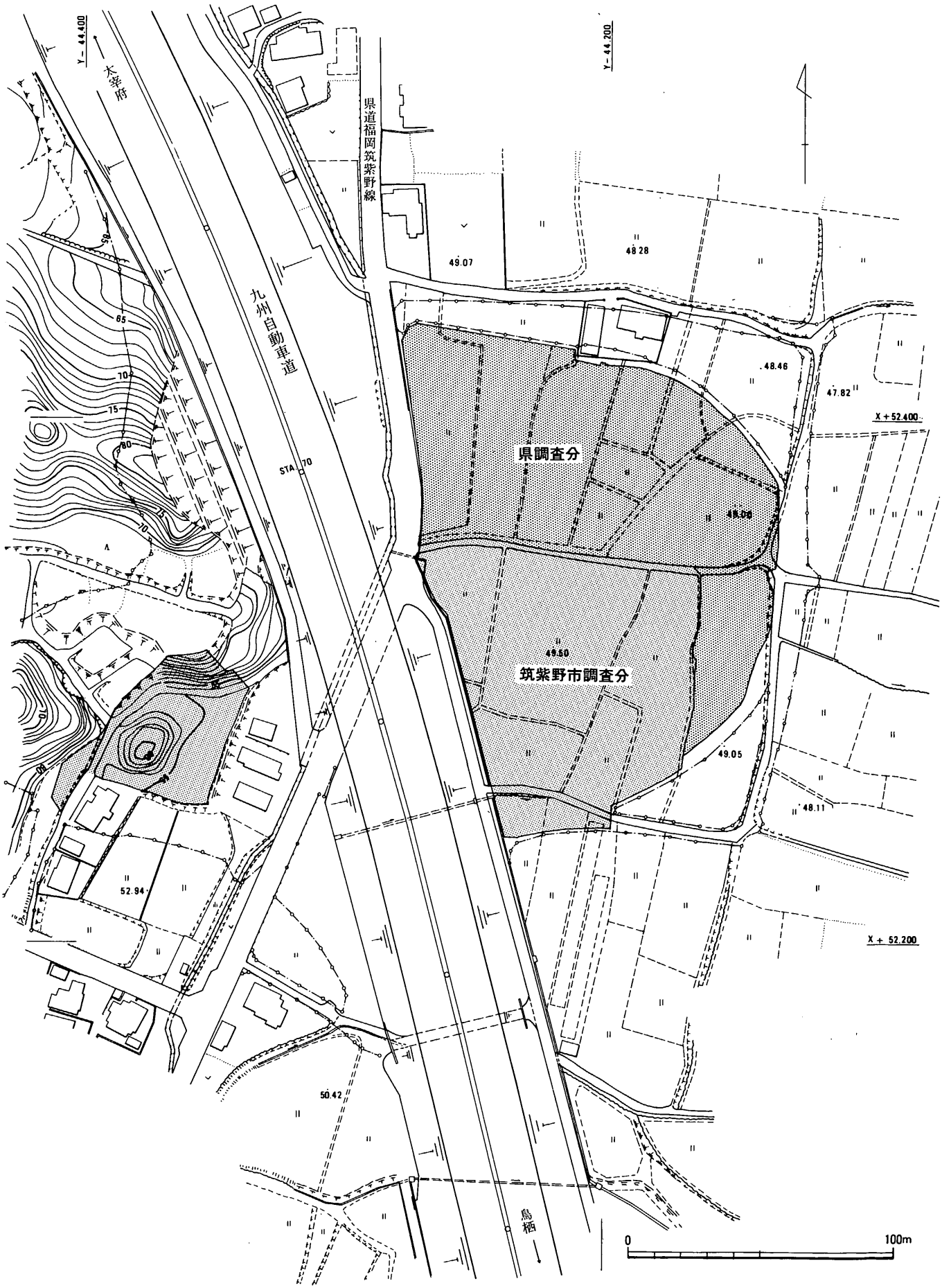
古墳時代前半代の貝元遺跡での遺構は多くはないが，北方の剣塚前方後方・方墳群や，原口古墳，東方の峠山古墳，焼ノ峠前方後方墳等の存在を考えると，当地域においても古式古墳が重要な位置を占めている事が推察される。各古墳ともに絶好の占地を示しており，貝元遺跡の近隣にも未発見の古式古墳の存在が推定される。というのも，手焙り形土器や青銅製鋤先等の稀品が出土していることからも推測されよう。

古墳時代後半代は，貝元遺跡がカマド付方形住居の大集落に拡大した時期で，近隣では北方の裏ノ田遺跡を除いてはとり立てて大集落は発見されていない。しかし剣塚前方後円墳や，南方の五郎山装飾古墳の存在を考える時，当地域でもかなりの権力集中があった事は充分に推測され，それに



第2図　貝元遺跡周辺の主要遺跡（1/25,000）

1　貝元遺跡　　2　剣塚前方後円墳　　3　杉塚廃寺　　4　武蔵寺　　5　原口前方後円墳
6　立明寺遺跡　　7　永岡遺跡　　8　諸田仮塚遺跡　　9　仮塚南遺跡　　10　野黒坂遺跡



第3図　貝元遺跡周辺地形図（1/2,000）

伴う拠点的集落も存在した筈である。今回調査の貝元遺跡は，そのうちの有力なひとつと見做すことができる。

７Ｃ後半から奈良時代にかけての掘立柱建物群や大溝が貝元遺跡で発見されているが，これらは当然大宰府との関連を無視することはできないであろう。大宰府条坊推定地の南方郭外に位置する本遺跡は，既推定の西海道ラインからははずれているが，大宰府中軸線より東にずれた南北旧道路線上に位置し，基肄城への経路，或いは府の南辺の官衙との関連性等が考慮されてしかるべき占地を示している。より細かな報告中での分析により，その性格が明らかになると思われる。

III　遺構と遺物

調査の概要

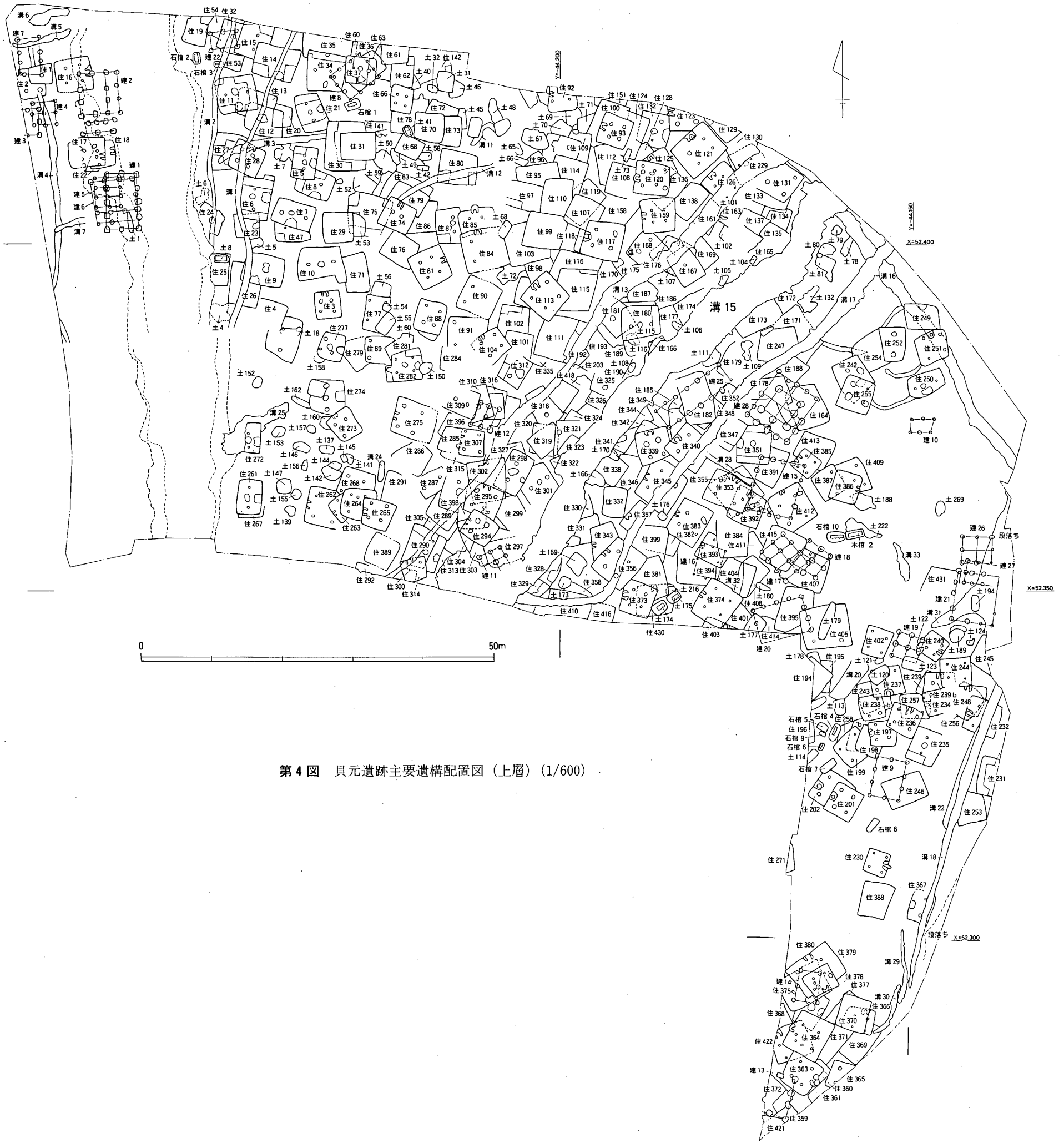
本遺跡の福岡県文化課調査分の面積は，12,200㎡で，調査工程については前章に述べたが，大旨北西端のＩ区から南東辺のＶ区に連続して調査を行った。

本遺跡の基本土層は，第１層が現代の田・畑の耕作土の表土層で，その下が20～50㎝の暗茶褐色包含層となり，遺跡全体を覆っているが，遺跡中央西寄り（３号住）付近では極めて薄くなって表土直下に河岸段丘の礫層が露出している部分もみられた。第３層目が各時代遺構面となるが，検出面ではほぼ全面が黒褐色土そのもので，遺構検出に極めて困難を伴った。歴史時代の掘立柱建物や石棺墓上面だけが明瞭に見えるだけで，一時はこの第３層そのものがすべて包含層ではないかとの疑いも持った程であった。しかし，試掘トレンチの清掃やがまん強い検出作業の結果，第３層上面が全く地山が見えない状況となった遺構の重複結果によるものであることが判かった。さらに，これらの遺構のうち，カマドを持つ方形住居は，本来は第２層中途からの掘り込みが行われたものもかなり在ったことが推測された。これらの事から，遺跡北東隅付近のII区東半や，西南隅付近のIII区では，当初の重機による表土剝ぎ段階で下げ過ぎていた可能性も否定できない。

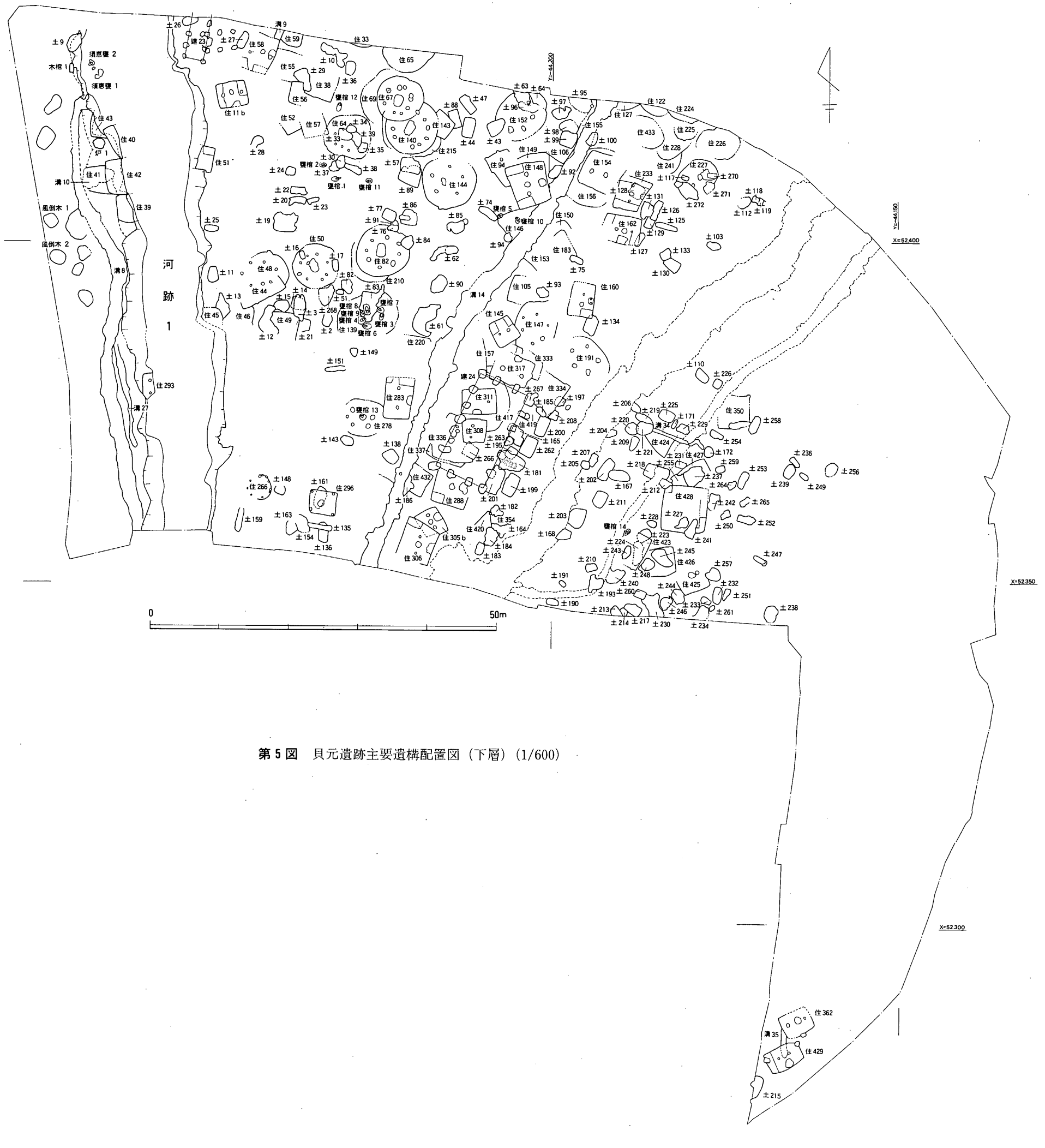
各遺構は浅深の差があり，大半は第４層の黄褐色土層（やや砂質で水はけが良い）まで掘り込むが，深いものは更に下の礫層まで達している。また，第４層のローム系土層と同じレベルで黒色で白い微細粒を多く含む火山灰起因層（黒ボク）が，遺跡の北西付近や東辺，及び風倒木痕への嵌入土として認められ，各遺構に対する地山となっていた。なお，黄褐色粘質土的なローム層の典型土は当遺跡内では確認できなかった。更に，確認し得た最下層は，河岸段丘形成による礫層で，花崗岩霧爛土の二次堆積土が混入した状況であった。この礫層は上述の如く，浅い部位では表土直下，深い部分（東端と西端）では表土から２m程下にて確認された。

以上のように，層位的にはわりと明瞭な状況であったが，旧石器時代のナイフ１点や，押型文土器片１点，縄文粗製深鉢小片数点，黒川式精製浅鉢Ｃ類口縁片１点の出土により注意して土層を観察していたが，それらの文化層はついに確認できなかった。

本遺跡で検出した主な遺構は以下の通りであるが，紙面の都合上，竪穴住居跡・土坑のうち各々99号までをこのＩにおいて報告し，以下100番からはIIに収録することとした。



第4図　貝元遺跡主要遺構配置図（上層）（1/600）



第 5 図　貝元遺跡主要遺構配置図（下層）（1/600）

竪穴住居跡（弥生中期初葉～７Ｃ後葉）	411軒
土坑（弥生前期末葉～７Ｃ後葉）	267基
掘立柱建物（弥生中期～８Ｃ末）	28棟
甕棺墓（弥生中期前葉～中期後葉）	14基
木棺墓（弥生中期～末）	２基
石棺墓（弥生後期）	10基
炉跡（弥生中期前葉）	１基
須恵甕埋置（５Ｃ末～６Ｃ初）	２基
溝状遺構（弥生中期前葉～８Ｃ）	35条
河跡	１条

なお，以上のうち，土坑の中には弥生前半期の貯蔵穴，古墳時代の祭祀跡，木棺墓，土坑墓，炉跡等が含まれており，現段階で峻別するのは困難なため，整理完了後に改めて仕分けしたい。

以下，各遺構について報告するが，遺構・出土遺物ともに膨大な量である為，本文の記述を極力簡便にする。各遺構の詳細な事実データは一覧表をも充分に活用されたい。

A　竪穴住居跡

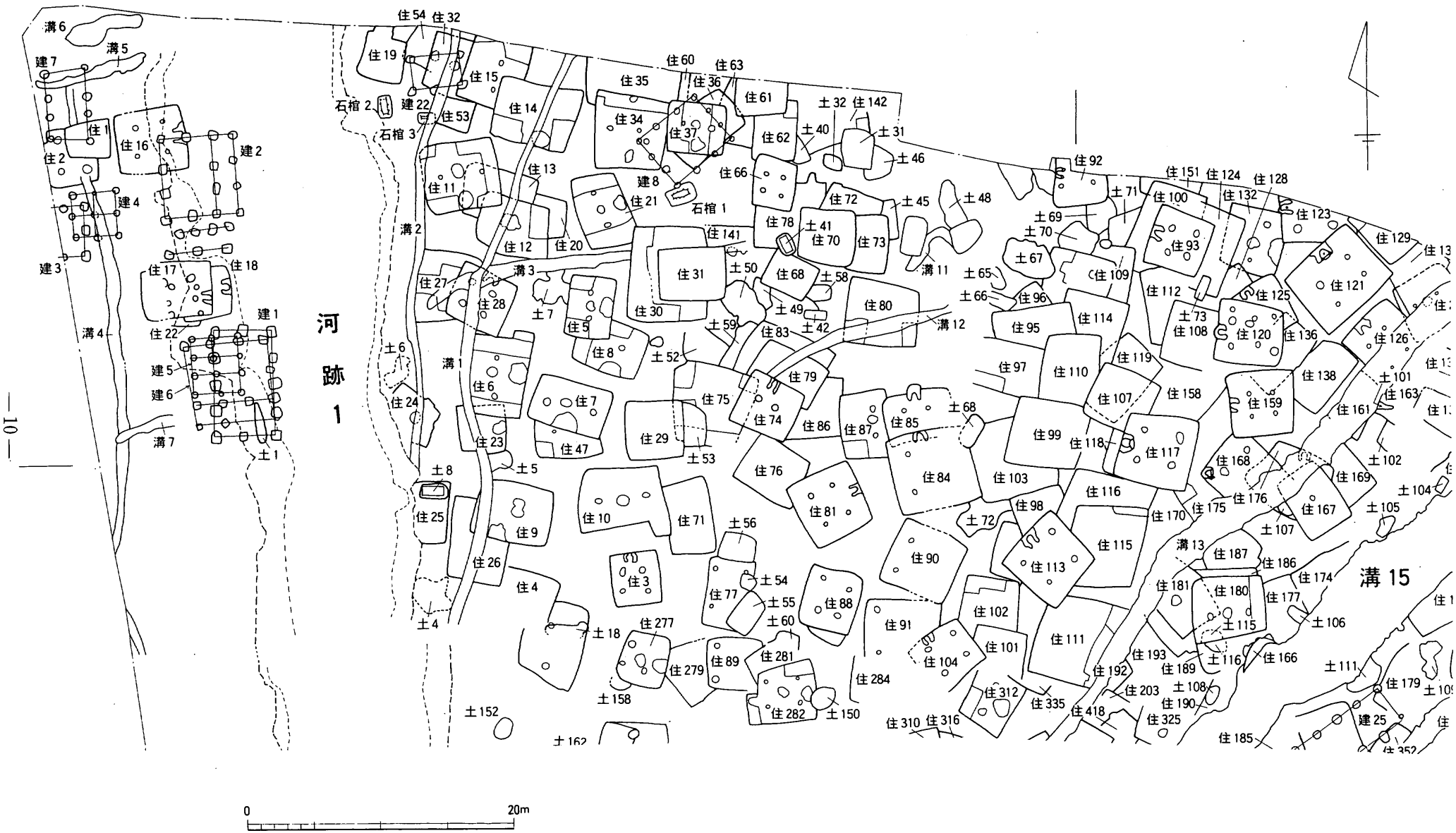
1号住居跡（第８図，図版　８）　浅く残りが悪い。カマド・炉は当初から無かったであろう。暗灰褐色土の埋土で，特小型の特殊類。出土遺物で図示できるものは無いが周辺の状況からみて７～８Ｃ代のものであろう。

2号住居跡（第８図，図版　８）　上半を削平されて浅い。西辺は調査区外にあり，埋土は暗灰褐色土。４本柱のうち北東隅のものは不明確だが，建７の柱穴と重複している可能性強し。出土遺物（第９図１）は７Ｃ後葉で，住17と同時期となろう。

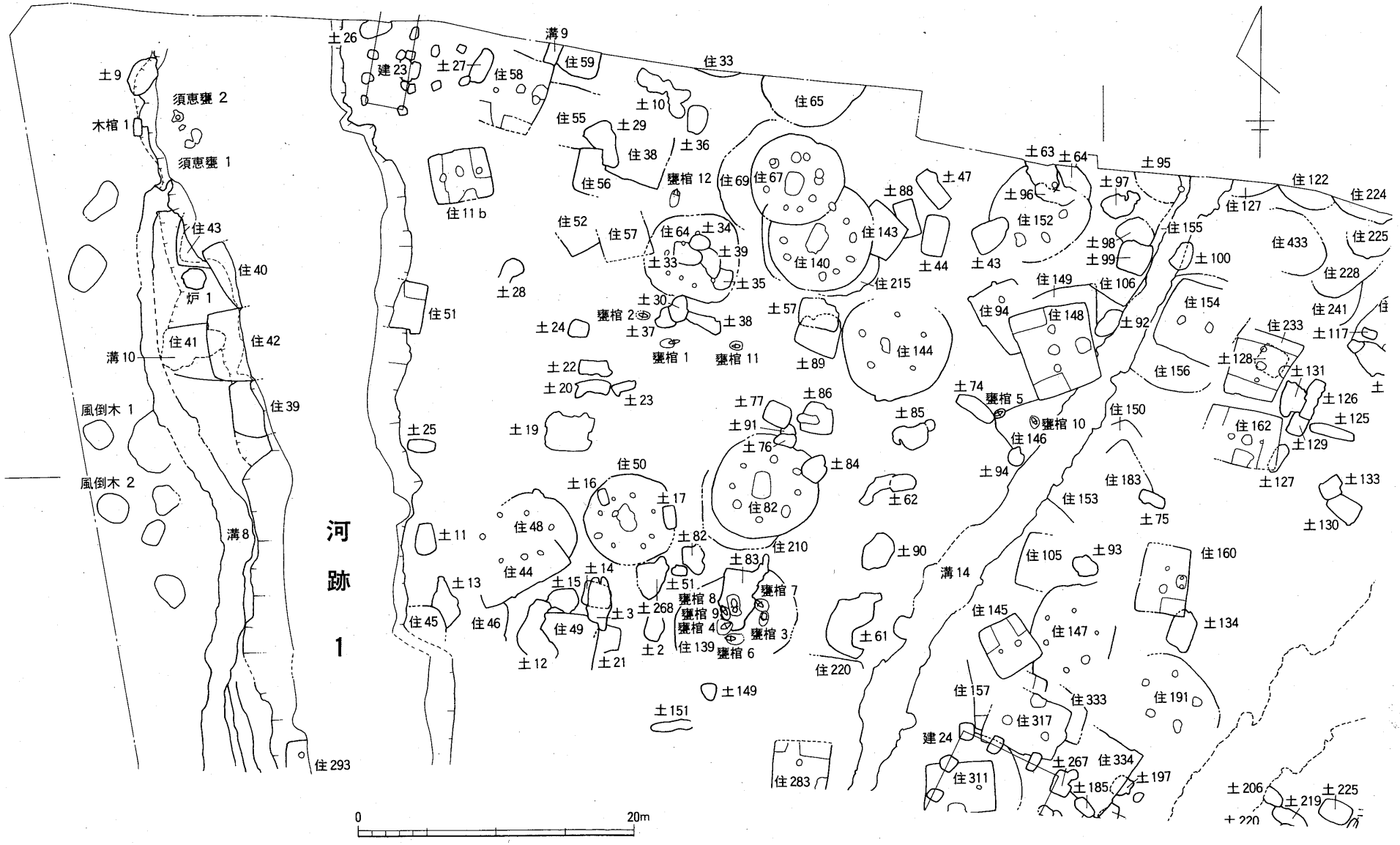
3号住居跡（第８図，図版　８）　平均的小型類で，主柱穴はカマド前の２本で，南辺壁際の２小柱穴がこれに対応するタイプ。カマドの床面は２面あり，花崗岩製支脚を立て，土師器椀２個と甑片が残存。袖には白褐色砂質土を使用。これは本遺跡ではかなり普遍的。出土土器（第９図２～26）は３・４・22・24がカマド内出土品で，すべて５Ｃ後葉～末の良好なセット。土４・６の祭祀を行った住民の住居。他に鉄刀片かと思われる鉄片（第93図56），偏平片刃石斧（第95図34），蛤刃石斧（第９表51）が出土。

4号住居跡（第８図，図版　９）　かなり削平されて西～南辺は不明。中期方形住居となろう。東寄り床面に平坦面をもった花崗岩台石あり。柱穴不明。出土土器（第９図27～30）は29が弥生中期前葉，27・28が後期末葉で当住居の時期。他に太型蛤刃石斧（第96図49）が出土。

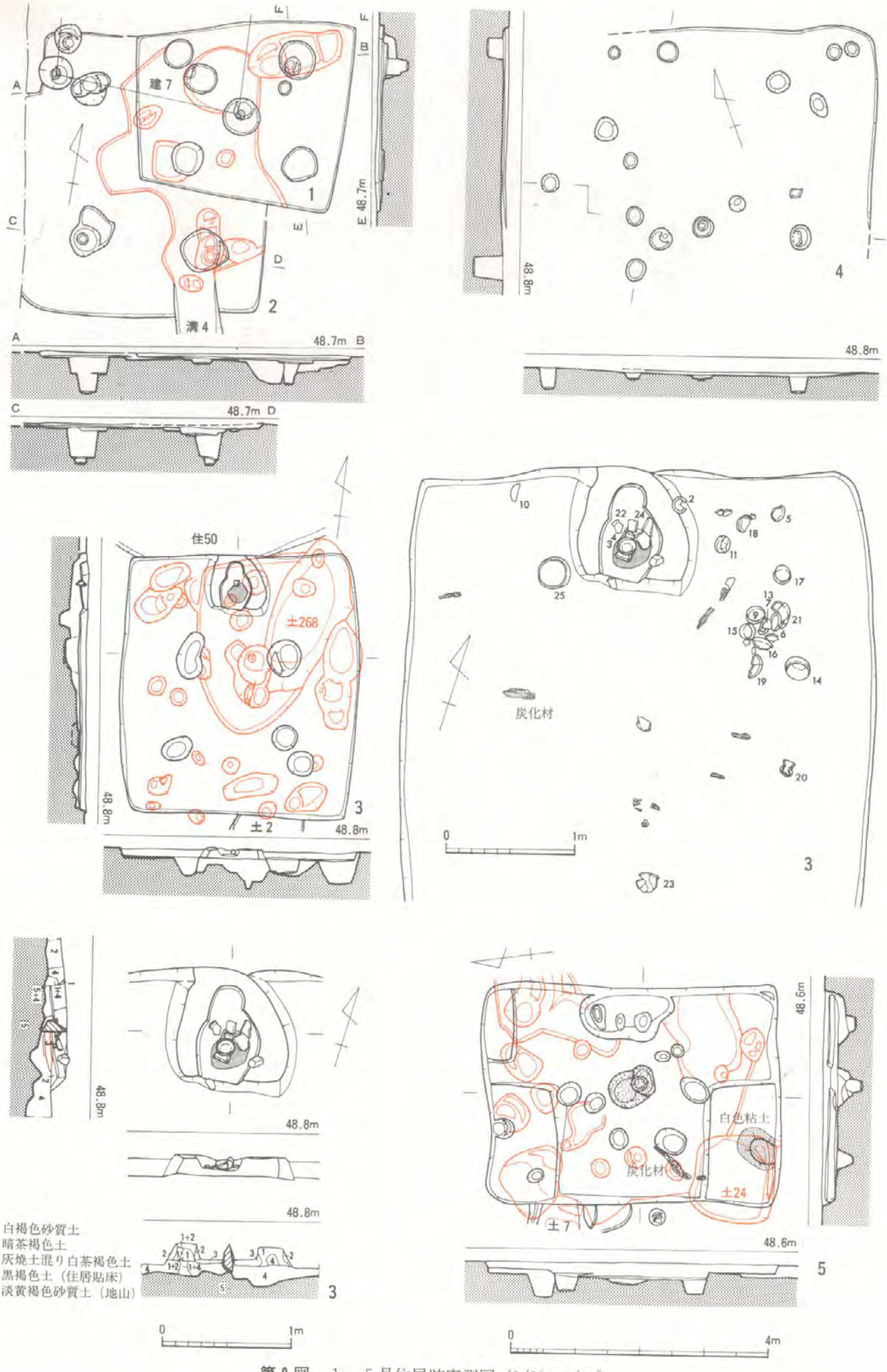
5号住居跡（第８図，図版　10）　２主柱穴間心々距離約２m。東壁中央に壁際土坑。南西壁際ベッド上に白色粘土があり，入口部を示すものか。焼失住居で炭化材が少し残る。出土土器（第９図31～37）は31・32が弥生中期前葉，35が中期末葉，36・37・33が後期前葉。37の底外面はハケ調整。



第6図　住居跡群配置図（上層）（1/400）
（本書掲載分の近辺のみ）

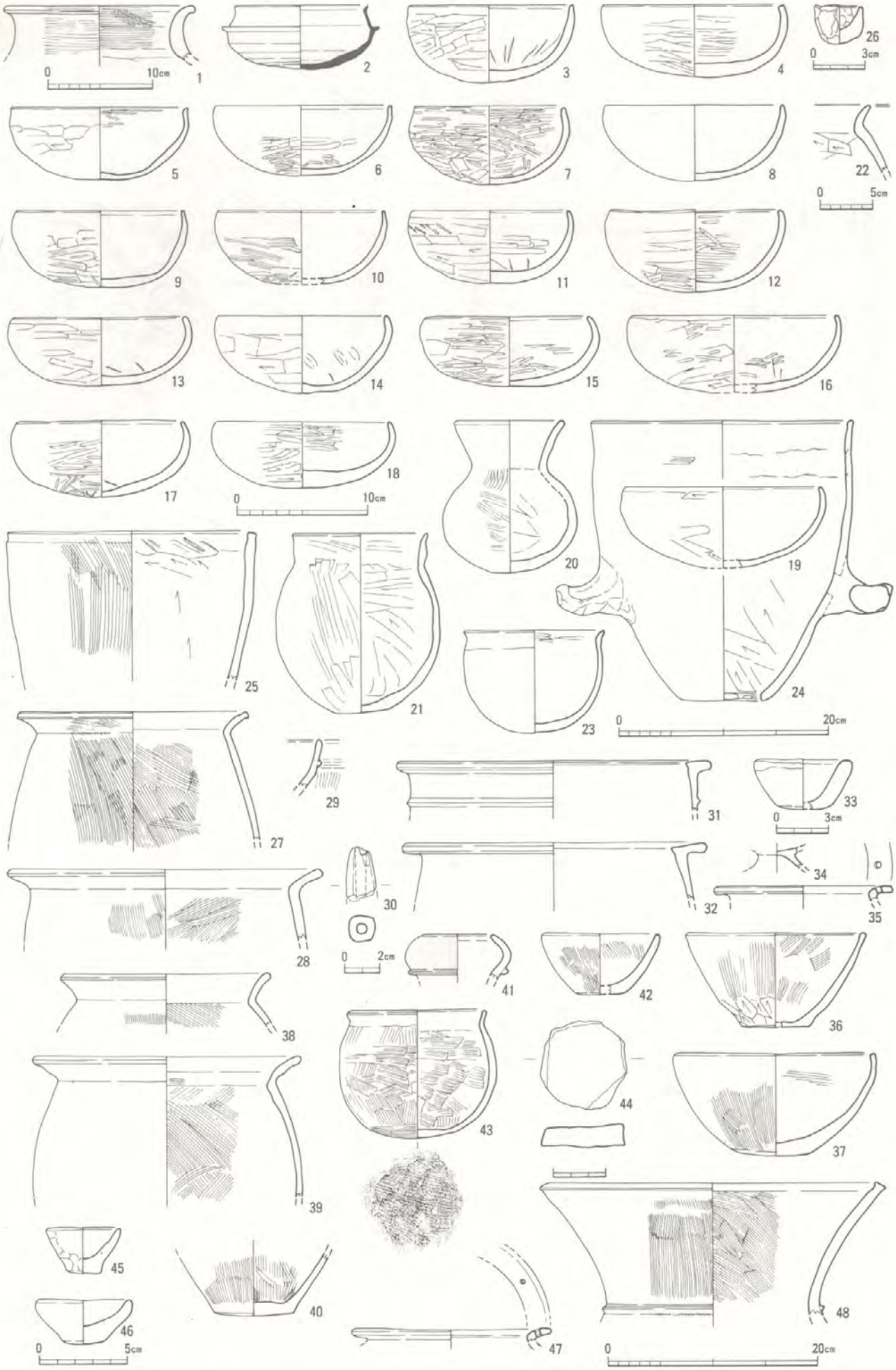


第 7 図　住居跡群配置図（下層）（1/400）
（本書掲載分の近辺のみ）

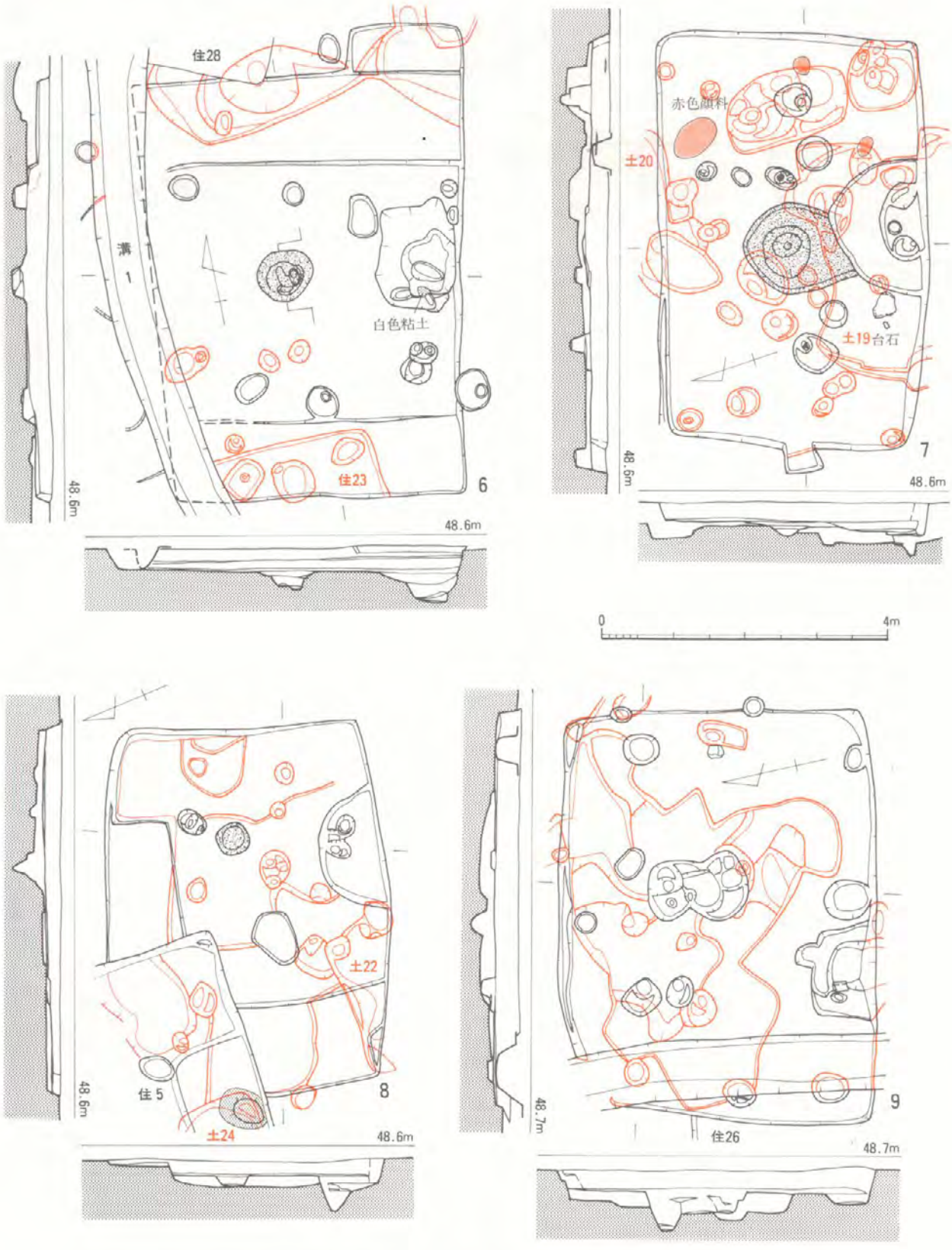


1 白褐色砂質土
2 暗茶褐色土
3 灰焼土混り白茶褐色土
4 黒褐色土（住居貼床）
5 淡黄褐色砂質土（地山）

第8図 1～5号住居跡実測図（1/80, 1/40）

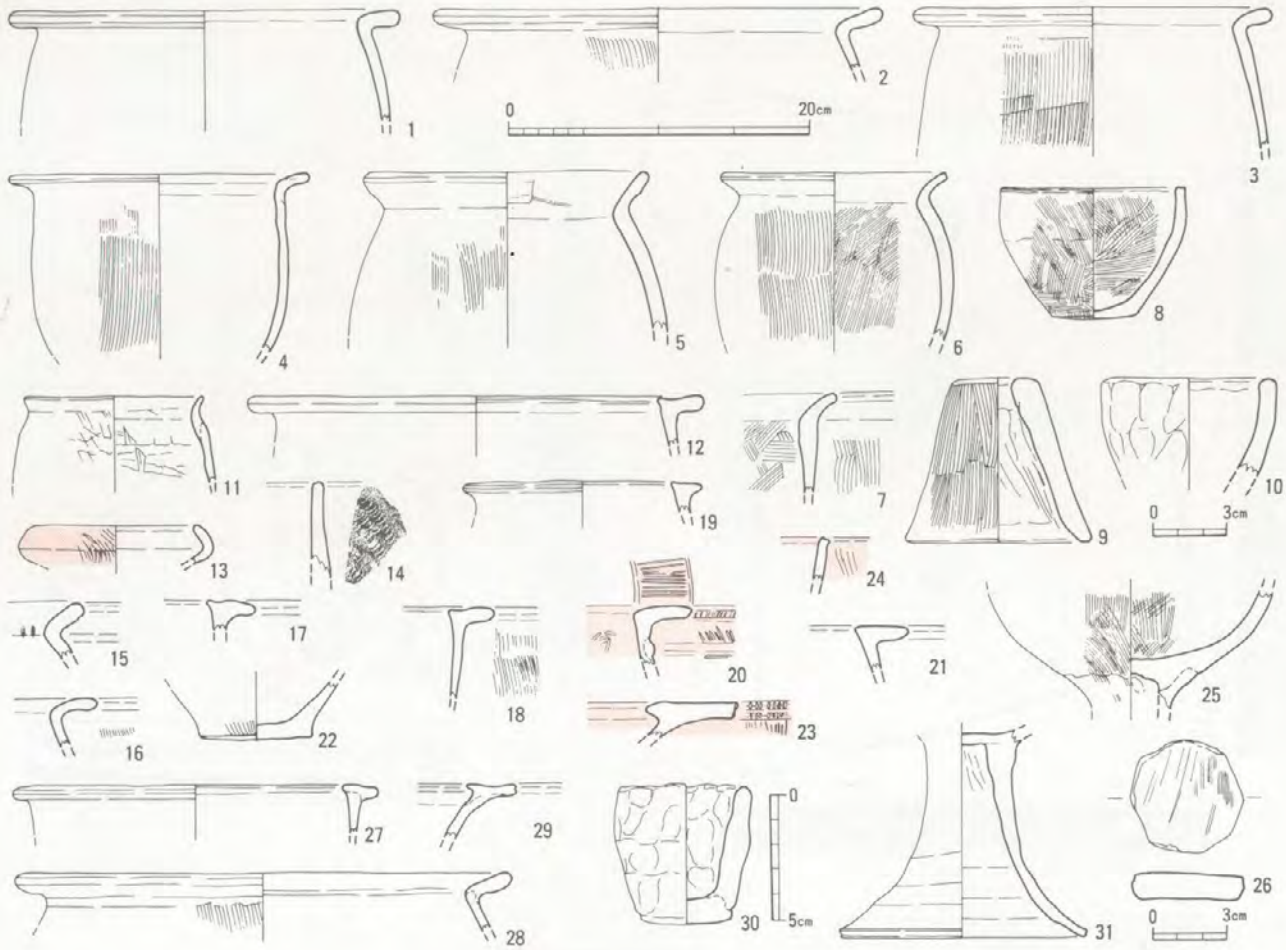


第9図　2～6号住居跡出土土器実測図（26・30・33・44～46は1/3，2～20・42・43は1/4，他は1/5）
（1：住2，2～26：住3，27～30：住4，31～37：住5，38～48：住6）



第10図　6～9号住居跡実測図（1/80）

他に鉄器（第92・93図）は鉇鋒先片（18），鉄斧片（22），不明鉄片（47）。砥石2点（第98図1・2），抉入柱状片刃石斧（第95図42），石庖丁3点（第95図1・2，第8表整理番号93），打製石鏃2



第11図　7～10号住居跡出土土器実測図（10・26・30は1/3，14・31は1/4，他は1/5）
（1～10：住7，11～14：住8，15～26：住9，27～31：住10）

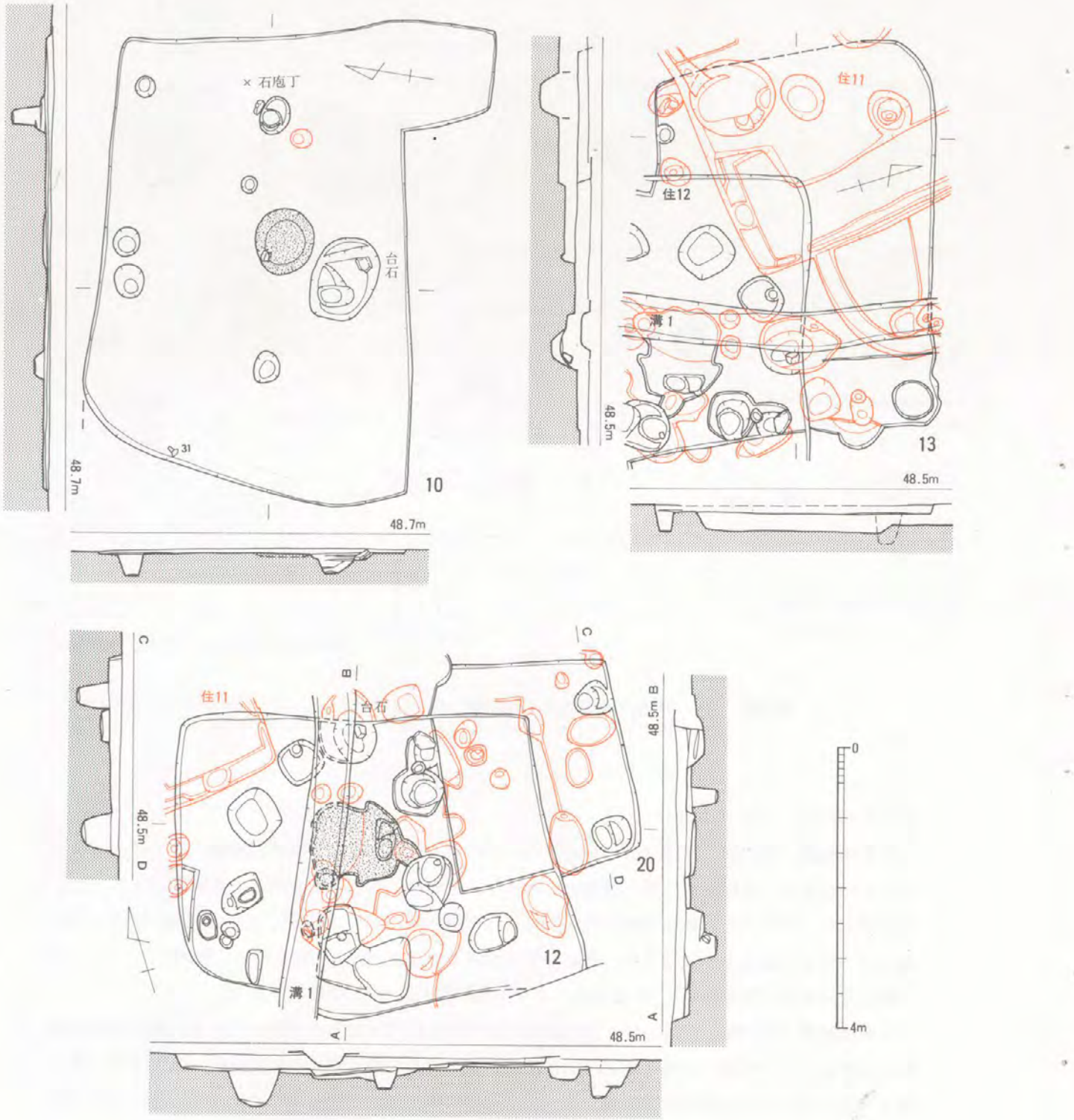
点（第100図16・19）も出土。

6号住居跡（第10図，図版 10）　対辺にベッドの付く住居としては平均的規模。2主柱穴は断定できない程浅め。東辺中央に深い壁際土坑があり，その中に白色粘土が残る。北東隅に入口となる突出部あり。出土土器（第9図38～48）は41･47が弥生中期末葉の混入品。40の底外面はハケ。39･40・43・48が床面出土で後期後葉。他に小型板状鉄斧（第92図23），砥石2点（第98図3・4），抉入柱状片刃石斧（第95図43），打製石鏃2点（第100図14・20～大型鏃）が出土。

7号住居跡（第10図，図版 11）　図中▲印の2つが主柱穴となろうが軸がずれる。南辺中央に壁際土坑があり，その脇に台石と砥石。赤色顔料を東半部3ケ所で埋土中にて検出。出土土器（第11図1～10）は1～4が弥生中期末葉。5～10は後期前葉。10は手捏ねのミニチュア。他に砥石（第98図5），石庖丁2点（第94図3・第8表整理番号94），石のみ（第95図29），打製石鏃2点（第100図10・17）出土。

8号住居跡（第10図，図版 11）　炉は中央ではなく，ぐっと東寄りで，南辺の壁際土坑もそれに対応している。柱穴は見当がつかない。出土土器（第11図11～14）は12が弥生中期中葉，13は中期末葉。14は爪形文が施される異類。切合等からみて当住居の時期は後期前葉前後か。他に砥石（第98図6），石庖丁（第8表整理番号88），打製石鏃（第100図3），石戈（第95図13）が出土。

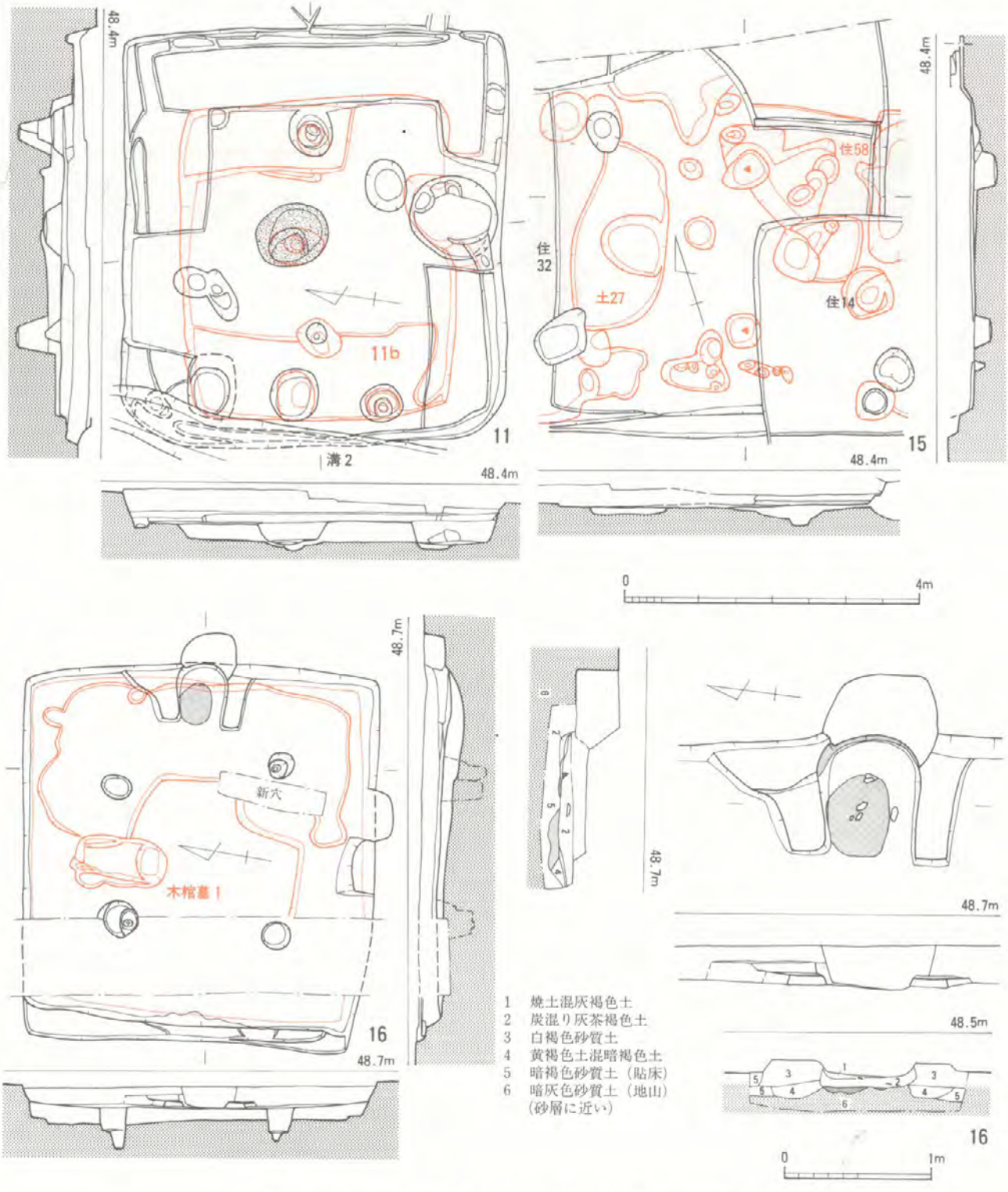
9号住居跡（第10図，図版 11）　中央の穴は炉ではない。壁寄りの6～8個の小ピットが主柱穴



第12図　10・12・13・20号住居跡実測図（1/80）

となるかもしれないが，いずれも浅く不明確。東辺寄りに台石あり。出土土器（第11図15～26）は17～19・21が弥生中期前葉，20・23が中期後葉，16が中期末葉，15・22・25が当住居の時期の後期前葉。他にスクレイパー（第100図32）が混入。

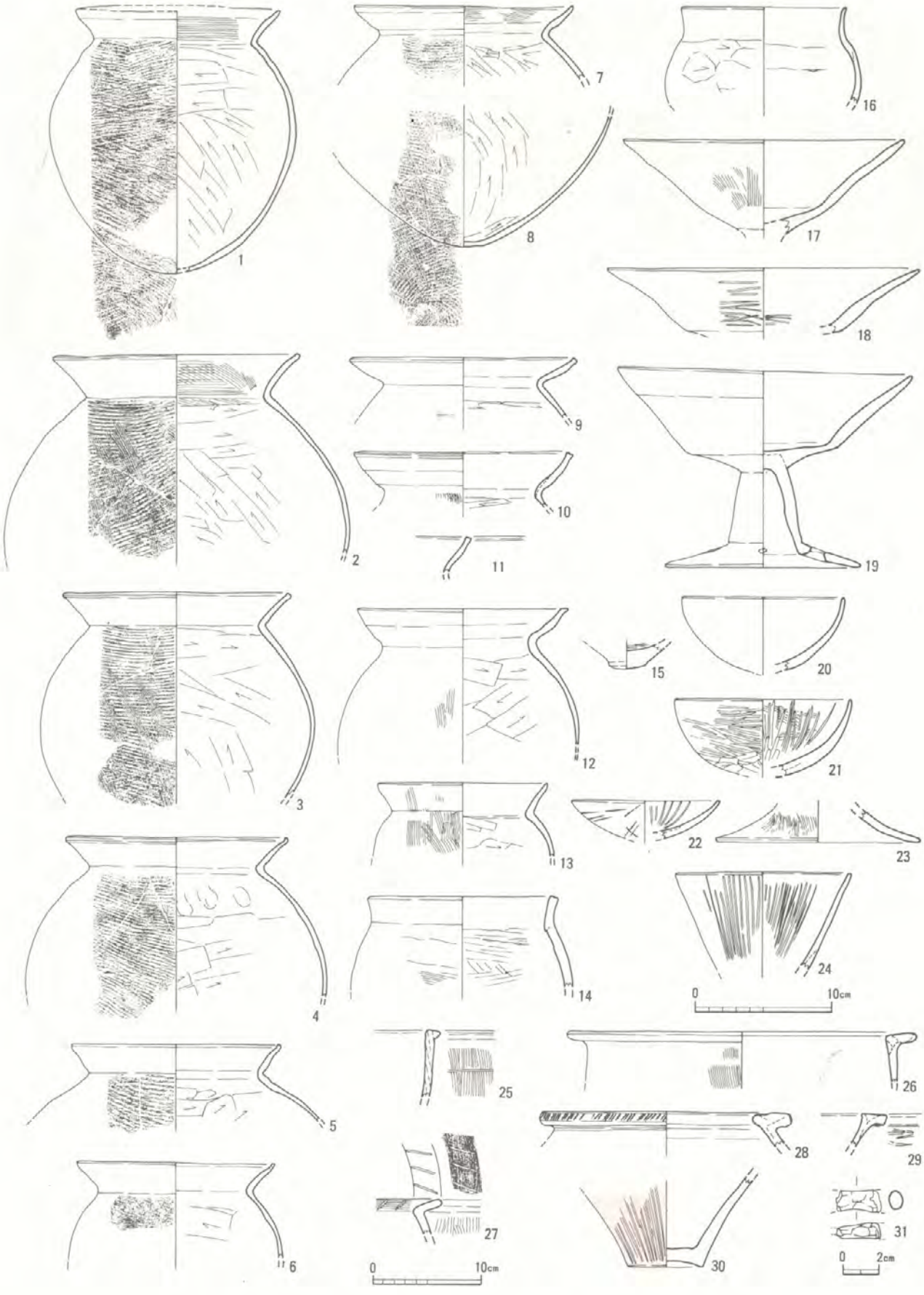
10号住居跡（第12図）　東西の2主柱間心々距離が3.5m。炉の南隣の穴が壁際土坑だとすれば，南壁から離れており古い様相を示す。この土坑から台石出土。南東隅に入口的突出部。出土土器（第



第13図　11・11b・15・16号住居跡実測図（1/80，1/40）

11図27～31）は27が弥生中期前葉，29が中期中葉，28は中期末葉，30も同期か。31は６Ｃ代の赤焼で明らかな混入品。住居の形状から弥生中期末葉。他に石庖丁３点（第94図４～６），素材片的不明鉄片（第93図48）が出土。

11号住居跡（第13図，図版 12）　全周に周壁溝を持ち，ベッドも全周しかけている。南辺中央に壁際土坑。大きく正方形に近くなっているが，まだ４主柱にはなっていない。出土土器（第14図）



第14図　11号住居跡出土土器実測図（1～24は1/4，25～30は1/5，31は1/3）

は25～30が弥生中期初～末葉の混入品で，他は１～８の庄内新，９～12の布留古～中，13～16の在地的甕等。高杯も17の古段階から19の布留古期までみられる。当住居の時期は10・12・19が床面出土である事から布留中段階。他の庄内系土器は下層の11b号住居に属するものであろう。他に石庖丁３点（第94図７～９），砥石２点（第98図７・８），投弾（第91図４），打製石鏃（第100図９），碧玉製管玉（第90図38）が出土。

11ｂ号住居跡（第13図，図版 12） 11号住居跡の拡張前のもので，柱穴・中央炉・壁際土坑はほぼ共通する。ベッドが対辺型配置となる点が異なる。出土遺物は住11と一緒に取り上げたので両者を峻別できない。当住居が住11の下層にあたる事から，第14図１～３の庄内式新期が当住居の時期としてよかろう。

12号住居跡（第12図，図版 12） 中央炉の南隣の穴が壁際土坑となろう。北壁際中央に花崗岩台石が出土した。主柱穴は不明。出土土器（第15図１～９）は４が弥生中期初葉，５は中期後葉，１・６は後期中葉，３は典型布留期。７～９は土製模造品。遺構の形態からみて，住11→住12→住13の順で切合を間違ったようだ。よって後期中葉が当住居の時期で，３は住11のものであろう。他に石庖丁２点（第94図10･11），砥石（第98図９），偏平片刃石斧（第９表35），緑色片岩製有孔円板（中央孔未貫通，第90図52）（住11のものか）出土。

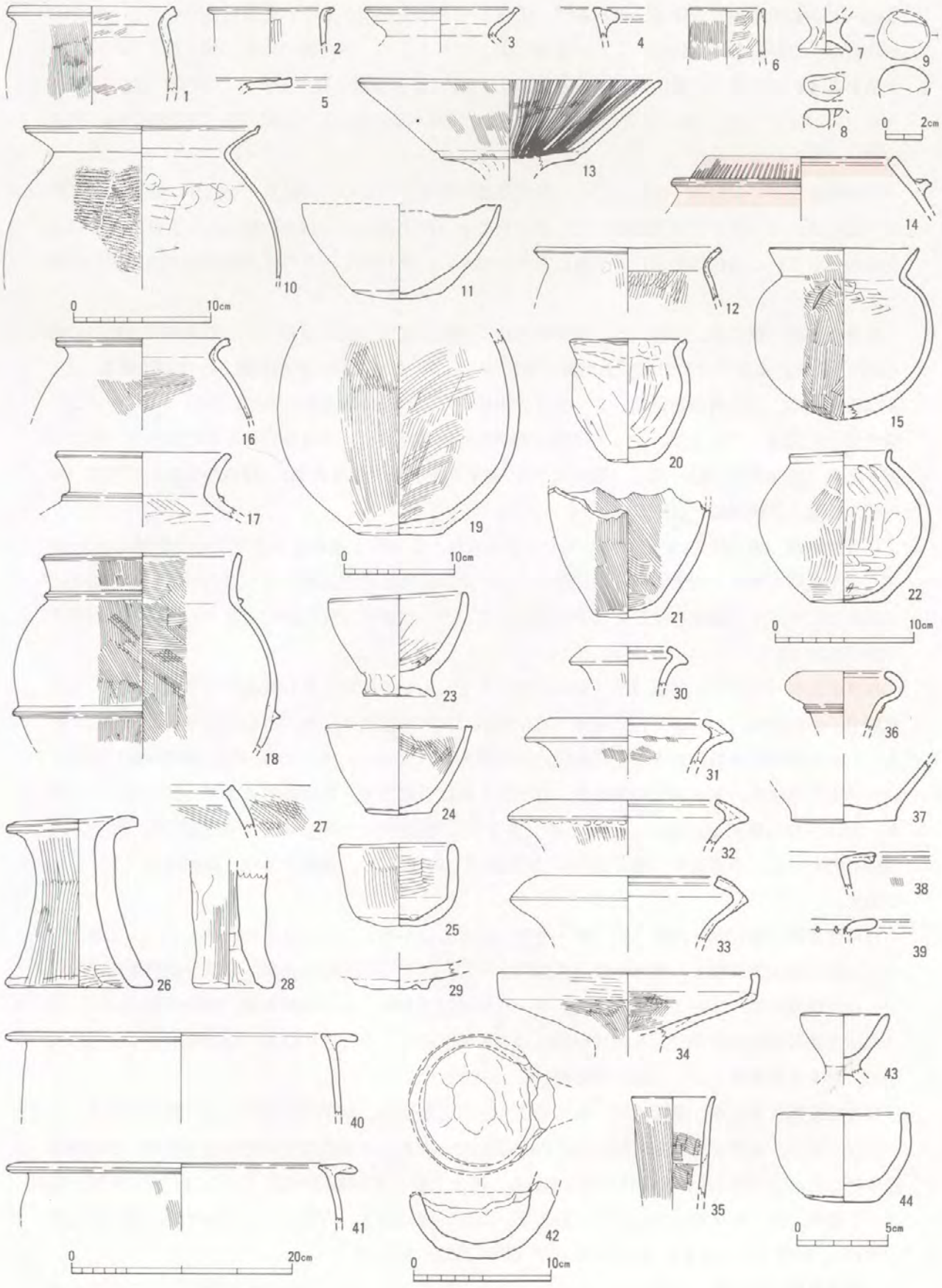
13号住居跡（第12図） 東辺のみにベッドがみられ，２主柱と思われる柱穴間心々距離は3.5mあり，若干疑問も残る。出土土器（第15図10～15）は14が弥生中期後葉，11･12が後期前葉，10･13･15は住11に伴う庄内新期。住11と切合を間違っており，当住居は弥生後期前葉のもの。他に石庖丁（第94図12）出土。

14号住居跡（第17図，図版 12） 東西に並ぶ２ピットが主柱穴と思われるがいずれも浅い。焼失家屋で，炉は不明。しっかりした壁際土坑が南辺の東寄りにあり，その斜面中途から砥石２点が出土し，土坑西側には焼けた大きな花崗岩台石が据えられていた。出土土器（第15図16～44）は40・41が弥生中期中葉，36～39は中期末葉，17・22・24は後期前葉，他は後期後葉で，16は瀬戸内以東系。20は手捏ね模造品。他に石庖丁２点（第８表整理番号97・98），石戈（第95図14），砥石５点（第98図10～14），小型石斧（第97図72），無茎鉄鏃（第92図１），鉄鏃片２点（第92図２・３）などが出土。

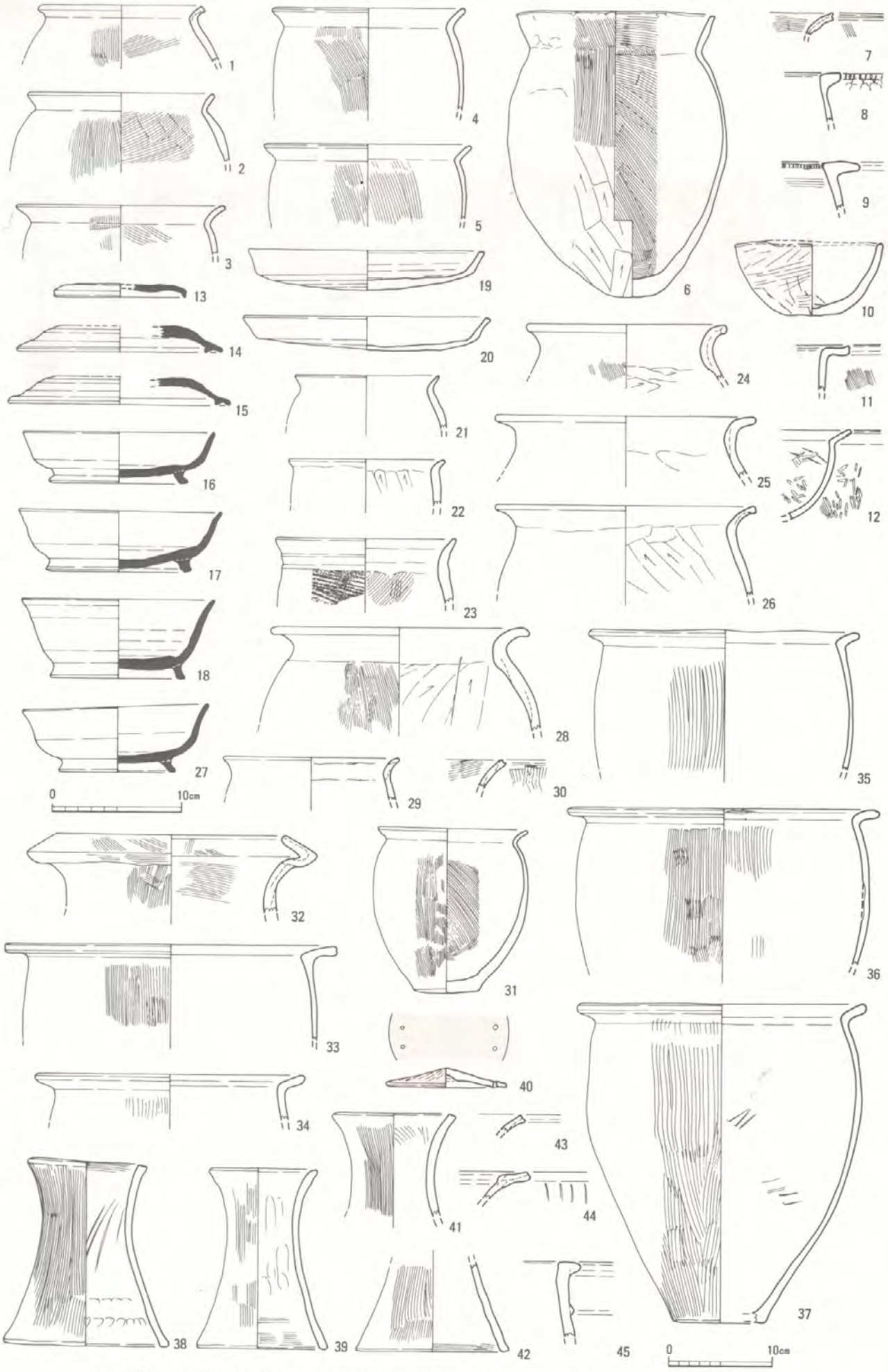
15号住居跡（第13図，図版 13） 炉・壁際土坑ともに不明。２柱穴はあまり深くない。北東隅のベッド部は地山削り出し。出土土器（第16図１～12）は８が弥生中期初葉，９は中期前葉新段階，11・12は後期初葉，１・２が後期前葉，３～５は後期後葉的。６は後期末葉。切合が間違っていなければ当住居は後期後葉で，６だけが撹乱による混入品ということになる。他に石庖丁２点（第94図13，第８表整理番号92），砥石（第98図15）が出土。

16号住居跡（第13図，図版 13） 典型的カマド付方形住居。貼床下の掘り込みが四周に巡る。カマドは大型で，奥壁が暗紫色に焼けて，内法幅が60cmもある。袖には白褐色砂質土使用。住居南壁際中央に地山土と粘土を貼り付けた部分がある。出土土器（第16図13～26）のうち14～17･19･22～25は７Ｃ後葉，13・18・20・21・27は７Ｃ末葉。23は外面に敲き，内面ハケの赤焼土器。他に鉇（第92図19），石剣（第95図１），偏平片刃石斧（第95図35）が出土。

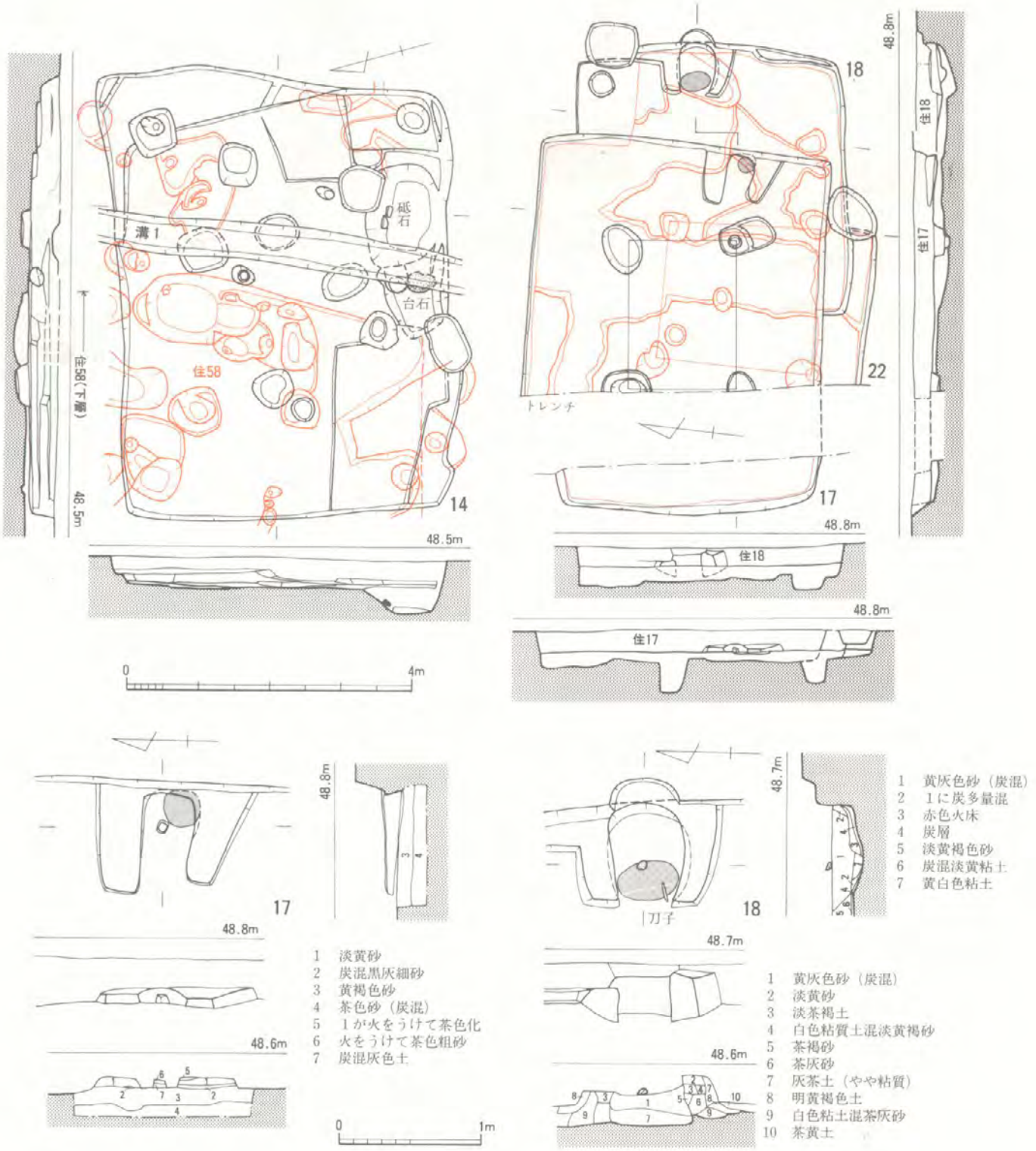
17号住居跡（第17図，図版 14） ４主柱穴は中央に在るが，カマドは南へ片寄る。カマド内中央には焼けた土が支脚状に残る。袖には淡黄色砂質土を使用。４柱間心々距離は東西が７尺，南北が



第15図　12～14号住居跡出土土器実測図（7～9・43・44は1/3，10・11・13・15・20・22～25・42は1/4，他は1/5）
（1～9：住12，10～15：住13，16～44：住14）



第16図　15～19号住居跡出土土器実測図（10・13～20・27は1/4，他は1/5）
（1～12：住15，13～26：住16，27～29：住17，30～32：住18，33～45：住19）



第17図　14・17・18・22号住居跡実測図（1/80，1/40）

5尺（1尺＝30cmで）。出土土器（第16図27～29）は7C後葉だが，29は内面ナデで新しい様相があり，住16と同時存在の可能性が強い。他に線刻の有る土製紡錘車（第91図19），砥石（第98図16）が出土。

18号住居跡（第17図，図版 14・15）　小型住居の部類に入り，床面に深い柱穴を持たない類。カマド壁はよく焼けており，中央の小さな掘り込みの上方に焼土塊があり，支脚とした可能性がある。

カマド内火床面から鉄製刀子（第93図57）出土。袖に淡黄色砂質土系の土を多用する。出土土器（第16図30～32）は弥生後期前～中葉，30は後葉の可能性もある。いずれも下層遺物の混入品で，当住居の時期は７Ｃ後葉と推定できる。

19号住居跡（第18図，図版 15） 床面の中央が低くなる類で，柱穴は四隅に各々ピットがあるが不揃いで確定できない。北側の突出部は入口か。出土土器（第16図33～45）は33が弥生中期後葉，45は中期初葉，他はすべて弥生中期末葉の良好なセットで当住居の時期を示す。他に滑石製紡錘車（第91図28），石庖丁（第94図14），石戈（第95図15）も出土。

20号住居跡（第12図，図版 12） 特小型類だが，西半は各住居に切られて全容は不明。柱穴も明確でない。出土遺物（第19図１・２）は１の底外面はハケの上をナデており，弥生後期前葉，２は新しい様相がみられるが，切合からみて当住居の時期は後期前葉。

21号住居跡（第18図，図版 16） 平行四辺形気味となる平面形で，東壁際中央に深い壁際土坑がある。ベッドは貼っており，中央炉は極めて浅い。出土土器（第19図３・４）は弥生後期前～中葉と思われるが，当住居の構造は新様相をみせる為，後期中葉が住居の時期。他に砥石６点（第98図17～22），スクレイパー（第100図28）が出土。

22号住居跡（第17図，図版 14） 大半を他住居に切られるが，４主柱の配置から推定すると８㎡程の特小型住居となる。柱間心々距離は，南北が７尺，東西が６・6.5尺（１尺＝31.2～31.8㎝）。壁際に柱穴を持つ類。出土遺物は無く時期は確定できないが，住17・18と隔らない７Ｃ後半代ではなかろうか。

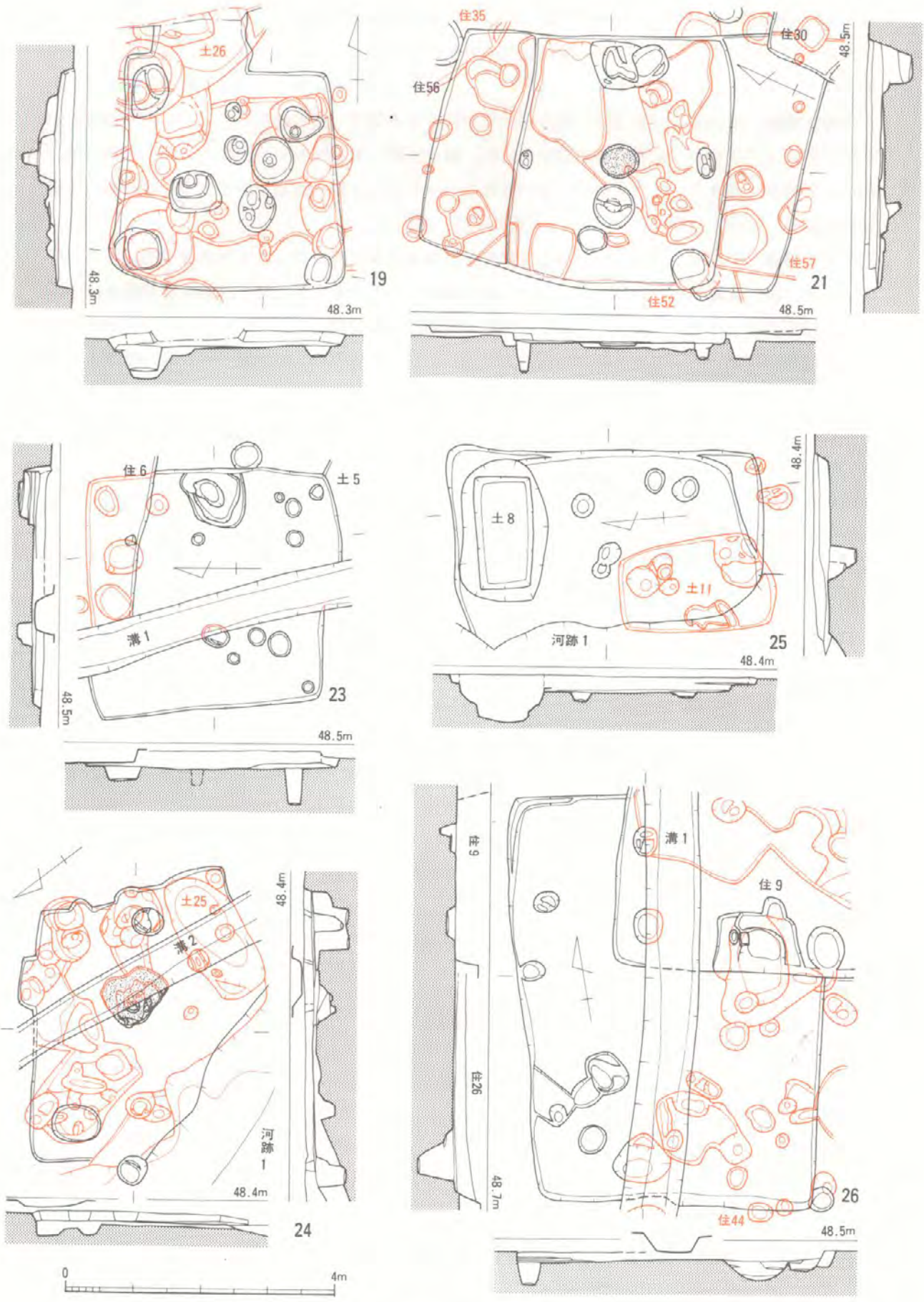
23号住居跡（第18図，図版 16） 東辺中央の穴は壁際土坑的性格になってゆくのかもしれない。主柱穴は明確でない。出土土器（第19図５～９）は６が弥生中期末葉的様相を残すが，５は後期に降る。７～９は厚手類の初形態で上下の開き具合から後期初葉を下ることはない。中実の異類で３本セット支脚か。他に石庖丁（第94図15），鉄滓（第７表12）が出土。

24号住居跡（第18図） 西南半は河跡１によって削り取られる。炉は東に片寄っており，東西壁際中央に位置する２主柱穴構造と思われるが確定的ではない。出土遺物（第19図10～14）は10・13が弥生後期初葉，11・12・14が布留古。炉が片寄る事は，住居壁とした段がベッド内側ラインである可能性を考えると納得できる。東と南北辺にベッドを推定できる。

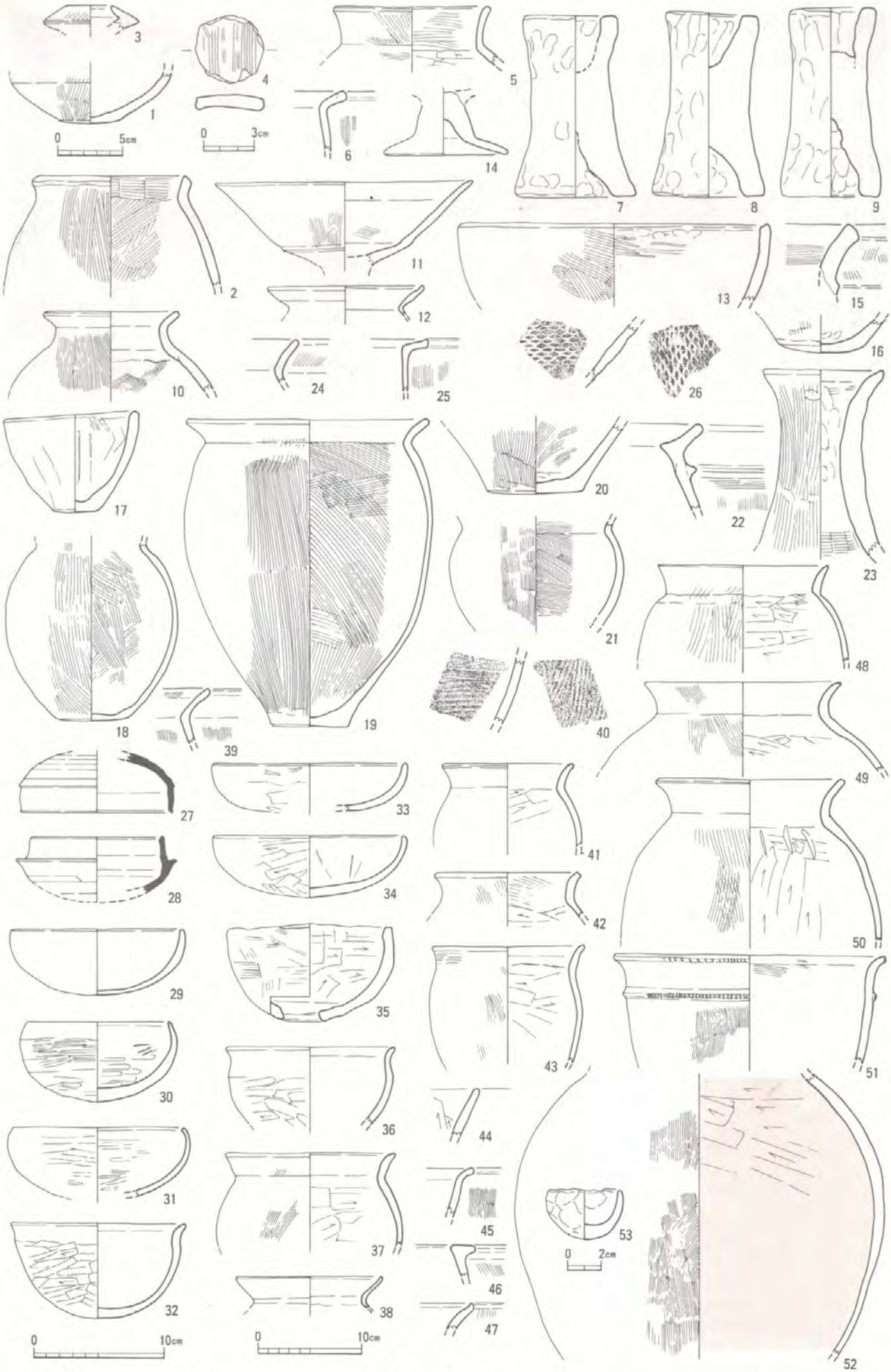
25号住居跡（第18図） 河跡１に西半を削られる。主柱穴は明確でない。床面はゆるやかに中央へ低くなっている。出土遺物（第19図15・16）は弥生後期中葉。本来，南北辺沿いにベッドがあったのかもしれない。

26号住居跡（第18図） 主柱穴は不明確。東壁中央の大きな穴は壁際土坑的だが，床面より幾らか上から掘り込んでおり，時期が異なり，当住居とは無関係。出土土器（第19図17）は弥生後期前葉で，住居の時期としても他住居との切合上矛盾は無い。他に丸のみ的だが錆ふくらみの激しい不明鉄器（第92図24）が出土。

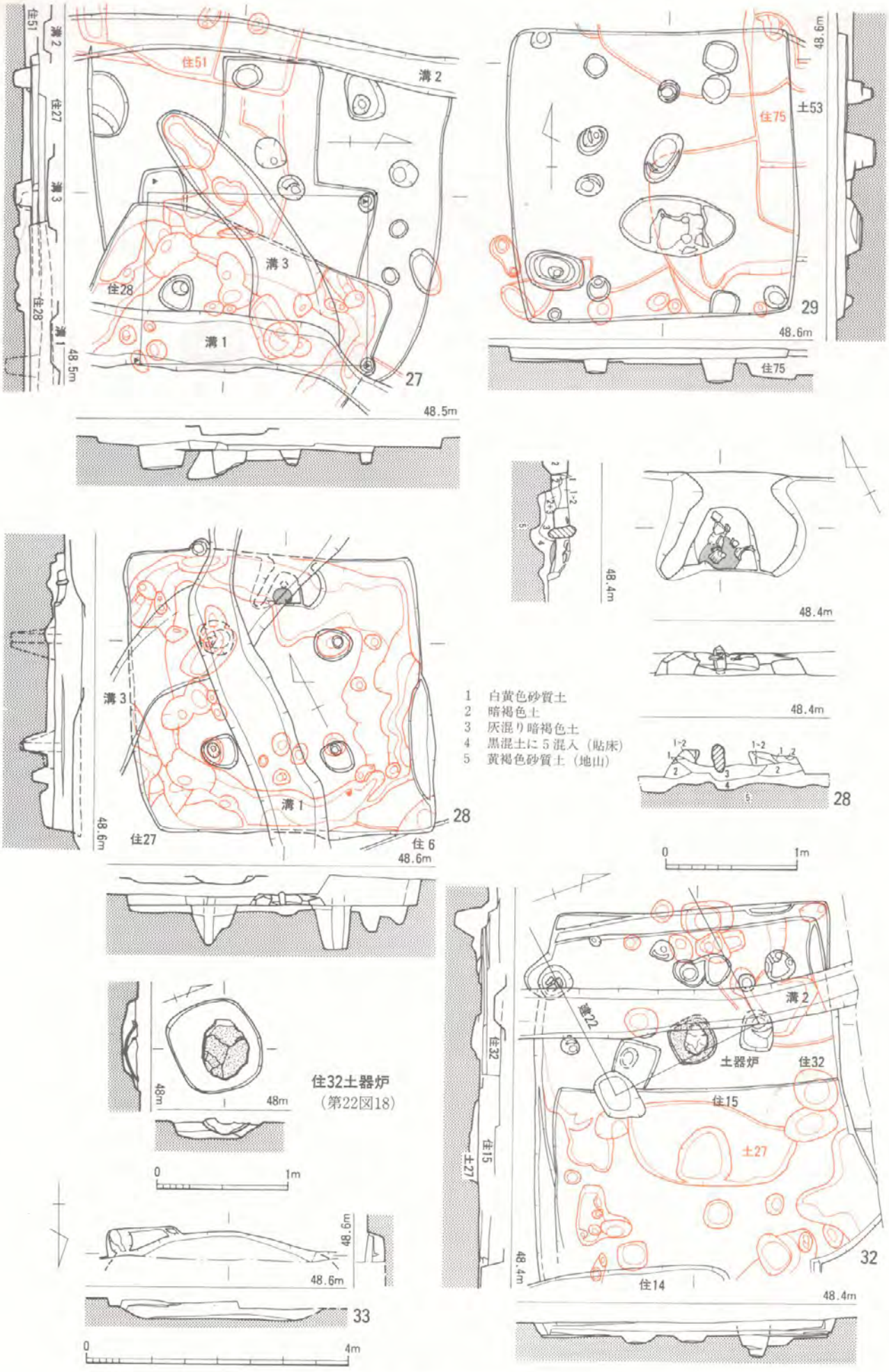
27号住居跡（第20図） 溝や住居等から激しく切られるが，ベッドが四周に巡る類となろう。西側中央のベッドの切れ目には壁際土坑的痕跡は見られない。出土土器（第19図18～26）は26が７×3.5㎜の縦位楕円形押型文土器，22・25が弥生後期初葉，19・20・23が後期前葉，21は後期中葉的，18・24は後期後葉。18～20の底外面はハケ。土器からみると当住居は後期後葉となるが，住居形態は符合しない。むしろ当住居を切る住28に混入した典型布留期土器が当住居に伴うものと推定できる。



第18図　19・21・23～26号住居跡実測図（1/80）



第19図　20～28号住居跡出土土器実測図（4・53は1/3，1・11・12・14・17・26～37・40は1/4，他は1/5）
（1・2：住20，3・4：住21，5～9：住23，10～14：住24，15・16：住25，17：住26，18～26：住27，27～53：住28）



第20図　27～29・32・33号住居跡実測図（1/80，1/40）

当住居自体が弥生後期住居と重複していた可能性が高い。他に砥石（第98図23），投弾（第91図６），石庖丁２点（第94図16・第８表整理番号99）が出土。

28号住居跡（第20図，図版 10・16・17） 径15cm大の柱痕を持ち，東西柱間6.5尺，南北は5.5尺（１尺≒29cm強）。４主柱と壁との間はすべて４尺丁度となる。企画性の高い住居。床面貼床下は壁に沿って四周に掘り込まれる。カマド中央に花崗岩支脚を立てるがその周辺に土師器小甕片も散乱する。袖には白黄色砂質土を使用。出土土器（第19図27～52）は40が縄文後～晩期前葉のアナダラ条痕深鉢。51が弥生前期後葉，45・46は中期初葉，39は後期末葉，32・35～38・47・52が布留中期，27～31・33・34・41～44・48～50・53は陶邑Ⅰ型式５段階併行期。他に鉄器（第92図）が片刃箭式鏃（５），細根鏃片２点（４・６），鉄斧片（25）等出土。

29号住居跡（第20図，図版 18） 黒色埋土で主柱穴や炉は不明確。中央南寄りの大きい穴は屋内土坑的。出土遺物は打製石鏃（第100図５），石剣（第95図２）があるが図示できる土器は無い。住75より新しい事から弥生中期末以降となる。

30号住居跡（第21図，図版 18） 大型住居だが重複が激しくて炉や壁際土坑を確定できない。２主柱穴（図中▲印）としたものは住居中軸線上からずれており，違う可能性もある。出土土器（第22図１～10）は３・５・６・８が弥生中期前葉，７が中期中葉，１・２・４・９・10が後期中葉で住居の時期を示す。他に太型蛤刃石斧（第96図50），砥石（第98図24），抉入柱状片刃石斧（第95図44），打製石鏃（第100図13）が出土。

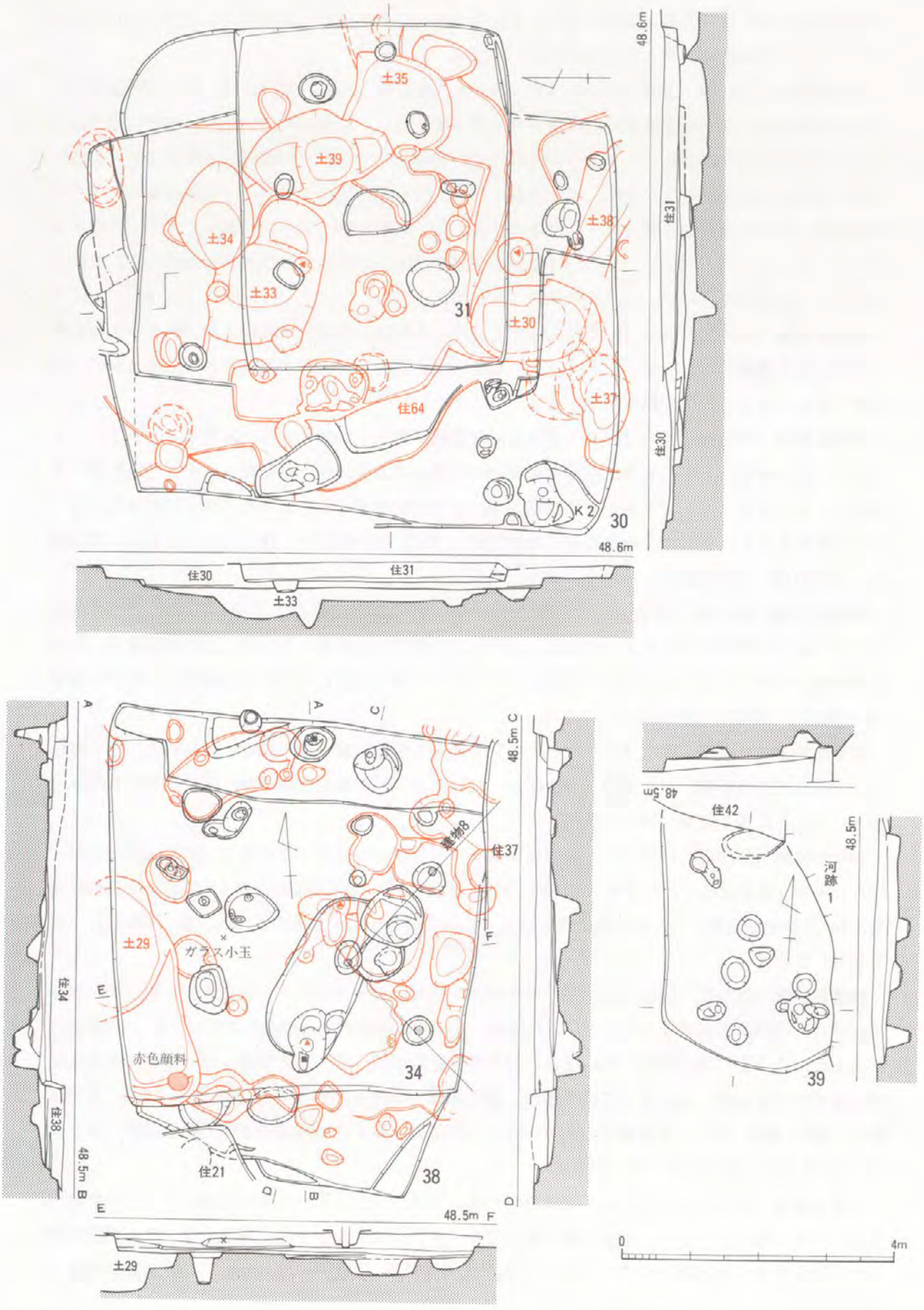
31号住居跡（第21図，図版 18） 中型住居だが，炉・主柱穴等全く不明。出土土器（第22図11～13）は11が頸部に孔を有する異類で，13とともに弥生中期前葉の古段階。12は後期後葉。他に袋部断面が台形で片刃となる鋳造の可能性のある鉄斧（第92図26），砥石（第98図25），石製紡錘車（第91図27），石庖丁（第94図17）が出土。

32号住居跡（第20図，図版 18） 中央に甕を半裁して横位に据えた土器炉がみられる。東半は住15に切られて全容不明。出土遺物（第22図14～18）は14・15が弥生前期後葉，18は土器炉使用品で16・17とともに後期前葉。17は小型類。

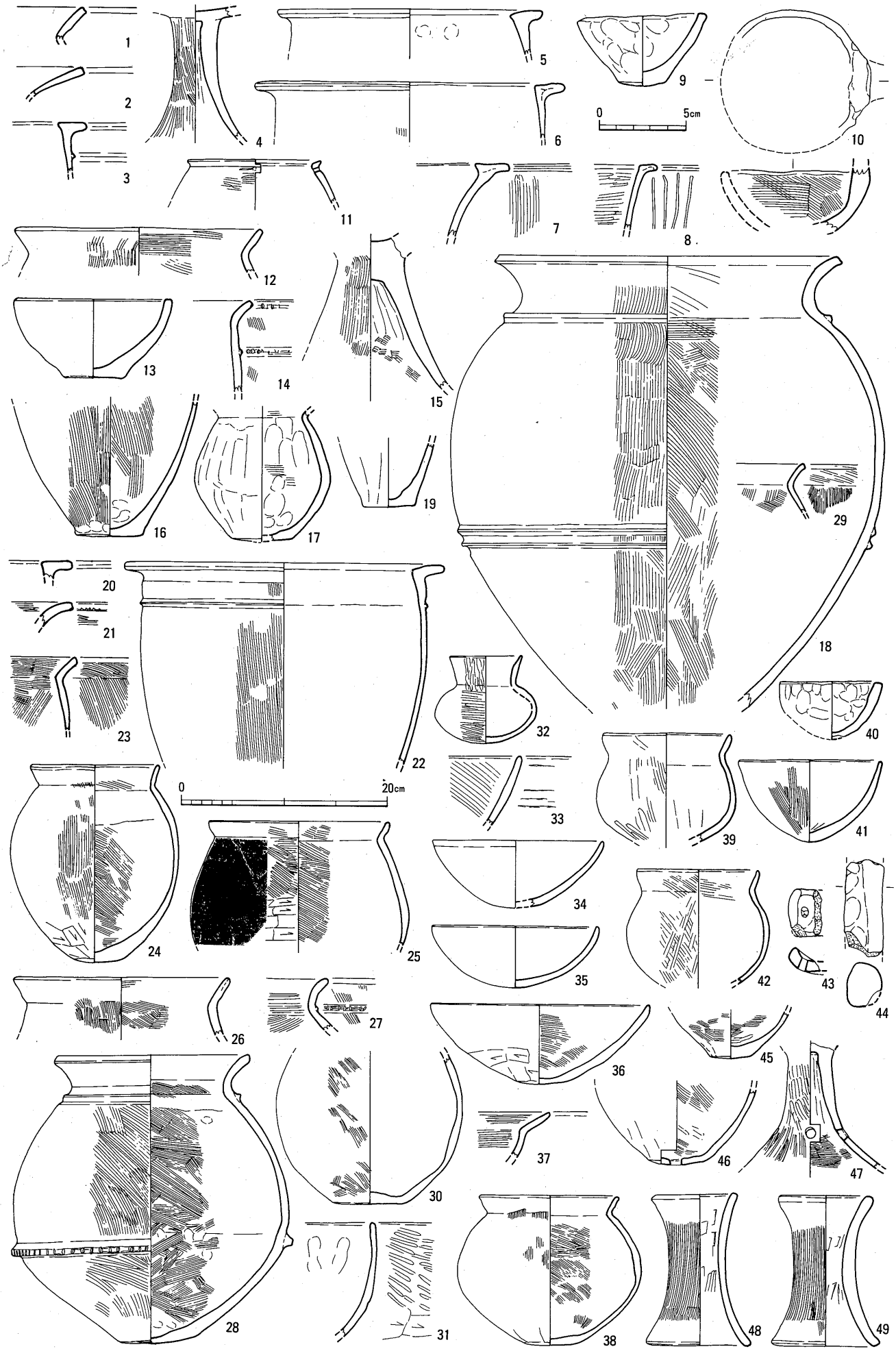
33号住居跡（第20図，図版 19） 北辺発掘調査区ぎりぎりで検出した住居で，大半は調査区外。恐らく円形住居となろう。直径６～７m程と推定。出土土器（第22図19～22）は19･21が弥生前期末葉，20･22が中期前葉。19の底外面には直径５～６㎜の豆状圧痕が２個みられる。他に不明鉄片（第７表19）が出土。

34号住居跡（第21図，図版 19） 図中■印が２主柱穴と考えたがスパンが長すぎるか。炉・壁際土坑等は不明確。西南隅埋土中位から赤色顔料，西半中央付近の最上層からガラス小玉（第90図27）が出土。出土土器（第22図23～49）は48・49が弥生中期末葉，25・38の口縁，34・45の底部等は後期の前半的であるが，他はすべて後期後葉。他に鉄器（第92･93図）として蕨手刀子（59），刀子茎部か（58），鏃片（７），不明鉄片（第７表20），石庖丁（第８表整理番号87），蛤刃石斧（第９表54），砥石２点（第98図26・27）が出土。

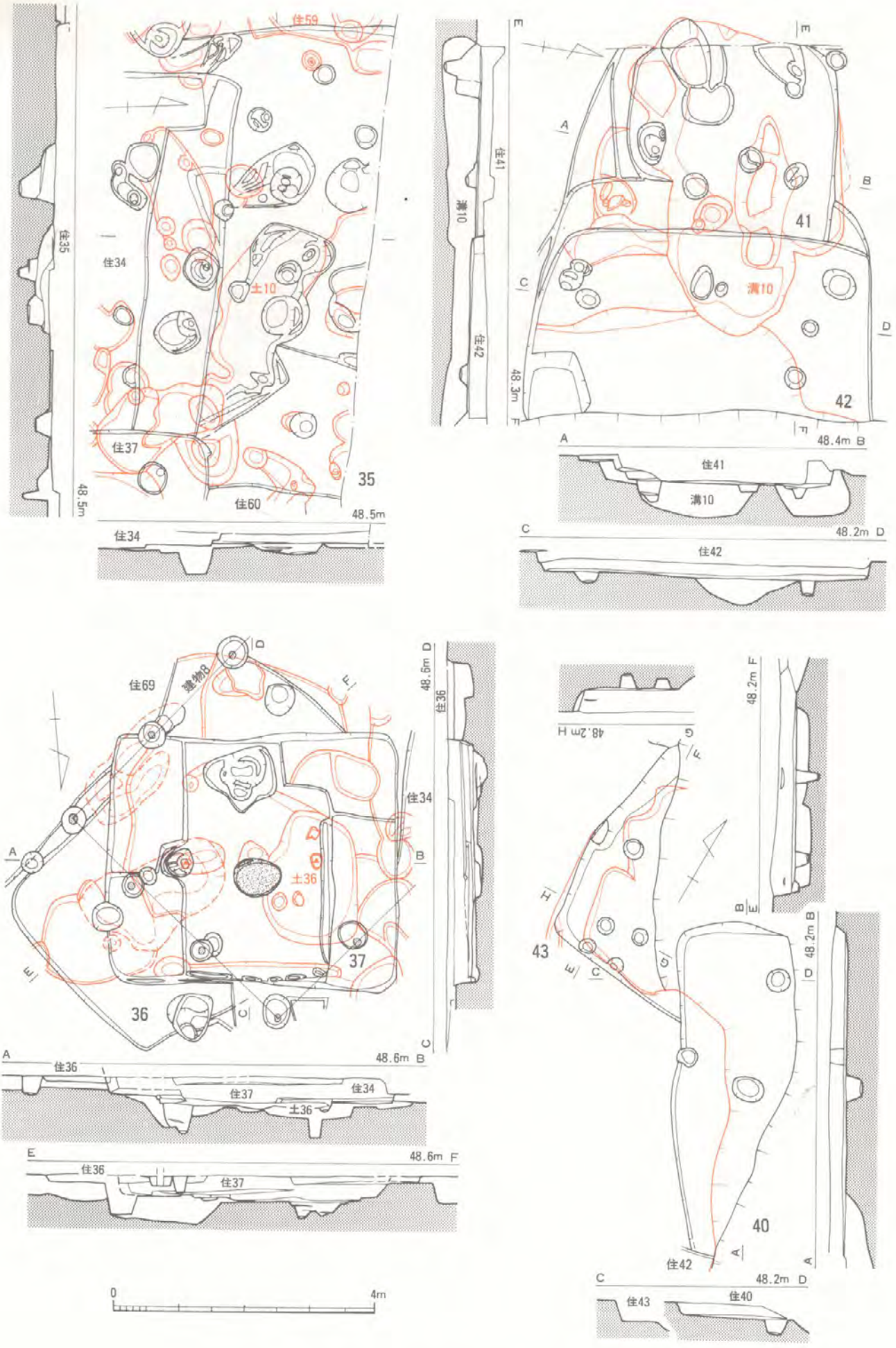
35号住居跡（第23図，図版 19） 東壁沿いの高まりはベッドと思われるが幅が広すぎてやや疑問。柱穴・炉等は確定できない。出土土器（第24図１～４）は４が弥生中期初葉的，１・２が中期前葉，３が後期中葉で，当住居の時期を示している。他に鉄斧片（第92図27），石庖丁（第８表整理番号89）が出土。



第21図　30・31・34・38・39号住居跡実測図（1/80）



第22図　30～34号住居跡出土土器実測図（9・10・40・43・44は1/3，13・17・32・34～36・39・41・42は1/4，他は1/5）
（1～10：住30，11～13：住31，14～18：住32，19～22：住33，27～49：住34）



第23図　35～37・40～43号住居跡実測図（1/80）

36号住居跡（第23図，図版 19） 図中Ｅ－Ｆ間の深い２個が主柱穴と思われるが，中軸線よりやや東にずれる。出土遺物のうち図示できるものは無く，重複関係も住61に切られるのが正しいと判断され，その結果弥生中期末葉～古式土師器間の住居と考えられる。住居の形状から考えて，弥生後期のいずれかであろう。

37号住居跡（第23図，図版 19） ２主柱穴間は２m。南壁のベッドの切れ目に壁際土坑。北壁際と西辺ベッド内側沿いとに板材打ち込み痕的周壁溝あり。出土遺物（第24図５～14）は５が弥生中期初葉の混入品，他は布留古期の特徴をよく示す。13・14は手捏ね模造品。

38号住居跡（第21図，図版 19） 図中▲印の２主柱穴構造となろう。柱間心々距離は2.1m。推定規模からみると中型の長方形住居となろう。出土土器（第24図15・16）は弥生後期前葉。他に偏平片刃石斧（第95図36）出土。

39号住居跡（第21図，図版 20） 東半を河跡１に大きく削られており全容は全く不明。床面はやや凹凸がある。出土土器（第24図17～22）は17～19・21が弥生中期前葉。20・22が中期後葉。他に石庖丁（第８表整理番号96）が出土。

40号住居跡（第23図，図版 20） 東～南半を大きく河跡１に削られており全容は不詳。床面はほぼ平坦で主柱穴・炉等不明。出土遺物（第24図23・24）は弥生後期前葉。

41号住居跡（第23図，図版 21） 西端を試掘トレンチ，東半を住42に切られ，全容は不明。図中Ａ－Ｂ間の２個が主柱穴になると考えたが，北壁辺と直交せずやや不確定。出土土器（第24図25～29）は25・26が弥生中期中葉，28・29は住41・42上層出土で中期末葉。27も同部位出土品で後期中葉。切合からみてこれが住居の時期。他に石庖丁（第94図18）も出土。

42号住居跡（第23図，図版 21） 床面が東へ傾斜し，炉・主柱穴等不明。河跡１埋没中途で作られており，その後河で削られている。出土土器（第24図30～36）は32が弥生前期後葉，31・34・35が中期前葉，30・36が中期後葉，33が後期でも中葉に近いが敲きも入ってきており後葉代。他に投弾（第91図１・２），紡錘車（第91図４～土製垂飾品的）が出土。

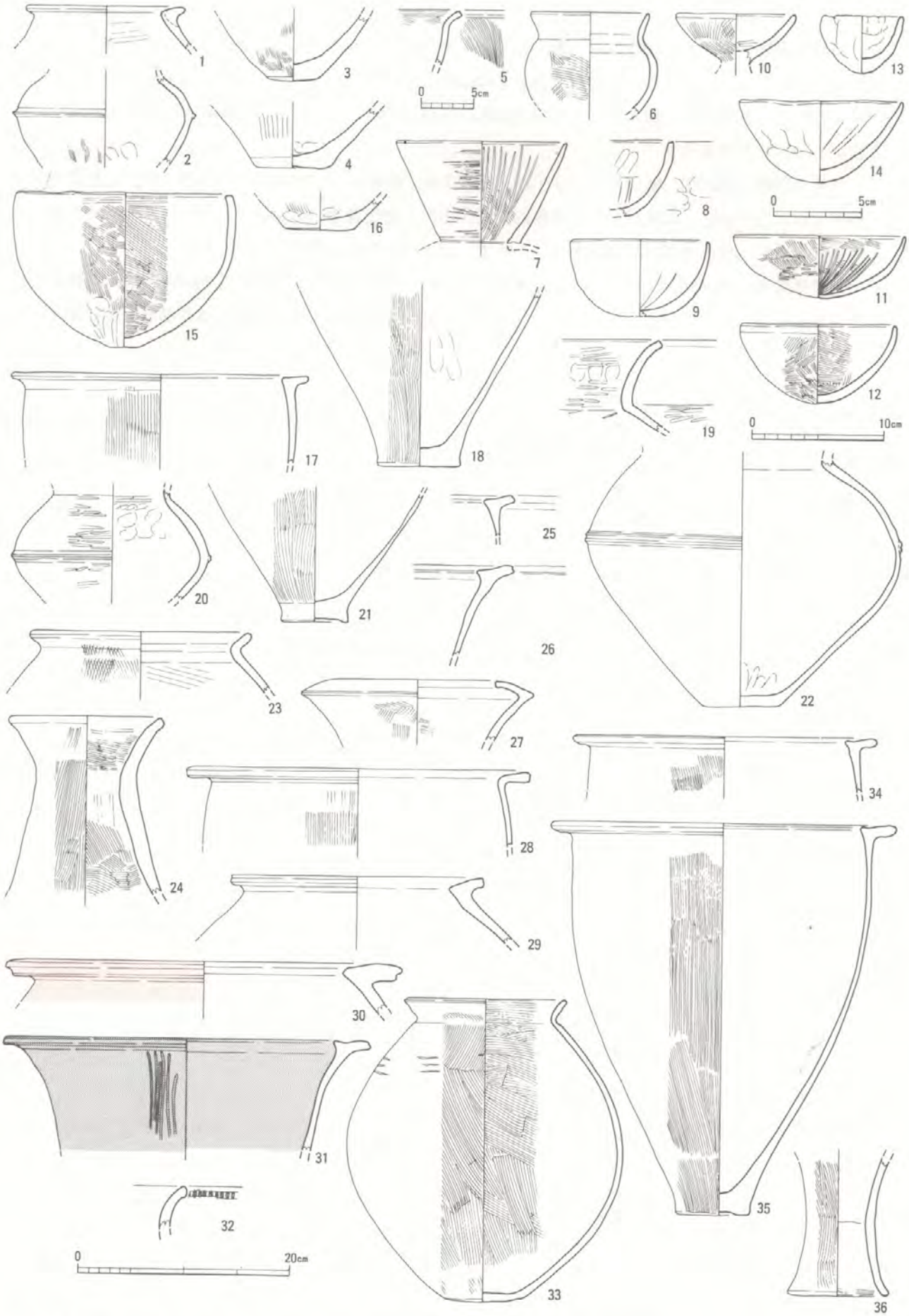
43号住居跡（第23図，図版 20） 東半を河跡１に大きく削られている為，西南隅付近しか残っていない。主柱穴等不明。出土土器（第26図１～11）は１・２が弥生中期前葉的だが，３～５・７・10・11は中期中葉，６・８・９は中期後葉。他に安山岩製使用剝片（第100図29）が出土。

44号住居跡（第25図，図版 21） 北側の大半を切られるため全容は不明。炉・主柱穴等も明確でない。出土遺物のうち実測に耐えるものが無く，時期の確定不能。切合関係からみて当住居の時期は弥生中期末前後か。

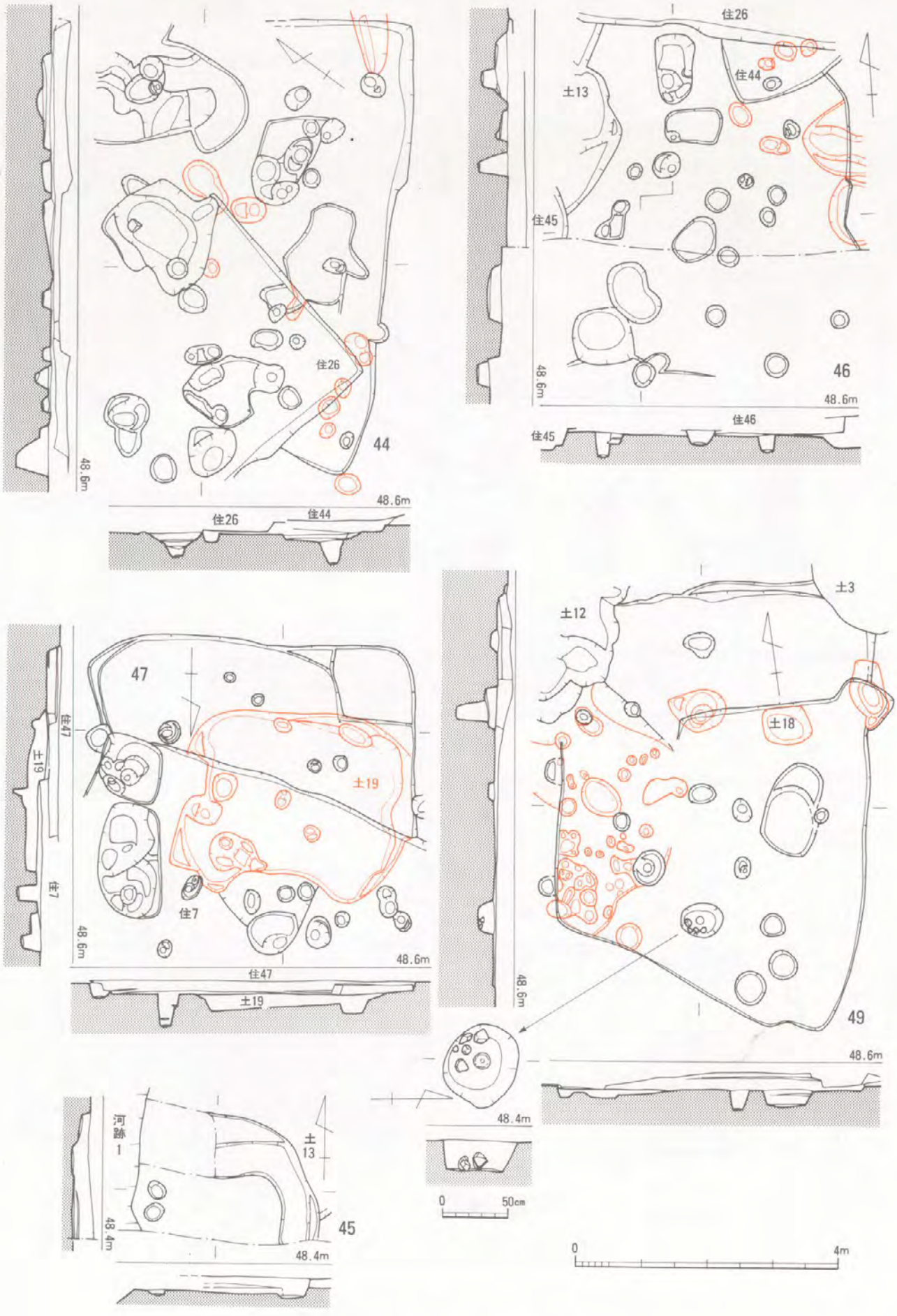
45号住居跡（第25図，図版 21） 西半を河跡１に削られ，南側は後からのIII区側調査段階で未調査のままとなり，全容は不明。幅広い周壁溝が巡る。出土遺物は無いが切合からは弥生後期中葉～５Ｃ後葉の間となる。

46号住居跡（第25図，図版 22） 切合いでは最古の住居だが全容は不明。床面は硬化しており，しっかりした住居。主柱穴・炉等不明。出土土器（第26図12～14）は13が弥生中期中葉，12・14は中期後葉。他に砥石（第98図28）が出土。

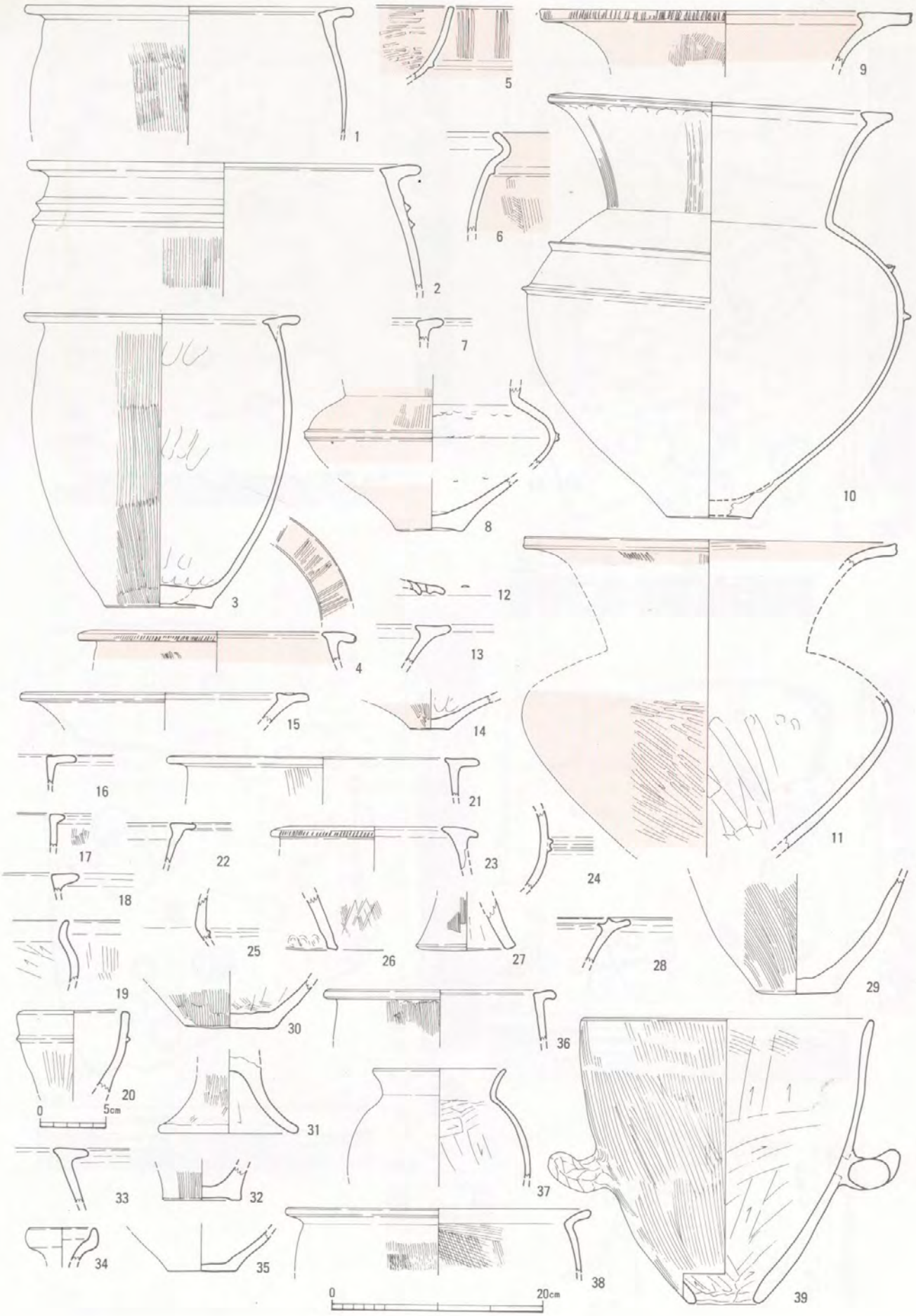
47号住居跡（第25図，図版 22） 北側の大半を住７に切られて全容不明。南北に長い２本主柱構造となるか。南西隅に１m強四方のベッドあり。出土土器（第26図15）は弥生中期中葉だが，切合や形状からみて当住居は後期初～前葉か。他に鉄製袋部分片（鑿か？）（第92図28）が出土。



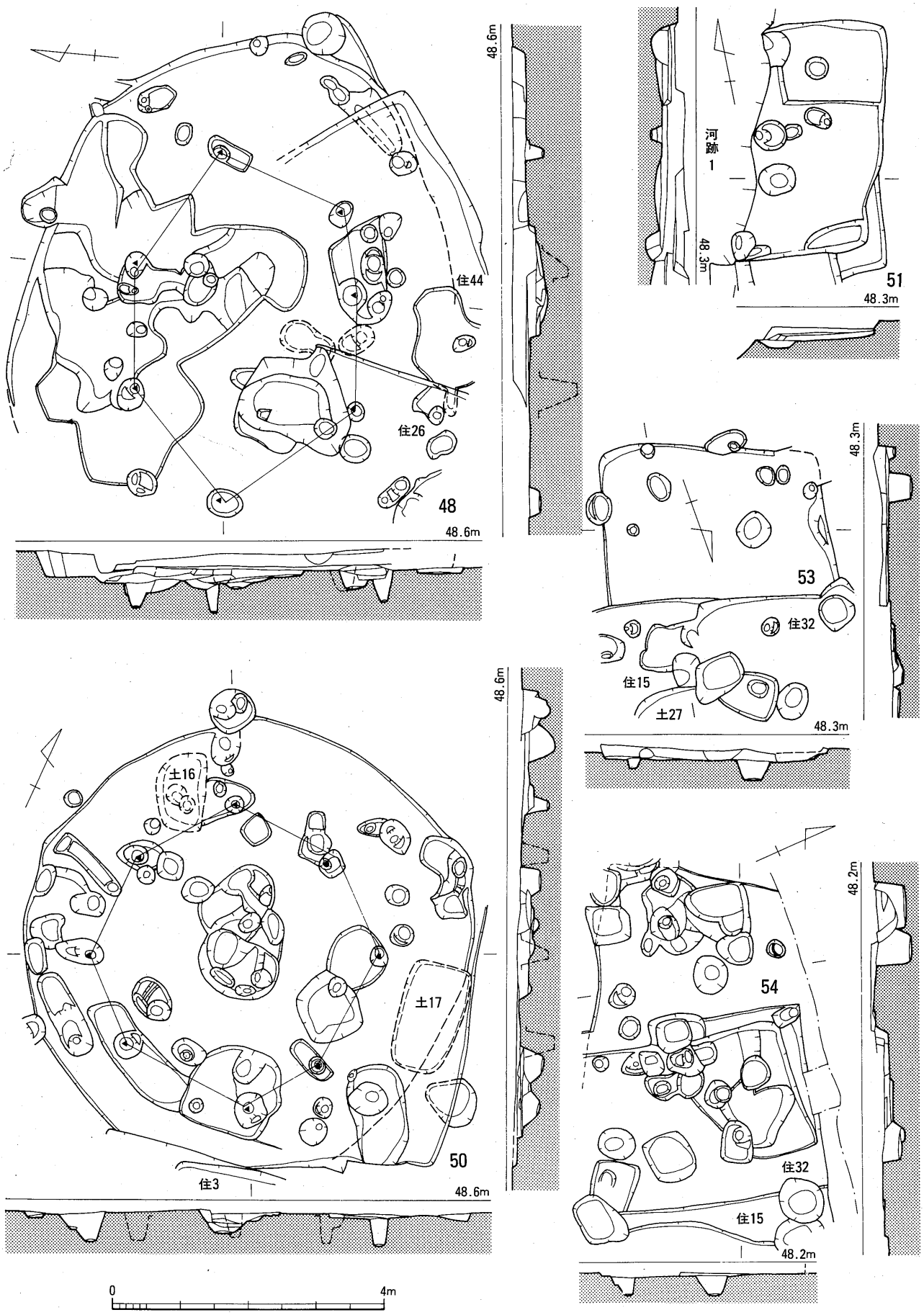
第24図　35～42号住居跡出土土器実測図（13・14は1/3，6・7・9～12は1/4，他は1/5）
（1～4：住35，5～14：住37，15･16：住38，17～22：住39，23･24：住40，25～29：住41，30～36：住42）



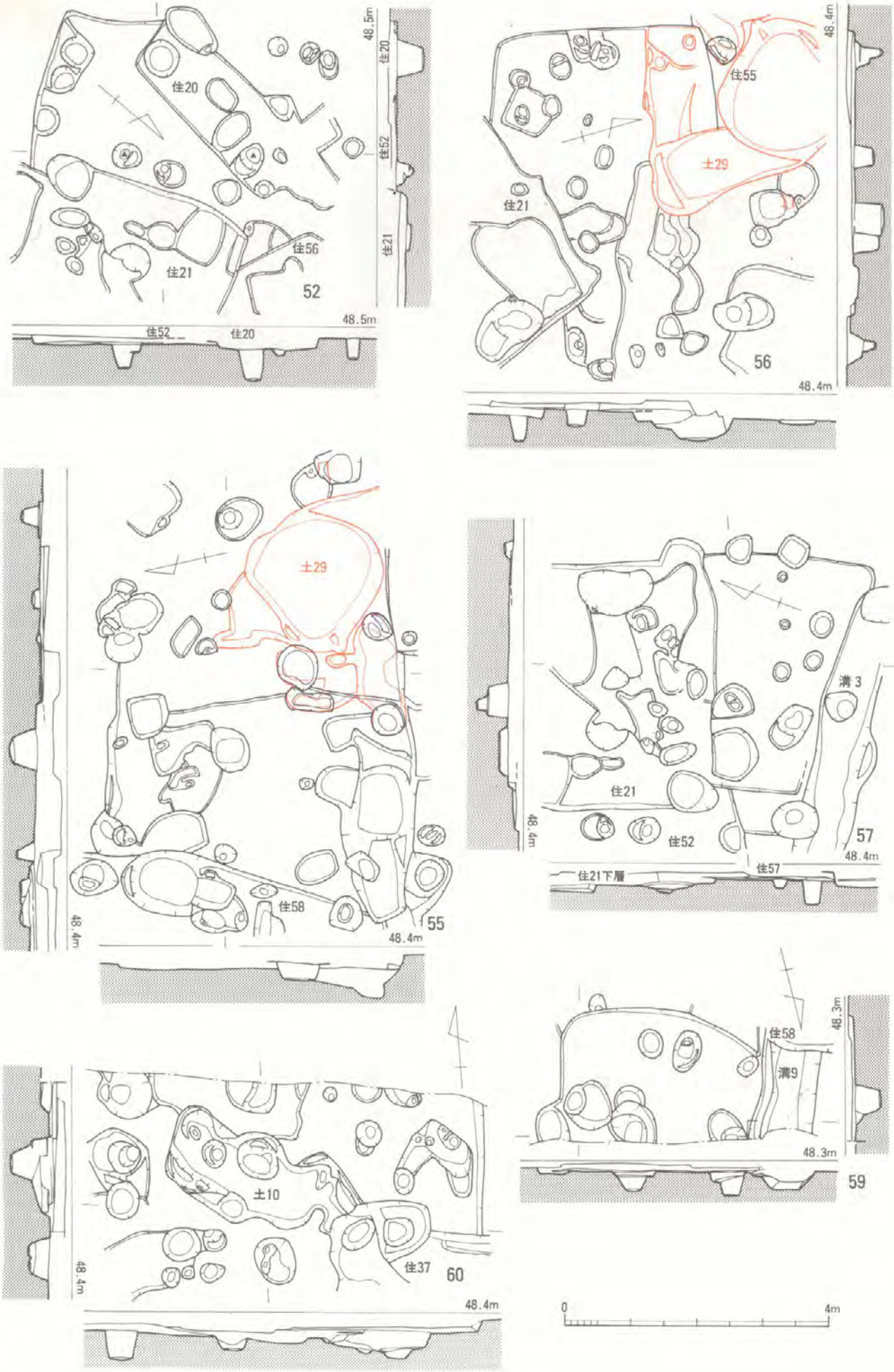
第25図　44～47・49号住居跡実測図（1/80，1/40）



第26図　43～51号住居跡出土土器実測図（19・20は1/4，他は1/5）
（1～11：住43，12～14：住46，15：住47，16：住48，17～32：住49，33･34：住50，35～39：住51）



第27図　48・50・51・53・54号住居跡実測図（1/80）



第28図　52・55～57・59・60号住居跡実測図（1/80）

48号住居跡（第27図，図版 21） 方形住居群の下にて検出した為，西半側は壁も残らない。６～７の主柱穴となり，長軸方向に棟方位が一致する。長径8.3m程の大ぶりの楕円形住居となろう。出土遺物（第26図16）は弥生中期前葉だが，住居の時期をそのまま示すとは思えず，切合等からみて中期前～末葉の間。

49号住居跡（第25図，図版 22－３・23－１） 不整長方形の住居で，北西隅部は４号住居跡に切られる。主柱穴は２本と考えられるが，軸がやや西に寄る。東壁寄りにある浅い土坑は屋内土坑か。出土遺物（第26図17～32）は17・18・20が中期前葉，21・22が中期中葉，23・24が中期後葉，25・26・30が後期前葉で当住居の時期。他に紡錘車（第91図15）出土。

50号住居跡（第27図，図版 23） 極めて浅く残りが悪い。主柱穴ライン及びその外周が低く掘り窪められており，貼床構造と考えられる。土16・17は本住居を切っている可能性もある。出土遺物（第26図33・34）は弥生中期中葉。

51号住居跡（第27図，図版 23） 西半を大きく河跡１に削り取られており，全容は不明。炉・主柱穴も明確でない。小型長方形類となろう。出土遺物（第26図35～39）は36が弥生中期前葉，35が中期後葉前後，38が後期初葉，37・39が５Ｃ後葉。ベッド付の形態からみて，当住居は弥生後期初葉で，５Ｃの遺物は上層遺物の混入と考えたい。

52号住居跡（第28図，図版 24） 南西コーナー部分しか残っていないが，南北棟の２主柱穴構造と思われる。それから復原すると南北4.7m，東西４m程の小型長方類となる。出土遺物（第29図１・２）は弥生後期初葉。

53号住居跡（第27図，図版 24） 北半を他の住居に切られて全容不詳。主柱穴も不明。切合いからみて古い段階の小型長方形住居となろう。出土土器（第29図３～７）は４・５が弥生中期末葉，３・６・７が後期初葉で当住居の時期を示す。６・７はミニチュアの最古形態を示し，まだ大きい。他に小型鉄斧（第93図30），袋の無い片刃の鉄鑿（第93図29），鉄刀子（第93図60），細身碧玉製管玉（第90図42）が出土。

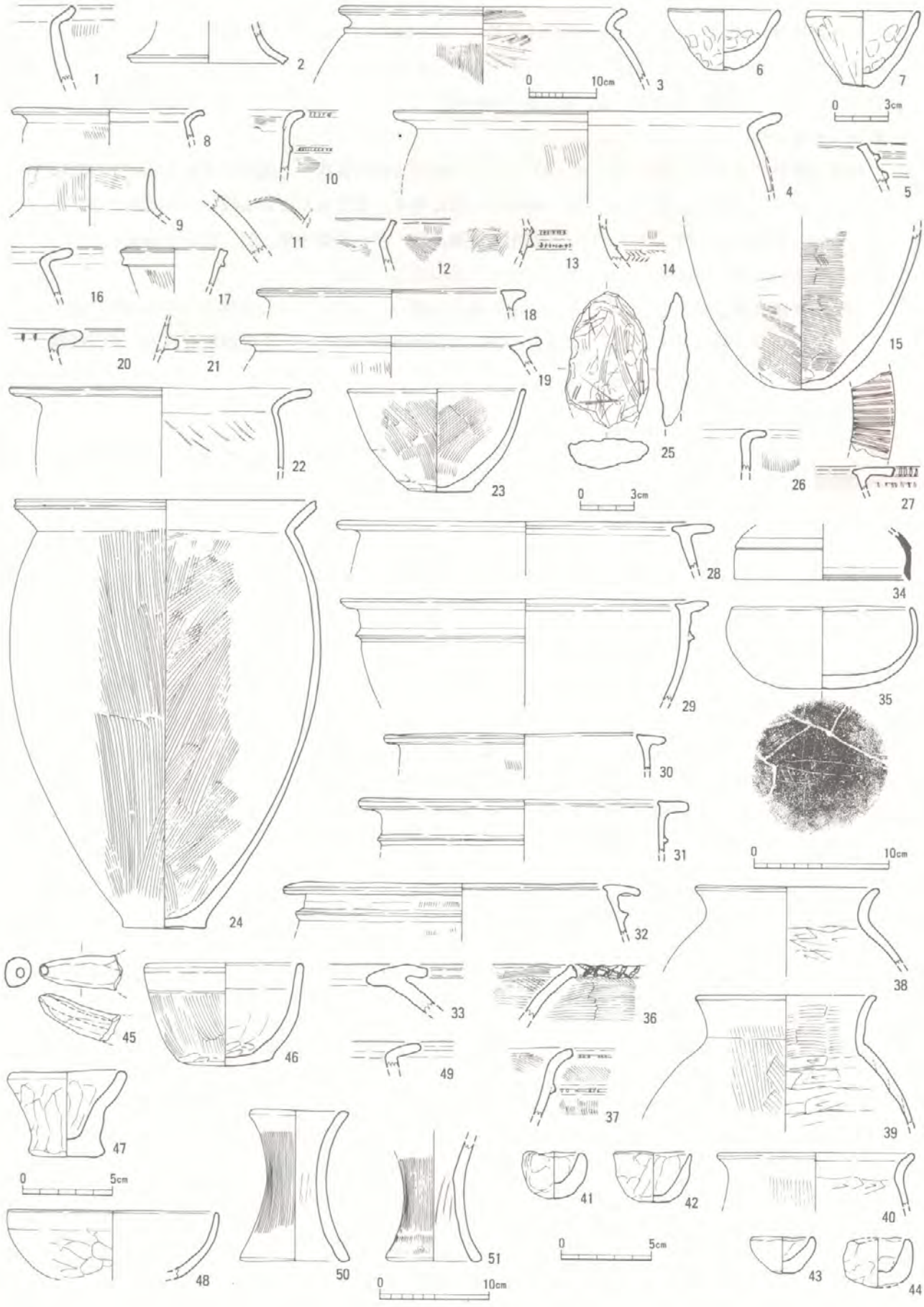
54号住居跡（第27図，図版 24） 東半は住32に切られ，北半は調査区外で，全容不明。２主柱穴となるかもしれないが確証は無い。出土遺物（第29図８～11）10・11は弥生前期後葉，８・９は後期初葉。後者が当住居の時期。

55号住居跡（第28図） 各遺構にずたずたに切られ，南北壁と床面の一部しか残っていない。東西２主柱の可能性もあり，南壁中央の穴が壁際土坑となるか。出土土器（第29図12～15）は14が弥生前期末葉，他は後期後葉だが15は末葉に近い。切合からみて後期後葉が適当。他に不明鉄片（第93図49）出土。

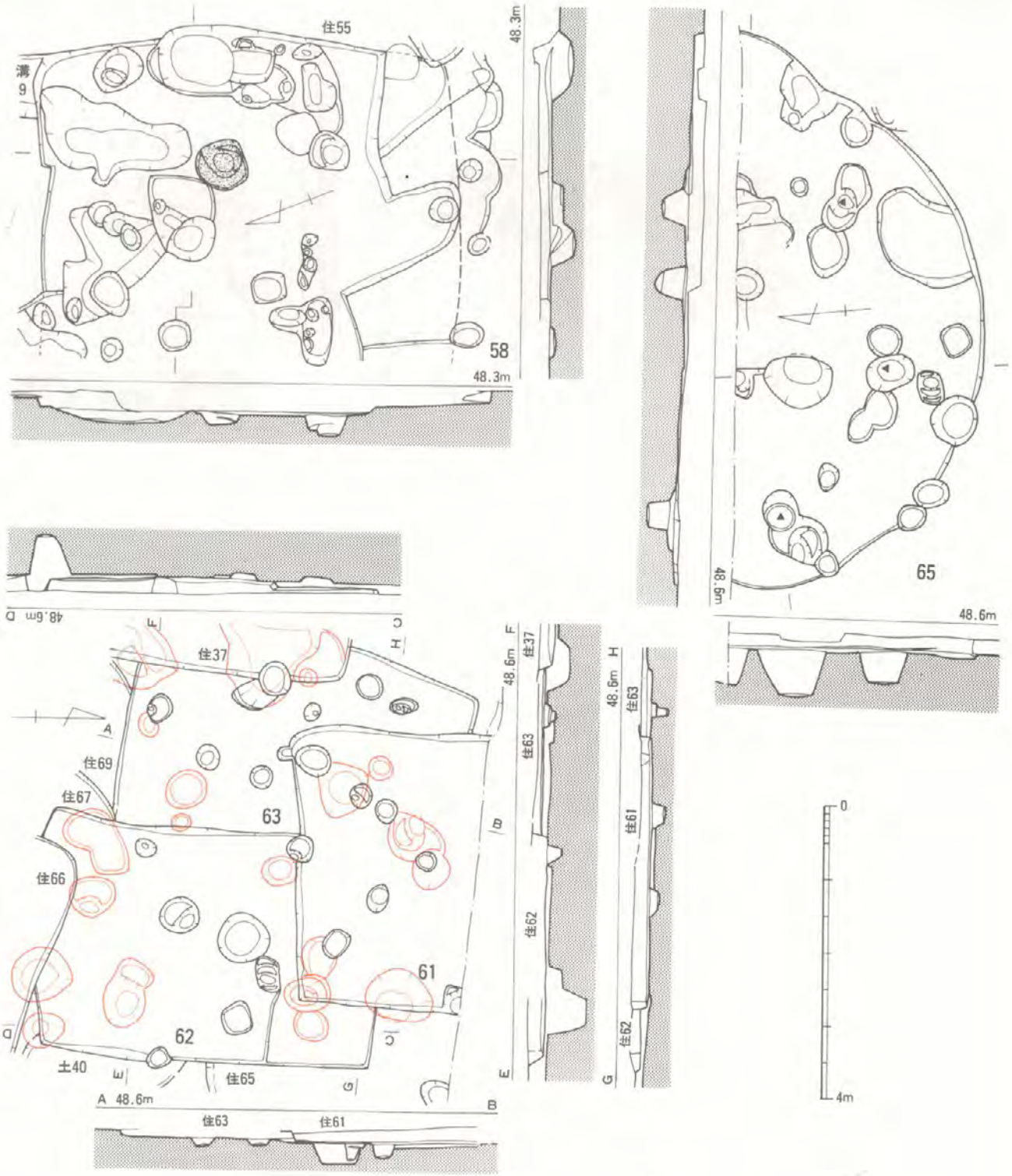
56号住居跡（第28図，図版 25） 南西コーナー部分だけしか残っていない。主柱穴・炉等も不明。出土遺物（第29図16・17）は弥生中期末葉。

57号住居跡（第28図，図版 25） 南半部分しか残らないが，小型長方形住居となろう。主柱穴・炉等は不明。出土遺物（第29図18・19）は18が弥生中期前葉古段階，19が中期後葉。ただし切合からみて当住居は後期初～中葉と推定される。

58号住居跡（第30図，図版 25） 西側は他住居に切られる。東辺に壁際土坑。炉はやや北寄り。出土土器（第29図20～27）は27が弥生中期後葉，20～22が中期末葉，23・24が後期初葉。24の底外面はハケ。25は壁際土坑出土品で植物圧痕が多く付く。他に大型打製石鏃（第100図22）も出土。



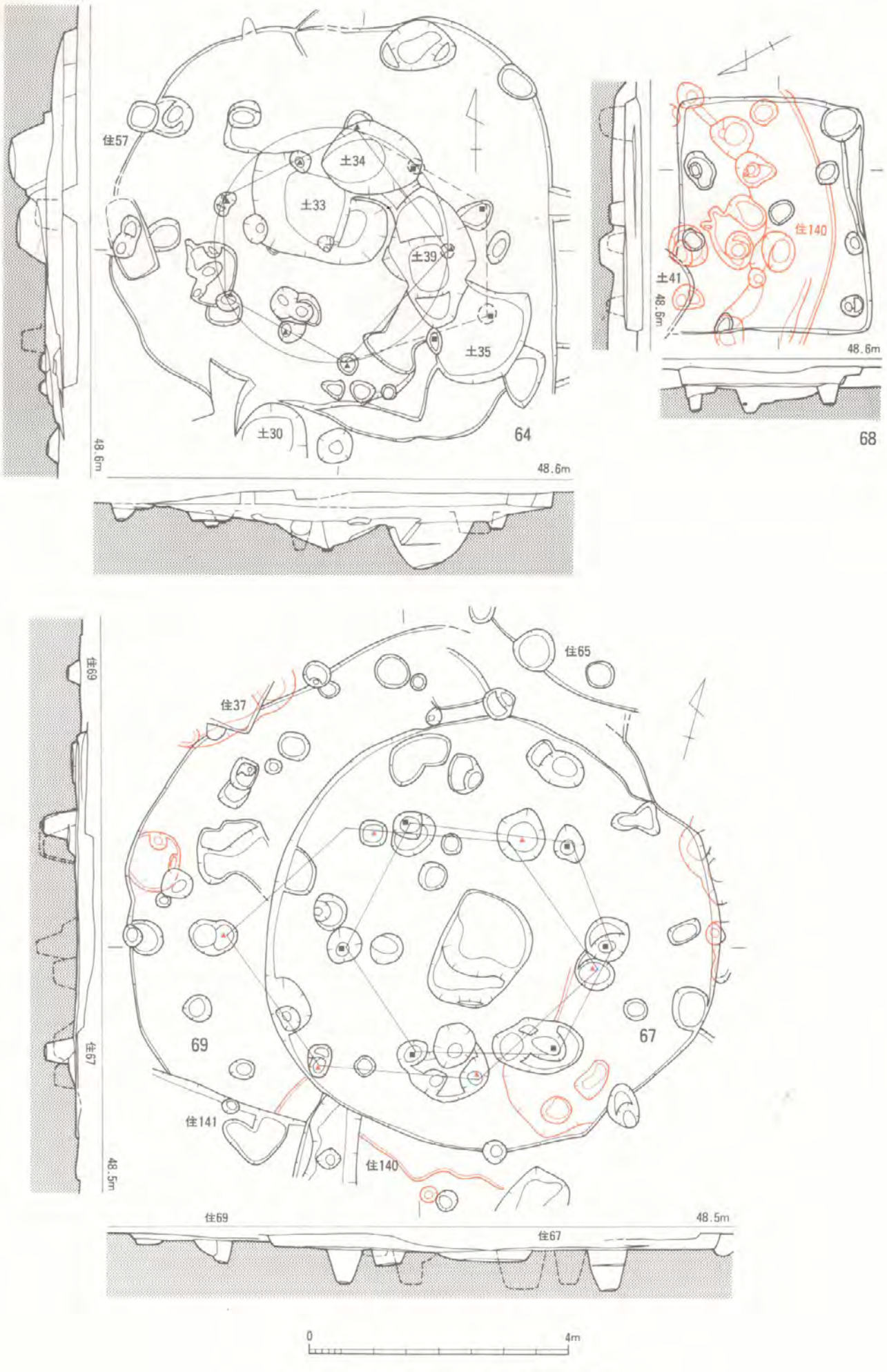
第29図　52～63号住居跡出土土器実測図（3は1/8，6･7･25･41～44･45～47は1/3，34･35･40･48は1/4，他は1/5）
（1･2：住52，3～7：住53，8～11：住54，12～15：住55，16･17：住56，18･19：住57，20～27：住58，28･29：住59，30～33：住60，34～44：住61，45･46：住62，47～51：住63）



第30図　58・61～63・65号住居跡実測図（1/80）

59号住居跡（第28図，図版 26）　北半は調査区外で，南東コーナー付近だけ残存。南壁が曲線をなし，住居でない可能性も残る。主柱穴等不明。出土遺物（第29図28・29）は弥生中期中葉。

60号住居跡（第28図）　北半は調査区外で，南～西は他住居に切られるため，東壁の一部しか残らない。西端は不明。主柱穴も不確定。出土土器（第29図30～33）は30が弥生中期前葉的だが，32・33は中期後葉。住居の時期は後者であろう。他に石庖丁（第94図19）が出土。



第31図　64・67～69号住居跡実測図（1/80）

61号住居跡（第30図，図版 26） 黒褐色土の埋土で，北半は調査区外。主柱穴は確定できない。出土遺物（第29図34～44）は37が弥生前期後葉，36が後期末葉，他は５Ｃ後葉。41～44は床面出土品で土４のものと同種だが，如何なる使用法かここでは不明確。

62号住居跡（第30図，図版 26） 暗褐色土の埋土で，北東隅にベッド状の高まりが見られるが，幅が広くてやや疑問。主柱穴・炉等は不明。小型長方形類。出土土器（第29図45・46）は45が細長い注口部，46は弥生後期前葉で当住居の時期を示す。他に蛤刃石斧（第96図51），鉄素材的な不明鉄片（第93図50）が出土。

63号住居跡（第30図，図版 27） 暗茶褐色土の埋土で，小型長方形類となろう。炉は無く，主柱穴も確定できない。出土遺物（第29図47～51）は弥生中期末葉。48の外面は指ナデ。

64号住居跡（第31図） 黒色土埋土で，上半を他住居に切られ残りは良くない。住居の中心でコンパスを回すと５柱穴がひっかかり，変形５角形となる。また図中■印まで採用すると東西に長い10柱穴による６角形となる。後者（図中破線）が入口構造を示して妥当か。出土土器（第32図１～15）は１が弥生前期末葉，２・３・６・７は中期初葉，４・８・10・11は中期前葉，５・９・12～15は中期中葉。13・14は若干古い様相。他に床面出土の凸線を持つ袋部断面台形の鋳造鉄斧片（第92図31），偏平片刃石斧３点（第95図37～39），石剣（第95図３）が出土。

65号住居跡（第30図，図版 27） 北半は調査区外で全容は不明だが，７本主柱程度の楕円形住居になりそう。出土土器（第32図16～22）は22が弥生中期初葉，19は中期中葉，17・18・20・21は中期後葉古段階。他に鉄製手鎌（第93図66），石庖丁（第８表整理番号95）が出土。手鎌は上層からの混入の可能性も残る。

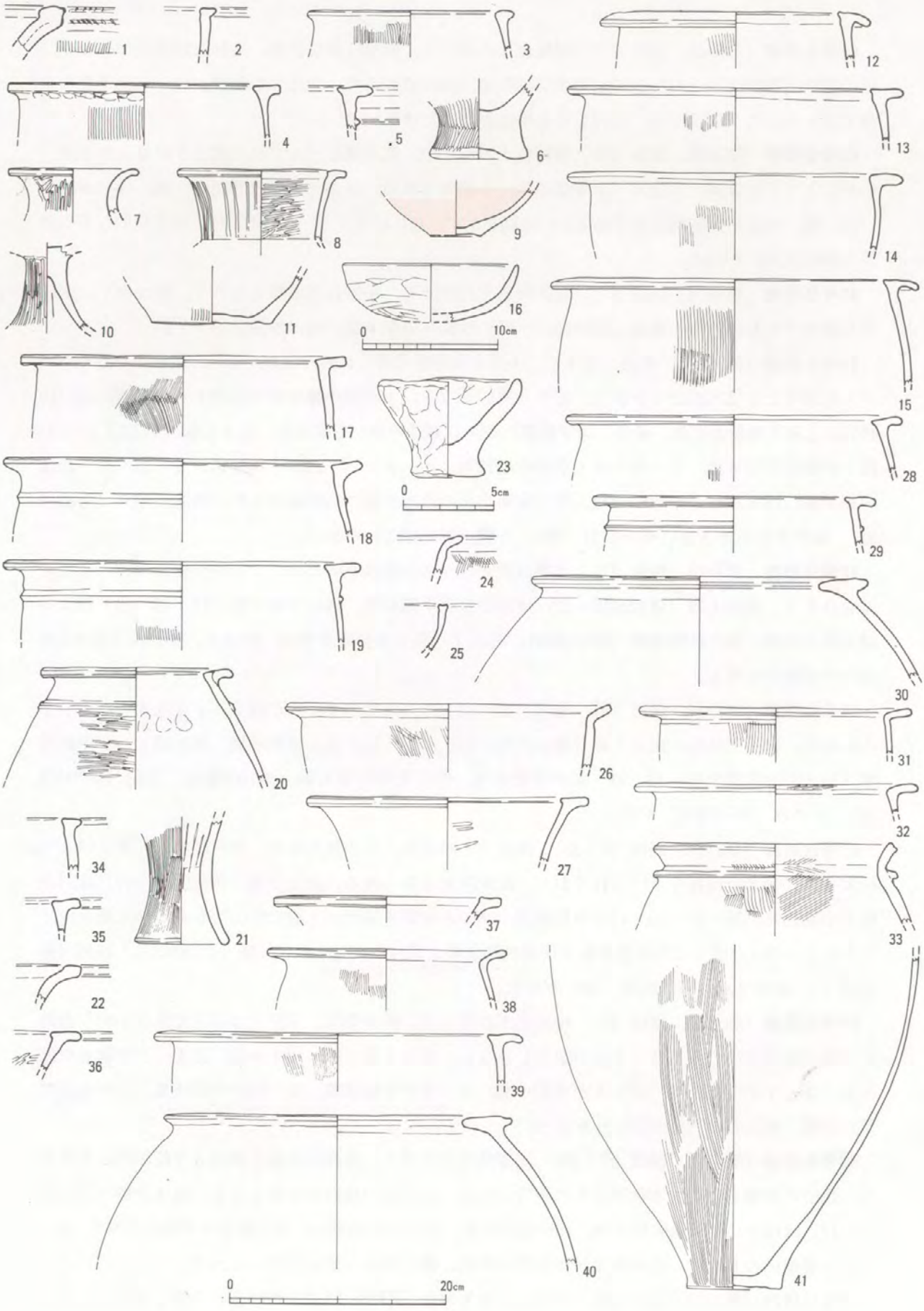
66号住居跡（第33図，図版 28） 暗褐色土の埋土で，東側の２柱穴が浅く，４主柱穴となるかどうか疑問。特小型住居。出土土器（第32図23～33）は27・30が弥生中期前葉，25・28・29が中期中葉，31・32が中期末葉，23・24・33が後期前葉。他に大型打製石鏃（第100図23），石槍（第100図24），石のみ（第95図30）が出土。

67号住居跡（第31図，図版 27・28） 黒色土の埋土で，６主柱となる。柱穴は深く，壁に沿って柱穴までの幅で全周掘り下げられており，貼床構造とみられる。出土土器（第32図34～41）は34が弥生中期初葉，35～37・39～41が中期前葉。38のみ中期末葉だが上層の住63等からの混入品と考えた方がよかろう。よって当住居は弥生中期前葉と考えておく。他に磨製石鏃（第95図27），石剣（第95図４），砥石２点（第98図29・30）が出土。

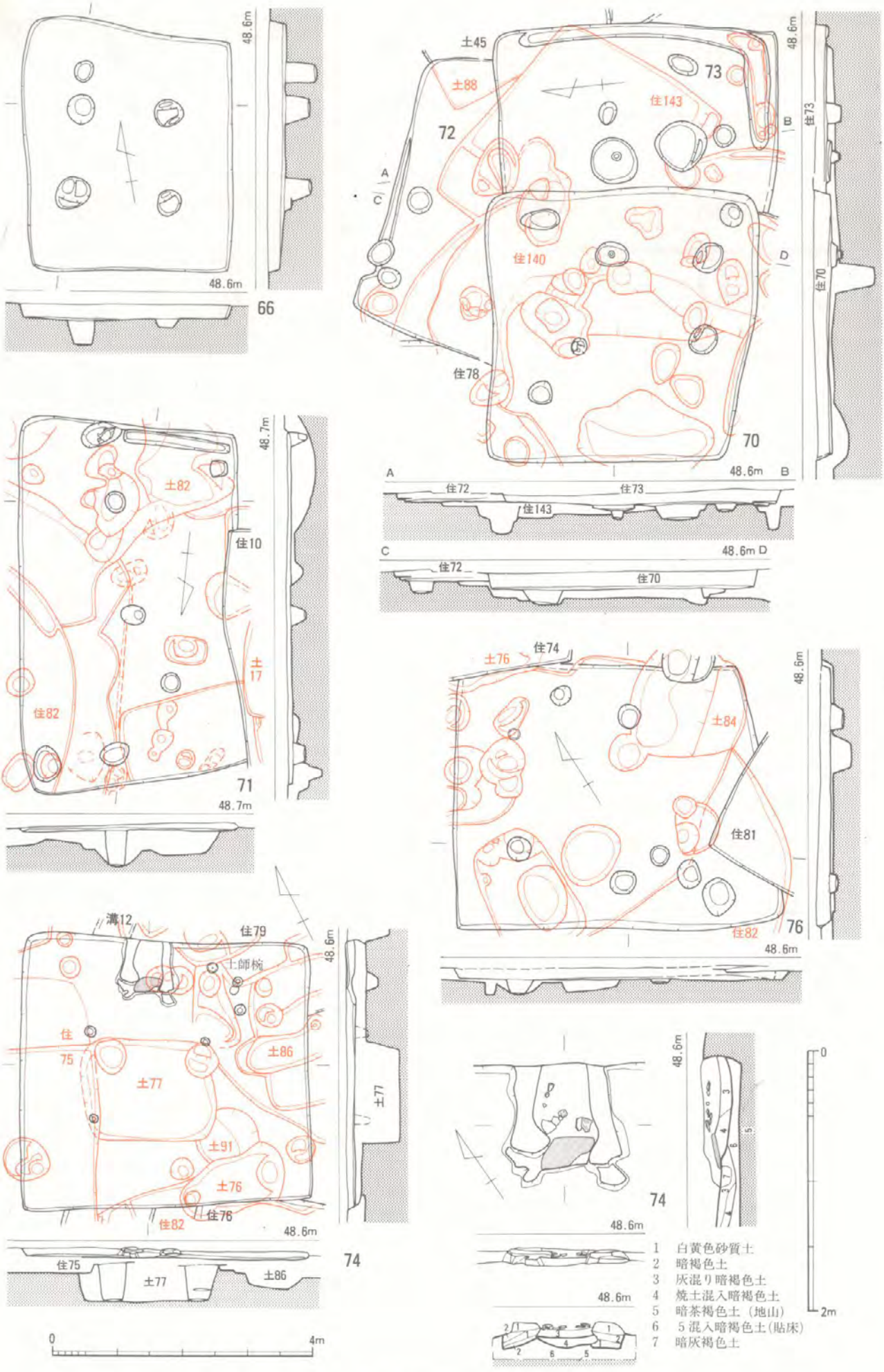
68号住居跡（第31図，図版 28） 暗褐色土の埋土で，特小型類。主柱穴は確定できないが，意外と中央の柱穴だけの１本柱になるのかもしれない。出土土器（第34図１～11）は１・２が弥生中期初葉，３・７が中期前葉，４・５が中期中葉，６・８が中期後葉，９・10が中期末葉，11が後期初葉古段階。他に石剣（第95図５）が出土。

69号住居跡（第31図，図版 27・29） 暗茶褐色土の埋土。東西に長軸を持つ６主柱構造に復原でき，住67の東端あたりを本住居のものと考えると，東西棟の楕円形住居となる。出土土器（第34図12～17）は12～15が弥生前期末葉，16が後期初葉，17は中期前葉か。切合関係や形態からみて，16・17は上層遺構のもので，前期末葉が当住居の時期。他に石剣（第95図６）も出土。

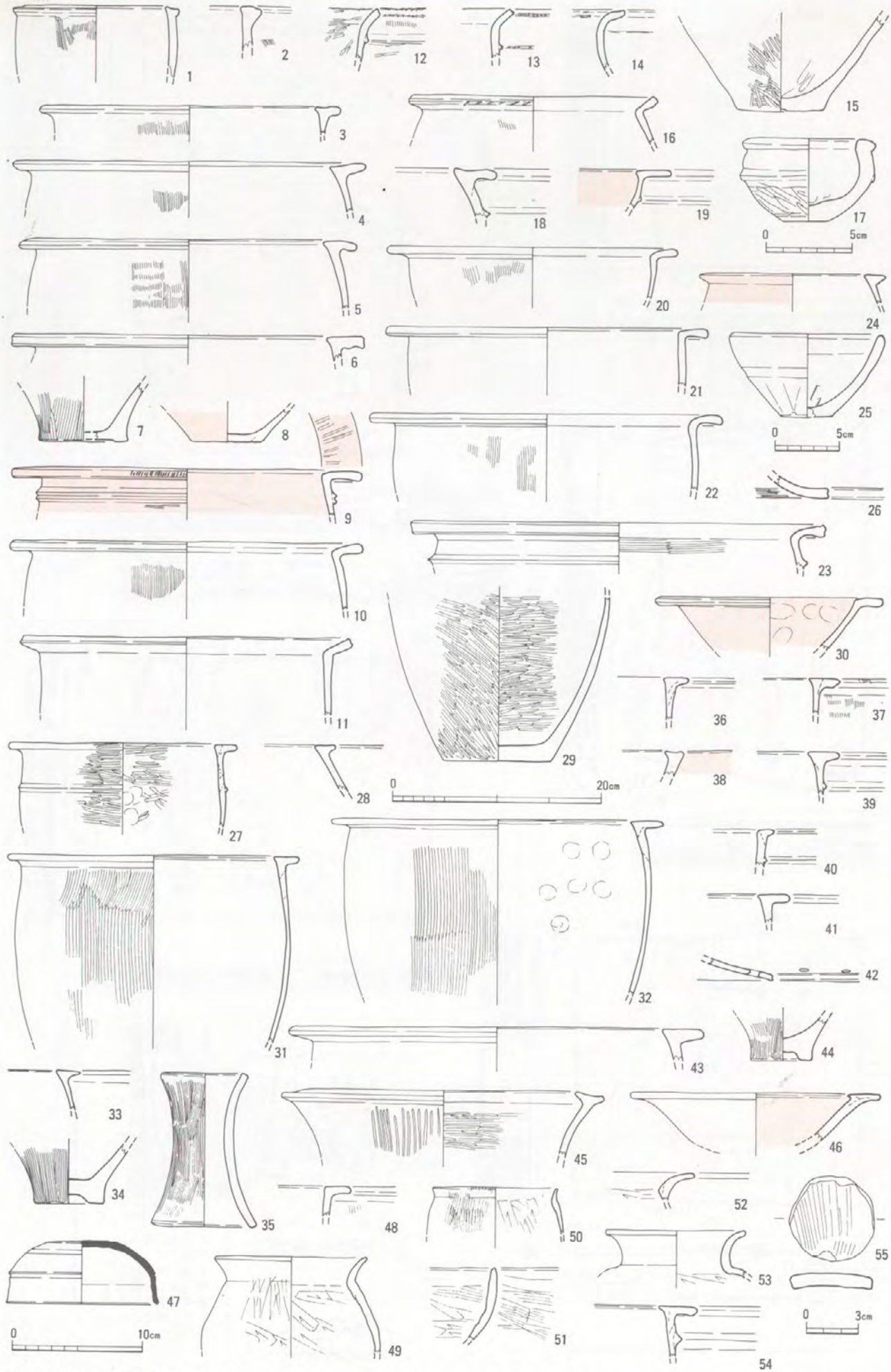
70号住居跡（第33図，図版 29） 主柱穴，炉等は全く不明。周辺との切合いの中では最も新しい。やや小型住居。出土土器（第34図18～26）は24が弥生中期前葉，18が中期中葉，19・26が中期後葉，



第32図　64～67号住居跡出土土器実測図（23は1/3，16は1/4，他は1/5）
（1～15：住64，16～22：住65，23～33：住66，34～41：住67）



第33図　66・70～74・76号住居跡実測図（1/80，カマドのみ1/40）



第34図　68～74号住居跡出土土器実測図（17・55は1/3，25・47は1/4，他は1/5）
（1～11：住68，12～17：住69，18～26：住70，27～35：住71，36～39：住72，40～46：住73，47～55：住74）

20～23・25が中期末葉。他に土製紡錘車（第91図３），砥石２点（第98図31・32）が出土。住78との関係から当住居は弥生後期初葉以降とされる。

71号住居跡（第33図，図版 29） 南北に長い長方形住居。南壁沿いに周壁溝がみられる。炉・主柱穴等不明。出土土器（第34図27～35）は27～29・31～35は弥生中期前葉，30は中期末葉。住居形態や切合からみて後者が当住居の時期。他に袋部断面方形の鉄斧片（第92図32），石剣（第95図８），石製紡錘車（第91図25）が出土。

72号住居跡（第33図） 黒褐色土の埋土で，南半を大きく切られるため，全容は不明。図中Ｃ－Ｄラインの深い２個が主柱穴になる可能性がある。出土土器（第34図36～39）は36が弥生中期前葉，37～39が中期中葉。形態と切合関係からみて住居の時期は弥生中期末葉前後となろう。

73号住居跡（第33図，図版 30） 暗褐色土の埋土で，西半は住70に切られて不明。主柱穴は東西に並ぶ２個かとも思えるが不確実。南～東壁沿いに周壁溝がみられる。出土土器（第34図40～46）は40・44が弥生中期初葉，41～43が中期前葉，45・46が中期後葉。切合からみて後者が住居の時期。他に石庖丁（第94図21）が出土。

74号住居跡（第33図，図版 30・31） カマドがやや西に片寄る。主柱穴は２本で他は南辺外の小穴と組み合わさる類となろう。カマド内底は２面あり，袖には白黄色砂質土を用いる。カマド外東側の土師器椀２個は盗難に会った。出土土器（第34図47～55）は54が弥生中期中葉，48が中期後葉，他が陶邑Ⅰ型式５段階併行期。他に小鉄滓６点（第７表34），砥石（第98図33），大型打製石鏃（第100図26）が出土。

75号住居跡（第35図，図版 32） 切合いが激しくてプランが不明確。西辺にも本来中央の切れ目を除いてベッドが在っただろう。柱間２mの東西２主柱穴と考えるが，炉は検出できなかった。出土土器（第36図１～10）は１・２・４～６・９・10は弥生中期前葉，３・７・８は中期末葉。よって当住居は弥生中期末葉期となるが，ベッド付構造からみて後期に下がる可能性も残る。他に石庖丁（第94図22），蛤刃石斧（第96図52）が出土。

76号住居跡（第35図，図版 32） 黒色土埋土で，カマド・主柱穴ともに不明。東南カマドだったとすると住81で切られている可能性もある。出土遺物（第36図11～17）は13・15が弥生中期前葉，12・14・16・17が中期中葉，11が５Ｃ後葉～末。

77号住居跡（第35図，図版 30・33） 暗褐色土の埋土で，極めて浅い。４主柱かと考えたが確実ではない。炉は検出されなかった。出土遺物（第36図18～21）は18が弥生中期初葉，19～21が中期前葉。ただ，住居形態や切合関係からみて中期後葉前後の可能性が強い。

78号住居跡（第35図） 黒褐色土の埋土で，極めて切合いの激しい中に位置する。炉・主柱穴は確定できない。出土土器（第36図22～26）は22・26が弥生中期末葉，23～25が後期初葉。他に土製紡錘車（第91図２），石のみ（第95図31），砥石（第98図34）が出土。

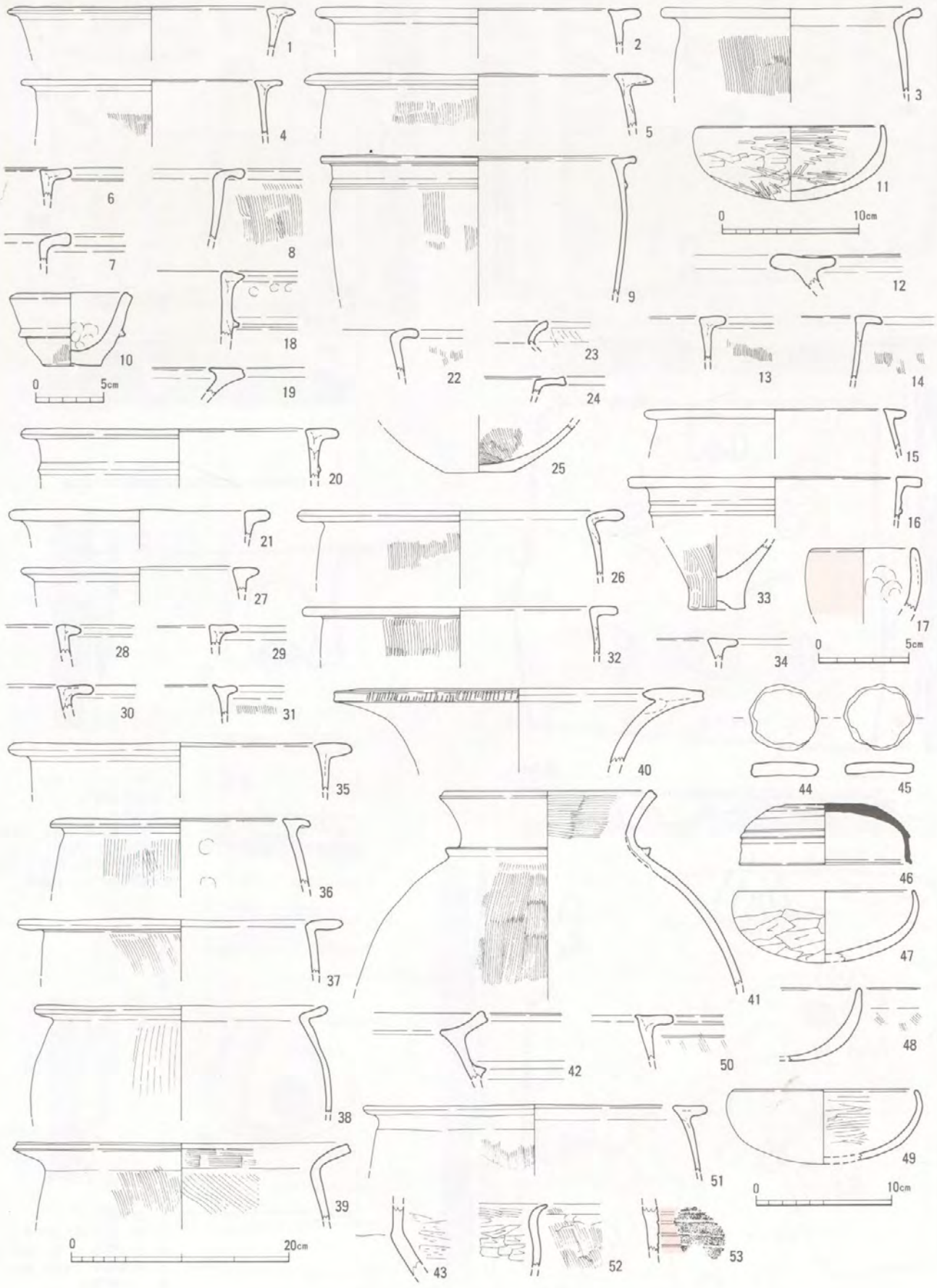
79号住居跡（第35図） 黒褐色土の埋土で，激しい切合いの中にあり，炉・主柱穴等不明。床面が西へ傾斜する。出土土器（第36図27～34）は27・28・33が弥生中期初葉，29～31・34が中期前葉，32が中期末葉。他に抉入柱状片刃石斧（第95図45）が出土。

80号住居跡（第37図，図版 33） 暗茶褐色土の埋土で，しっかりした床面の割には，炉・主柱穴が確定できない。床面中央が低くなる。出土土器（第36図35～45）は35・36が弥生中期前葉，37・38・40・42が中期末葉。39・41は後期初葉。43は縄文後期深鉢で外面は横位擦過。他に鉄鉇（第92

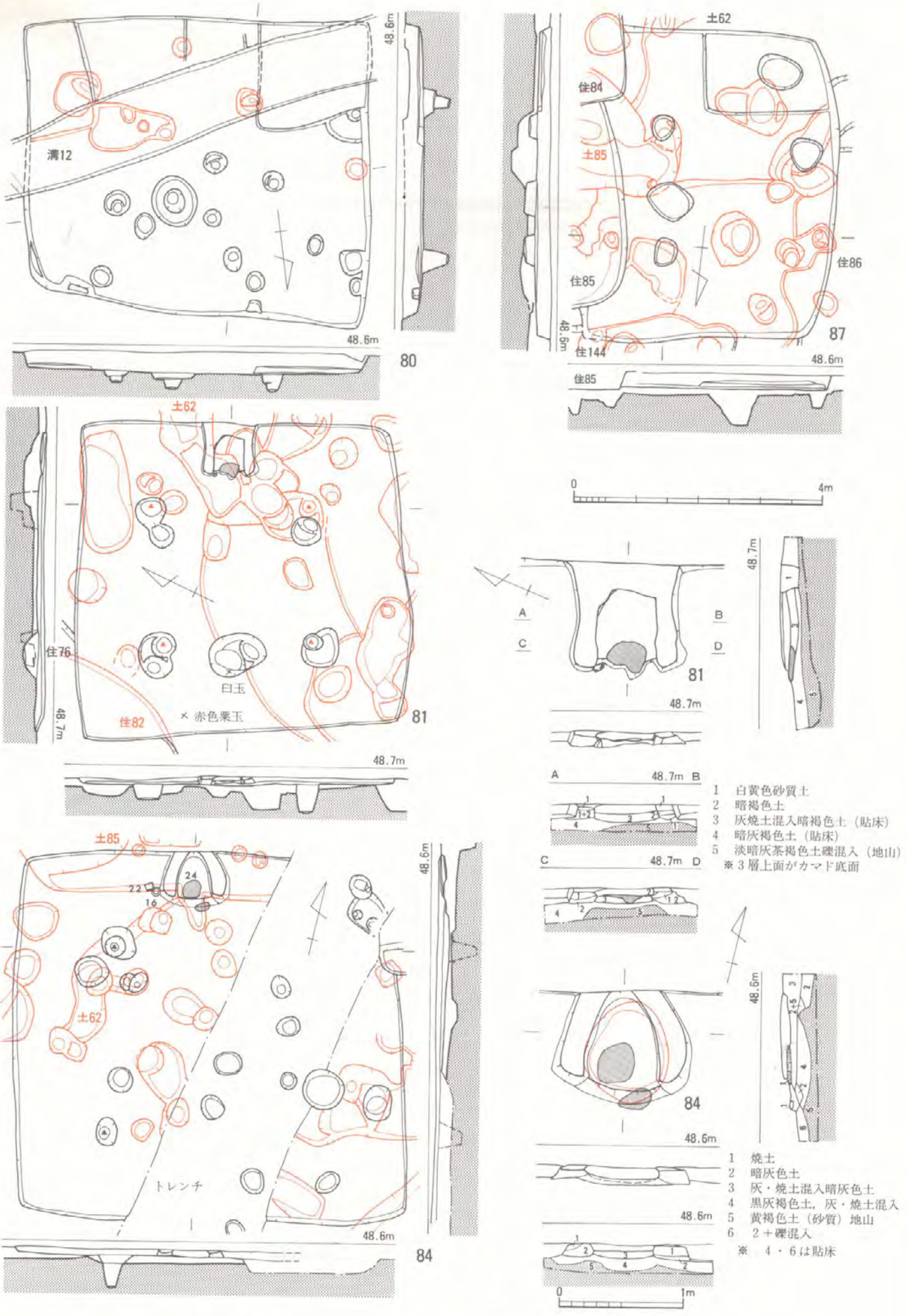
第35図　75・77～79・83号住居跡実測図（1/80）

図33），抉入柱状片刃石斧（第95図46），打製石鏃（第100図８）が出土。

81号住居跡（第37図，図版 30・33）　黒色土の埋土で，４主柱穴構造。南北柱間は８尺（１尺＝29.4cm），東西は7.5尺となる。カマドの袖には白黄色砂質土を用いる。出土土器（第36図46～53）



第36図　75～81号住居跡出土土器実測図（17・44・45は1/3，10・11・43・46～49・52・53は1/4，他は1/5）
（1～10：住75，11～17：住76，18～21：住77，22～26：住78，27～34：住79，35～45：住80，46～53：住81）



第37図 80・81・84・87号住居跡実測図（1/80，1/40）

は50・51が弥生中期中葉，53は縄文晩期か。他は５Ｃ後葉代。52はカマド内出土小甕。他に赤色粟玉（第90図32），滑石製臼玉（第90図33）が出土。

82号住居跡（第38図，図版 34） 黒色土の埋土で，８主柱のうち西側２柱間が狭い。中央炉の南側に大きな花崗岩台石が据えられている。西～南の壁外方に円弧状段落がみられ，住210としたが，この住居の拡張によるもの。出土土器（第39図１～10）は１～３が陶邑Ⅰ型式５段階併行期，４・８・９が弥生後期前葉，５・６・７が中期前葉新段階。前２者は上層に各時期の遺構が在った可能性があり，当住居の時期は弥生中期の中葉に近い前葉。他に鉄鏃片と不明鉄片（第92図８・51），石庖丁（第94図23），太型蛤刃石斧２点（第96図53・54），砥石２点（第98図35・36）が出土。

83号住居跡（第35図，図版 30） 暗茶褐色土の埋土で，大半を他遺構に切られるため，全容は明確でない。南西隅にベッド状遺構があり，北東隅も高いのでその可能性がある。出土遺物（第39図11・12）は11が弥生中期初葉，12が中期後葉。切合関係から幅を持たせると当住居は弥生中期後葉～末葉となる。他に石剣（第95図７），土製紡錘車（第91図14）が出土。

84号住居跡（第37図，図版 34・35） 東側２主柱穴は試掘トレンチで切られるが，４主柱構造と推定できる。柱間が３ｍと長く，当住居の大きさに比例する。黒色土の埋土。カマドの袖上面は焼けている。出土土器（第39図13～24）は23が弥生中期後葉，18は後期末葉，他は切合からみて６Ｃ末前後となりそうだが，20・21は５Ｃ段階。他に石戈（第95図16），砥石（第98図37）が出土。

85号住居跡（第38図，図版 35） 暗褐色土の埋土で，横長の小型住居。南側の２柱穴は小型住居特有の壁際小柱穴と共通しよう。北西隅に花崗岩台石。カマドは壁外に一段掘り込みを持つ類で，花崗岩支脚は焼土を含む粘質土で固定。袖は焼土混りの土で再構築。出土土器（第39図25～40）は36・38が弥生前期後葉，33・35が中期中葉，37・39が後期前葉，須恵器は６Ｃ後葉から29のように６Ｃ末葉まである。28は生焼けで34とともに赤焼類。他に鉄刀子？（第93図61），石庖丁（第８表整理番号90）が出土。

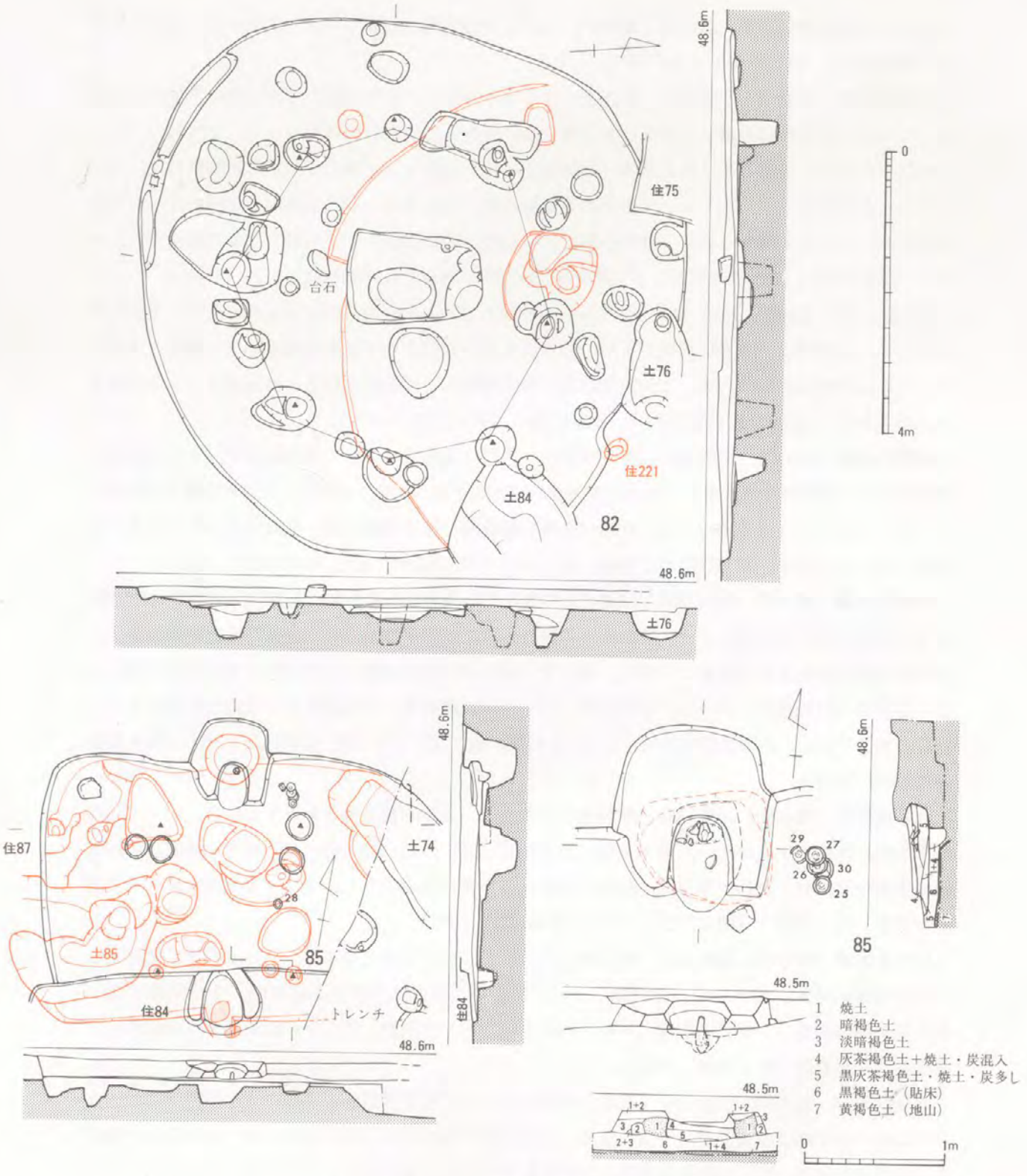
86号住居跡（第40図，図版 36） 黒褐色土の埋土で，大半が他遺構と重複するため，炉・主柱穴等不明確。床面は中央が低い。出土土器（第39図41～51）は41～43・47・48は弥生中期前葉古段階，49は中期中葉，44・46は中期後葉，50は古墳時代前半期のものの混入。よって当住居は弥生中期後葉古段階。他に鉄鉇？（第92図20），石戈（第95図17）が出土。

87号住居跡（第37図，図版 36） 暗褐色土の埋土で，炉・主柱穴等不明。ベッドの付く住居としては小型類の故か。出土土器（第41図１～11）は１～３が弥生中期前葉古段階，８は中期中葉，４・６が中期後葉，７が中期末葉。ベッドの最古段階として重要。他に小型板状鉄斧（第92図34），抉入柱状片刃石斧（第９表48）が出土。

88号住居跡（第40図，図版 36） 黒色土の埋土で，４主柱穴構造かと思われるが配置が歪つ。カマドは無い。床面は中央部がやや高くなる。出土土器（第41図12～21）は15～19・21が弥生中期前葉。20が後期初葉，13・14が後期後葉，12が６Ｃ中葉前後。他に砥石（第98図38）出土。

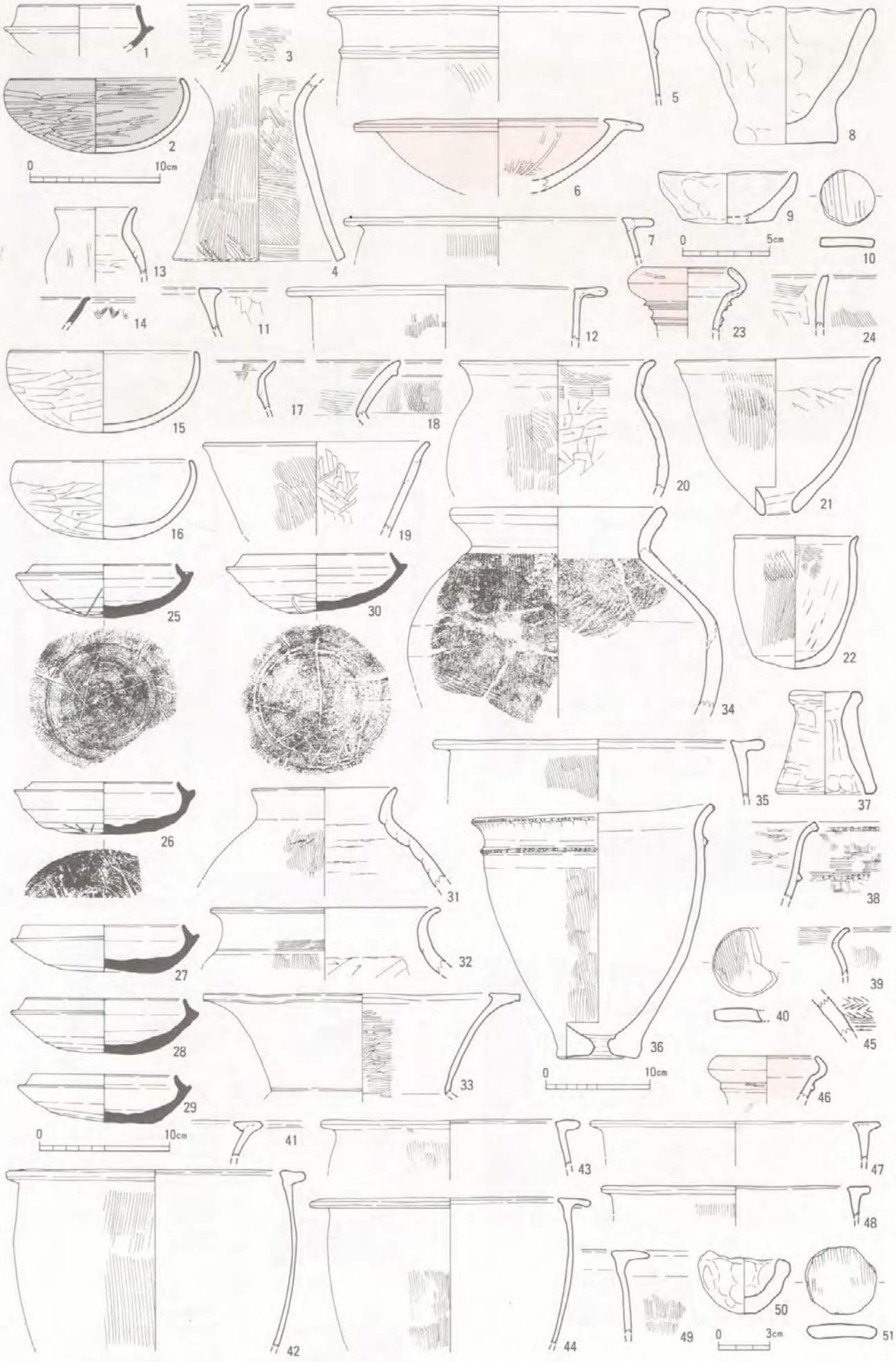
89号住居跡（第40図，図版 37－１） 西辺部を281号住居に切られるが，略方形のプランとなる。主柱穴は東辺壁際で２つの柱穴を確認し４本柱と考えられる。出土土器（第41図22～24）は22が中期初頭，23は後期後葉，24は中期中葉で当住居の時期か。他に砥石（第98図39）出土。

90号住居跡（第40図，図版 30・34） 黒色土の埋土で，カマド付の４主柱類であろう。中央部の試掘トレンチで詳細不明。出土土器（第41図25～38）は35・38が弥生中期前葉，31が中期中葉，

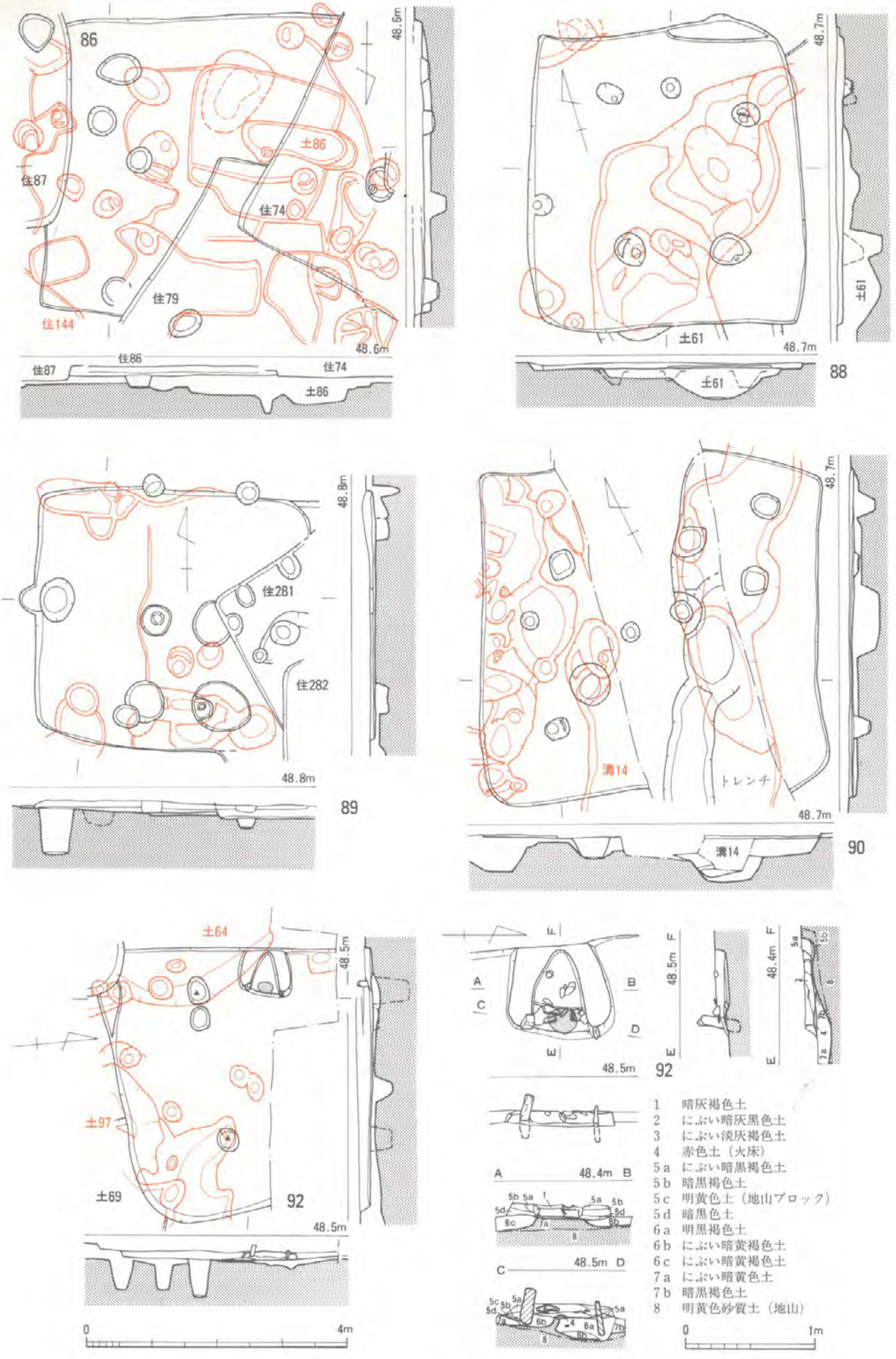


第38図　82・85号住居跡実測図（1/80，1/40）

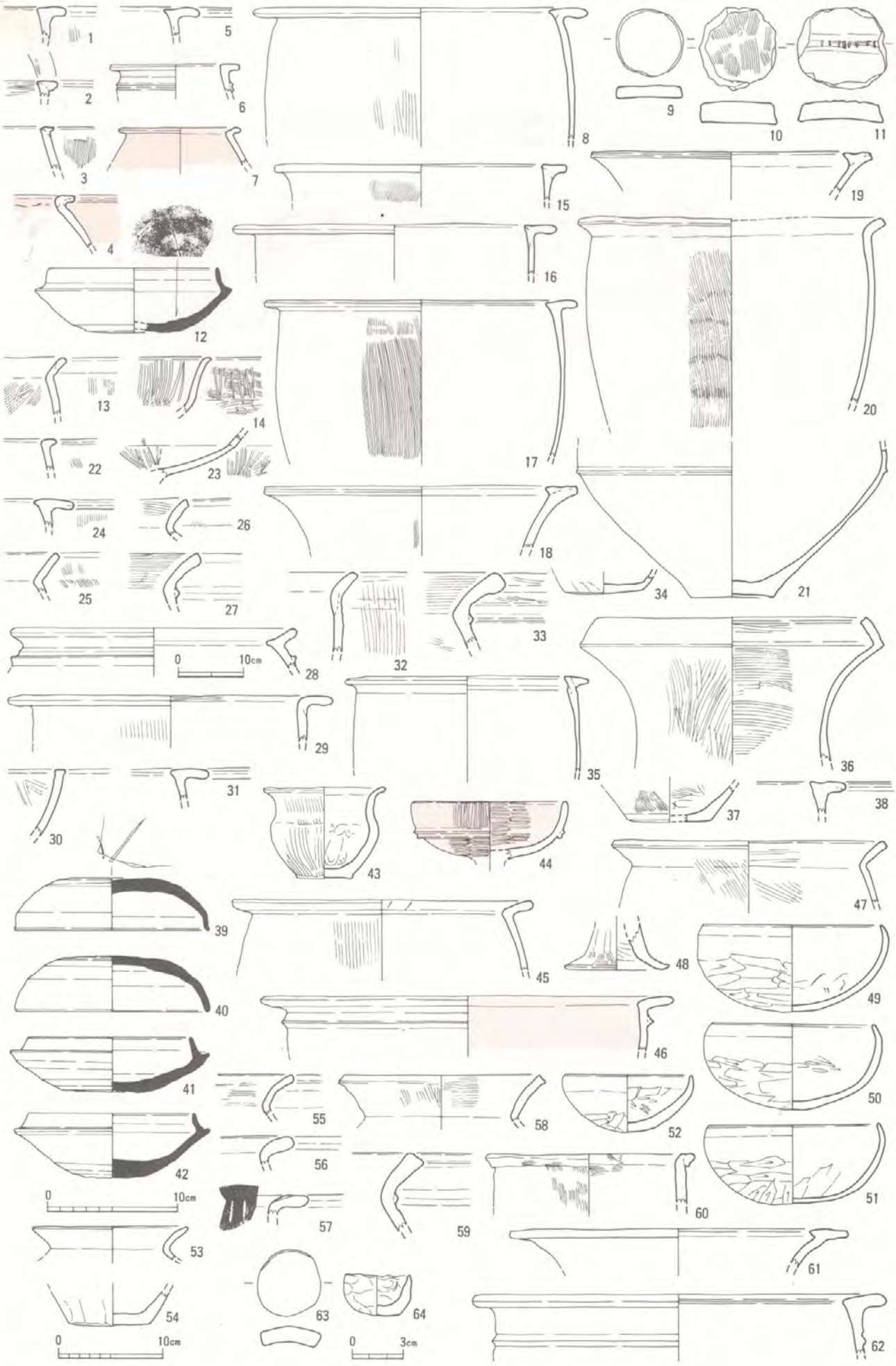
28～30が中期末葉，27・33・34・37は後期前葉，25・26・32・36は後期後葉。土器からは当住居の時期は後期後葉だが，形態や方向からみて５Ｃ後半代の可能性もある。他に鉄製細身袋付工具片（第92図35），蛤刃石斧（第96図55），砥石（第98図40），石庖丁（第94図24）が出土。



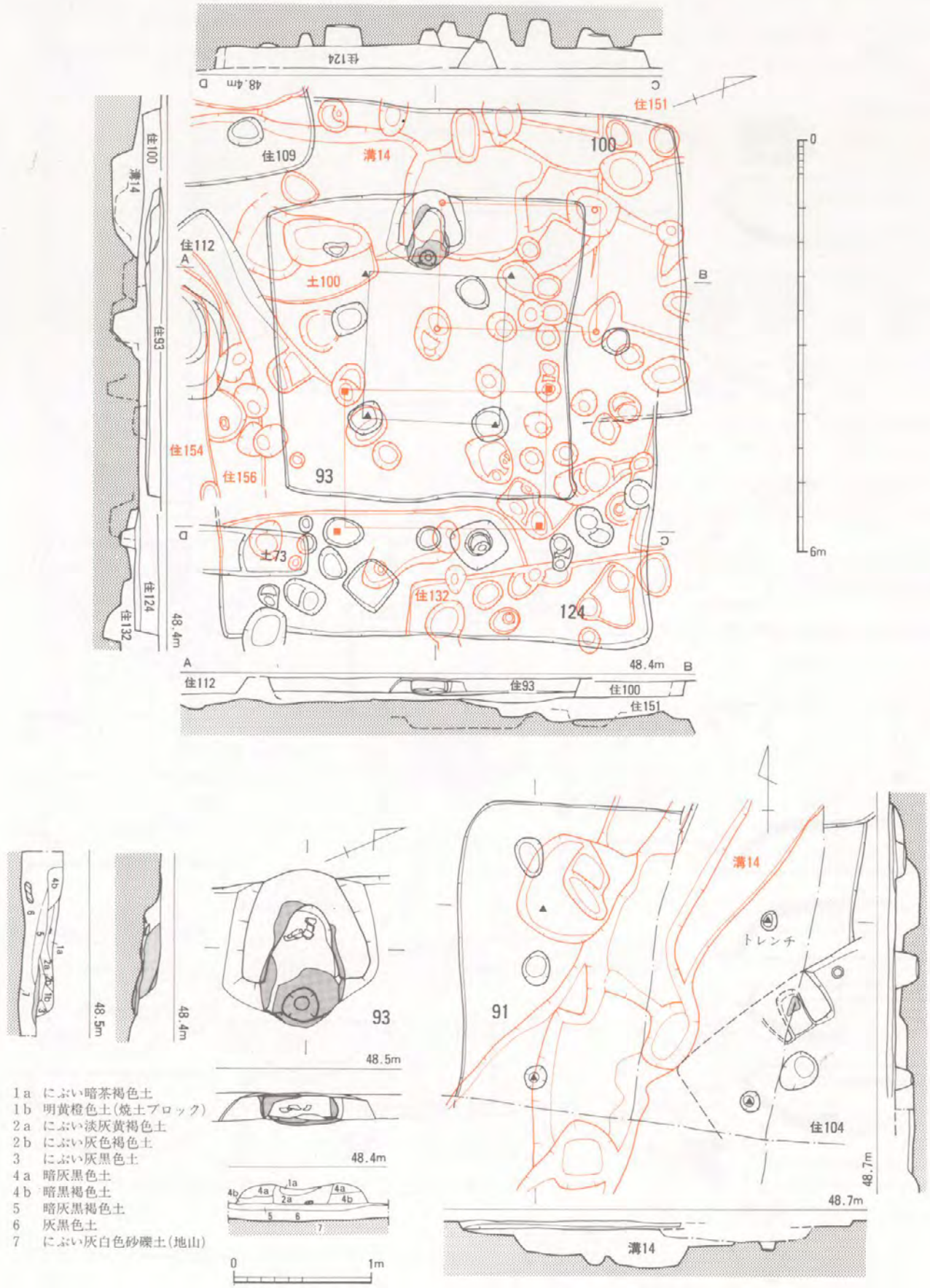
第39図　82～86号住居跡出土土器実測図（8～10・40・50・51は1/3，1・2・14～16・25～30は1/4，他は1/5）
（1～10：住82，11・12：住83，13～24：住84，25～40：住85，41～51：住86）



第40図　86・88～90・92号住居跡実測図（1/80，1/40）

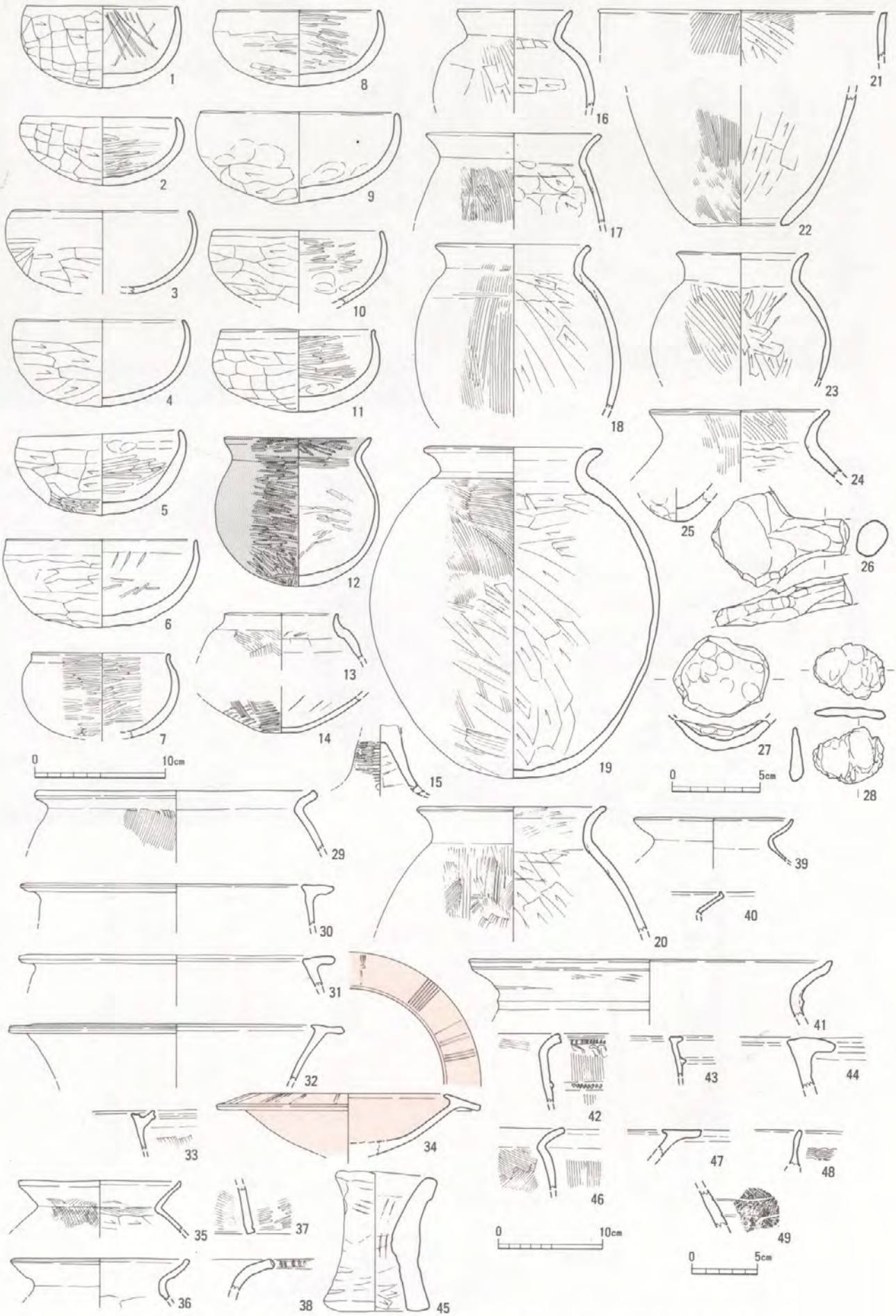


第41図　87～92号住居跡出土土器実測図（9～11・63・64は1/3，12・39～43・49～52は1/4，28は1/8，他は1/5）
（1～11：住87，12～21：住88，22～24：住89，25～38：住90，39～47：住91，48～64：住92）

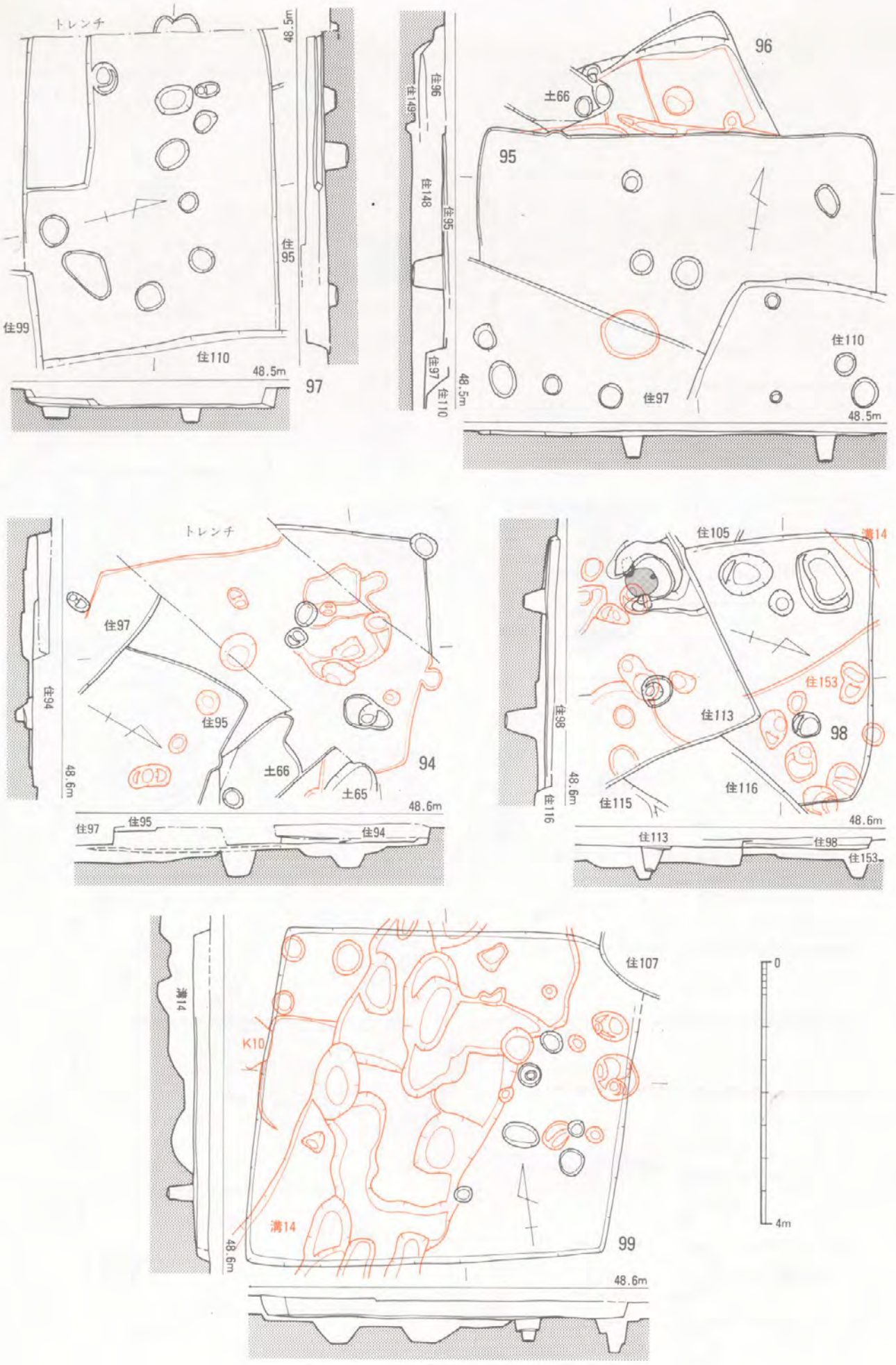


1a　にぶい暗茶褐色土
1b　明黄橙色土(焼土ブロック)
2a　にぶい淡灰黄褐色土
2b　にぶい灰色褐色土
3　にぶい灰黒色土
4a　暗灰黒色土
4b　暗黒褐色土
5　暗灰黒褐色土
6　灰黒色土
7　にぶい灰白色砂礫土(地山)

第42図　91・93・100・124号住居跡実測図（1/80，1/40）



第43図　93～96号住居跡出土土器実測図（25～28は1/3，1～15・49は1/4，他は1/5）
（1～29：住93，30～34：住94，35～38：住95，39～49：住96）



第44図　94～99号住居跡実測図（1/80）

91号住居跡（第42図，図版 30・37） 暗褐色土の埋土で，中央を試掘トレンチで切られ，詳細不明。出土遺物（第41図39～47）は43～46が弥生中期末葉，47が後期後葉，39～42が６Ｃ後葉。

92号住居跡（第40図，図版 37・38） 暗褐色土の埋土で北半は調査区外。カマド両袖端に花崗岩立石が深く埋め込まれている。カマド内奥部からミニチュア１点（第41図64）出土。出土土器（第41図48～64）は60が口縁折り曲げの韓半島無文土器系か。61・62は弥生中期中葉，56・57は中期末葉，54・55・58・59は後期前～中葉，53は布留古併行期。48～52は５Ｃ末前後。他に小型鉄斧（第92図36），鉄斧刃部片らしき不明鉄片（第93図52），石庖丁（第94図25，第８表整理番号91），太型蛤刃石斧片（第９表60），抉入柱状片刃石斧（第95図47）が出土。

93号住居跡（第42図，図版 38･39） 黒色土の埋土で，４主柱間は東西が７尺，南北が6.5尺。カマドは内底幅50㎝程と大きく，壁がしっかり焼けている。出土土器（第43図１～29）は26・27が弥生後期か，29が弥生後期初葉，14は庄内甕。他は19が他の古い様相を残す土師器甕に比べて新しく，６Ｃ前半代。他に鉄鏃片２点・鉄斧・不明鉄片・刀子（第92・93図９・10・37・53・62），石庖丁２点（第94図26・27），打製石鏃（第100図12），石のみ（第95図32），抉入柱状片刃石斧（第95図48），砥石（第98図41）が出土。

94号住居跡（第44図，図版 37） 暗褐色土の埋土で，中央を試掘トレンチで削られ，東半を各遺構で切られ，全容は不明。出土遺物（第43図30～34）は30～32は弥生中期中葉だが，33・34は新しい様相をもつ。切合関係からみて当住居は弥生中期後葉となろう。

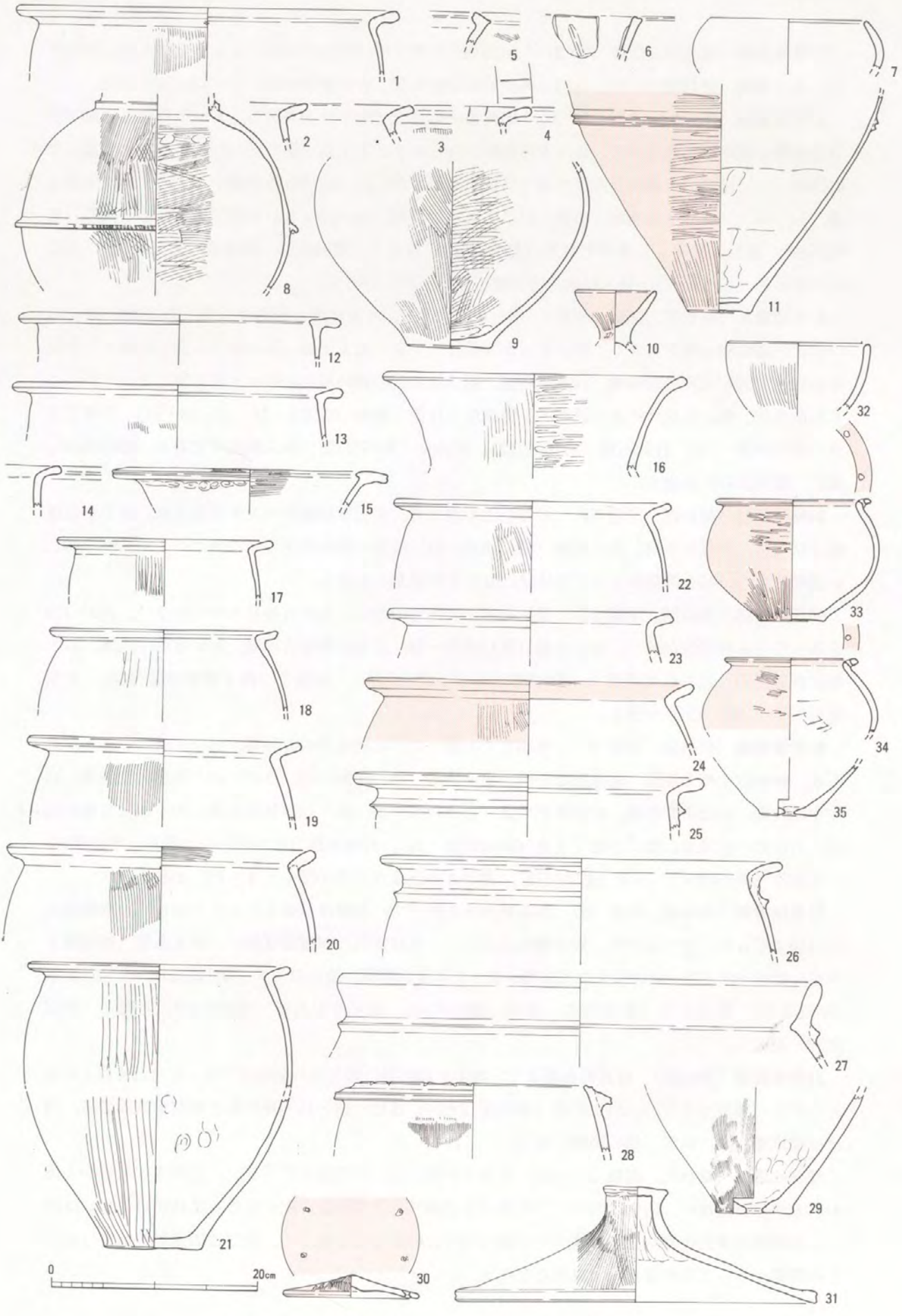
95号住居跡（第44図，図版 37） 黒灰褐色土の埋土で浅い。主柱穴等見当がつかない。住97･110を切っている可能性が強い。出土土器（第43図35～38）は35が布留古段階，36が布留中段階，37・38は在地土器。他に広根鉄鏃片（第92図10），鉇（第92図21），石庖丁（第８表整理番号86），太型蛤刃石斧（第96図56）が出土。

96号住居跡（第44図，図版 37） 暗褐色土の埋土で，北隅部分のみ残存。ベッド状の高まりがあるが，幅が広くやや疑問。他施設は不明。出土土器（第43図39～49）は42・49が弥生前期後葉，43が中期初葉，44は中期前葉，47は中期中葉，46は後期中葉，45・48は後期末葉，39・40は布留中段階，41はその在地型，他に石庖丁２点（第94図28・29），打製石鏃（第100図11），砥石（第98図42），不明鉄片（第93図54），石戈（第95図18），ガラス小玉３点（第90図１・２・13）が出土。

97号住居跡（第44図，図版 39） 黒茶褐色土の埋土で，西側は試掘トレンチで削られ，東側は住99･110で切られ，全容は不明。炉は検出されず，２主柱穴的だが確証は無い。出土土器（第45図１～11）は１～７・10・11が弥生中期末葉，８・９は後期前葉。他に刀子？（第93図63），土製紡錘車（第91図８），蛤刃石斧（第96図57），砥石（第99図43），偏平片刃石斧（第95図40），石庖丁（第94図30）が出土。

98号住居跡（第44図） 暗茶褐色埋土で，南半を他住居に切られ，全容は不明。柱穴は４個とも考えられるが確定できない。出土土器（第45図12～16）は12・13・15・16は弥生中期前葉新段階，14は中期末葉。他に鉄鑿（第92図38）出土。

99号住居跡（第44図，図版 37・40） 黒色土の埋土で，平行四辺形プラン。主柱穴は２個かと思われるが確証は無い。床面は西半で下の溝14まで掘りすぎている。出土土器（第45図17～35）は29が弥生前期後葉前後だが，他はすべて中期末葉の良好なセットをなす。ただこの住居の時期は住97との関係からみて弥生後期前葉以降となろう。



第45図　97～99号住居跡出土土器実測図（1/5）
（1～11：住97，12～16：住98，17～35：住99）

第1表　竪穴住居跡一覧表

（単位cm，㎡）

No.	平面形	カマド・ベッド等	主柱穴	長さ×幅×深さ	面　積	主要遺物・切合い等	時　　期
1	小型方形		不明	324×274×7	8.9	住2，溝4より新。建7より古。	7～8C代か
2	方形		4？	434×370×8	16.1	住1，建7，溝14より古。	7C後葉
3	方形	北カマド，石支脚	2＋(2)	399×367×14	14.6	土2・268，住50より新。 鉄器片1。偏平片刃石斧1。蛤刃石斧1。	5C後葉～末
4	方形		不明	(355)×(315)×8		住49・44より新。太型蛤刃石斧1	弥生後期末葉
5	方形	2隅ベッド，中央炉	2	453×339×23	15.4	住8，土7・24より新。石庖丁3。打製石鏃2。鉄斧片1。 砥石2。抉入柱状片刃石斧1。鉇片1。不明鉄片1。	弥生後期前葉
6	長方形	対辺ベッド，中央炉	2	595×(455)×35	27.1	住28，溝1より古。住23より新。打製石鏃2(うち大型1)。砥石2。小型板状鉄斧1。抉入柱状片刃石斧1。	弥生後期後葉
7	長方形	中央炉	2	575×373×27	21.4	住47，土20より新。赤色顔料。 砥石1。石庖丁2。打製石鏃2。石のみ1。	弥生後期前葉
8	長方形	2辺L字ベッド，炉	不明	516×394×20	20.3	住5より古。土22より新。 石庖丁1。打製石鏃1。石戈1。砥石1。	弥生後期前葉前後か
9	長方形		不明	576×442×38	25.5	溝1より古。住26・44・48より新。スクレイパー1	弥生後期前葉
10	長方形	中央炉	2？	670×437×12	29.3	住50・71より新。石庖丁3。不明鉄片1。	弥生中期末葉
11	方形	3辺ベッド，中央炉	2	571×513×47	29.3	住12・13，溝2より古。住11bより新。 投弾1。石庖丁3。管玉1。打製石鏃1。砥石2。	布留中期
11b	方形	対辺ベッド，中央炉	2	438×370×29	16.2	住11～13，溝2より古。	庄内新期
12	長方形	片辺ベッド，中央炉	不明	535×407×14	21.8	溝1・3より古。住11・13・20より新。 石庖丁2。偏平片刃石斧1。有孔円板1。砥石1。	弥生後期中葉
13	長方形	片辺ベッド	2？	530×394×15	20.9	溝1，住12より古。住11・20より新。石庖丁1。	弥生後期前葉
14	方形	2隅ベッド	2？	583×459×41	26.8	溝1より古。住15・55・58より新。石庖丁2。 石戈1。砥石5。小型石斧1。無茎鉄鏃1。細根鏃片2。	弥生後期後葉
15	方形	1隅ベッド	2	495×444×35	22.0	住14より古。住32・58，土27より新。 石庖丁2。砥石1。	弥生後期後葉
16	方形	東カマド	4	510×474×28	24.2	建2より古。須恵甕1・2，木棺墓1より新。 鉇1。石剣片1。偏平片刃石斧1。	7C末葉
17	方形	東カマド	4	512×416×27	21.3	住18・22より新。紡錘車1。砥石1。	7C後葉(～末葉)
18	小型方形	東カマド	不明	374×366×29	13.7	住17より古。住22より新。刀子1。	7C後葉か
19	小型方形		不明	324×320×25	10.4	建23より古。土26より新。 紡錘車1。石庖丁1。石戈1。	弥生中期末葉
20	小型方形		不明	300×(255)×19		住12・13より古。住52より新。	弥生後期前葉
21	長方形	対辺ベッド，中央炉	2	554×375×19	20.8	住30より古。住38・52・56・57より新。 スクレイパー1。砥石6。	弥生後期中葉
22	小型方形		4	(370)×(215)×27	(8.0)	住17・18より古。	7C後半代か
23	小型方形		不明	377×355×27	13.4	住6，溝1より古。土5より新。石庖丁1。鉄滓1。	弥生後期初葉
24	小型長方形	中央炉	2？	380×280×17	10.6	溝2より古。土25より新。	布留古期
25	方形		不明	455×(262)×25		土8より古。土11より新。	弥生後期中葉
26	長方形		不明	603×454×39	27.4	溝1，住9より古。住44より新。不明鉄器1。	弥生後期前葉
27	方形	四周ベッドか	4	540×(465)×22		溝1～3，住28より古。住51より新。 投弾1。石庖丁2。砥石1。	布留中期か
28	方形	北カマド，石支脚	4	444×423×46	18.8	溝1・3より古。住6・27より新。 片刃箭式鏃1。細根鏃片2。鉄斧片1。	5C後葉～末
29	方形		不明	438×437×16	19.1	住75，土53より新。打製石鏃1。石剣1。	弥生中期末以降
30	方形	L字ベッド	2	708×600×34	42.5	住31，溝3より古。住57·64，土30·33·34·35·37～39，K2より新。太型蛤刃石斧1。砥石1。抉入柱状片刃石斧1。打製石鏃1。	弥生後期中葉
31	長方形		不明	504×396×24	20.0	溝3より古。住30・64・141，土50・30・33～35・39より新。砥石1。鉄斧片1。紡錘車1。石庖丁1。	弥生後期後葉
32	方形	中央土器炉	不明	(550)×464×31		建22，住15より古。住53・54より新。	弥生後期前葉
33	円形		不明	(305)×(44)×27		住60より古。不明鉄片1。	弥生中期前葉
34	方形	片辺ベッド	2	545×540×35	29.4	建8·住37より古。住35·38·55·56，土10·29より新。 赤色顔料。ガラス玉1。砥石2。蕨手刀子1。刀子茎部1。 細根鏃片1。不明鉄片1。石庖丁1。蛤刃石斧1。	弥生後期後葉

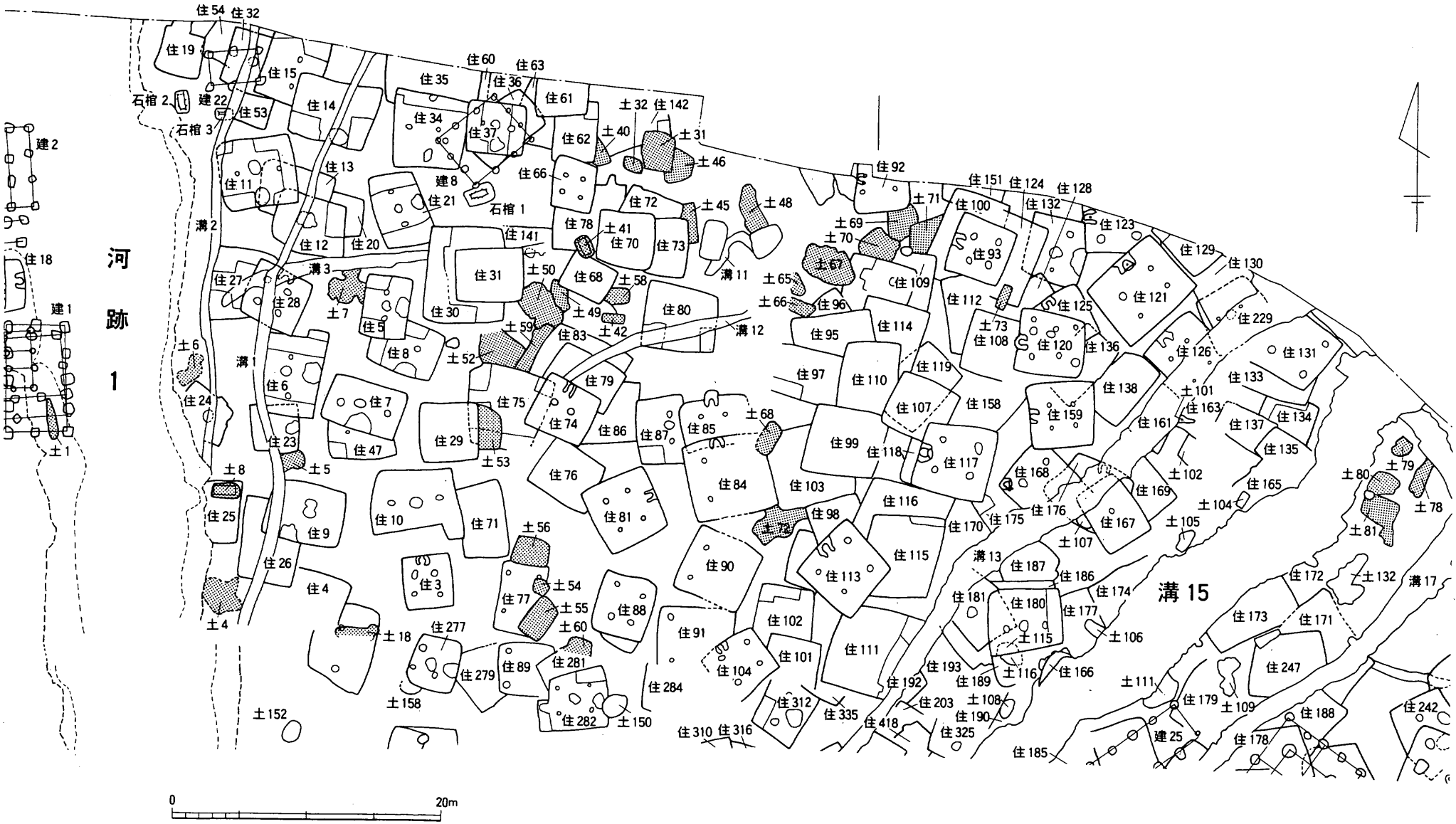
No.	平面形	カマド・ベッド等	主柱穴	長さ×幅×深さ	面　積	主要遺物・切合い等	時　　期
35	方形	片辺ベッド？	不明	700×(355)×18		住34・37より古。住59・60，土10より新。 石庖丁1。鉄斧片1。	弥生後期中葉
36	長方形		2？	570×360×11	20.5	住37，建8より古。住61・63より新。	弥生後期か
37	方形	3辺ベッド，中央炉	2	439×386×38	16.9	建8より古。住34・36・60・63・69，土36より新。	布留古期
38	方形		2	415×(570)×30	(23.7)	住21・34より古。土29より新。偏平片刃石斧1。	弥生後期前葉
39	方形		不明	(340)×(246)×18		住42より古。石庖丁1。	弥生中期後葉
40	方形		不明	(507)×(180)×24		住42より古。住43より新。	弥生後期前葉
41	方形		2？	347×(305)×37		住42より古。溝10より新。石庖丁1。	弥生後期中葉
42	方形		不明	531×(277)×22		住39～41，溝10より新。投弾2。紡錘車1。	弥生後期後葉
43	方形		不明	(350)×(253)×37		住40より古。使用剝片1。	弥生中期後葉
44	方形		不明	691×(215)×21		住4・9・26より古。住46・48より新。	弥生中期末葉前後か
45	隅丸方形		不明	(289)×(192)×25		土4より古。土13・住46より新。	弥生後期中葉～5C後葉
46	方形		不明	(422)×(320)×26		住4・26・44・45，土13より新。砥石1。	弥生中期後葉
47	方形	1隅ベッド	2？	477×(290)×20		住7より古。土19より新。鑿？1。	弥生後期初～前葉か
48	楕円形		7	(830)×650×25	(43.0)	住9・26・44より古	弥生中期前～末葉
49	方形		2	658×470×18	(30.9)	住4。土12より古。土31・21より新。紡錘車1。 （旧住276と合体）	弥生後期前葉
50	円形	中央炉	8	654×647×5	33.2	住3・10より古。	弥生中期中葉
51	小型方形	1隅ベッド	不明	341×(208)×32		溝2，住27より古。	弥生後期初葉
52	方形		2	(368)×(455)×13	(18.8)	住20・21・57より古。	弥生後期初葉
53	小型方形		不明	342×(233)×23		住32，溝2，石棺墓3より古。 鉄斧1。鑿1。刀子1。管玉1。	弥生後期初葉
54	方形		2？	(335)×(220)×6		建22・23，住32より古。	弥生後期初葉
55	方形		2？	(410)×431×23		住14・34より古。住56，土29より新。不明鉄片1。	弥生後期後葉
56	方形		不明	(375)×(342)×14		住21・34・55より古。土29より新。	弥生中期末葉
57	方形		不明	360×(257)×13		住21・30，溝3より古。住52より新。	弥生後期初～中葉
58	長方形	片辺ベッド，中央炉	2	560×(405)×16		住14・15より古。溝9より新。大型打製石鏃1。	弥生後期初葉
59	隅丸方形？		不明	(308)×(201)×12		住35，溝1・9より古。	弥生中期中葉か
60	方形		不明	(310)×(233)×18		住35・37より古。住33，土10より新。石庖丁1。	弥生中期後葉
61	方形		不明	381×(258)×23		住36・62・63・65より新。	5C後葉
62	長方形	1隅ベッド？	不明	453×318×22	14.4	住61・66より古。住63・65・67，土40より新。 不明鉄片1。蛤刃石斧1。	弥生後期前葉
63	方形		不明	461×(275)×14		建8，住36・37・61・62より古。住67・69より新。	弥生中期末葉
64	円形		5(7)	682×(650)×45	(36.5)	住30・31・141より古。土30・33～35・39より新。 鋳造鉄斧片1。偏平片刃石斧3。石剣1。	弥生中期中葉
65	楕円形		不明	(748)×(337)×21		住61・62・142より古。石庖丁1。手鎌1。	弥生中期後葉
66	小型方形		4？	368×321×24	11.8	住62・67・78より新。 大型打製石鏃1。石槍1。石のみ1。	弥生後期前葉
67	円形	中央炉	6	696×665×25	36.4	住66・62・78・142，土40より古。住69・140より新。石庖丁1。砥石2。磨製石鏃1。石剣1。	弥生中期前葉
68	小型方形		不明	358×282×28	10.1	土41より古。住140，土49・57・58より新。石剣1。	弥生後期初葉
69	楕円形		6	905×(775)×9		住37・63・67・78・141より古。石剣1。	弥生前期末葉
70	方形		不明	415×398×26	16.5	住67・72・73・78・140より新。紡錘車1。砥石2。	弥生後期初葉以降
71	長方形		不明	550×334×6	18.4	住10より古。住50・82，土82より新。 紡錘車1。鉄斧片1。石剣1。	弥生中期末葉

No.	平面形	カマド・ベッド等	主柱穴	長さ×幅×深さ	面　積	主要遺物・切合い等	時　　期
72	方形		2?	440×(236)×13		住70・73より古。住78・140，土45より新。	弥生中期末葉前後
73	方形		不明	426×(252)×18		住70より古。住72・140・143，土45より新。 石庖丁1。	弥生中期後葉
74	方形	北カマド	2	438×408×15	17.9	住75・76・79・82・83・86，土76・77・86・91より新。大型打製石鏃1。砥石1。鉄滓6。	5C末葉
75	方形	片辺2隅ベッド	2	627×610×27	38.2	住29・74，土53より古。住79・82・83，土52・59より新。石庖丁1。蛤刃石斧1。	弥生中期末葉
76	方形		不明	465×400×17	18.6	住74・81より古。住82・土76・84より新。	5C後葉～末
77	長方形		4?	510×330×8	16.8	土54～56より古。住139，土83，K3・4・6～9より新。	弥生中期後葉前後か
78	方形		不明	519×515×24	26.7	住66・68・70・72，土41より古。住140より新。 紡錘車1。石のみ1。砥石1。	弥生後期初葉
79	長方形		不明	521×361×25	18.8	溝12，住74・75より古。住83・86より新。 抉入柱状片刃石斧1。	弥生中期末葉
80	方形	2隅ベッド	不明	554×476×33	26.4	溝12より新。住144より古。 打製石鏃1。鉄鉇1。抉入柱状片刃石斧1。	弥生後期初葉
81	方形	北東カマド	4	530×495×11	26.2	住76・82，土62より新。粟玉1。臼玉1。	5C後葉
82	円形	中央炉	8	817×755×24	48.5	住71・74～76・81より古。土84・76より新。石庖丁1。 細根鏃片1。太型蛤刃石斧2。砥石2。不明鉄片1。	弥生中期前葉
83	方形	1隅ベッド	不明	618×(421)×28		住75・79，溝12より古。土59・89，住144より新。 紡錘車1。石剣1。	弥生中期後葉
84	方形	北カマド	(4)	625×590×11	36.9	住85・87・103，土68・72より新。石戈1。砥石1。	6C末葉
85	長方形	北カマド，石支脚	4	(580)×365×29	(21.2)	住84より古。住87，土74・85より新。 石庖丁1。刀子？1。	6C末葉
86	方形		2?	452×(447)×16		住74・79・87より古。土86より新。鉇？1。石戈1。	弥生中期後葉
87	方形	1隅ベッド	不明	502×385×23	19.3	住84・85より古。住86・144，土62・85より新。 小型板状鉄斧1。抉入柱状片刃石斧1。	弥生中期末葉
88	方形		4?	456×423×12	19.3	土61より新。砥石1。	6C中葉
89	方形		4?	414×396×20	16.4	住281より古，住139・279より新。砥石1。	弥生中期後葉か
90	方形		4?	517×508×7	26.3	溝14より新。 石庖丁1。鉄器袋部片1。蛤刃石斧1。砥石1。	弥生後期後葉
91	方形		4	577×(443)×11		住90・104より古。溝14より新。	6C後葉
92	方形	西カマド，焚口立石	(4)	405×(347)×25		土64・69・97より新。石庖丁2。不明鉄片1。鉄斧1。太型蛤刃石斧1。抉入柱状片刃石斧1。	5C末前後
93	方形	西カマド	4	436×427×23	18.6	住100・112・124より新。石庖丁2。打製石鏃1。不明鉄片1。抉入柱状片刃石斧1。砥石1。のみ1。鉄斧1。細根鏃片1。刀子1。	6C前葉
94	長方形		不明	503×360×27	18.1	住95・97，土65・66より古。	弥生中期後葉
95	方形		不明	607×(338)×8		住97・110より古。住96・114，土66より新。 石庖丁1。太型蛤刃石斧1。広根鏃片1。鉇1。	布留中期
96	方形	ベッド？	不明	(293)×(220)×38		住95，土66より古，住149より新。石庖丁2。打製石鏃1。ガラス小玉3。砥石1。不明鉄片1。石戈1。	布留中期
97	長方形	片辺ベッド	2?	(478)×385×39		住99・110より古。住95・146・94・148より新。紡錘車1。 蛤刃石斧1。砥石1。偏平片刃石斧1。刀子？1。石庖丁1。	弥生後期前葉
98	方形		不明	409×(288)×18		住113・115・116より古。住105・103・153，土72より新。鉄鑿1。	弥生中期末葉
99	方形		2?	562×507×29	28.5	住107より古。住97・103・110・146・150・183，溝14より新。石庖丁1。	弥生後期前葉以降

B　土　坑

1号土坑（第48図）　遺跡北西端の掘立柱建物群中に位置する。建物1か6に伴う遺構と考えるが具体的性格は不明。暗灰色土の埋土で小炭片をかなり含む。出土遺物（第49図1～11）はよいまとまりをみせ，7C後葉。

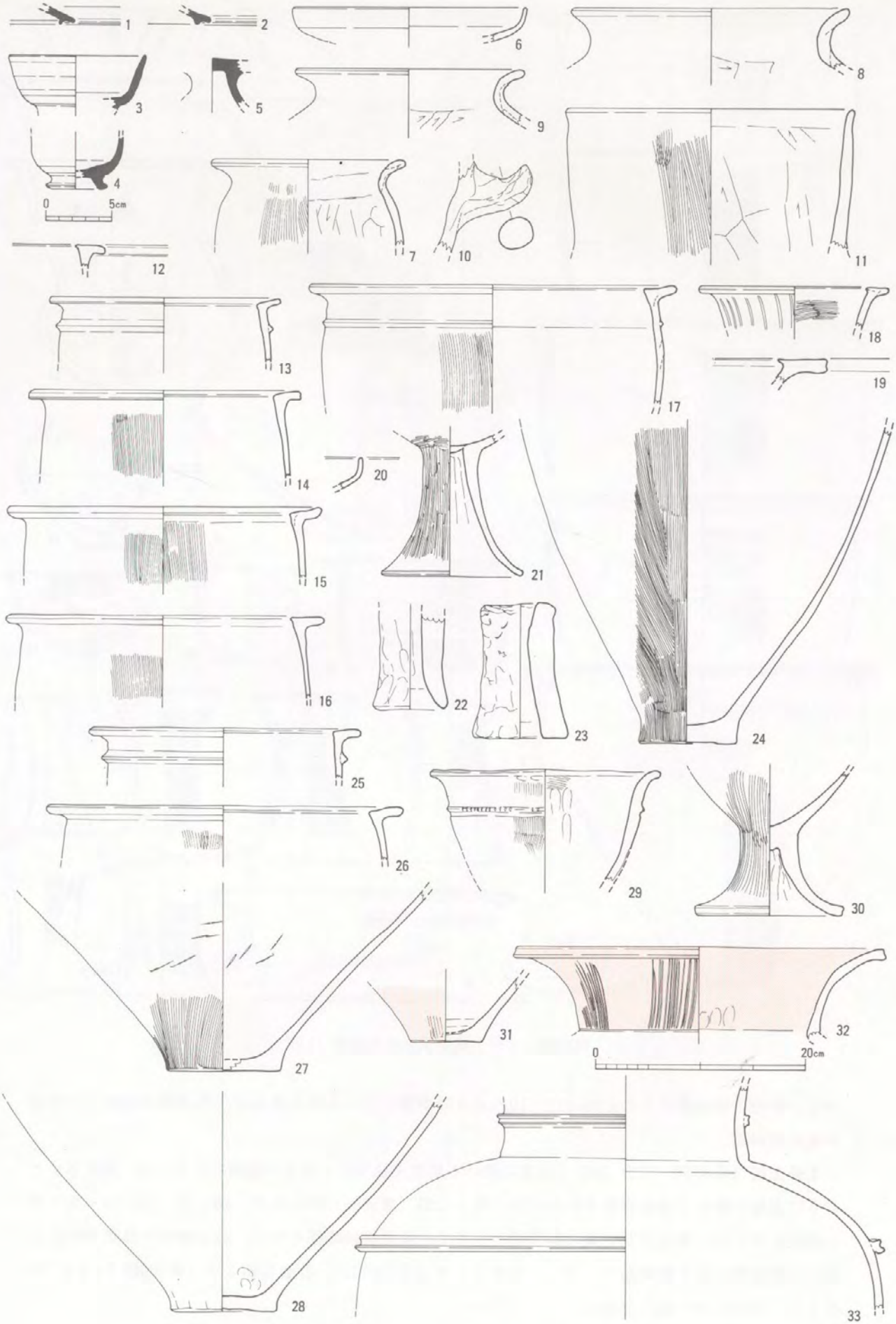
2号土坑（第48図，図版 145）　遺跡中央西寄りの6基の甕棺墓集中部分の西6mに位置する。浅く南北に長い形状で，甕棺墓に伴う祭祀土坑の可能性もある。出土遺物（第49図12～24）は13・14・



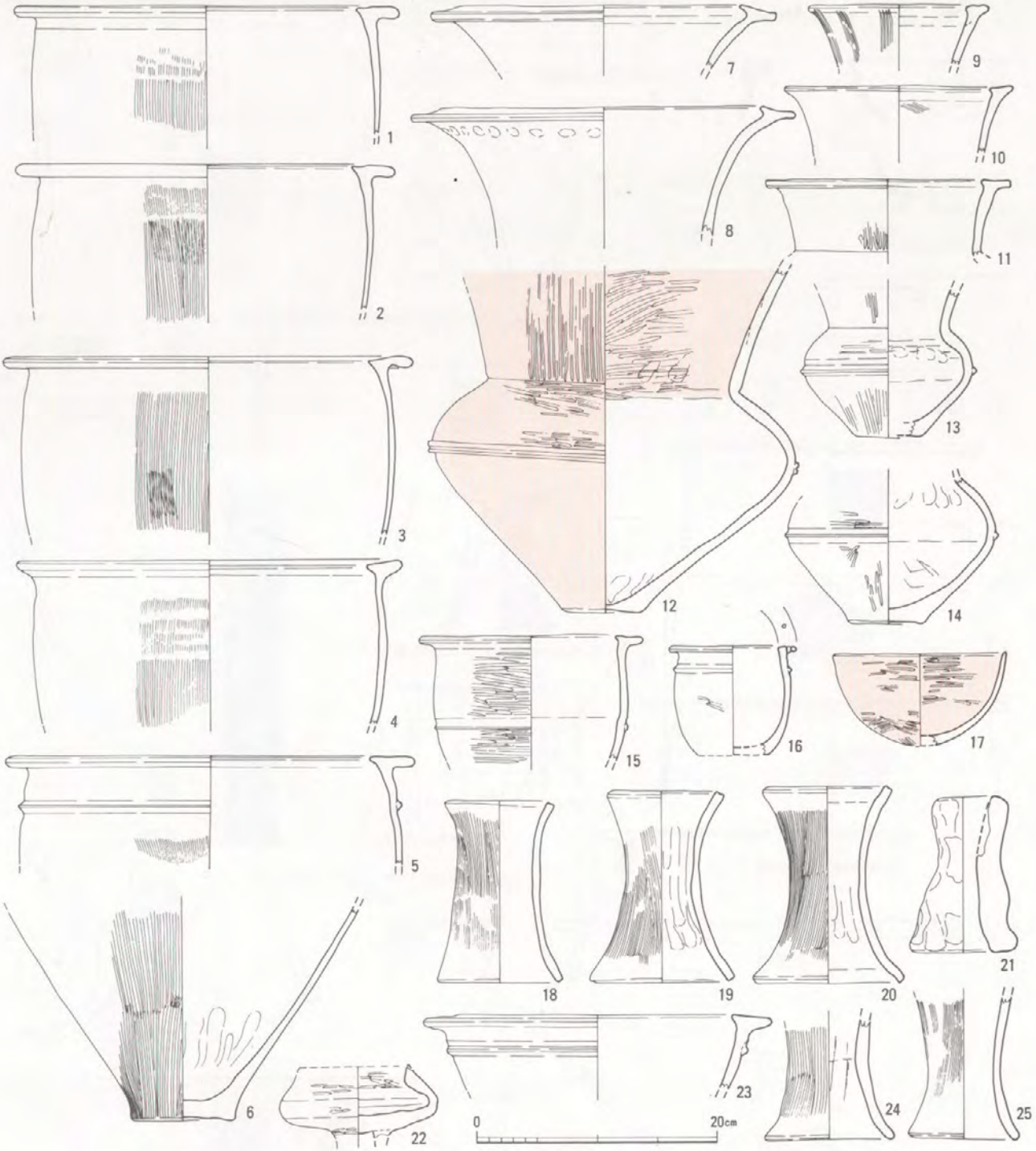
第46図　土坑群配置図（上層）（1/400）
（ドットした土坑が本書にて掲載した分）

第47図　土坑群配置図（下層）（1/400）
（ドットした土坑が本書にて掲載した分）

第48図　1～4号土坑実測図（1のみ1/60，他は1/40）



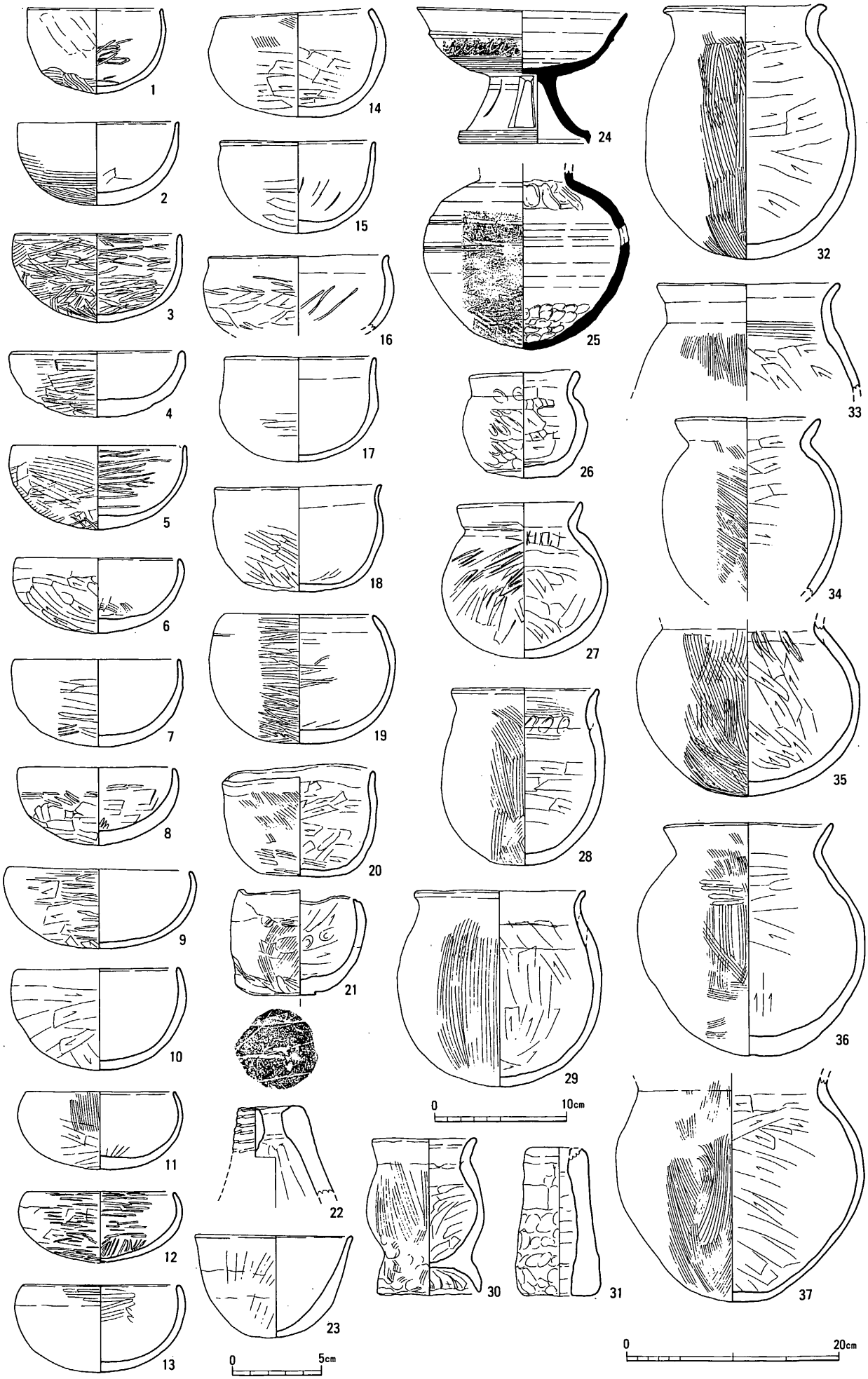
第49図　1・2・5号土坑出土土器実測図（1～8・20は1/4，他は1/5）
（1～11：土1，12～24：土2，25～33：土5）



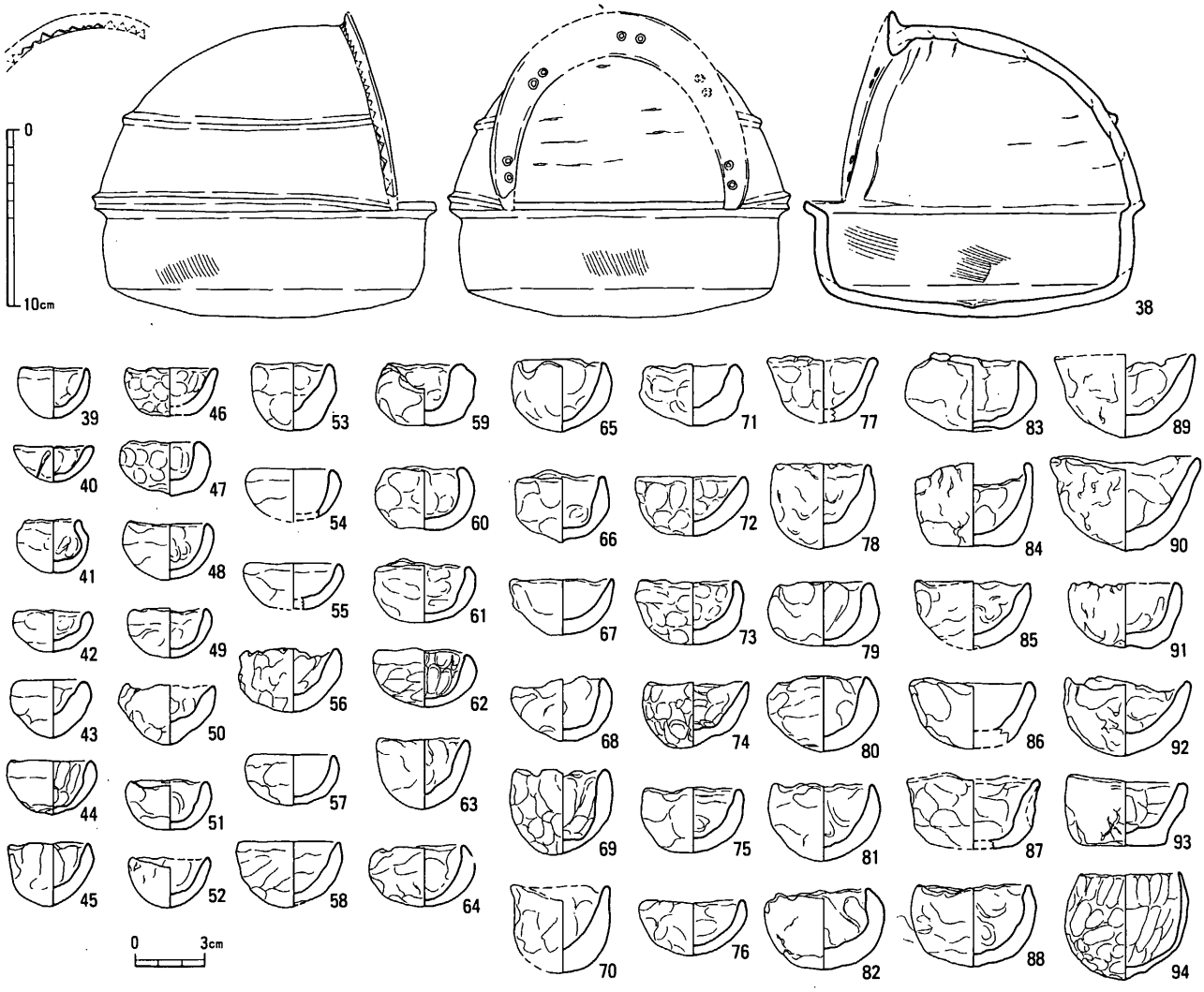
第50図　3号土坑出土土器実測図（1/5）

18等のやや古相を残すものと16・17・19のように中葉に近いものとあるが，当土坑の時期としては弥生中期前葉。

3号土坑（第48図，図版 146）　南北に長い不整形土坑で，土坑2の西隣に位置する。角礫多くとともに土器が極めて多量廃棄された状態。出土土器（第50図）のうち9・10・16・18・24・25は古い様相を残すが，他は中期中葉の典型的セットで，当土坑の時期を示す。22は脚付の異類で外面黒塗りの可能性があり祭祀品的。他に，石庖丁1点（第94図32），打製石鏃2点（第100図1・4），砥石2点（第99図44・45）がある。



第51図　4号土坑出土土器実測図（その1）（23は1/3，30・31・34～37は1/5，他は1/4）

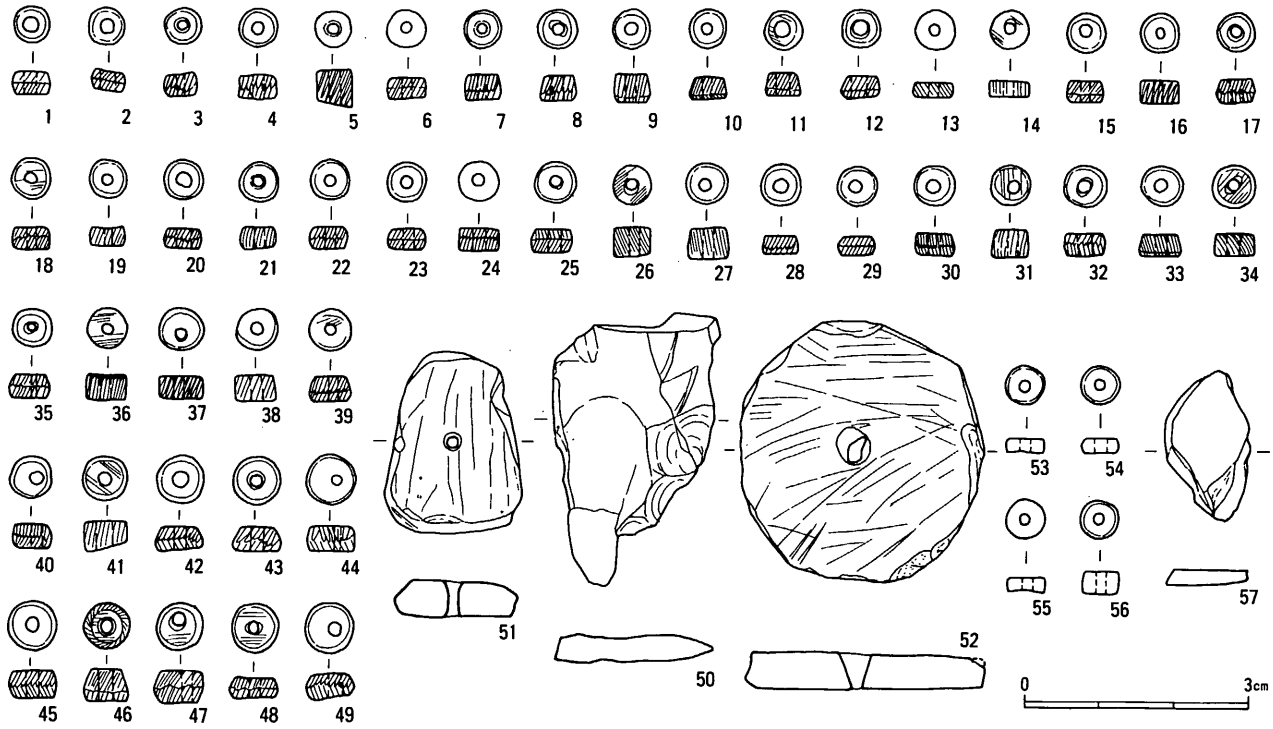


第52図　4号土坑出土土器実測図（その2）（38は1/4，39～94は1/3）

4号土坑（第48図，図版 146）　河跡1の中央東岸における祭祀跡。掘り込みは無く，焼けた花崗岩礫と祭祀用土器・滑石製品等が多量集中した状態。滑石製玉類とミニチュア土器の半数が僅かに浮いた状態にあり，複数回の祭祀行為の可能性あり。河岸に位置する事から水神への祭祀か。出土土器（第51・52図）のうち21は底部に木葉圧痕があり，22・31は弥生後期後葉～末の混入品。38は河跡出土品とも接合しており，４Ｃ中葉前後のものの混入品。他は５Ｃ後葉。他に鉄器として（第92・93図），片刃箭式鏃２点（11・13），細根鏃片１点（12），鉈か鉄斧片１点（39），小型板状鉄斧片？１点（40），刀子１点（64），不明鉄片１点が出土。玉類は396個の滑石製臼玉，同有孔円板２個，同未製品１個（第53図１～52，第２表）出土。

5号土坑（第54図，図版 146）　東西に長い祭祀土坑で黒褐色埋土。焼けた花崗岩礫とともに丹塗土器類が上層に一括して廃棄された状態。出土遺物（第49図25～33）のうち29は弥生前期末の混入品。25等中期前葉的様相を残すものもあるが，他は中期中葉。33は丹塗が剝げたもの。

6号土坑（第54図，図版 147）　河跡1の東岸生活面上に営まれた祭祀跡。土坑4の北14mに位置する同時代のもの。土坑4ほど密度は濃くないが，祭祀遺物が一通り揃っており，当河岸が祭祀の場と意識されていたことが判る。出土土器（第55図１～29）は13が弥生後期の混入品で，他は土4



第53図　4・6号土坑出土玉類実測図（実大）（1～52：土4，53～57：土6）

第2表　4・6号土坑出土玉類一覧表

（単位　mm，g）

No.	直径	長さ	孔径	重量	図番号	備考	
1	4.6	(1.2)	1.7	(0.04)			滑石製臼玉
2	4.7	(1.4)	1.2	(0.04)			〃
3	4.7	(1.4)	1.9	(0.04)			〃
4	4.7	(1.5)	1.8	(0.05)			〃
5	4.7	(1.7)	1.4	(0.06)			〃
6	4.7	(2)	1.5	(0.06)			〃
7	4.7	(2)	1.7	(0.07)			〃
8	4.7	2.2	1.4	0.18			〃
9	4.7	2.4	1.4	0.18			〃
10	4.7	3	2	0.19	第53図1		〃
11	4.7	3.4	2.4	0.18			〃
12	4.7	4	2.1	0.23			〃
13	4.8	(1.4)	1.7	(0.15)			〃
14	4.8	(1.5)	1.8	(0.16)			〃
15	4.8	(1.6)	1.5	(0.15)			〃
16	4.8	(1.7)	1.2	(0.16)			〃
17	4.8	(1.8)	1.2	(0.17)			〃
18	4.8	(1.8)	1.7	(0.16)			〃
19	4.8	(1.9)	1.4	(0.16)			〃
20	4.8	(1.9)	1.7	(0.16)			〃
21	4.8	(1.9)	1.8	(0.15)			〃
22	4.8	(2)	1.4	(0.18)			〃
23	4.8	(2)	1.4	(0.18)			〃
24	4.8	(2)	1.4	(0.18)			〃
25	4.8	2.1	1.4	0.18			〃
26	4.8	2.1	1.4	(0.16)			〃
27	4.8	2.1	1.5	0.18			〃
28	4.8	2.2	1.4	0.18			〃
29	4.8	2.2	1.9	0.16			〃
30	4.8	2.3	1.6	0.19			〃
31	4.8	2.3	1.7	0.18			〃
32	4.8	2.4	1.4	0.20			〃
33	4.8	2.4	1.4	0.20			〃
34	4.8	2.4	1.5	0.18			〃
35	4.8	2.5	1.7	0.17			〃
36	4.8	2.6	1.7	0.18			〃
37	4.8	2.6	2.1	0.18	第53図2		〃
38	4.8	3.8	1.8	0.19	第53図4		〃
39	4.8	3.3	1.8	0.22			〃
40	4.8	3.3	1.8	(0.19)			〃

No.	直径	長さ	孔径	重量	図番号	備考	
41	4.8	3.4	1.8	0.22			滑石製臼玉
42	4.8	3.5	1.6	0.23			〃
43	4.8	3.5	1.6	0.21	第53図3		〃
44	4.8	3.7	2	0.23			〃
45	4.8	4.7	1.7	0.26	第53図5		〃
46	4.8	(0.8)	1.8	(0.12)			〃
47	4.8	破	2	0.14			〃
48	4.9	(1.3)	1.7	(0.15)			〃
49	4.9	(1.5)	1.7	(0.15)			〃
50	4.9	(1.5)	1.8	(0.15)			〃
51	4.9	(1.5)	1.8	(0.15)			〃
52	4.9	(1.6)	1.7	(0.17)			〃
53	4.9	2	1.8	0.18			〃
54	4.9	2.2	1.4	0.18			〃
55	4.9	2.2	1.4	0.18			〃
56	4.9	2.2	1.7	0.18			〃
57	4.9	2.2	1.8	0.17			〃
58	4.9	2.3	1.4	0.19			〃
59	4.9	2.4	1.4	0.19			〃
60	4.9	2.5	1.4	0.19			〃
61	4.9	2.6	1.5	0.20	第53図6		〃
62	4.9	2.6	1.5	(0.18)			〃
63	4.9	3.1	1.8	(0.20)			〃
64	4.9	3.2	2	0.22			〃
65	4.9	3.3	1.9	(0.20)			〃
66	4.9	3.3	1.9	0.22	第53図7		〃
67	5	1.3	1.8	0.15			〃
68	5	1.4	1.8	0.15			〃
69	5	1.5	1.7	0.15			〃
70	5	1.5	1.8	0.15			〃
71	5	1.7	1.5	0.16			〃
72	5	1.8	1.9	0.16			〃
73	5	2.2	1.8	0.18			〃
74	5	2.2	2	0.19			〃
75	5	2.4	1.5	(0.17)			〃
76	5	2.4	1.7	0.19			〃
77	5	2.4	2	0.18			〃
78	5	2.5	1.9	0.18			〃
79	5	2.6	1.7	0.18			〃
80	5	2.6	1.9	(0.18)			〃

No.	直径	長さ	孔径	重量	図番号	備考	
81	5	2.8	2	0.19			滑石製臼玉
82	5	2.9	1.7	0.20			〃
83	5	3	1.5	(0.23)			〃
84	5	3.3	1.4	0.24			〃
85	5	3.7	1.8	0.22	第53図8		〃
86	5	3.8	1.9	(0.23)	第53図9		〃
87	5	(1.1)	1.5	(0.14)			〃
88	5	(1.5)	1.7	(0.15)			〃
89	5.1	2.4	1.8	0.19			〃
90	5.1	2.5	1.9	0.18			〃
91	5.1	2.7	1.7	0.21			〃
92	5.1	2.8	1.7	(0.21)			〃
93	5.1	2.8	1.7	(0.18)			〃
94	5.1	2.8	1.8	0.22	第53図10		〃
95	5.1	2.9	2	0.20	第53図11		〃
96	5.1	3	1.7	0.22			〃
97	5.1	3	2.1	0.19	第53図12		〃
98	5.1	3.2	1.7	0.22			〃
99	5.1	(3.1)	(1.7)	(0.22)			〃
100	5.1	(1.5)	1.6	(0.17)			〃
101	5.1	(1.5)	1.7	(0.18)			〃
102	5.1	(1.8)	1.7	(0.17)			〃
103	5.1	(2.1)	1.7	(0.18)			〃
104	5.1	(2.4)	2	(0.19)			〃
105	5.1	(2.6)	1.6	(0.21)			〃
106	5.2	(1.9)	1.6	(0.18)			〃
107	5.2	2	1.6	(0.17)			〃
108	5.2	2	1.9	(0.18)			〃
109	5.2	2	1.7	(0.19)	第53図13		〃
110	5.2	2.3	1.7	0.20			〃
111	5.2	2.4	1.9	0.21			〃
112	5.2	2.4	1.7	0.18	第53図14		〃
113	5.2	2.5	1.6	0.20			〃
114	5.2	2.6	1.4	0.21			〃
115	5.2	2.6	1.5	0.20			〃
116	5.2	2.7	1.7	0.26			〃
117	5.2	2.7	1.5	0.23	第53図15		〃
118	5.2	2.7	1.4	(0.21)			〃
119	5.2	2.9	1.7	0.23			〃
120	5.2	3	1.7	0.23	第53図16		〃
121	5.2	3	2	0.22			〃
122	5.2	3	1.6	(0.23)			〃
123	5.2	3.2	1.8	0.23	第53図17		〃
124	5.2	3.2	1.7	0.23			〃
125	5.2	3.2	1.4	(0.23)			〃
126	5.2	3.2	1.5	0.22	第53図18		〃
127	5.2	3.3	1.7	0.22	第53図19		〃
128	5.2	3.3	1.6	0.24			〃
129	5.2	4.2	1.6	(0.26)			〃
130	5.2	(2.2)	2.7	(0.20)			〃
131	5.2	(2.4)	1.7	(0.18)			〃
132	5.2	(3)	1.7	(0.21)			〃
133	5.2	(1.6)	1.7	(0.17)			〃
134	5.2	(1.6)	1.7	(0.16)			〃
135	5.2	(1.6)	1.2	(0.18)			〃
136	5.2	(1.8)	1.7	(0.19)			〃
137	5.2	(2.2)	1.5	(0.18)			〃
138	5.2	(2.2)	1.5	(0.19)			〃
139	5.2	(2.3)	1.7	(0.19)			〃
140	5.2	(2.4)	1.7	(0.18)			〃
141	5.2	(2.4)	(1.5)	(0.20)			〃
142	5.2	(2.5)	1.7	(0.20)			〃
143	5.2	(2.5)	1.5	(0.19)			〃
144	5.2	(2.5)	1.7	(0.17)			〃
145	5.2	(2.6)	1.6	(0.19)			〃
146	5.2	(2.7)	1.4	(0.19)			〃
147	5.2	1.6/3.1	1.7	0.20			〃
148	5.2	2.0/2.8	1.7	(0.18)			〃
149	5.2	2.2/2.8	1.7	0.20			〃
150	5.3	(1.4)	1.4	(0.15)			〃
151	5.3	(1.7)	1.7	(0.18)			〃
152	5.3	2.1	1.7	(0.19)			〃
153	5.3	2.2	2.1	0.20			〃
154	5.3	2.3	1.7	0.20			〃

No.	直径	長さ	孔径	重量	図番号	備考	
155	5.3	2.3	1.9	(0.18)			滑石製臼玉
156	5.3	2.4	1.9	0.18			〃
157	5.3	2.5	1.4	0.21			〃
158	5.3	2.5	1.6	0.21			〃
159	5.3	2.5	1.7	0.25			〃
160	5.3	2.6	1.6	(0.18)			〃
161	5.3	2.6	2.2	0.22			〃
162	5.3	2.8	1.4	(0.22)			〃
163	5.3	2.9	1.7	0.22	第53図20		〃
164	5.3	3	1.7	0.23	第53図21		〃
165	5.3	3.1	1.7	0.23			〃
166	5.3	(1.3)	1.8	(0.17)			〃
167	5.3	(2.1)	1.9	(0.18)			〃
168	5.3	(2.7)	1.4	(0.22)			〃
169	5.3	(1.3)	2	(0.16)			〃
170	5.3	(1.5)	1.7	(0.17)			〃
171	5.3	(1.6)	1.5	(0.17)			〃
172	5.3	(1.6)	1.9	(0.17)			〃
173	5.3	(2.2)	1.6	(0.19)			〃
174	5.3	(2.2)	1.7	(0.20)			〃
175	5.3	(2.8)	1.6	(0.19)			〃
176	5.4	(1.7)	1.7	(0.19)			〃
177	5.4	(1.8)	1.7	(0.18)			〃
178	5.4	2.2	1.6	(0.21)			〃
179	5.4	2.5	1.4	(0.20)			〃
180	5.4	2.6	1.8	(0.19)			〃
181	5.4	2.6	2	(0.21)			〃
182	5.4	2.7	1.6	0.22			〃
183	5.4	2.7	1.7	(0.22)			〃
184	5.4	2.8	1.7	0.24	第53図22		〃
185	5.4	2.8	1.7	0.22			〃
186	5.4	3.1	1.4	0.22			〃
187	5.4	3.1	1.7	0.23			〃
188	5.4	3.2	1.7	0.23			〃
189	5.4	(1.8)	1.5	(0.18)			〃
190	5.4	(2.4)	1.7	(0.18)			〃
191	5.4	(2.7)	1.6	(0.20)			〃
192	5.4	(1.7)	1.7	(0.05)			〃
193	5.4	(1.9)	1.4	(0.20)			〃
194	5.4	(2.2)	1.7	(0.19)			〃
195	5.4	(2.2)	1.7	(0.19)			〃
196	5.4	(2.3)	1.4	(0.19)			〃
197	5.4	(2.6)	1.8	(0.21)			〃
198	5.4	(3.0)	1.4	(0.22)			〃
199	5.5	2.0	1.7	0.20			〃
200	5.5	2.3	1.6	0.22			〃
201	5.5	2.4	1.6	(0.21)			〃
202	5.5	2.4	1.9	0.11			〃
203	5.5	2.4	2	0.23			〃
204	5.5	2.6	2	(0.22)			〃
205	5.5	2.7	1.5	0.24			〃
206	5.5	2.7	1.8	0.22	第53図23		〃
207	5.5	2.8	1.7	0.23			〃
208	5.5	2.8	1.7	0.21			〃
209	5.5	2.9	1.7	0.23	第53図24		〃
210	5.5	3.0	1.8	0.24			〃
211	5.5	3.1	2.2	0.22			〃
212	5.5	3.1	1.8	0.23			〃
213	5.5	3.1	2	0.23	第53図25		〃
214	5.5	3.4	1.7	0.26			〃
215	5.5	3.9	2.2	(0.18)	第53図26		〃
216	5.5	4.2	1.7	(0.18)	第53図27		〃
217	5.5	(1.6)	1.4	(0.18)			〃
218	5.5	(1.6)	1.7	(0.18)			〃
219	5.5	(1.8)	1.5	(0.21)			〃
220	5.5	(1.1)	2	(0.14)			〃
221	5.5	(1.2)	1.7	(0.16)			〃
222	5.5	(1.4)	1.7	(0.17)			〃
223	5.5	(1.5)	1.8	(0.16)			〃
224	5.5	(1.6)	1.8	(0.17)			〃
225	5.5	(1.7)	1.6	(0.17)			〃
226	5.5	(1.8)	1.7	(0.18)			〃
227	5.5	(1.9)	1.7	(0.19)			〃
228	5.5	(1.9)	1.7	(0.19)			〃

No.	直径	長さ	孔径	重量	図番号	備考	
229	5.5	(2.1)	1.8	(0.16)			〃
230	5.5	(2.4)	1.6	(0.19)			〃
231	5.5	(2.5)	1.7	(0.21)			〃
232	5.5	(2.8)	1.6	(0.22)			〃
233	5.5	(2.8)	1.7	(0.22)			〃
234	5.5	(2.8)	1.9	(0.20)			〃
235	5.5	(2.0)	1.4	(0.19)			〃
236	5.5	1.9/2.2	1.6	0.20	第53図28		〃
237	5.5	1.9/2.5	2.1	0.19			〃
238	5.5	2.1/2.6	2.1	0.22			〃
239	5.5	2.3/3.5	1.8	0.22			〃
240	5.5	2.5/3.1	1.9	0.22			〃
241	5.6	2	1.7	0.20			〃
242	5.6	2	1.4	0.20			〃
243	5.6	2.4	1.8	0.26			〃
244	5.6	2.5	1.7	(0.21)			〃
245	5.6	2.5	1.4	(0.22)			〃
246	5.6	2.5	1.7	(0.22)			〃
247	5.6	2.6	1.7	0.23			〃
248	5.6	2.6	2	0.22	第53図29		〃
249	5.6	2.7	1.8	(0.23)			〃
250	5.6	2.7	1.7	(0.21)			〃
251	5.6	2.8	1.7	(0.22)			〃
252	5.6	2.8	2	0.24			〃
253	5.6	2.8	1.6	0.24			〃
254	5.6	2.9	1.8	0.25			〃
255	5.6	2.9	1.7	0.25			〃
256	5.6	2.9	2	(0.21)			〃
257	5.6	3	2	0.23	第53図30		〃
258	5.6	3.4	1.7	0.23			〃
259	5.6	3.5	1.8	0.25			〃
260	5.6	4.7	1.7	0.30	第53図31	孔偏る	〃
261	5.6	(1.2)	1.5	(0.16)			〃
262	5.6	(1.2)	1.7	(0.14)			〃
263	5.6	(1.3)	2	(0.14)			〃
264	5.6	(1.4)	1.4	(0.16)			〃
265	5.6	(1.7)	1.7	(0.18)			〃
266	5.6	(1.9)	1.7	(0.18)			〃
267	5.6	(2.2)	2	(0.17)			〃
268	5.6	(2.4)	1.7	(0.21)			〃
269	5.6	(2.5)	1.6	(0.22)			〃
270	5.6	(2.6)	1.7	(0.21)			〃
271	5.6	(2.7)	1.9	(0.22)			〃
272	5.6	(2.0)	2	(0.20)			〃
273	5.6	1.3/2.7	2	0.20			〃
274	5.6	1.5/2.3	1.7	0.18			〃
275	5.6	2.1/2.6	1.5	0.22			〃
276	5.6	2.2/2.9	1.7	0.23			〃
277	5.7	1.7	1.7	(0.21)			〃
278	5.7	2.2	1.9	0.21			〃
279	5.7	2.3	1.7	(0.19)			〃
280	5.7	2.5	1.6	0.23			〃
281	5.7	2.5	2.1	(0.22)			〃
282	5.7	2.6	1.7	0.22			〃
283	5.7	2.6	2.1	0.22			〃
284	5.7	2.6	1.5	(0.22)			〃
285	5.7	2.7	1.8	0.22			〃
286	5.7	2.8	1.9	0.24			〃
287	5.7	2.9	2	(0.22)			〃
288	5.7	3	1.9	0.23			〃
289	5.7	3	1.9	0.24	第53図32		〃
290	5.7	3.1	1.7	0.25	第53図33		〃
291	5.7	3.2	1.7	0.27	第53図34		〃
292	5.7	3.5	1.9	(0.25)			〃
293	5.7	3.5	1.7	(0.25)	第53図35		〃
294	5.7	3.6	1.9	(0.25)			〃
295	5.7	3.7	1.7	0.28	第53図36		〃
296	5.7	(1.5)	1.7	(0.16)			〃
297	5.7	(1.5)	1.4	(0.20)			〃
298	5.7	(1.7)	1.9	(0.17)		孔偏る	〃
299	5.7	(1.1)	1.7	(0.17)			〃
300	5.7	(1.6)	1.7	(0.18)			〃
301	5.7	(1.7)	1.7	(0.18)			〃
302	5.7	(1.8)	1.8	(0.18)			〃

No.	直径	長さ	孔径	重量	図番号	備考	
303	5.7	(1.0)	1.8	(0.14)			滑石製臼玉
304	5.7	(2.1)	1.7	(0.21)			〃
305	5.7	(2.2)	1.7	(0.21)			〃
306	5.7	(2.2)	1.7	(0.19)			〃
307	5.7	(2.3)	1.6	(0.20)			〃
308	5.7	(2.4)	1.7	(0.22)			〃
309	5.7	(2.4)	1.8	(0.22)			〃
310	5.7	(2.4)	1.7	(0.17)			〃
311	5.7	(2.0)	1.7	(0.20)			〃
312	5.7	(3.1)	2	(0.09)			〃
313	5.8	2.4	1.7	0.23			〃
314	5.8	2.5	1.7	0.24			〃
315	5.8	2.6	2	0.20			〃
316	5.8	2.7	1.9	0.22			〃
317	5.8	2.8	1.7	0.23			〃
318	5.8	3.2	1.8	0.25	第53図37		〃
319	5.8	3.2	2.6	(0.23)			〃
320	5.8	3.3	1.8	0.26			〃
321	5.8	3.3	1.7	(0.25)		孔偏る	〃
322	5.8	3.4	1.9	0.26			〃
323	5.8	3.4	1.9	0.24	第53図38		〃
324	5.8	(1.5)	2	(0.17)			〃
325	5.8	(1.5)	1.7	(0.18)			〃
326	5.8	(1.6)	1.6	(0.19)			〃
327	5.8	(2.2)	2.1	(0.21)			〃
328	5.8	2.7/3.1	2.1	0.25			〃
329	5.9	2.8	3.3	0.24			〃
330	5.9	2.9	1.7	0.25			〃
331	5.9	3.1	1.7	0.27			〃
332	5.9	3.2	1.8	0.27	第53図39		〃
333	5.9	3.4	1.9	(0.23)			〃
334	5.9	3.6	1.8	0.28	第53図40	孔偏る	〃
335	5.9	(1.1)	1.6	(0.18)			〃
336	5.9	(1.3)	1.5	(0.18)			〃
337	5.9	(1.7)	2	(0.18)			〃
338	5.9	2.5/3.8	1.7	(0.29)			〃
339	5.9	2.6/3.9	1.9	0.28	第53図41		〃
340	6	2.8	1.6	0.27			〃
341	6	3.2	1.7	0.29			〃
342	6	3.7	1.8	(0.24)			〃
343	6.1	2.2	1.7	0.23			〃
344	6.1	2.7	2.1	0.27			〃
345	6.1	2.8	1.8	0.27			〃
346	6.1	2.8	1.7	0.25			〃
347	6.1	2.8	1.7	0.25			〃
348	6.1	3	1.7	0.27		孔偏る	〃
349	6.1	3.1	2.1	0.28	第53図42		〃
350	6.1	3.2	1.7	0.29		孔偏る	〃
351	6.1	3.3	1.8	0.28			〃
352	6.1	3.3	1.7	0.29		孔偏る	〃
353	6.1	3.3	1.8	(0.27)			〃
354	6.1	3.3	2	0.27			〃
355	5.3	3.3	2	(0.25)			〃
356	6.1	3.4	2	0.27			〃
357	6.1	3.4	1.7	0.30		孔偏る	〃
358	6.1	3.4	1.7	0.31		孔偏る	〃
359	6.1	3.5	1.9	0.31			〃
360	6.1	(1.6)	1.8	(0.20)			〃
361	6.1	(3.3)	1.8	(0.24)			〃
362	6.2	2.1	1.8	0.23			〃
363	6.2	2.5	1.8	(0.24)			〃
364	6.2	2.7	2.1	0.27			〃
365	6.2	2.8	1.8	0.27			〃
366	6.2	2.9	1.9	0.28	第53図43		〃
367	6.2	3	1.8	0.28		孔偏る	〃
368	6.2	3.2	1.8	0.32			〃
369	6.2	3.3	1.8	0.32		孔偏る	〃
370	6.2	3.3	1.8	0.28			〃
371	6.2	3.5	1.9	0.32			〃
372	6.2	3.5	1.8	0.31			〃
373	6.2	3.5	1.8	0.27	第53図44	孔偏る	〃
374	6.2	3.7	1.8	(0.32)			〃
375	6.2	3.7	1.9	0.31		孔偏る	〃
376	6.2	3.8	1.8	0.33	第53図45		〃

No.	直径	長さ	孔径	重量	図番号	備考	
377	6.2	4.8	2.2	0.35	第53図46	円錐	滑石製臼玉
378	6.3	2.4	2	0.22		孔偏る	〃
379	6.3	2.7	1.7	0.27			〃
380	6.3	2.8	1.7	0.27			〃
381	6.3	2.9	1.7	0.29			〃
382	6.3	3	2.2	0.26			〃
383	6.3	3.3	1.8	(0.28)		孔偏る	〃
384	6.3	3.4	1.7	0.32		孔偏る	〃
385	6.3	3.7	2	0.29			〃
386	6.3	4.1	1.9	(0.33)	第53図47	孔偏る	〃
387	6.3	2.3/2.8	1.7	0.26			〃
388	6.3	2.4/3.2	1.8	0.28			〃
389	6.4	2	2	0.22			〃
390	6.4	2.4	1.7	0.27	第53図48		〃
391	6.4	3.2	1.8	0.33		孔偏る	〃
392	6.4	3.3	1.9	0.32		孔偏る	〃

No.	直径	長さ	孔径	重量	図番号	備考	
393	6.5	3.3	1.9	0.32			滑石製臼玉
394	6.5	3.4	1.9	0.32	第53図49	孔偏る	〃
395	破	2.4	破	(0.16)			〃
396	破	3.5	破	(0.20)			〃
以上平均	**5.43**	**2.86**	**1.74**	**0.22**	**以上すべて土4出土品**		
土坑4	破	破	2.8	4.31	第53図50		滑石未製品
土坑4	19/24	5	3.5	3.83	第53図51		有孔円板
土坑4	35/34	4.5	1.5	9.84	第53図52		〃
土坑6	5.1	3	1.7	0.18	第53図53		滑石製臼玉
土坑6	5.1	(1.2)	2.7	0.22	第53図54		〃
土坑6	5.2	2	1.8	0.18	第53図55		〃
土坑6	5.3	(1.7)	1.7	0.20	第53図56		〃
土坑6	破	2	40	0.75	第53図57		有孔円板

と同じ５Ｃ後葉。他に滑石製臼玉４点（第53図53～56），滑石製有孔円板１点（第53図57）が出土。

７号土坑（第54図，図版 147） 平面的に出入りの激しい土坑で，幾度かの掘り直しの可能性あり。土器がかなり破片で捨てられており，ごみ捨て穴的。出土土器（第55図30～42）は30・31・35・37～39・41・53は弥生中期中葉，32～34・40・42は中期末葉で，後者がこの土坑の時期。他に砥石１点（第99図46）。

８号土坑（第54図，図版 148） 頭位を東にとる仰臥位で下肢屈葬。木棺は箱形で164×85cmの規模。釘等の使用はみられない。集石は本来積石状に盛り上げたものが沈んだ可能性が強い。打製石鏃１点は棺内だが，やや浮いており，人体貫入品とは考え難い。出土土器（第55図43～45）は43が弥生中期中葉，44が中期末葉，45は後期後葉。当木棺墓はそれ以降の時期。他に打製石鏃２点（第100図７・15），砥石（第99図47）がある。

９号土坑（第56図，図版 147） 河跡１の西岸に位置。暗褐色土の埋土。出土土器（第55図46～52）は47・49・51・52が弥生中期末葉，46・48・50が後期初葉で，後者が当土坑の時期。

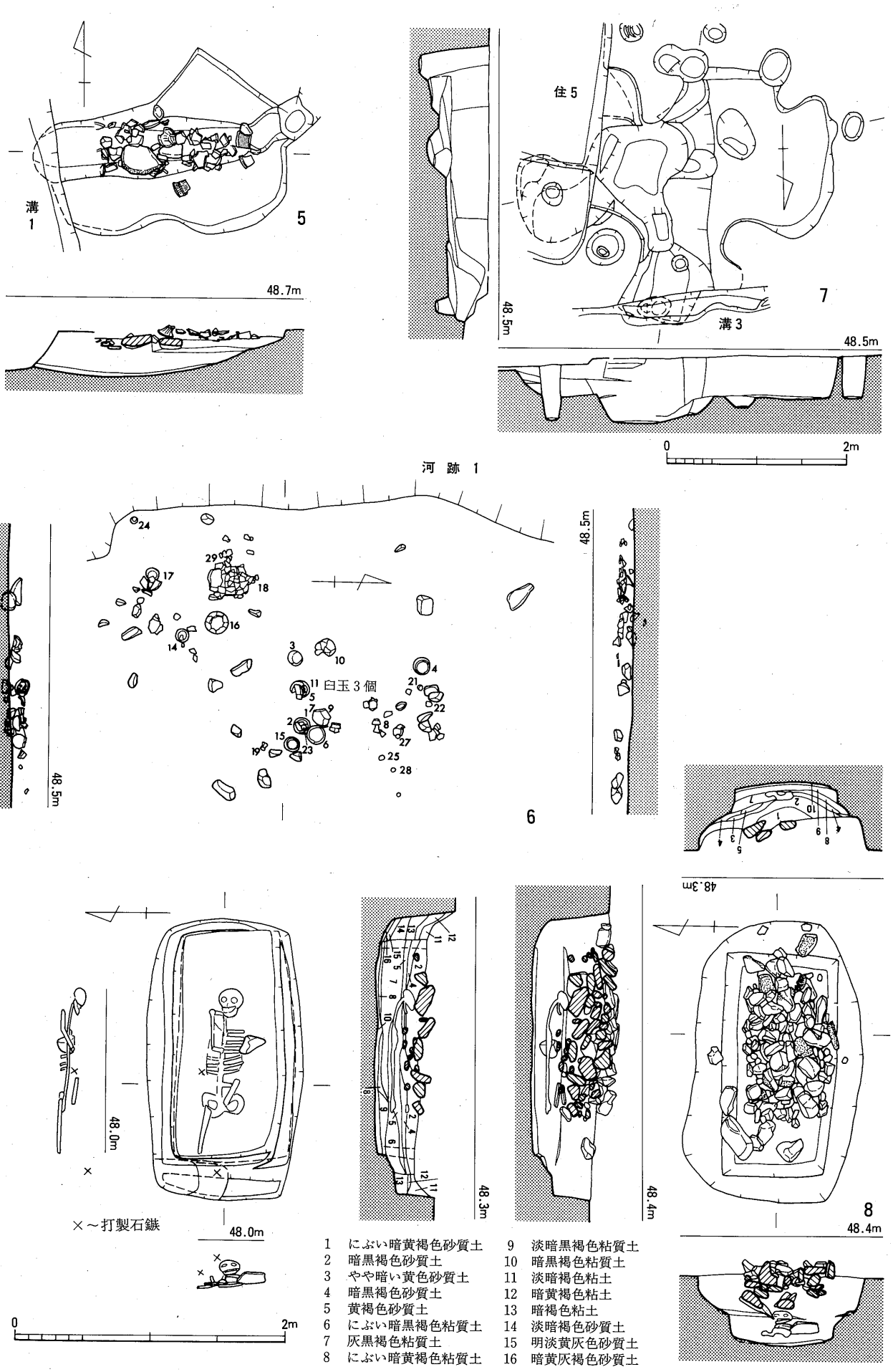
10号土坑（第56図）図上では住35を切っているようにみえるが，実際は逆。円形住居群の外縁部に位置し，廃棄土坑の一種か。出土遺物（第57図１～７）は２～５・７が弥生中期前葉，１・６が中期中葉。後者が土坑の時期。

11号土坑（第56図，図版 149） 南北に長軸をとり略長方形をなし，墓坑と考えてもよさそう。底面には小ピット等凹凸がある。出土土器（第57図８～11）は８～10が弥生中期初葉，11は中期前葉。後者が当土坑の時期。他に打製石鏃（第100図18）があるが出土状況不明。

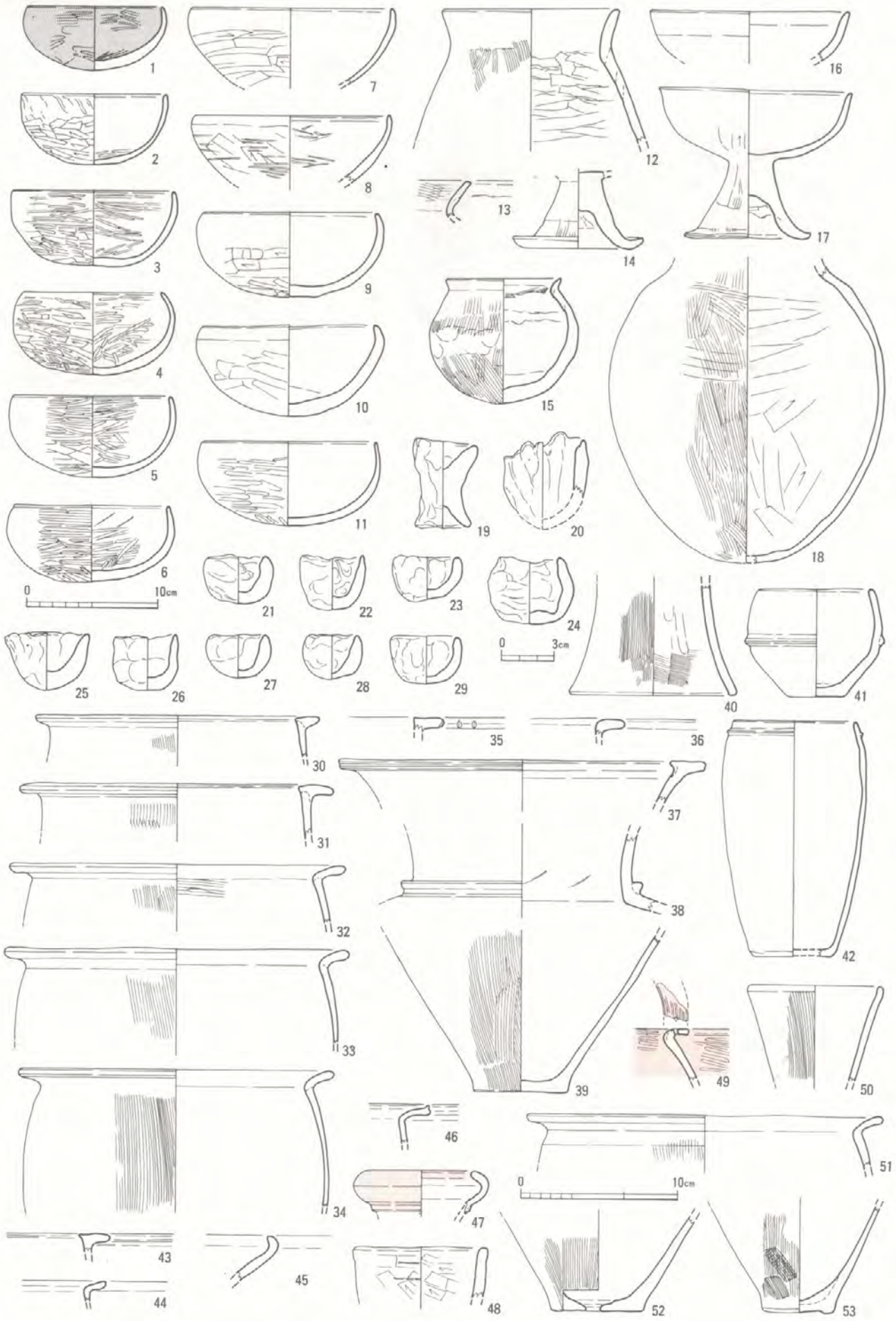
12号土坑（第56図，図版 149） 両長側壁はしっかりと掘り込まれるが，長軸線上は両端からだらだらと落ちてゆく形状。埋土は黒色土。出土土器（第57図12～21）は12・18が弥生中期初葉，14・15・19は中期前葉，13・16・17・20・21は中期末葉。他に無茎鉄鏃（第92図14），不明鉄片（第93図55），砥石（第99図48）がある。土坑の時期は弥生中期末葉。

13号土坑（第56図，図版 149） 河跡１東岸の中央付近に位置する細長い不整形土坑。南半に深い部分があり，幾度かの掘り直しがあるかもしれない。出土遺物（第57図22～27）は25が弥生後期中葉前後で，他は中期中葉の混入品。

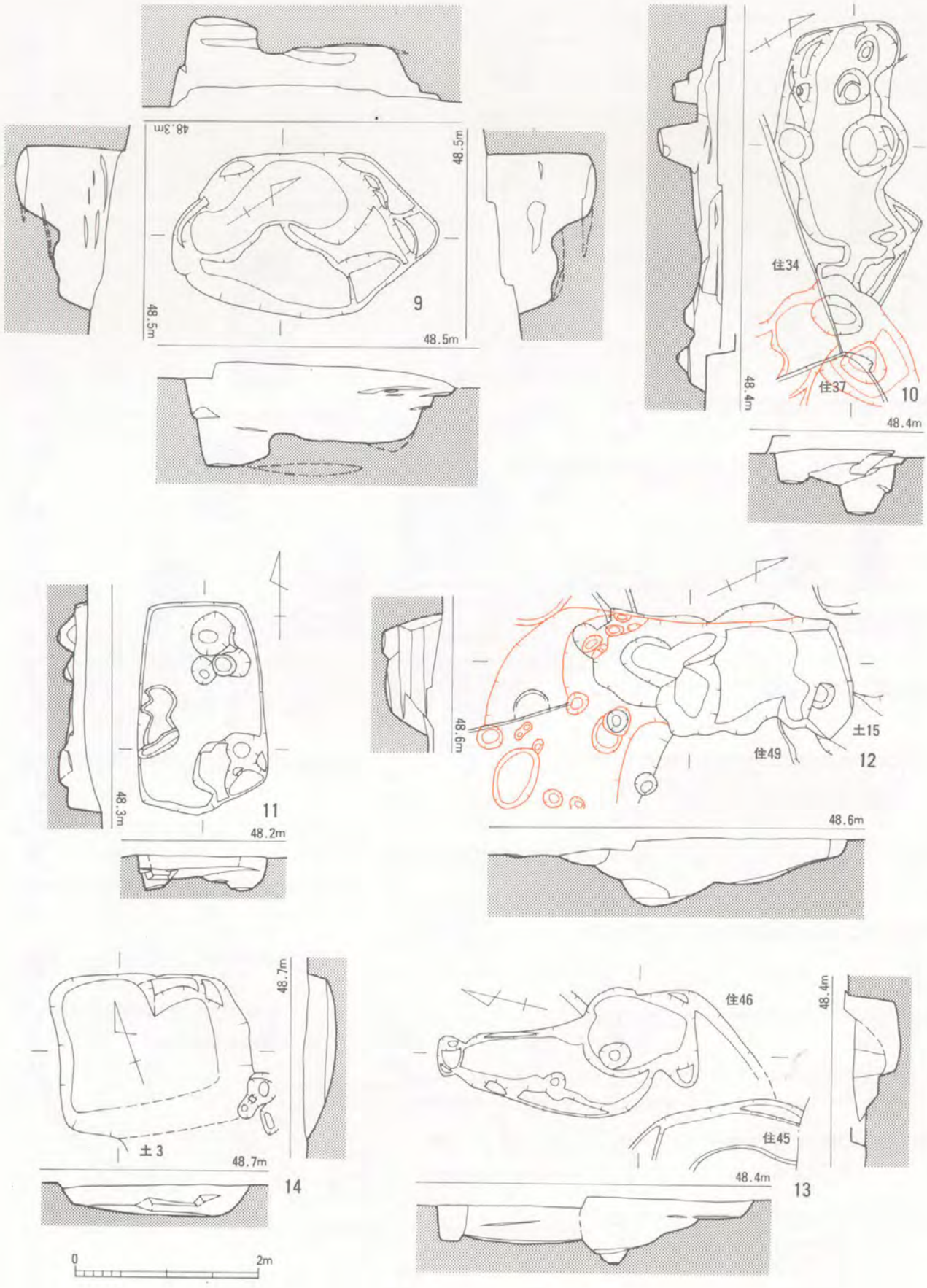
14号土坑（第56図，図版 150） 略方形プランをなし，切り合いで最古段階のため，貯蔵穴的性格も考えられる。出土遺物（第57図28～34）は29・34が弥生中期初葉，30～33は中期中葉で後者が土坑の時期。



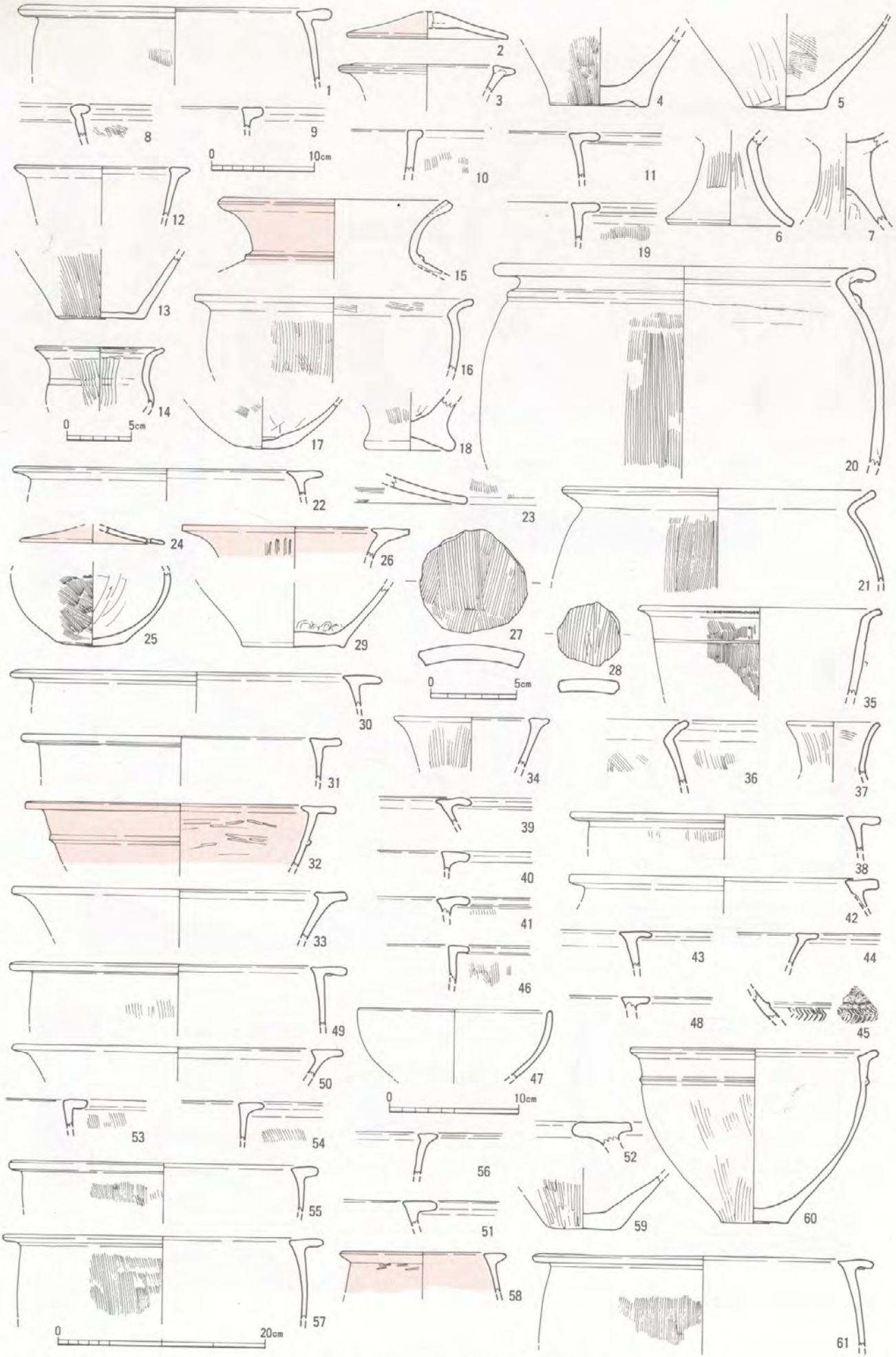
第54図　5～8号土坑実測図（7のみ1/60，他は1/40）



第55図　6～9号土坑出土土器実測図（19～29は1/3，1～17・41は1/4，他は1/5）
（1～29：土6，30～42・53：土7，43～45：土8，46～52：土9）



第56図　9～14号土坑実測図（1/60）



第57図　10～23号土坑出土土器実測図（27・28は1/3，14・47は1/4，他は1/5）
（1～7：土10，8～11：土11，12～21：土12，22～27：土13，28～34：土14，35～39：土15，40・41：土17，42～45：土18，46～48：土19，49・50：土20，51・52：土21，53～56：土22，57～61：土23）

15号土坑（第58図，図版 150） 寸詰まり長方形プランをなし，底面が平坦なことから土坑墓的性格も考えられる。底面で165×98cmの規模。出土遺物（第57図35～39）は35が弥生前期末，38･39が中期中葉，36・37が中期末～後期初葉でこれが土坑の時期。

16号土坑（第58図，図版 150） 円形の住50床面検出時に確認したもので，住50より古い可能性もある。小土坑で，大型柱穴的でもある。出土遺物のうち実測に耐え得るものは無いが，切合関係からみて弥生中期前後であろう。

17号土坑（第58図，図版 150） 住50床面検出時に確認したが，住50を切る可能性がある。端正な長方形プランと平坦な底面形状から，土坑墓の可能性がある。出土土器（第57図40・41）は40が弥生中期前葉，41が中期中葉。ただし住50を切る事から当土坑の時期は弥生中期中葉以降。他に砥石（第99図49）が出土。

18号土坑（第58図，図版 150） Ⅰ区とⅢ区の境目に位置し，南半のⅢ区側は検出しないままとなった。底面平坦で壁は直となるしっかりとした遺構だが，全容が確認できず性格は不明。出土遺物（第57図42～45）は42～44が弥生中期中葉，45はヘラ描きで前期末葉。住49を切る事から当土坑は弥生後期前葉以降。

19号土坑（第58図，図版 151） 底面の凹凸やプランの形状から，何回かの掘り直しが行われた廃棄土坑と想定される。出土土器（第57図46～48）は46が弥生中期前葉の古い段階，48が中葉に近いもので，当土坑の時期は弥生中期前葉の中に収まる。他に打製石鏃（第100図２）出土。

20号土坑（第58図，図版 151） 住７に切られて西半部が残らないが，床面が不安定なことや長過ぎることから，墓ではないと思われる。出土土器（第57図49・50）は弥生中期中葉で当土坑の時期を示す。他に砥石（第99図50）が出土。

21号土坑（第58図，図版 150） Ⅰ区とⅢ区の境目にあり，Ⅲ区側の南半の形状が確認できないが，周辺の遺構にすべて切られる事から，方形貯蔵穴的性格となろう。黒色土埋土。出土遺物（第57図51・52）は弥生中期前葉でも中葉に近い時期。

22号土坑（第58図，図版 151） 暗褐色土埋土で，底面の凹凸が著しい事から，ごみ捨て穴的な廃棄土坑と思われる。出土土器（第57図53～56）は弥生中期前葉。他に砥石（第99図51）出土。

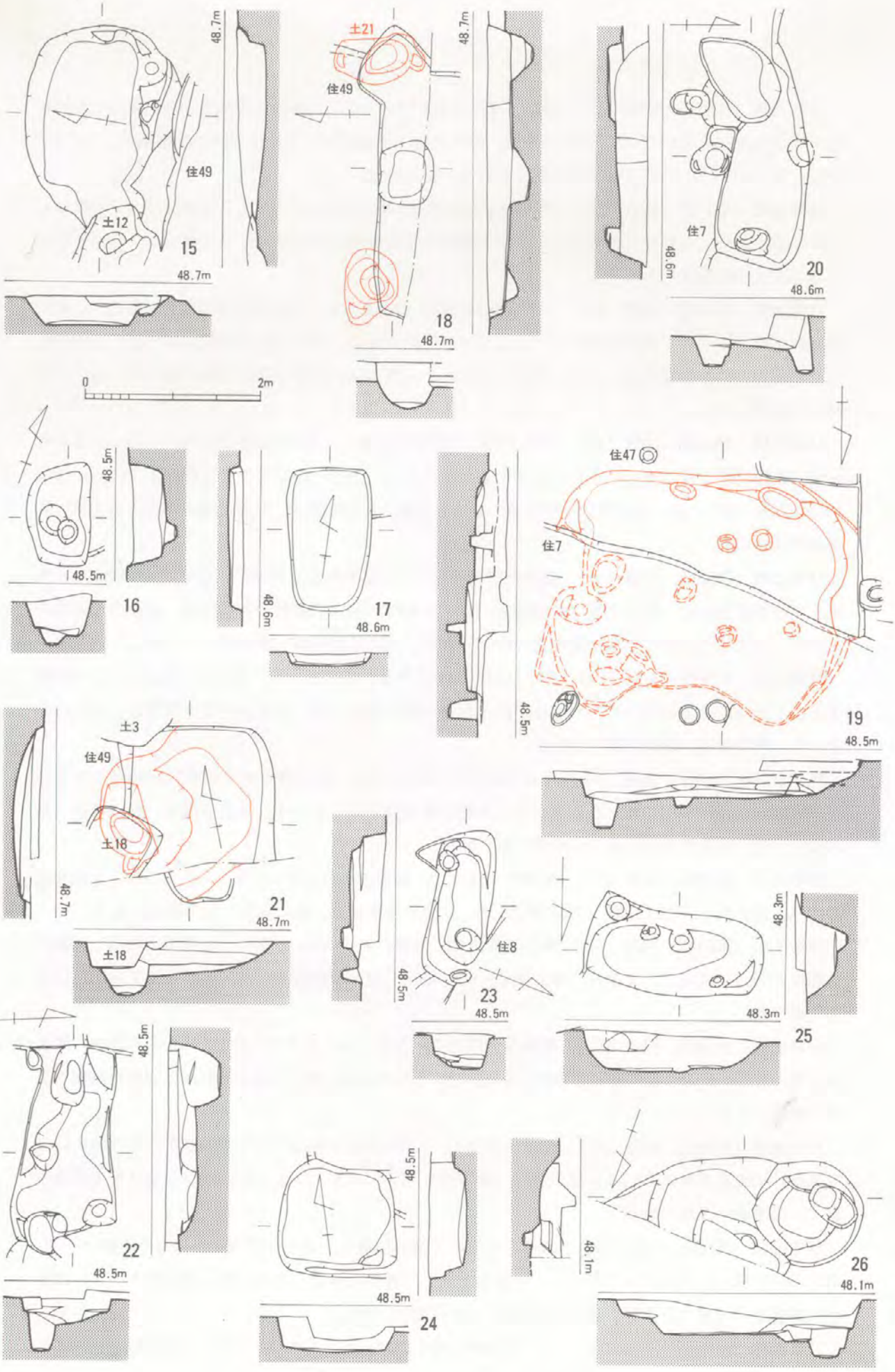
23号土坑（第58図，図版 152） 黒色土埋土で，底面は110×42cmとなり，小児用２段掘土坑墓の可能性が考えられる。出土遺物（第57図57～61）は58～60が中期前葉だが，他からみて当土坑は弥生中期中葉。

24号土坑（第58図，図版 152） 暗褐色土埋土で，方形で整ったプランをなす事から，貯蔵穴的性格を考えることができる。出土遺物のうち実測できるものは無いが，切合や形状から弥生中期初～前葉と想像される。

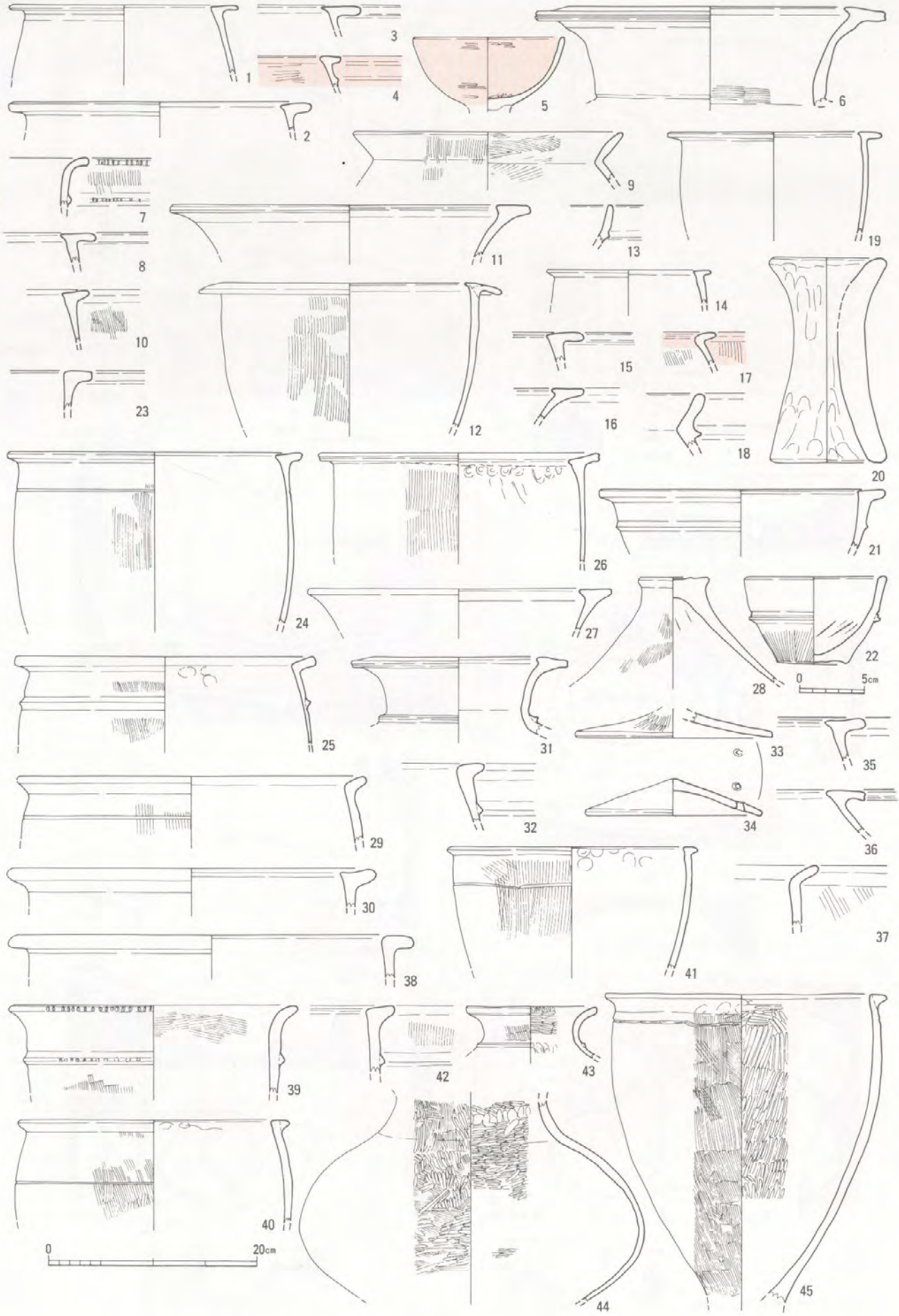
25号土坑（第58図，図版 152） 黒色土埋土で，底面は144×59cmの規模で，壁がかなり斜めにはなるが，土壙墓と考えられる。出土遺物（第59図１～６）は１・４が中期前葉だが他は弥生中期中葉で，後者が当土坑の時期。

26号土坑（第58図，図版 153） 河跡１東岸の北端に位置し，北半は調査区外になり全容は不明。西端の円形部分は大型柱穴であろう。暗褐色土埋土で性格は未詳。出土土器（第59図７・８）は７が前期後葉，８が中期中葉。他に磨製石鏃（第95図28）出土。

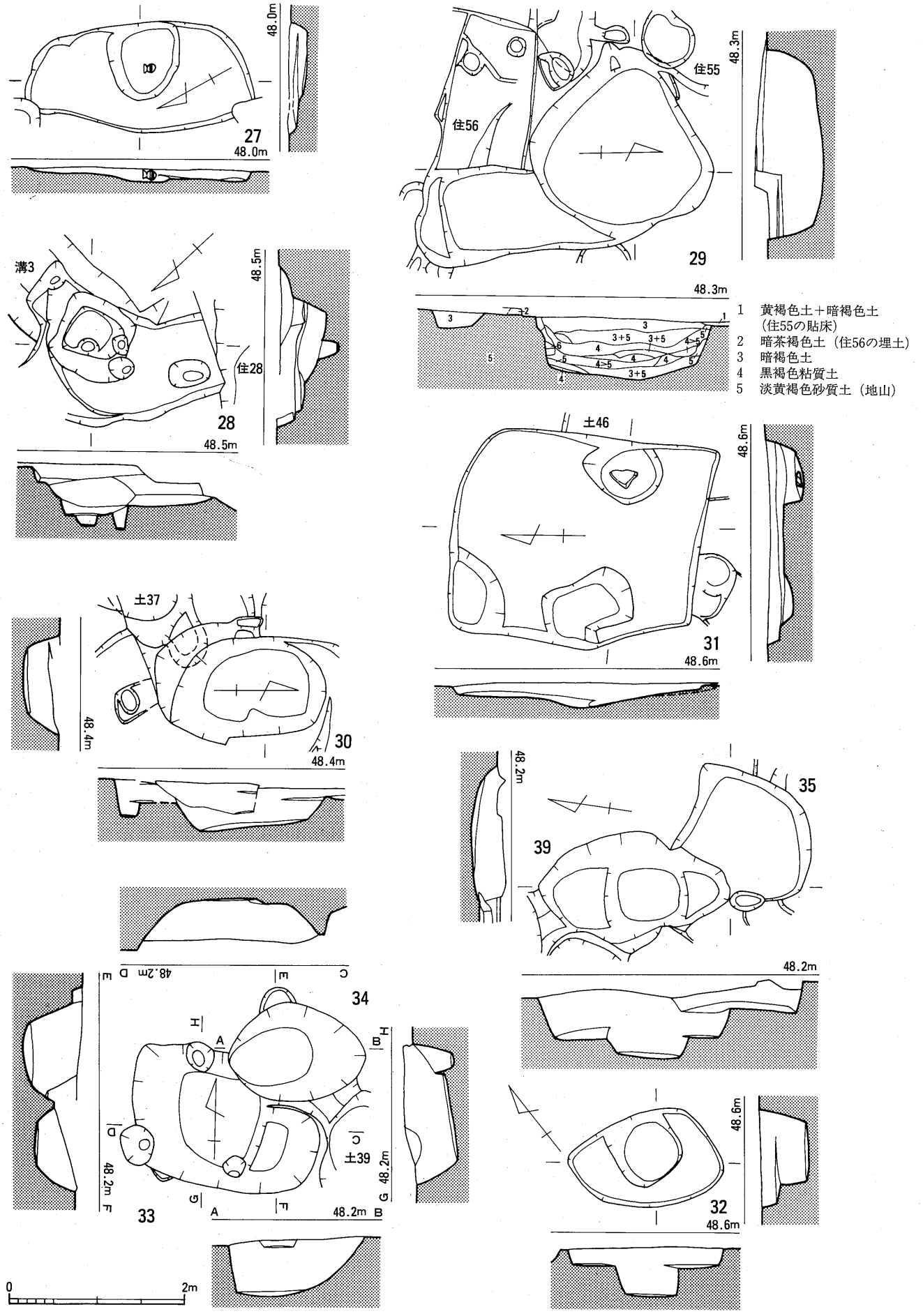
27号土坑（第60図，図版 153） 住15床面検出時に確認されたもので，中央にて胴部に２条の連接



第58図　15～26号土坑実測図（1/60）



第59図　25～33号土坑出土土器実測図（22は1/4，他は1/5）
（1～6：土25，7·8：土26，9：土27，10～12：土28，13～22：土29，23～28：土30，29～34：土31，35～37：土32，38～45：土33）



第60図　27～35・39号土坑実測図（1/60）

三角凸帯を持つ小型の脚付壺が出土したが，盗難に会って現存しない。他の出土土器（第59図９）は弥生後期前葉。他に石庖丁（第94図33），砥石（第99図52）出土。

28号土坑（第60図，図版 153） 両長軸端を切られ，全容が明確でないが，底面に凹凸があり不整形プランであることから廃棄土坑と考えられる。出土遺物（第59図10～12）は10・11が弥生中期前葉的であるが12は中期中葉。

29号土坑（第60図，図版 154） 埋土が検出面で連続していたためひとつの遺構としたが，実際は明らかに略長方形土坑と円形土坑が重複したものである。出土土器（第59図13～22）は13・14・16・22が弥生中期前葉。15・19・21が中期中葉，17・18・20が中期末葉。円形の貯蔵穴部分が弥生中期前葉，長方形部分が中期末葉となろう。他に鉄刀子かと思われる鉄器（第93図65），鉄錆部分片３個が出土。

30号土坑（第60図，図版 154） 埋土が黒色土でわりと整然とした楕円形プランの掘り込みであるため，貯蔵坑と判断した。出土土器（第59図23～28）は23が古い様相を持つが，全体として弥生中期前葉。当土坑の時期を示す。他に石庖丁（第94図34）出土。

31号土坑（第60図，図版 155） 暗褐色土の埋土で，広い寸詰まり長方形プランの浅いものである事から木棺使用等の墓かと想像されるが確証は無い。出土土器（第59図29～34）は29・32・34が弥生中期初葉，30・31・33が中期前葉古段階。他に細根鉄鏃片のような棒状鉄器（第92図15）出土。

32号土坑（第60図，図版 155） 暗褐色土埋土で，底面はほぼ平らだが中央部が深くなる。遺構の性格は不明。出土遺物（第59図35～37）は35・36が弥生中期中葉，37が後期前葉。

33号土坑（第60図，図版 155） 黒色土の埋土で，円形の住64床面下に集中する土坑のひとつ。深くて摺鉢状の壁をなすが，貯蔵穴的性格であろう。出土遺物（第59図38～45）は39が弥生前期後葉の他は中期初葉の良好なセット。

34号土坑（第60図，図版 155） 住64の床面下にて検出した深い土坑群のひとつである。黒色土の埋土で深く摺鉢状となり，貯蔵穴の性格を持つ。出土土器（第61図１～３）は如意形口縁系と亀ノ甲式系の良好なセットで，弥生中期初葉。他に小型柱状片刃石のみ（第95図33）出土。

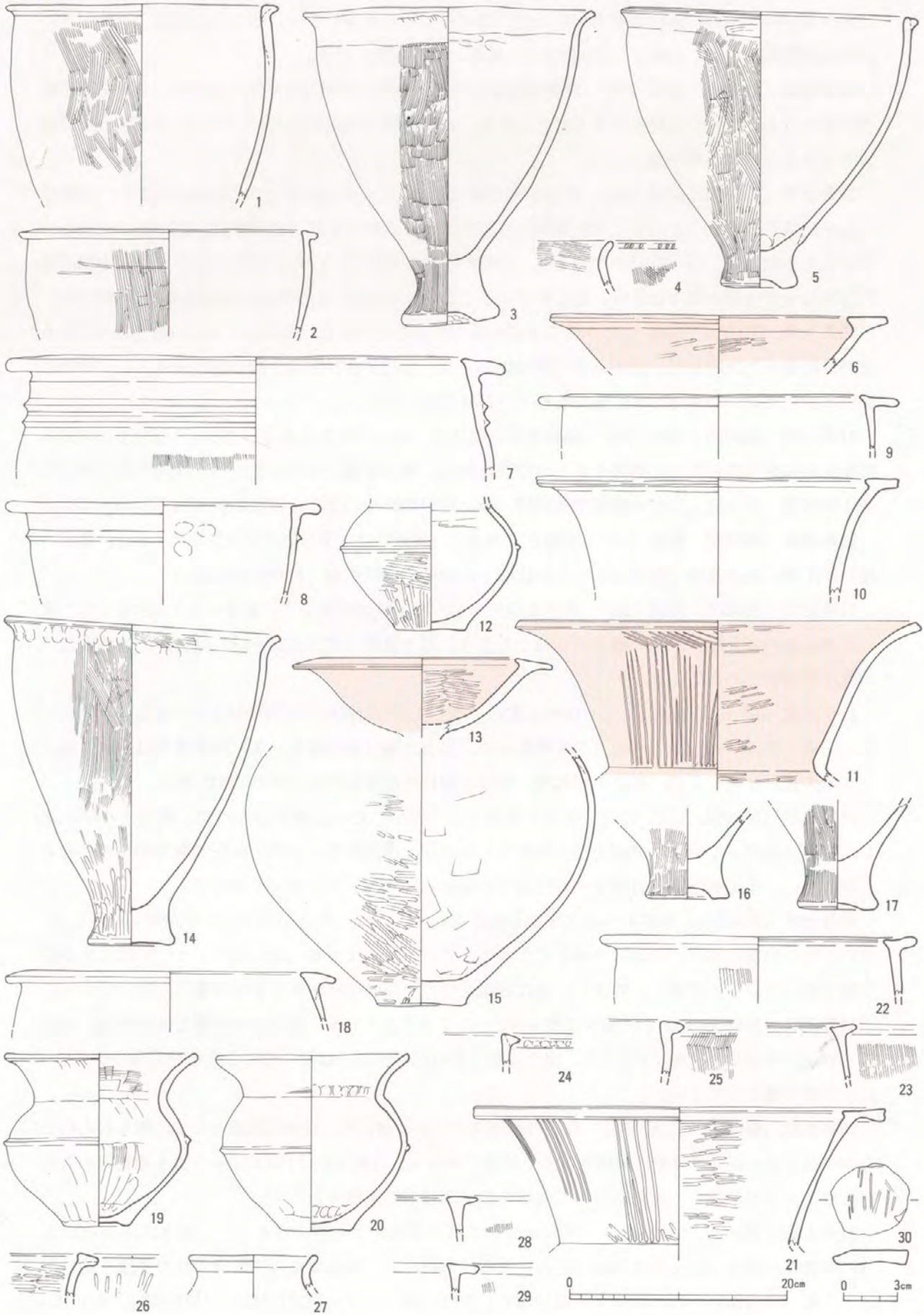
35号土坑（第60図，図版 155） 住64の床面下にて検出した土坑群のひとつで，黒色土の埋土だが，底面が波打っており，廃棄土坑の可能性も残るが，周辺の他の土坑と同じ貯蔵穴的性格と考えておきたい。出土遺物（第61図４～６）は４が弥生前期末葉，５・６が中期初葉。

36号土坑（第62図） 住37のベッド下から検出されたもので，黒色土埋土。上半が残らず浅いが，深いレベル位置に在り，貯蔵穴と考えてよさそうである。出土土器（第61図７・８）８は弥生中期前葉だが，７は中期中葉としてよい。他に石庖丁２点（第94図36と第８表整理番号102）出土。

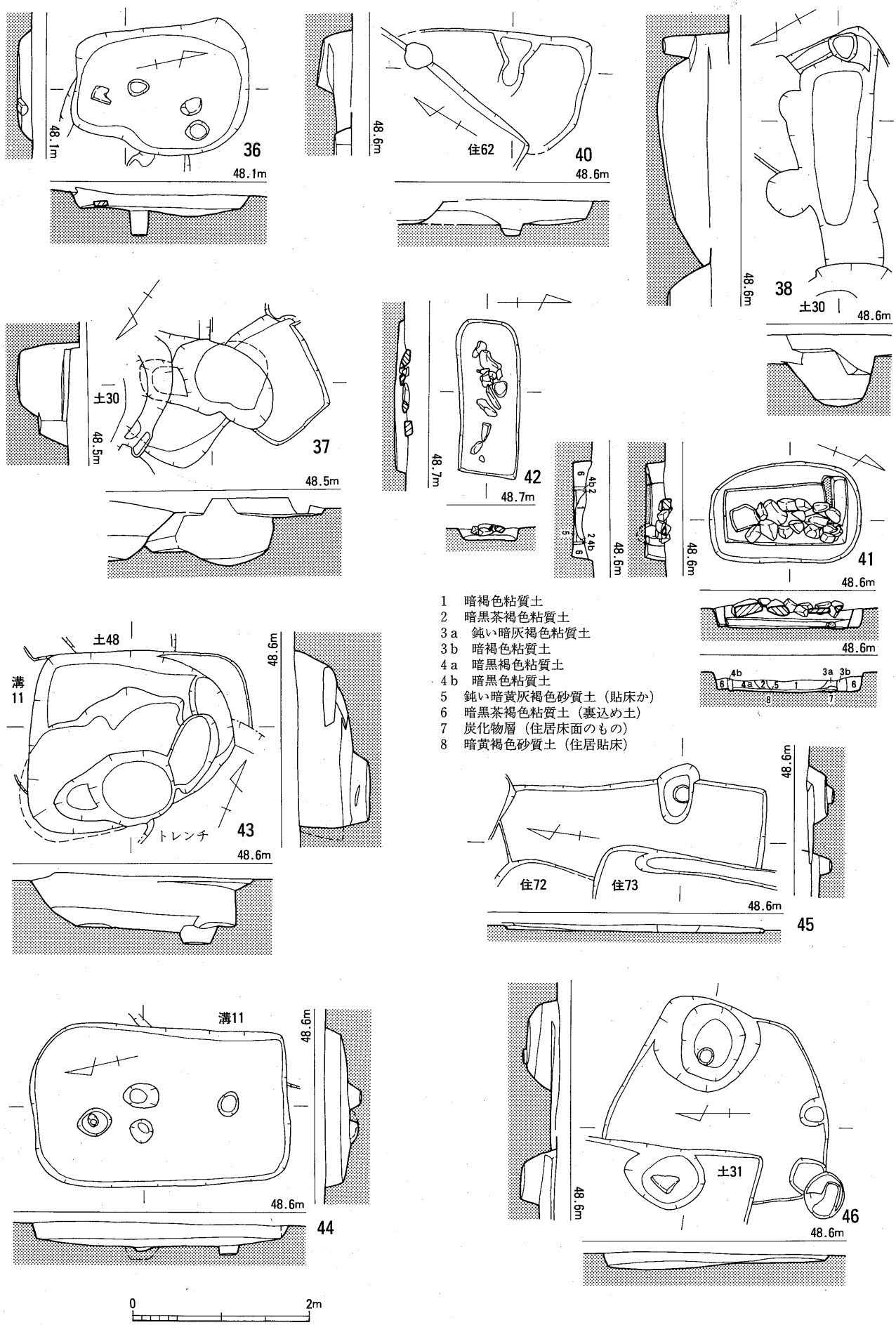
37号土坑（第62図） 深くて袋状にオーバーハング部もみられる。底面は略円形で皿状断面。底径77×83cm。小ぶりの貯蔵穴であろう。出土遺物（第61図９～13）は10～12は弥生中期前葉だが，９・13は中期中葉としてよい。

38号土坑（第62図，図版 156） 周辺の遺構すべてから切られ，底面は曲面をなす。壁も斜めになるが平面プランからみて東に頭位を置く土坑墓であろう。底面寸法は173×55cm。出土遺物のうち実測に耐えるものは無く，切合からみて弥生中期前葉以前の遺構であろう。

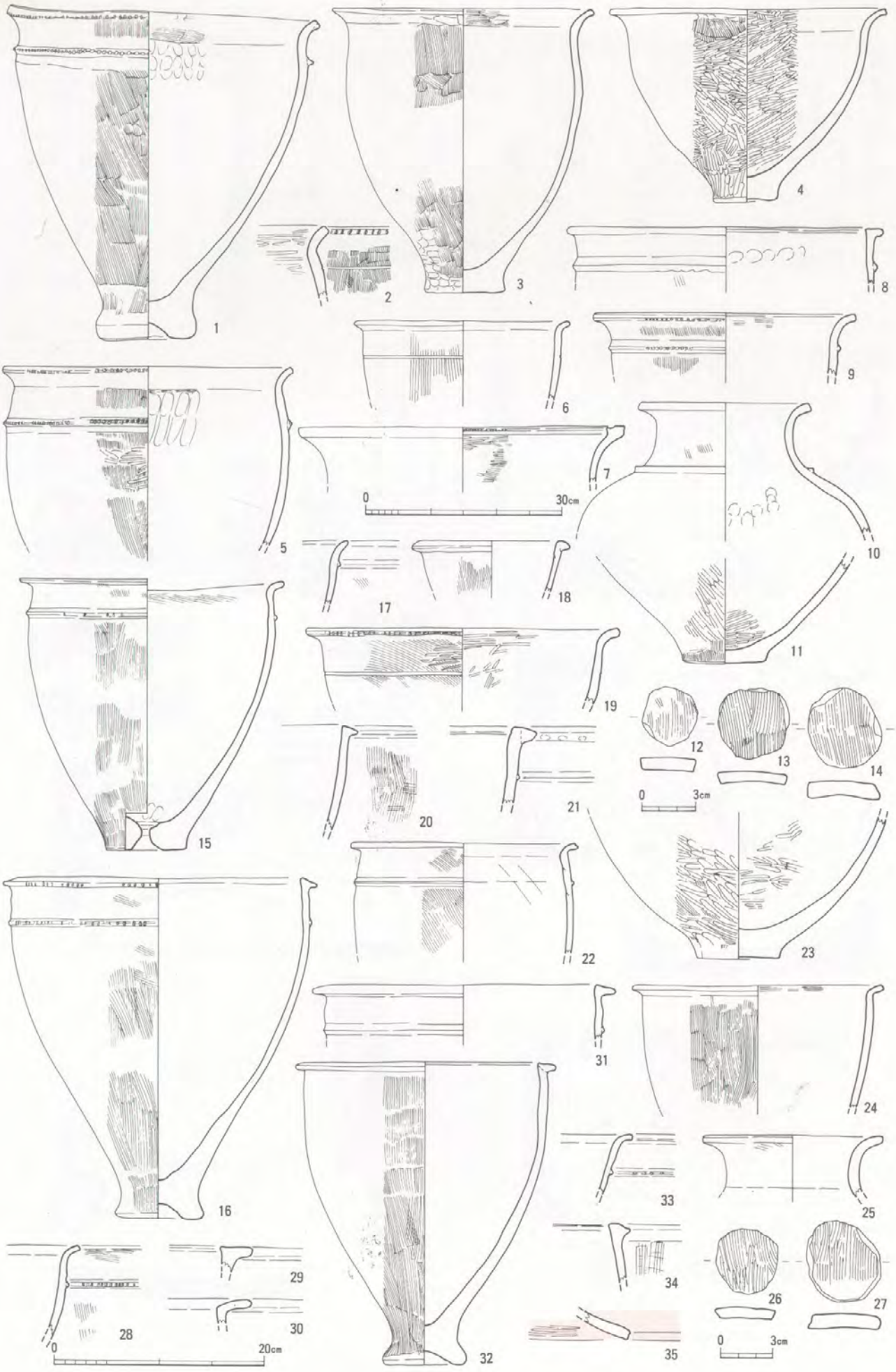
39号土坑（第60図，図版 156） 住64床面下で検出された土坑群のひとつで，南北両端が段になり，中央部が径70×60cmの深い掘り込みとなる。この深さと形状からみて貯蔵穴状の性格を持つ。出土土器（第61図14～17）は弥生中期初葉で，他に石庖丁（第94図37），砥石（第99図53）が出土。



第61図　34～37・39～42・44～46号土坑出土土器実測図（30は1/3，他は1/5）
（1～3：土34，4～6：土35，7･8：土36，9～13：土37，14～17：土39，18～20：土40，21：土41，
22･23：土42，24･25：土44，26･27：土45，28～30：土46）



第62図　36～38・40～46号土坑実測図（1/60）



第63図　43・48～50号土坑出土土器実測図（12～14・26・27は1/3，7は1/8，他は1/5）
（1～14：土43，15～27：土48，28～30：土49，31～35：土50）

40号土坑（第62図） 浅く，北西半が住62に切られるため，全容は不明。性格も確定できない。出土遺物（第61図18～20）は19・20が弥生中期前葉の様相を残すが，18は中期中葉に近く，当土坑としては後者の時期。

41号土坑（第62図，図版 156・157） 18個の塊石（砂岩１点，他は花崗岩）で覆った組合わせ式木棺墓。棺内法で140×59cm。出土土器（第61図21）は弥生中期中葉だが，住68との関係からみて当土坑の時期は弥生後期初葉以降。

42号土坑（第62図，図版 157） 花崗岩角礫が中央上面に列状に並び，覆石墓の一種かと考えられる。埋土は暗黒灰褐色土で，浅く残りが悪いが土41の近隣に位置する事から，木棺墓の可能性も残る。出土遺物（第61図22・23）は弥生中期中葉の古段階だが，当遺構の時期はそれ以降。

43号土坑（第62図，図版 157） 深くて西南側の壁がオーバーハングする。底面の凹凸が気になるが袋状竪穴の一種であろう。出土土器（第63図１～14）は１・２・５・９は弥生前期末，他は中期初葉。他に土製紡錘車（第91図11），黒曜石剝片多量が出土。

44号土坑（第62図，図版 158） 端正な長方形プランで規模が大きい為貯蔵穴の可能性も残るが，浅くて周辺に類似遺構が集中するので墓と思われる。出土遺物（第61図24・25）は弥生中期初葉。

45号土坑（第62図） 西半を住72・73に切られて全容は不明。極めて浅く残りが悪いが土44と同規模で墓と推定できる。出土遺物（第61図26・27）は弥生中期初葉。

46号土坑（第62図） 北西半を土31に切られ全容は不明。浅くて底面もやや波打っており性格は不明。出土土器（第61図28～30）は弥生中期前葉。他に石庖丁（第94図38）出土。

47号土坑（第64図，図版 158） 浅く大きい長方形土坑群の一角にあり，他と長さは略一致。北端の掘り込みは別遺構であろう。墓と考えられる。出土遺物のうち図示できるものは無いが，土44・45と同じく弥生中期初葉の遺構であろう。

48号土坑（第64図，図版 158） 底面が全体に波打ち，南方へ傾斜していることから，古い時期の溝的性格の遺構と考えられる。出土土器（第63図15～27）は15・16・19・23は弥生前期末葉，他は中期初葉。他に土製紡錘車３点（第91図１・13・20）出土。

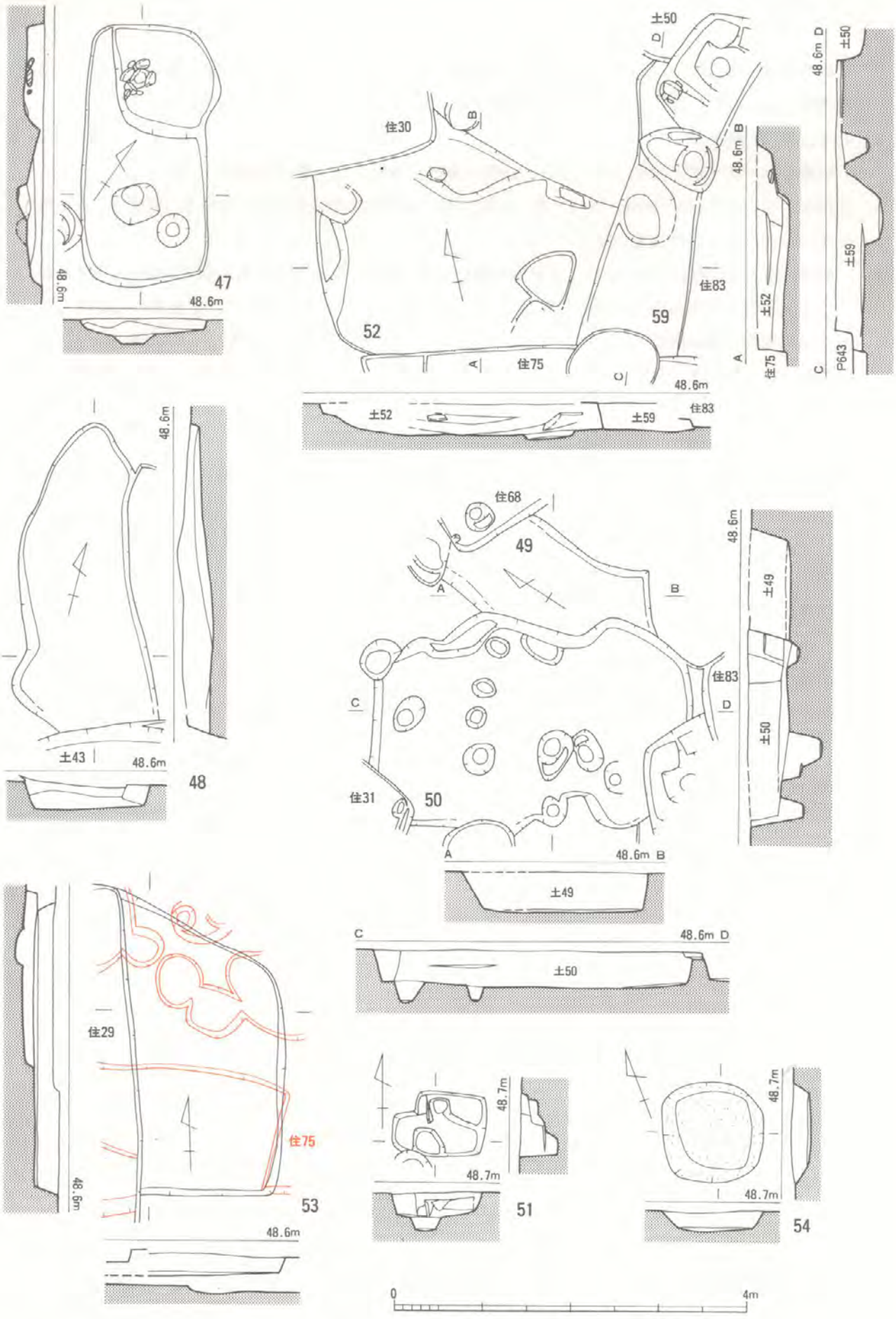
49号土坑（第64図） 南北両側を他遺構に切られるため全容は不明。掘り込みはしっかりしており単なるごみ捨穴ではなかろう。出土遺物（第63図28～30）は28が弥生前期末葉，29は中期初葉，30は中期末葉。中期初葉の土50と切り合いが逆になるものか，又は30が上層からの混入品か。恐らく遺構の時期は中期初葉。

50号土坑（第64図） 大型の土坑で，しっかりした掘り込みであり，長方形貯蔵穴の性格が考えられる。出土土器（第63図31～35）は弥生中期初葉。他に太型蛤刃石斧（第96図58），黒曜石剝片多量が出土。

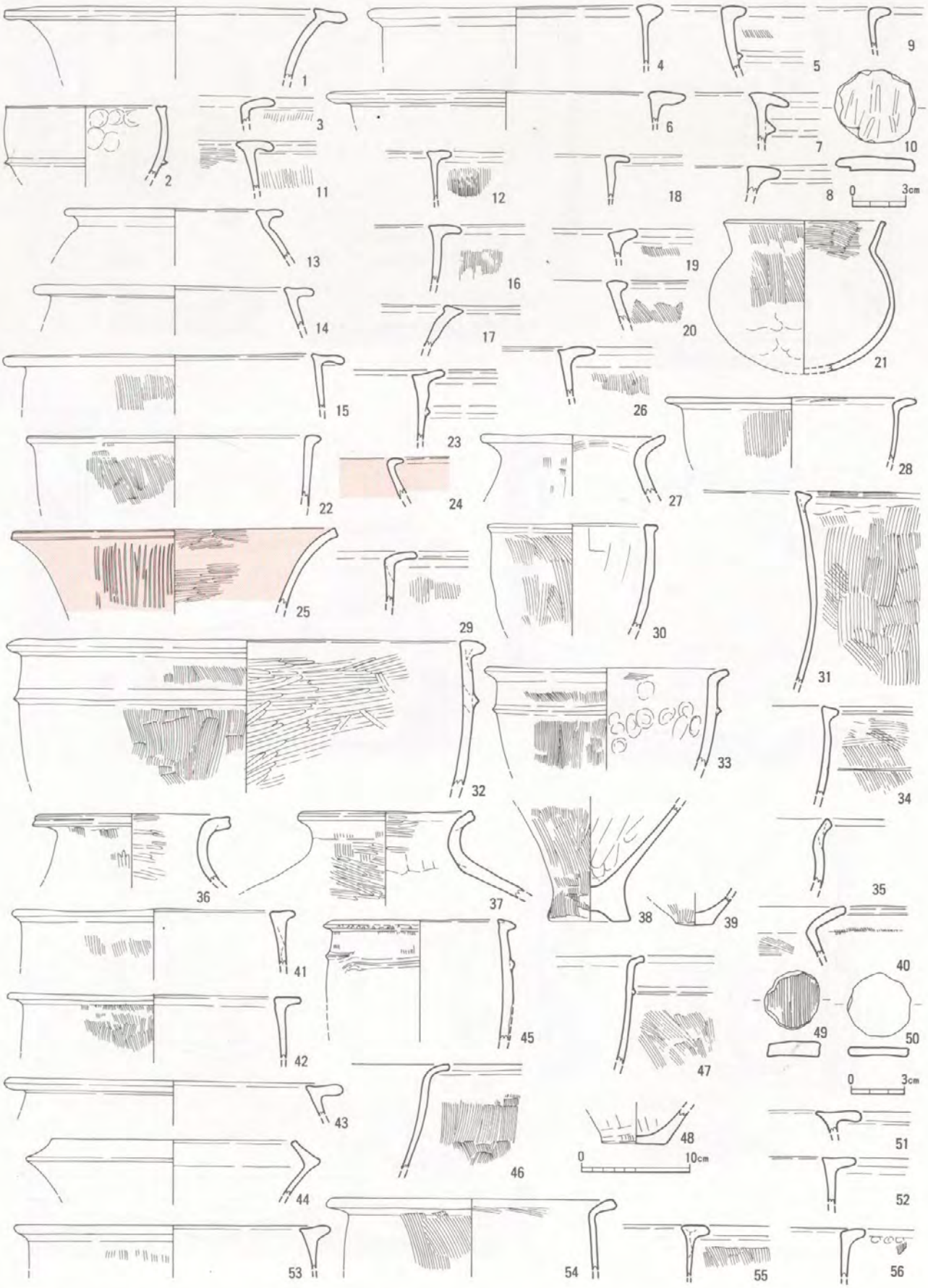
51号土坑（第64図） 小型の廃棄土坑の可能性もあるが，形状からは大型柱穴の様相もうかがえる。出土遺物（第65図１～３）は１・２は弥生中期中葉，３は中期末葉。

52号土坑（第64図） 東西両端を別遺構に切られ全容は不明確。黒色土埋土で大型のごみ捨て穴的廃棄土坑であろう。出土土器（第65図４・５）は弥生中期初葉。他に石庖丁２点（第94図39・40），安山岩製スクレイパー２点（第100図30・33），黒曜石剝片多量が出土。

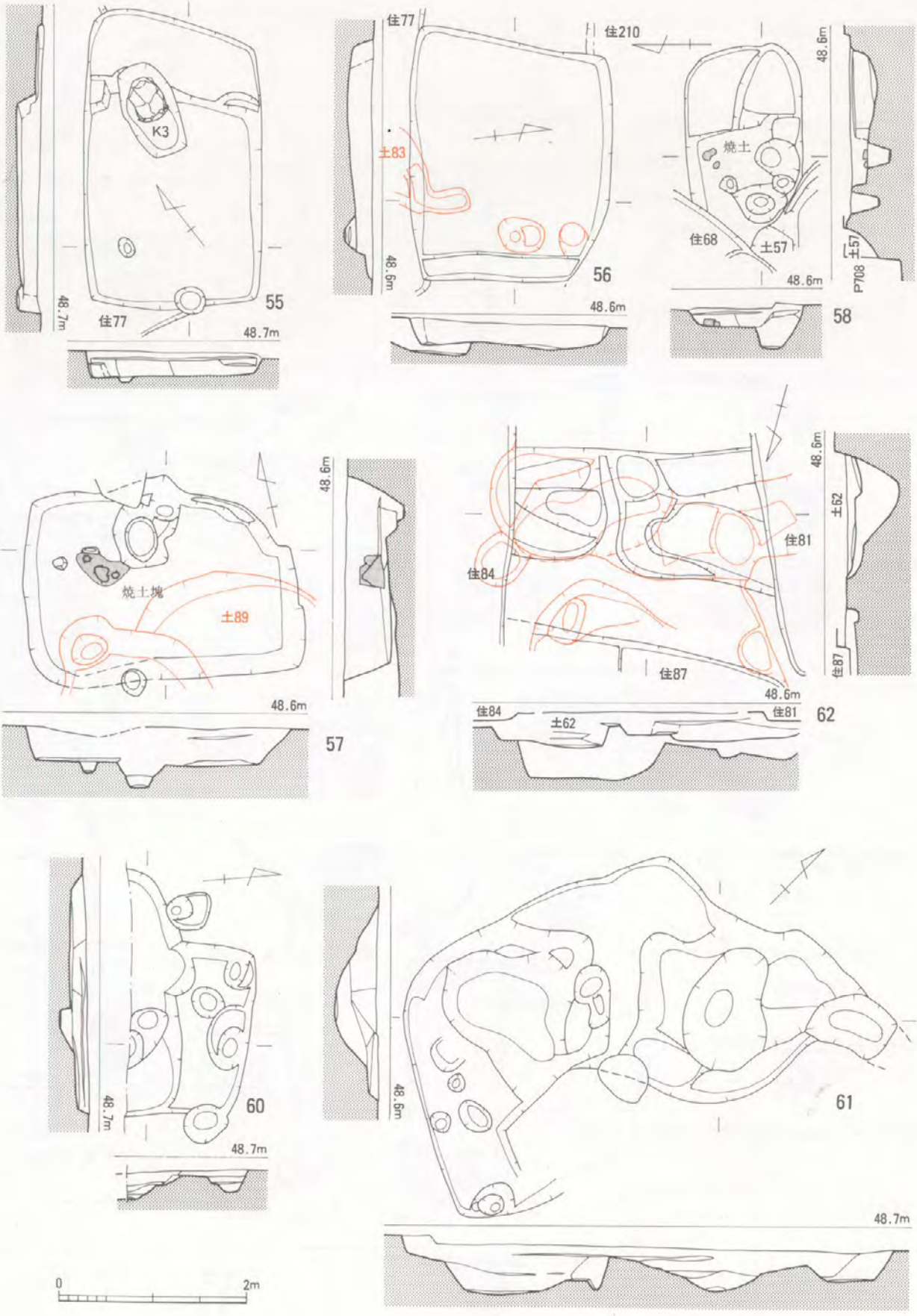
53号土坑（第64図，図版 159） 西半を住29に切られる為，全容は不明。床面平坦で黒褐色土の埋土。性格不詳だが小型住居の可能性も残る。出土遺物（第65図６・７）は弥生中期中葉。住75との



第64図　47～54・59号土坑実測図（1/60）



第65図　51～66号土坑出土土器実測図（2は1/4，10・49・50は1/3，他は1/5）
（1～3：土51，4･5：土52，6･7：土53，8：土54，9･10：土55，11～15：土57，16･17：土58，18～20：土59，21：土60，22～25：土61，26～28：土62，29～40：土63，41～50：土64，51･52：土65，53～56：土66）



第66図　55～58・60～62号土坑実測図（1/60）

関係からみて当土坑自体の時期は弥生中期末葉以降。

54号土坑（第64図，図版 159） 炭･灰を多く含む小土坑で，底に焼土部が少し認められる。住居の炉にしては大きく，屋外炉の可能性が高い。出土遺物（第65図８）は弥生中期前葉だが，切合等からみて後期の遺構となろう。

55号土坑（第66図，図版 159） 暗褐色土の埋土で，底面が平坦であり墓の可能性もあるが明確でない。出土遺物（第65図９・10）は弥生中期前葉に近い初葉段階。ただ，住77との関係からみて当土坑の時期は弥生中期前葉以降。

56号土坑（第66図，図版 160） 黒色土の埋土で寸詰まり長方形プラン。浅くて墓の可能性もある。出土遺物は打製石鏃（第100図６），砥石（第99図54）のみ。遺構の時期は弥生中～後期か？

57号土坑（第66図，図版 160） 暗褐色土埋土で西寄りに大きな焼土塊が検出された。旧状を復原し得ないが鋳造関連ではないかという気もする。出土遺物（第65図11～15）は弥生中期中葉で当土坑の時期を示す。

58号土坑（第66図，図版 160） 暗褐色土の埋土で，底面は段々となりピットもみられる。隣の土57同様に焼土塊があり同じ性格の遺構であろう。出土遺物（第65図16・17）は17が弥生中期初葉だが16は中期前葉の新段階。

59号土坑（第64図） 北・東・南側を他遺構に切られ，全容は推測もできない。埋土は黒褐色土で性格は不明。出土遺物（第65図18～20）が上面出土で弥生中期初葉，18・19は中期前葉。

60号土坑（第66図） Ⅰ区とⅢ区の境に位置する為，南半は未発掘のままで，全容が明らかでない。黒褐色土の埋土で性格は判断できない。出土遺物（第65図21）は外面下半を削りののちナデており，弥生後期後葉。

61号土坑（第66図，図版 160） 暗褐色土埋土で，平面形状から風倒木痕の暗色系土だけを掘ったもの。出土遺物（第65図22～25）は22が弥生中期初葉，23～25は中期中葉。

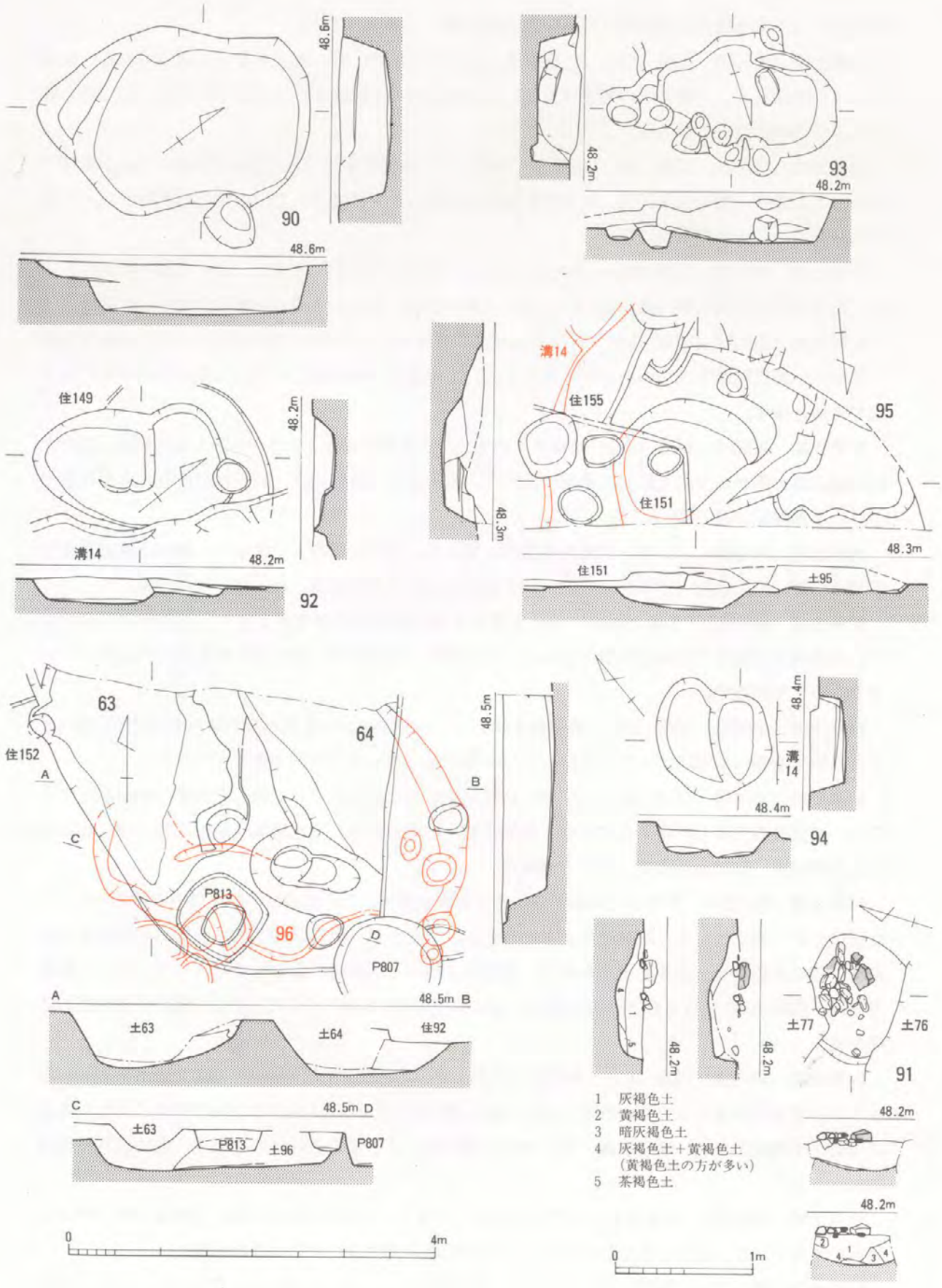
62号土坑（第66図，図版 161） 北・西・東側を他住居に切られている為，全容をつかむ事はできない。底面の凹凸著しい事からごみ捨て場的性格かと思われる。出土遺物（第65図26～28）は26が弥生中期中葉，27が前期末葉，28が中期末葉。

63号土坑（第67図） 黒褐色土の埋土で，北半は調査区外のため全容は不詳。深めで，しっかりした土坑だが，形状からみて廃棄土坑と考えられる。出土土器（第65図29～40）は29・40が弥生中期末葉で他は中期初葉。出土状況からみて，前者は上層からの撹乱によるものであろう。他に太型蛤刃石斧（第96図59），蛤刃石斧（第96図60）（50m以上離れた河跡１のものと接合），砥石（第99図55）等が出土。

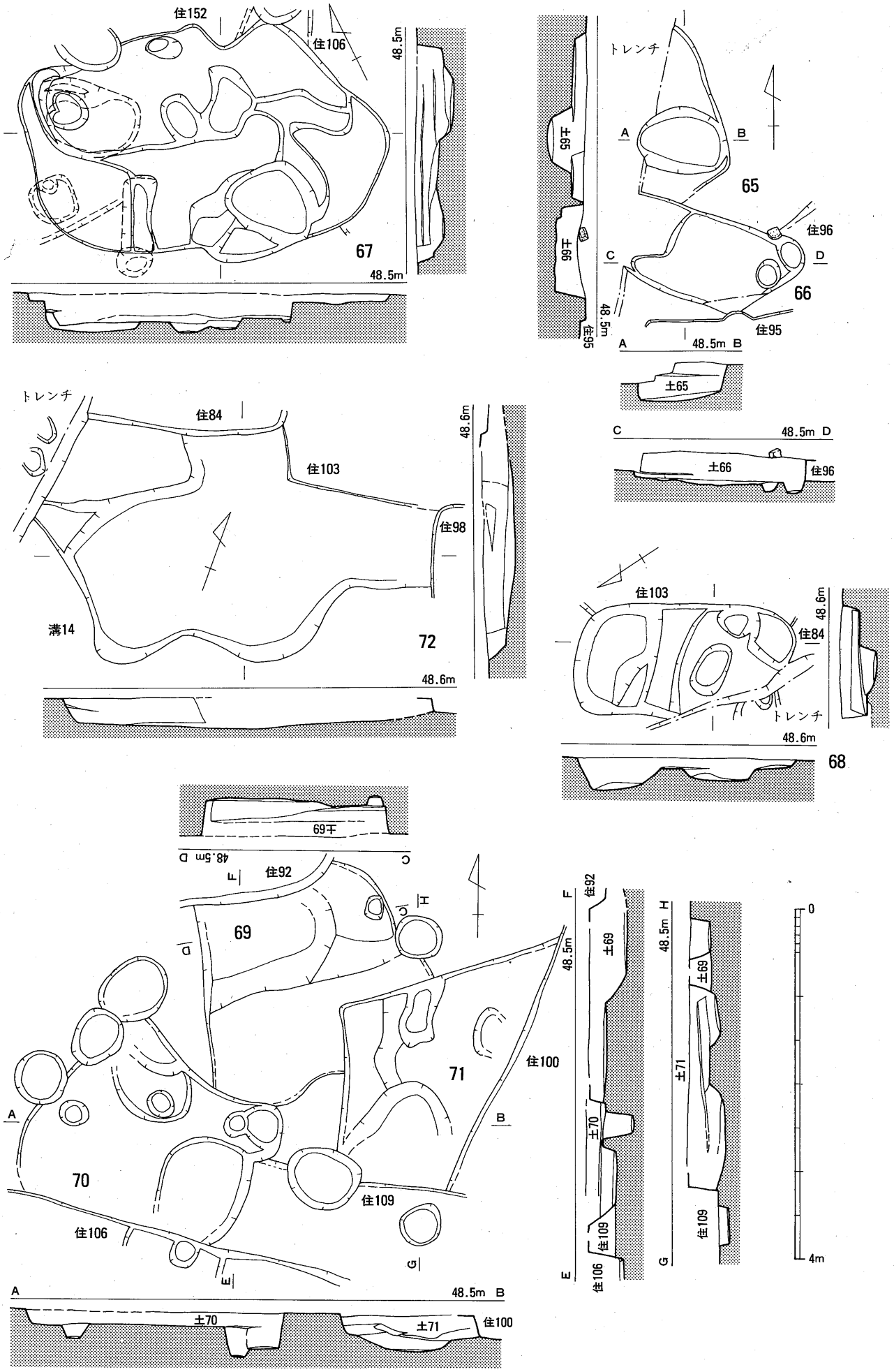
64号土坑（第67図，図版 161） 黒褐色土の埋土で，北半は調査区外にあり全容は不明。形状からみてごみ捨場的廃棄土坑と思われる。出土土器（第65図41～50）は44が弥生後期後葉で撹乱混入品，41～43が中期前葉の古～新各段階，45～48が中期初葉。よって当土坑は中期前葉。他に砥石（第99図56）が出土。

65号土坑（第68図） 暗茶褐色土の埋土で西半を試掘トレンチで削られた為，全容は不明。性格も確定できない。出土遺物（第65図51・52）は52が弥生中期前葉だが51は中期中葉。

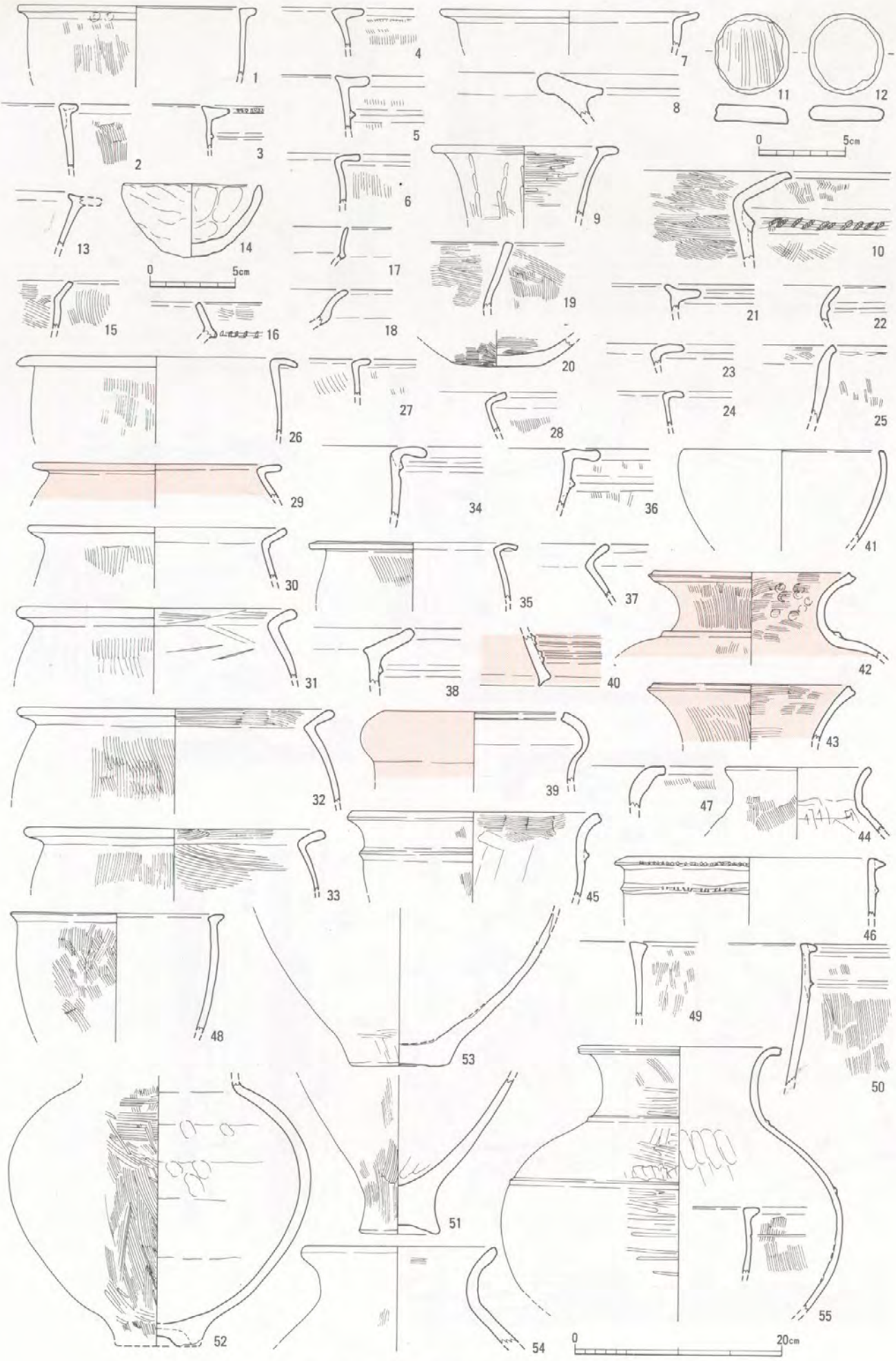
66号土坑（第68図） 黒褐色土の埋土で，西半は試掘トレンチで削られて全容は不明。底面の凹凸からみて墓ではなさそう。性格不明。出土土器（第65図53～56）は53・55・56が弥生中期前葉古段



第67図　63・64・90～96号土坑実測図（91のみ1/40，他は1/60）



第68図　65～72号土坑実測図（1/60）



第69図 67～75号土坑出土土器実測図（11・12・14は1/3，他は1/5）
（1～12：土67，13：土68，14～20：土69，21・22：土70，23～25：土71，
26～43：土72，44：土73，45～47：土74，48～56：土75）

階，54が中期末葉。他に石庖丁（第８表整理番号100）出土。

67号土坑（第68図，図版 161） 暗茶褐色土の埋土で，底面の状況から幾度かの掘り直しが考えられ，ごみ捨場的廃棄土坑となろう。出土土器（第69図１～12）は１・２が弥生中期初葉新段階，３～５・８・９が中期前葉，６が中期末葉，10が後期後葉。他に石庖丁２点（第94図41・第８表整理番号101），石戈２点（第95図19・20），打製石槍（第100図25）が出土。土坑の時期は切合等からみて弥生後期後葉。

68号土坑（第68図） 黒褐色土の埋土で，底面の凹凸が激しい事から，廃棄土坑の一種と考えられる。出土遺物（第69図13）は弥生中期中葉。切合からみて遺構の時期はそれ以降。

69号土坑（第68図） 暗茶褐色土の埋土で，南半が浅く北半が深くなり，ごみ捨場的廃棄土坑と考えられる。出土土器（第69図14～20）は17・18が弥生後期中～後葉だが，他は後期末葉。14はミニチュア。他に石庖丁（第94図42）出土。

70号土坑（第68図） 暗茶褐色土の埋土で，全体に浅めだが底面にはピット等の掘り込みがみられ廃棄土坑の一種と考えられる。出土土器（第69図21・22）は21が弥生中期中葉，22が後期末葉。他に袋付手斧的片刃の鉄斧片（第92図41），土製紡錘車（第91図12）が出土。

71号土坑（第68図） 暗茶褐色土の埋土で，底面の凹凸が激しい事から，周辺の土坑と同様，廃棄土坑と考えられる。出土土器（第69図23～25）は23・24が弥生中期末葉，25は中期初葉。他に砥石（第99図57）出土。切合等からみて，当土壙の時期は弥生後期末葉以降。

72号土坑（第68図，図版 162） 黒色土の埋土で，丹塗土器も多量出土しているため，祭祀に関る廃棄土坑と考えられる。出土土器（第69図26～43）は35・36・39～41・43が弥生中期後葉，他が中期末葉の典型例。他に太型蛤刃石斧（第96図61），石庖丁３点（第94図43～45），鉄製鑿（第92図42）が出土。

73号土坑（第70図） 茶褐色土の埋土で，形状からみて略北に頭位を有する土坑墓と考えられる。出土遺物（第69図44）は５Ｃ後葉～６Ｃ初葉。墓とすればこれが上限。

74号土坑（第70図，図版 162） 黒色土の埋土で，中央部上半はトレンチで切られるが，底部は中央に深くなる。平面形は墓のようだが，底面の形状からみて，廃棄土坑と考えられる。出土土器（第69図45～47）は46・47が弥生前期末，45が中期初葉。他に石庖丁（第94図46）が出土。

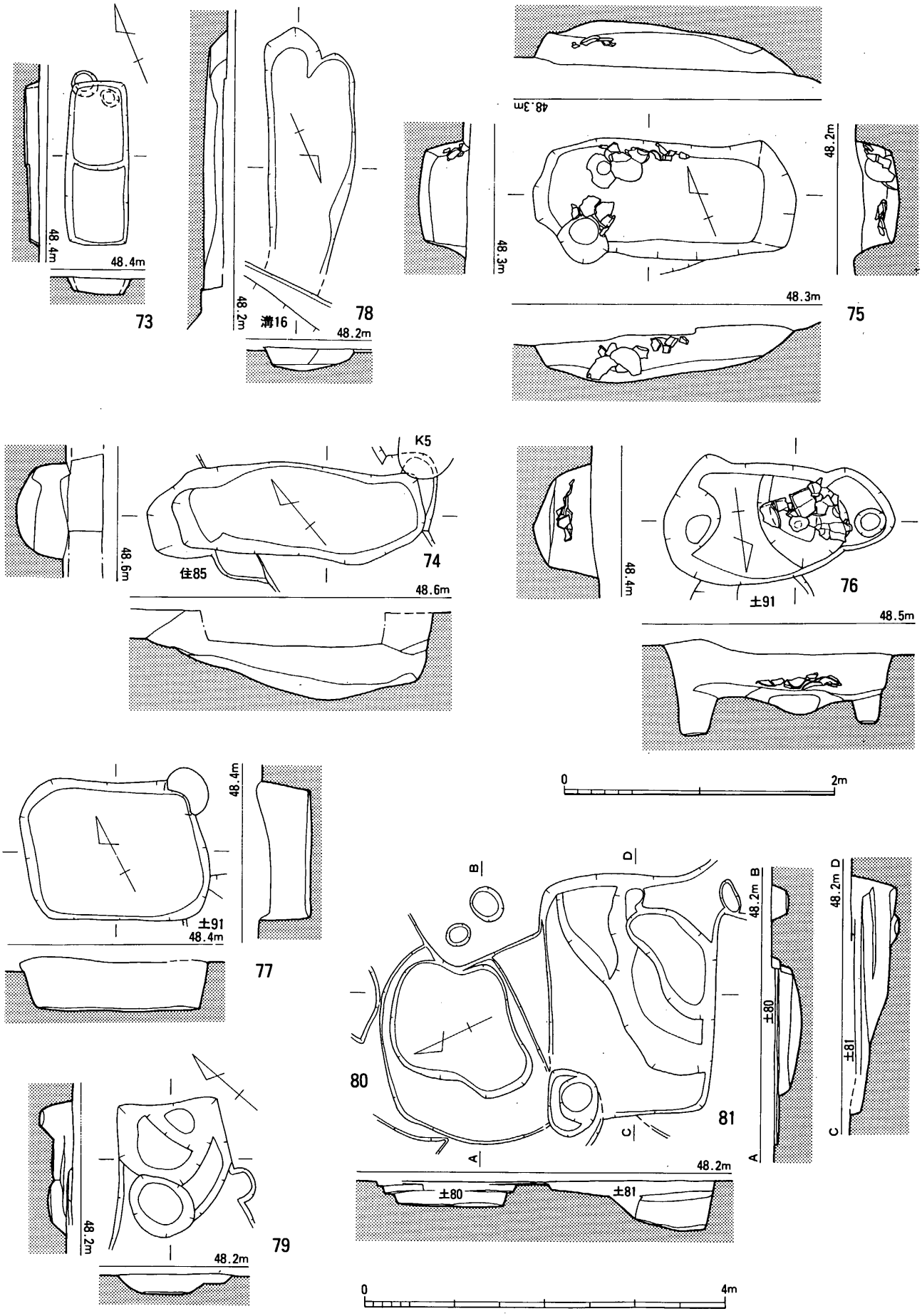
75号土坑（第70図，図版 162） 暗茶褐色土の埋土でしっかりした掘り込みだが，船底状の底面や壺の大破片の出土状況からみて，貯蔵坑というよりも廃棄土坑に近いと思われる。出土土器（第69図48～56）は弥生中期初葉の良好なセット。他に石庖丁（第94図47）が出土。

76号土坑（第70図，図版 163） 黒色土の埋土で，甕･壺の大破片の投入がみられるが，貯蔵穴的性格か。出土土器（第71図１・２）は弥生中期初葉古段階。他に砥石（第99図58）出土。

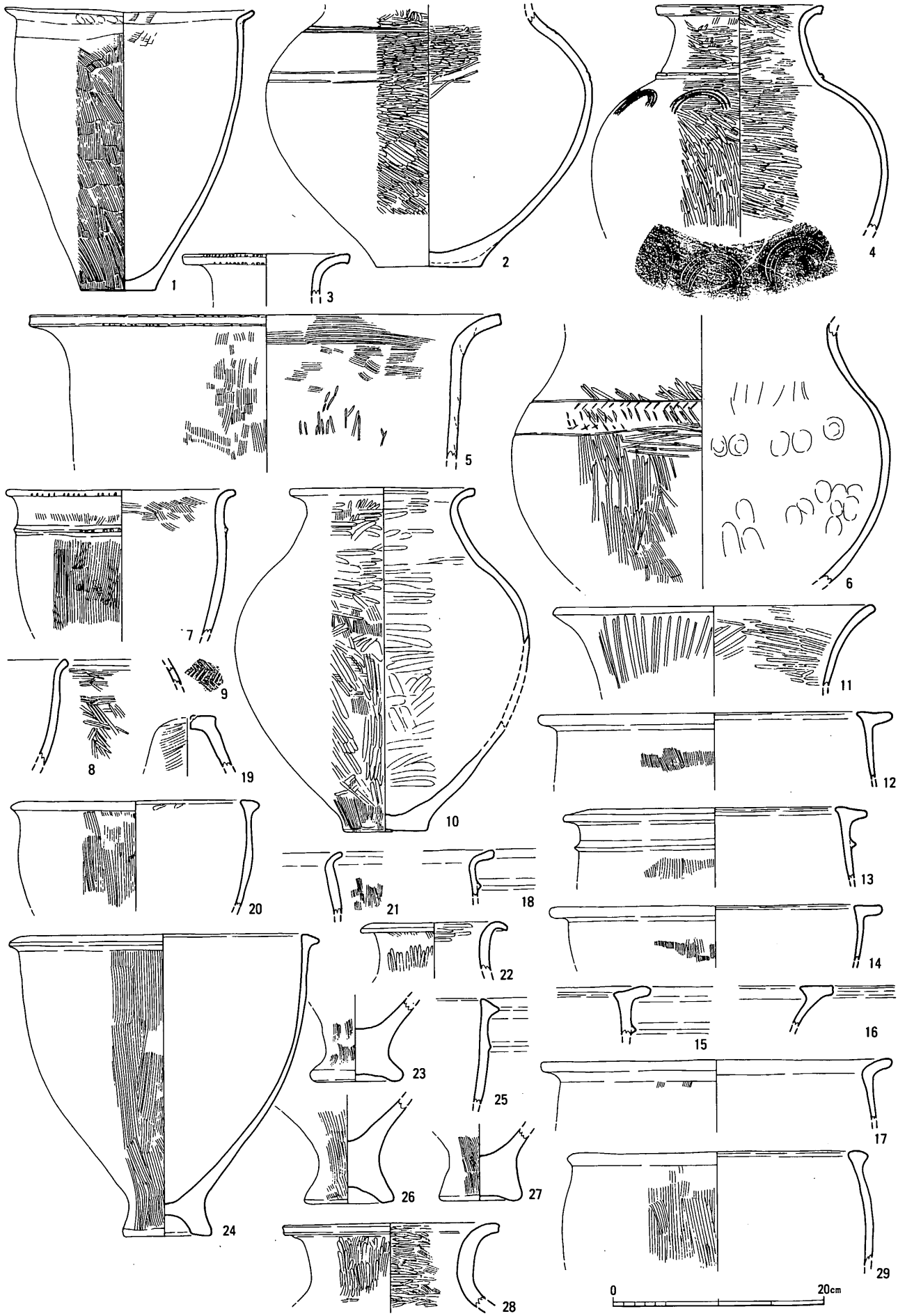
77号土坑（第70図，図版 163） 灰黒色土の埋土で，しっかりした掘り込みである事から，方形貯蔵穴そのものと判断できる。出土遺物で図示できるものは無いが，弥生前期末～中期初葉か。

78号土坑（第70図） 暗灰黒色土の埋土で，浅く溝状だが長く延びない事から，廃棄土坑の一種となるか。出土土器（第71図３～10）は弥生前期末葉。10の胴部は焼成後の意識的な穿孔か。他に砥石（第99図59）出土。

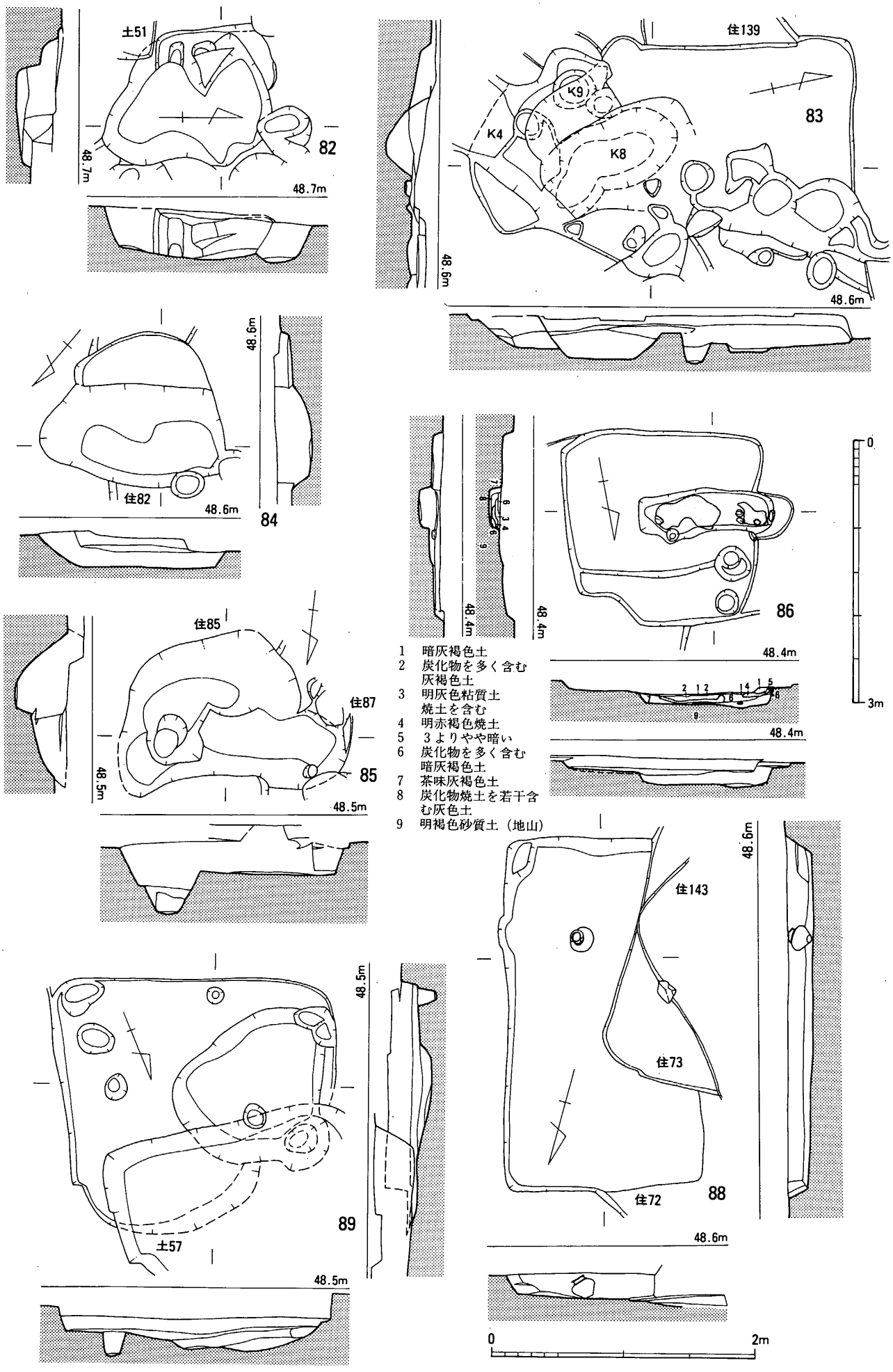
79号土坑（第70図） 暗茶褐色土の埋土で，底面の凹凸と土器片多量出土の状況からみて，ごみ捨場的性格と推定できる。出土遺物（第71図11～18）は14・16が弥生中期前葉，11～13・15が中期中



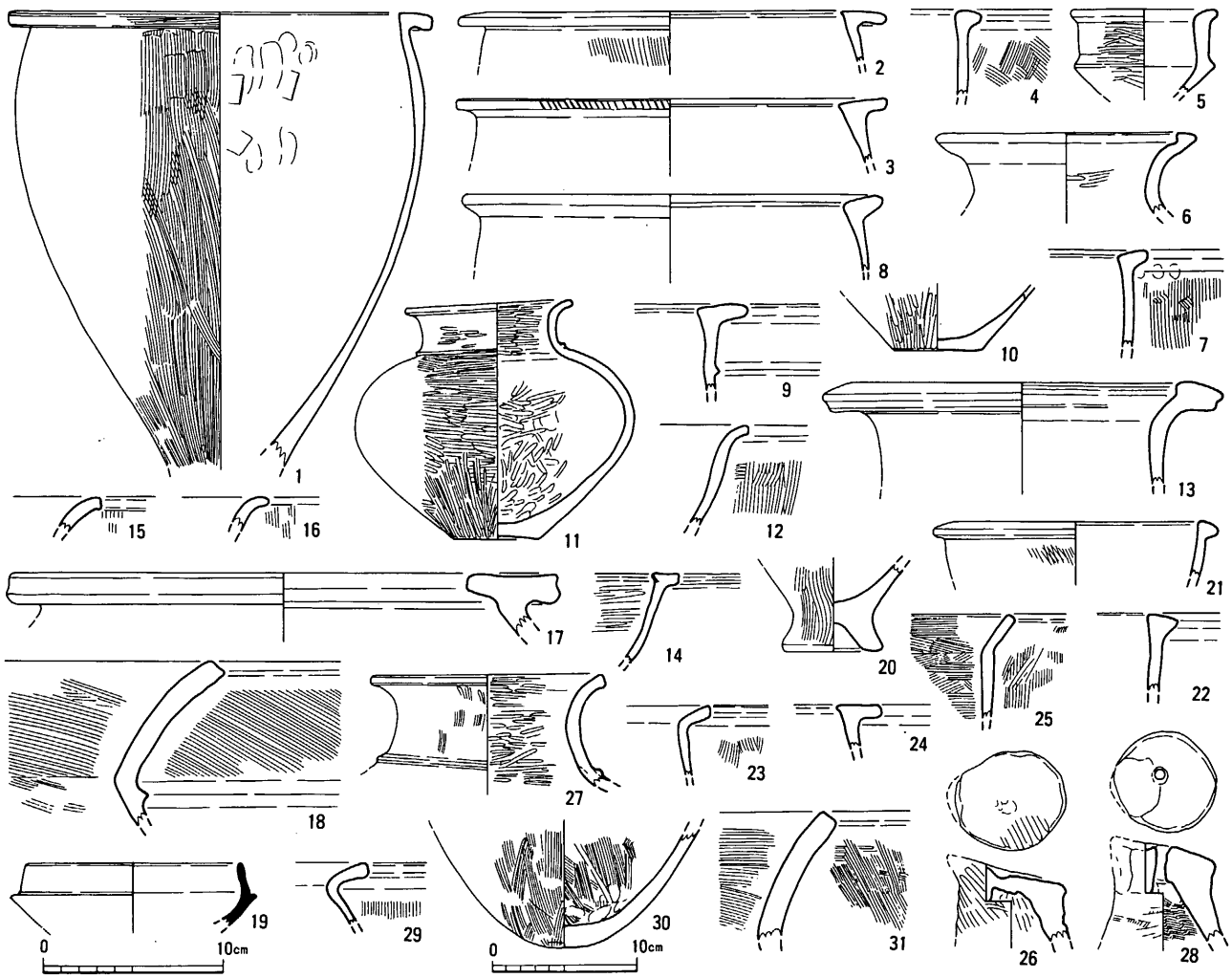
第70図　73～81号土坑実測図（75・76は1/40，他は1/60）



第71図　76・78～81号土坑出土土器実測図（1/5）
（1･2：土76，3～10：土78，11～18：土79，19～23：土80，24～29：土81）



第72図　82～86・88・89号土坑実測図（88のみ1/40，他は1/60）



第73図　82～99号土坑出土土器実測図（5・12・14・19は1/4，他は1/5）
（1～3：土82，4～6：土83，7：土84，8～10：土86，11･12：土88，13：土89，14：土90，15･16：土91，17～19：土92，20～22：土93，23･24：土94，25･26：土95，27：土96，28：土98，29～31：土99）

葉，17・18が中期末葉。

80号土坑（第70図）　暗茶褐色土の埋土で，浅く溜り状となる。ごみ捨場的廃棄土坑であろう。出土遺物（第71図19～23）は19・21が弥生後期中葉，他は中期初葉。遺構の時期は後者。

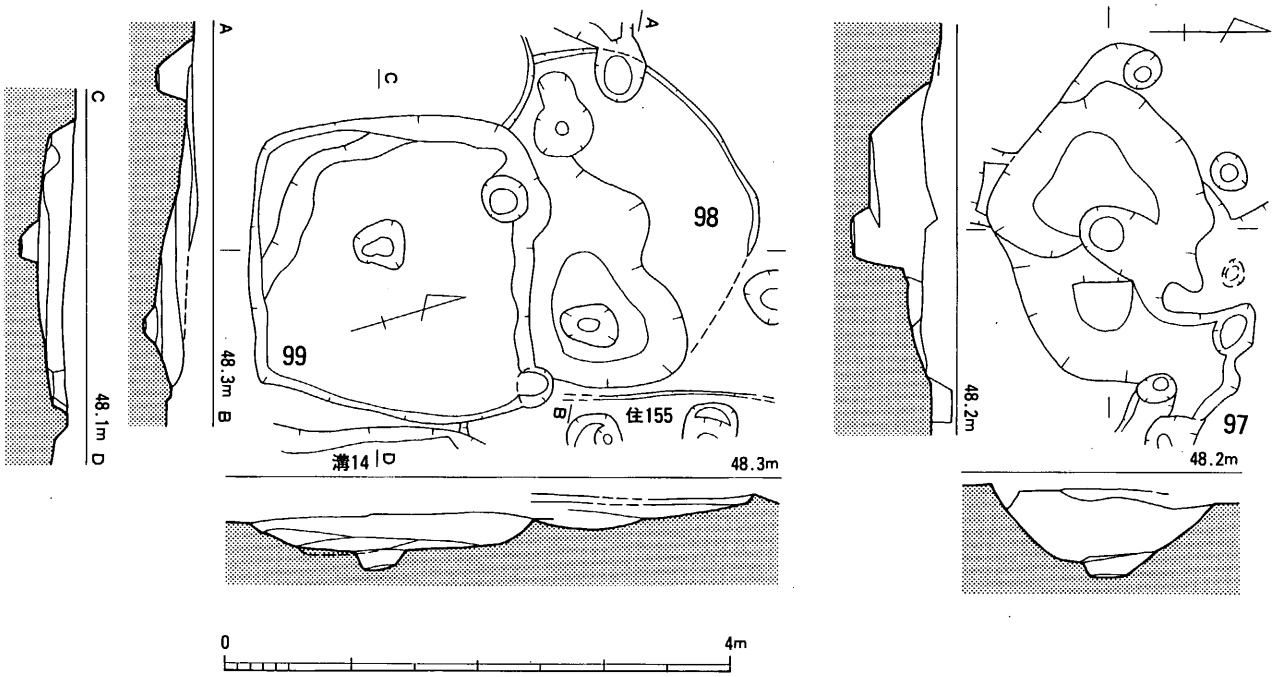
81号土坑（第70図）　暗褐色土の埋土で，底部の最深部が南端に片寄っている。廃棄土坑の一種か。出土遺物（第71図24～29）は弥生中期初葉。

82号土坑（第72図）　黒褐色土の埋土で，壁もしっかり掘り込んでいるが，平面形が不整形であることから廃棄土坑と考える。出土土器（第73図１～３）は１が弥生中期前葉，２・３が中期中葉。他に投弾（第91図５），石戈（第95図21）が出土。

83号土坑（第72図）　黒色土の埋土で，上半や南半を住居や甕棺墓で切られており，全容は不明確。底面の凹凸が激しく，掘り直しが考えられ，ごみ捨場的廃棄土坑と推定される。出土遺物（第73図４～６）は弥生中期初葉新段階。

84号土坑（第72図，図版 163）　黒褐色土の埋土で，断面が舟底状に近く，平面形も整わない事から廃棄土坑の一種となるか。出土遺物（第73図７）は弥生中期前葉古段階。

85号土坑（第72図，図版 164）　黒色土の埋土で，大きい摺鉢状の断面。平面形とも併考してごみ捨場的廃棄土坑とされよう。出土遺物は無いが，切合から住87より古い弥生中期末以前。



第74図　97～99号土坑実測図（1/60）

86号土坑（第72図，図版 164）　二段掘り状の方形掘方内中央に底面140×39cmの土坑を掘ったもので，中央坑内は炭・灰が多く焼土面も見られた。焼骨は確認できなかったが，火葬土坑墓的性格が強い。出土遺物（第73図８～10）は８が弥生中期前葉，９が中期中葉。

88号土坑（第72図，図版 164）　茶褐色土の埋土で，主軸を略南北にとる土坑墓。全体の大きさから見て二重の木棺乃至木槨的な構造だったとも推定される。出土遺物（第73図11・12）11は副葬小壺で，12とともに弥生中期初葉。

89号土坑（第72図，図版 165）　黒褐色土の埋土で，西半がくぼむ事等から幾度かの掘り直しがあったと推定できる。出土土器（第73図13）は弥生中期初葉。他に袋部方形の鉄斧片（第93図44）が土坑底面から出土。

90号土坑（第67図，図版 165）　黒色土の埋土で，しっかりした掘り込みであり，貯蔵穴としてよかろう。出土遺物（第73図14）は弥生中期前葉古段階の高杯。

91号土坑（第67図，図版 165）　角のとれた小角礫の花崗岩が上面を覆っており，焼けた石も見られる。性格不明。出土遺物（第73図15・16）は15が弥生中期初葉の壺口縁，16が同期の鉢口縁片。

92号土坑（第67図）　暗褐色土の埋土で，本来は恐らく溝14を切ると思われる。底面の状況から，ごみ捨場的廃棄土坑となろう。出土遺物（第73図17～19）は17が弥生中期中葉の甕棺，18が後期中葉，19が６Ｃ後葉。

93号土坑（第67図）　黒褐色土の埋土で，しっかりした掘り込みであり貯蔵穴的性格かと考えられる。出土遺物（第73図20～22）は弥生中期初葉。

94号土坑（第67図）　黒色土の埋土で，東側半分が深くなっている。形状等からは性格は判断できない。出土遺物（第73図23・24）は23が弥生後期初葉，24が中期中葉。前者が当土坑の時期。

95号土坑（第67図，図版 166）　黒褐色土の埋土。北半は調査区外で全容不明。底面の凹凸状況から見て，周辺土坑群と同じ廃棄土坑とされよう。出土遺物（第73図25・26）は弥生後期末葉。

96号土坑（第67図，図版 166） 黒色土の埋土で，住152にも切られるかもしれない。東西両側を土坑群に切られ全容は不明。出土遺物（第73図27）は弥生中期初葉古段階。

97号土坑（第74図，図版 166） 黒色土の埋土で，全体に摺鉢状断面をなし，周辺の土坑群と同様，ごみ捨穴的な廃棄土坑と思われる。出土遺物は無いが，切合等から周辺の土坑群と同じ弥生後期末葉前後となろう。

98号土坑（第74図） 暗褐色土の埋土で，南半へ緩やかに深くなっており，周辺の土坑群と同様，ごみ捨場的廃棄土坑であろう。出土遺物（第73図28）は弥生後期後～末葉。

99号土坑（第74図，図版 166） 地山土の黄色土ブロックを多く混入する暗褐色土の埋土で，正方形に近い平面形等から，貯蔵穴と考えられる。出土遺物（第73図29～31）は29が弥生中期末葉，30・31が弥生後期末葉。

第3表 土坑一覧表

（単位cm）

No.	性 格	平面形	長さ×幅×深さ	遺構の特徴	主要遺物・切合い等	時 期
1	浅い溝	長円形	306×72×15	建物1か6に伴うか		7C後葉
2	廃棄土坑	楕円形	(195)×140×14	底面平坦	住3に切られる。土器多量。	弥生中期前葉
3	廃棄土坑	不整楕円形	395×170×48	深めでしっかりした掘形	土器多量。石庖丁1。打製石鏃2。砥石2。	弥生中期中葉
4	祭祀跡		340×270×－	河岸生活面上の祭祀跡	鉇か鉄斧片1。不明鉄片1。祭祀土器多量。臼玉396。片刃箭式鏃2。刀子1。細根鏃片1。板状鉄斧片？1。有孔円板2。	5C後葉
5	祭祀土坑	長円形	187×140×34	中央が溝状	住23・溝1に切られる。	弥生中期中葉
6	祭祀跡		270×220×－	河岸生活面上の祭祀跡	祭祀土器多量。臼玉4。有孔円板片1。	5C後葉
7	廃棄土坑	不整形	290×280×72	底面凹凸	住5・溝3に切られる。砥石1。土器多量。	弥生中期末葉
8	木棺墓	長方形	220×150×70	木棺上に積石，仰臥屈葬	住25を切る。打製石鏃2。砥石1	弥生後期後葉以降
9	廃棄土坑	不整楕円形	292×182×115	底面凹凸，深い		弥生後期初葉
10	廃棄土坑？	不整形	343×147×33	底面凹凸	住35・37・134に切られる。	弥生中期中葉
11	墓か？	長方形	232×140×40	底面凹凸	住25に切られる。打製石鏃1。	弥生中期前葉
12	廃棄土坑？	不整長円形	380×129×73	底面摺鉢状で凹凸	住4に切られ，住49・土15を切る。無茎鉄鏃1。砥石1。不明鉄片1。	弥生中期末葉
13	廃棄土坑？	不整形	360×140×73	底面凹凸	住46を切り，土4・住45より古。	弥生後期中葉前後
14	貯蔵坑？	方形	210×175×35	底面平坦	土3に切られる。	弥生中期中葉
15	土坑墓？	略長方形	210×150×33	底面平坦	住49・土12に切られる。	弥生中期末～後期初葉
16	大型柱穴？	不整長方形	117×71×46	底面に小ピット	住10より古。住50と同時か古。	弥生中期前後
17	土坑墓？	長方形	163×97×16	底面平坦	住50を切る。砥石1。	弥生中期中葉以降
18	不明	不整形？	328×(80)×27	底面平坦，壁は直	住49・土21を切る。南半不明。	弥生後期前葉以降
19	廃棄土坑	不整方形	331×281×43	底面凹凸，小ピット	住7・47に切られる。打製石鏃1。	弥生中期前葉
20	廃棄土坑？	長方形	260×113×39	底面やや平坦	住7に切られる。砥石1。	弥生中期中葉
21	貯蔵坑？	方形？	(202)×(167)×25	底面平坦	住49，土3・18に切られる。	弥生中期前葉
22	廃棄土坑？	不整長方形	219×120×36	底面凹凸著しい	住8に切られる。砥石1。	弥生中期前葉
23	土坑墓	不整楕円形	176×71×40	東端に穴，2段掘か	住8に切られる。	弥生中期中葉
24	貯蔵坑	方形	138×133×41	底面は小さな凹凸多し	住5に切られる。	弥生中期初～前葉か
25	土坑墓	楕円形	205×96×43	壁が大きく斜め	住24に切られる。	弥生中期中葉
26	不明	楕円形？	(202)×(140)×39	底面は段々になる	住19に切られる。磨製石鏃1。	弥生中期中葉
27	廃棄土坑	楕円形	262×128×14	底面凹凸	住15・建22に切られる。石庖丁1。砥石1。	弥生後期前葉
28	廃棄土坑	不整形	(245)×120×45	底面に小ピット多し	住28・溝3に切られる。	弥生中期中葉
29	貯蔵穴	方形+楕円形	350×203×79	2基の土坑の重複	住34・55・56に切られる。刀子？1。鉄銹片3。	弥生中期前葉 弥生中期末葉
30	貯蔵坑？	楕円形	190×125×58	底面平坦，やや傾斜	住30に切られる。土37・38を切る。石庖丁1。	弥生中期前葉
31	墓か？	長方形	287×240×28	浅く底面やや平坦	住142・土46を切る。石庖丁1。細根鏃片1。	弥生中期前葉
32	不明	楕円形	179×113×56	中央が一段深くなる		弥生後期前葉

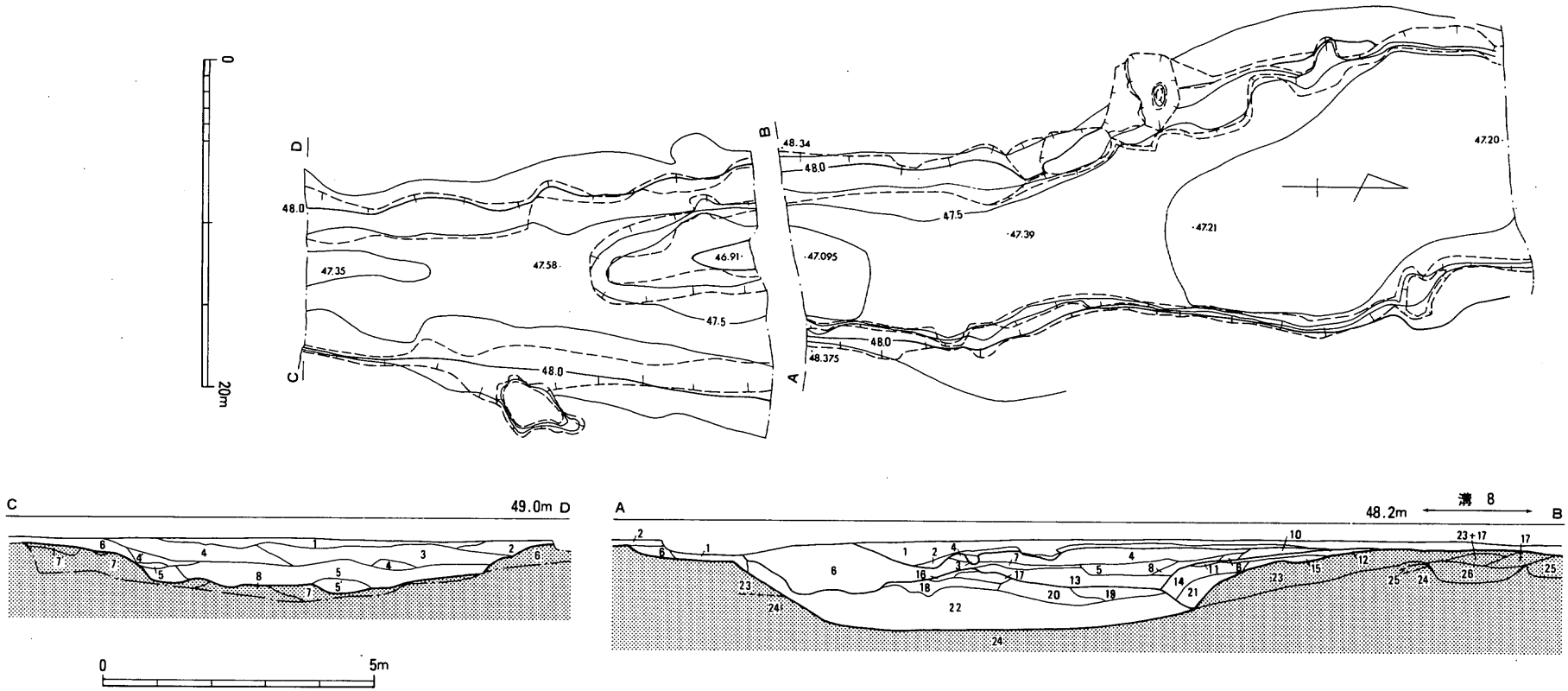
No.	性　格	平面形	長さ×幅×深さ	遺構の特徴	主要遺物・切合い等	時　期
33	貯蔵坑	不整方形	240×155×60	深く摺鉢状	住64・土34に切られる。土39を切る。	弥生中期初葉
34	貯蔵坑	楕円形	157×115×68	深く摺鉢状	住64に切られる。土33・39を切る。石のみ1。	弥生中期初葉
35	貯蔵坑？	不整方形	(160)×158×38	底面が波打つ	住64・土39に切られる。	弥生中期初葉
36	貯蔵穴	楕円形	200×155×28	底面に台石2個あり	住37より古。石庖丁2。	弥生中期中葉
37	貯蔵穴	楕円形	(219)×148×77	一部袋状，底断面は丸い	土30に切られる。	弥生中期中葉
38	土坑墓	略長方形	(268)×97×80	壁が斜め	住30・土30に切られる。	弥生中期前葉以前
39	貯蔵坑	楕円形	219×140×78	中央部が深くなる	住64，土33・34に切られる。土35を切る。石庖丁1。砥石1。	弥生中期初葉
40	不明	長方形？	(223)×135×29	底面やや高低あり	住62に切られる。住142・67を切る。	弥生中期中葉
41	木棺墓	長方形	172×112×25	覆石墓的	住68・78・140を切る。	弥生後期初葉以降
42	木棺墓？	長方形	180×72×14	覆石墓か	土57を切る。	弥生中期中葉以降
43	貯蔵穴	不整方形	250×206×75	底面凹凸あり	黒曜石片多量。住152，土48を切る。紡錘車1。	弥生中期初葉
44	墓？	長方形	291×185×26	底面に小ピット群あり	溝11を切る。	弥生中期初葉
45	墓？	長方形	303×(100)×9	底面平坦	住72・73に切られる。	弥生中期初葉
46	不明	不整台形	257×207×20	底面やや高低あり	土31に切られる。石庖丁1。	弥生中期前葉
47	墓？	長方形	300×142×17	北端に別の掘り込みあり		弥生中期初葉か
48	溝	溝状	(354)×161×32	底面波打つ	土43に切られる。住152を切る。紡錘車3。	弥生中期初葉
49	不明	不整形	(265)×123×47	壁はほぼ直	住68，土50に切られる。	弥生中期初葉
50	貯蔵穴？	不整形	365×255×44	壁はほぼ直，底面に小ピット群	黒曜石片多量。住31に切られ，土49を切る。太型蛤刃石斧1。	弥生中期初葉
51	大型柱穴？	小長方形	104×74×29	底面に段あり		弥生中期末葉
52	廃棄土坑？	不整形	(340)×275×36	底面凹凸あり	黒曜石片多量。住75，土57に切られる。石庖丁2。スクレイパー2。	弥生中期初葉
53	不明	長方形？	(350)×(170)×25	底面平坦	住29に切られ，住75を切る。	弥生中期末葉以降
54	炉跡	小方形	115×113×23	炭・灰がつまる	住77・139を切る。	弥生後期か
55	不明	長方形	320×190×27	北端で段状	住77・139を切る。K3に切られる。	弥生中期前葉以降
56	墓？	長方形	273×215×26	底面やや高低あり	住77・139・210を切る。打製石鏃1。砥石1。	弥生中～後期か
57	不明	長方形	296×197×50	焼土あり	住68，土42に切られる。土58・89を切る。	弥生中期中葉
58	不明	楕円形	(216)×125×29	底面段々になる。焼土あり	住68，土57に切られる。住140を切る。	弥生中期前葉
59	不明	不整形？	(340)×(110)×32	底面平坦	土52を切る。住75・83に切られる。	弥生中期前葉
60	不明	不整形	266×(132)×18	底面平坦	住281に切られる？	弥生後期後葉
61	風倒木痕	不整形	512×263×53	底面凹凸激しい	住88に切られる。	弥生中期中葉
62	廃棄土坑	不整形	(310)×(200)×37	底面凹凸激しい	住81・84・87に切られる。	弥生中期末葉
63	廃棄土坑	不整楕円形	(240)×210×57	壁はかなり斜め	土64に切られ，住152・土96を切る。太型蛤刃石斧1。蛤刃石斧1。砥石1。	弥生中期初葉
64	廃棄土坑	不整楕円形	(337)×173×57	断面摺鉢状	住92に切られ，住152，土63・96を切る。砥石1。	弥生中期前葉
65	不明	楕円形	(203)×110×45	中央に深い部分あり	住94を切る。土66に切られる。	弥生中期中葉
66	不明	長方形	(205)×103×38	底面やや凹凸	住95に切られ，住94・96，土65を切る。石庖丁1。	弥生中期末葉
67	廃棄土坑	不整楕円形	426×245×33	底面凹凸激しい	住106・152を切る。石庖丁2。石槍1。石戈2。	弥生後期後葉
68	廃棄土坑	楕円形	249×130×35	底面凹凸あり	住103・146を切る。	弥生中期中葉以降
69	廃棄土坑	不整形	(234)×225×43	北半が深くなる	住92，土70・71に切られる。土97を切る。石庖丁1。	弥生後期末葉
70	廃棄土坑	不整形	263×(232)×13	底面にピット等あり	住106に切られる。住109，土69・97を切る。紡錘車1。鉄斧片1。	弥生後期末葉
71	廃棄土坑	方形？	(362)×(201)×43	底面凹凸あり	住100・109に切られ，土69・98を切る。砥石1。	弥生後期末葉以降
72	廃棄土坑	不整形	(455)×206×35	底面やや平坦	住84・98・103に切られ，溝14を切る。石庖丁3。太型蛤刃石斧1。鉄鑿1。	弥生中期末葉
73	土坑墓	長方形	183×71×17	北半の底面が深くなる	住112・124を切る。	5C後葉～6C初葉
74	廃棄土坑	楕円形	327×105×100	底面舟底状断面	住85，K5に切られる。石庖丁1。	弥生中期初葉
75	廃棄土坑	楕円形	195×88×43	底面やや舟底状断面	住116に切られる。石庖丁1。	弥生中期初葉
76	貯蔵坑	楕円形	170×90×57	底面高低あり	住82に切られ，土91を切る。砥石1。	弥生中期初葉
77	貯蔵穴	方形	205×154×60	壁は直，底は平坦	住74に切られ，土91を切る。	弥生前期末～中期初か
78	廃棄土坑？	楕円形	300×102×25	浅く平坦な底	溝16に切られる。砥石1。	弥生前期末葉
79	廃棄土坑	不整形	150×129×37	底面凹凸激しい	弥生土器多量。	弥生中期末葉

No.	性　格	平面形	長さ×幅×深さ	遺構の特徴	主要遺物・切合い等	時　期
80	廃棄土坑	不整形	246×180×28	中央部が深くなる	土81を切る。	弥生後期中葉
81	廃棄土坑	長方形	269×201×55	底面高低あり	土80に切られる。	弥生中期初葉
82	廃棄土坑	不整形	191×161×53	底面やや平坦	住71，土51に切られる。投弾1。石戈1。	弥生中期中葉
83	廃棄土坑	長方形？	439×255×43	底面凹凸著しい	住77・139，K4・8に切られる。	弥生中期初葉
84	廃棄土坑	楕円形	212×177×42	壁が大きく斜め	住76に切られ，住82を切る。	弥生中期前葉
85	廃棄土坑	不整形	258×169×101	摺鉢状で段々あり	住85・87に切られる。	弥生中期末以前
86	土坑墓	長方形	261×223×33	二段掘り状，炭灰がつまる	住74・79・86に切られる。	弥生中期中葉
(87)	住140の中央炉	楕円形	——	——	（欠　番）	——
88	墓	長方形	270×150×18	底面平坦	住72・73・143に切られる。副葬小壺	弥生中期初葉
89	廃棄土坑	長方形	325×292×67	底面やや高低あり	溝12，住83，土57に切られる。鉄斧片1。	弥生中期初葉
90	貯蔵穴	隅丸方形	299×203×55	底面平坦	住81に切られる。	弥生中期前葉
91	炉跡？	小円形	90×(70)×21	覆石，摺鉢状	土76・77に切られる。	弥生中期初葉
92	廃棄土坑	楕円形	262×(150)×28	底面凹凸あり	住149を切る。	6C後葉
93	貯蔵坑	楕円形	225×147×53	底面やや平坦	住113の下層。	弥生中期初葉
94	不明	楕円形	133×126×39	底面が段状	住103に切られる。住146を切る。	弥生後期初葉
95	廃棄土坑	不整形	(363)×(193)×44	底面凹凸あり	住151・155に切られる。	弥生後期末葉
96	不明	不整形	(310)×105×46	底面やや平坦	土63・64に切られる。	弥生中期初葉
97	廃棄土坑	不整形	309×172×58	摺鉢状断面	住92，土69に切られる。	弥生後期末葉か
98	廃棄土坑	楕円形	271×183×27	南半が深くなる	土69・71・99に切られる。	弥生後期後～末葉
99	貯蔵穴	方形	244×227×28	中央に小ピット	住106・109に切られる。	弥生後期末葉

C　河　跡

遺跡西端にて検出した南から北へ流れた河跡で，最大幅時で上端幅18～10m，下端幅15～6.5m，最深部で1.8m。75m分調査したが，南側の筑紫野市教委調査範囲では西南方向へ湾曲しており，旧尾根裾に沿ったものであった事が判かる。粗砂層とシルト質層が基本的に互層をなしており，洪水の度に濁流が走った様相がみられる。遺物は両岸際に大量に出土し，弥生中期前葉代には既に最大の河幅で存在しており，６C段階で埋没がかなり進み，７C後葉には完全に埋没しきって掘立柱建物群が配置されている。

出土土器（第76～89図）は，弥生中期前～後期初葉が中心を占め，後期中～末葉が少量，古墳初頭が僅か，６C中葉前後が再び多くなり，６C後葉～末が僅かみられ，それ以降は皆無。１は外面横位アナダラ条痕の粗製深鉢片で縄文晩期前半。２～４・19～24は弥生前期後～末葉。５～９は中期初葉。25・26は中期初葉の甕蓋で27・28は中期前葉のもの。30～35は中期前葉でも古段階。32は遠賀川流域系。36～40・50～57は中期前葉で中葉に近い。50は中型棺。58～69は中期中葉。71は中期前葉の鉢。72・82～87は中期後葉でも中葉に接近した時期。73・74は中期前葉の鉢。75・76は中期中葉。77～79は中期前葉の甕棺。80・81・86～89は中期中葉～後葉にかかる当初期の胴張り類甕棺。90～93は中期後葉胴張り類の祭祀品。94は中期末葉に近い。95～99は中期後葉の典型甕。104～112は中期末葉。113～116は中期初葉。内面凸帯は山口西部系。117～132は中期前葉の壺。うち122は黒塗。125・126は小型でミニチュア的。130・133～140・143～146は中期中葉。142・147～153は中期後葉。154～157は中期末葉。158～160は中期後葉～末葉だが内面の凸帯や頸部下半のカーブ



第75図　1号河跡測量図及び断面土層図（1/400, 1/120）

〈土層名　C-D〉

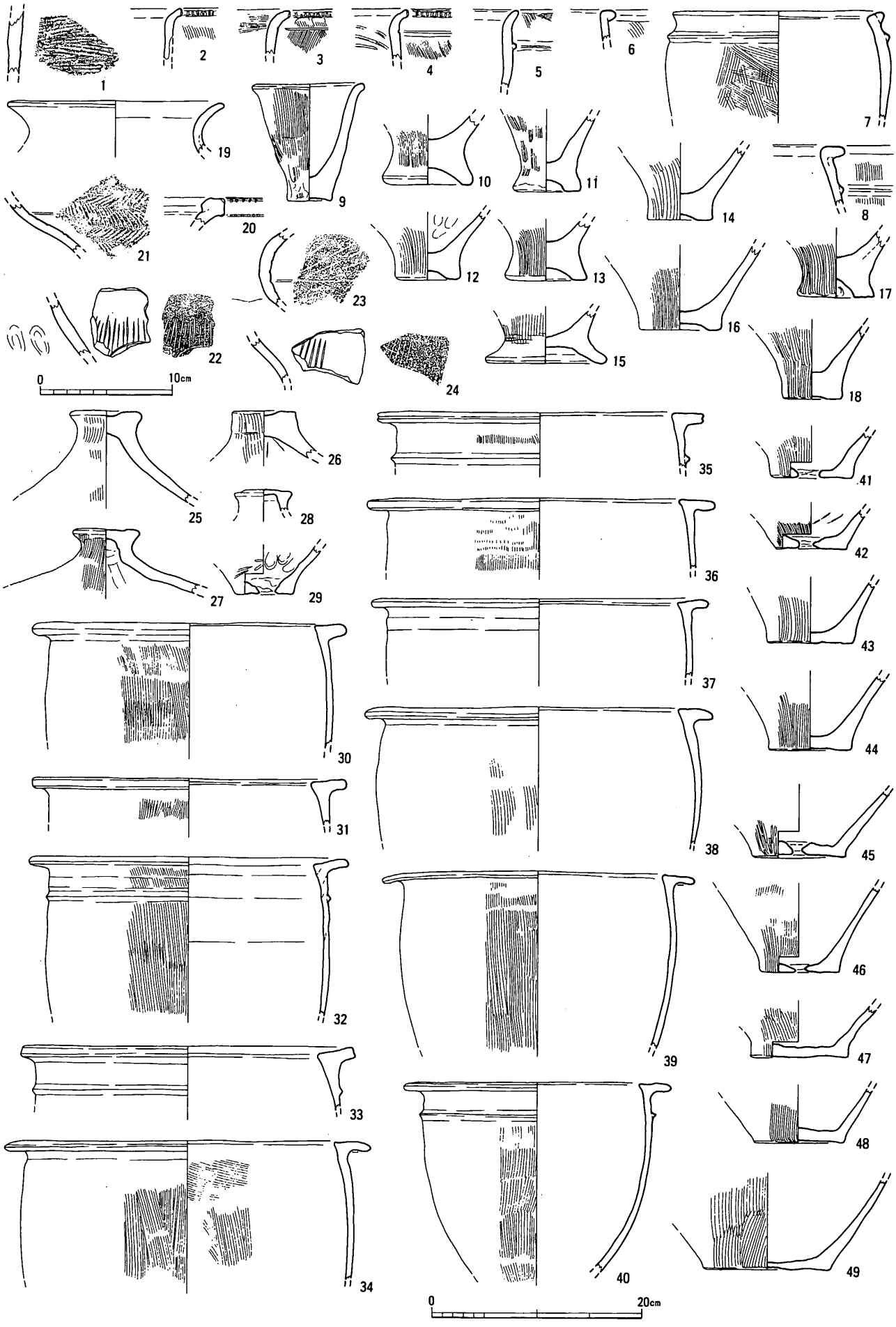
1　灰黄色土　砂質硬い　細砂粒と粗砂粒がまざる
2　灰黄色土　砂質硬い　細砂粒
3　灰黄色土　砂質硬い　粗砂粒を多く含む
4　明灰黄色土　砂質に弱い粘質がまじる。軟い。粒子は細かい
4′　暗灰黄色土　砂質に弱い粘質がまじる。軟い。粒子は細かい
（1～4′：河の衰退埋没過程）
5　白灰褐色土　砂質　硬い　粗砂粒に土器、礫多くまじる
5′　暗灰褐色土　砂質　硬い　粗砂粒に土器、礫多くまじる
（5～5′：河の流水時に堆積）
6　暗褐色土　弱い粘質　粒子は細かいが若干の粗砂粒がまじる。礫を含む。（包含層）
7　暗黄褐色土　砂質　硬い　粗砂粒に礫を含む
7′　暗黄褐色土　砂質　硬い　粗砂粒に礫を含む　7よりも黒い（6層がまじるため）
8　茶オレンジ色土　砂質　硬い　粗砂粒に礫を含む
（7～8：地山）

《大層序　A－B》

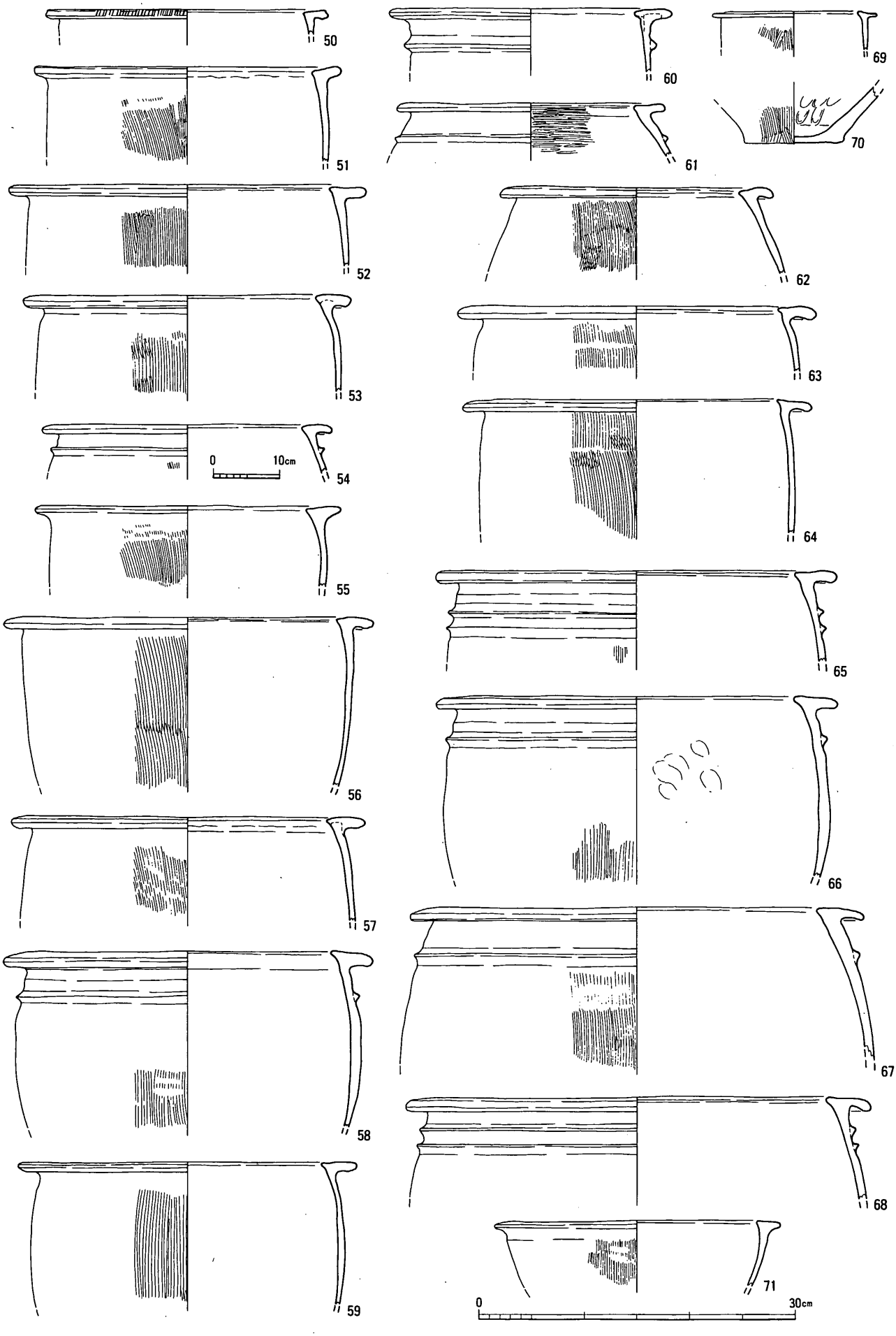
I　（1～3）後世の撹乱層
II　（4～10・13）細砂粒砂層
III　（11・12・14・15・21）シルト層
IV　（16～20・22）細・粗砂の互層
V　（23・26）弥生・古墳期包含層・遺構
VI　（24・25）地山

〈細分土層名　A－B〉

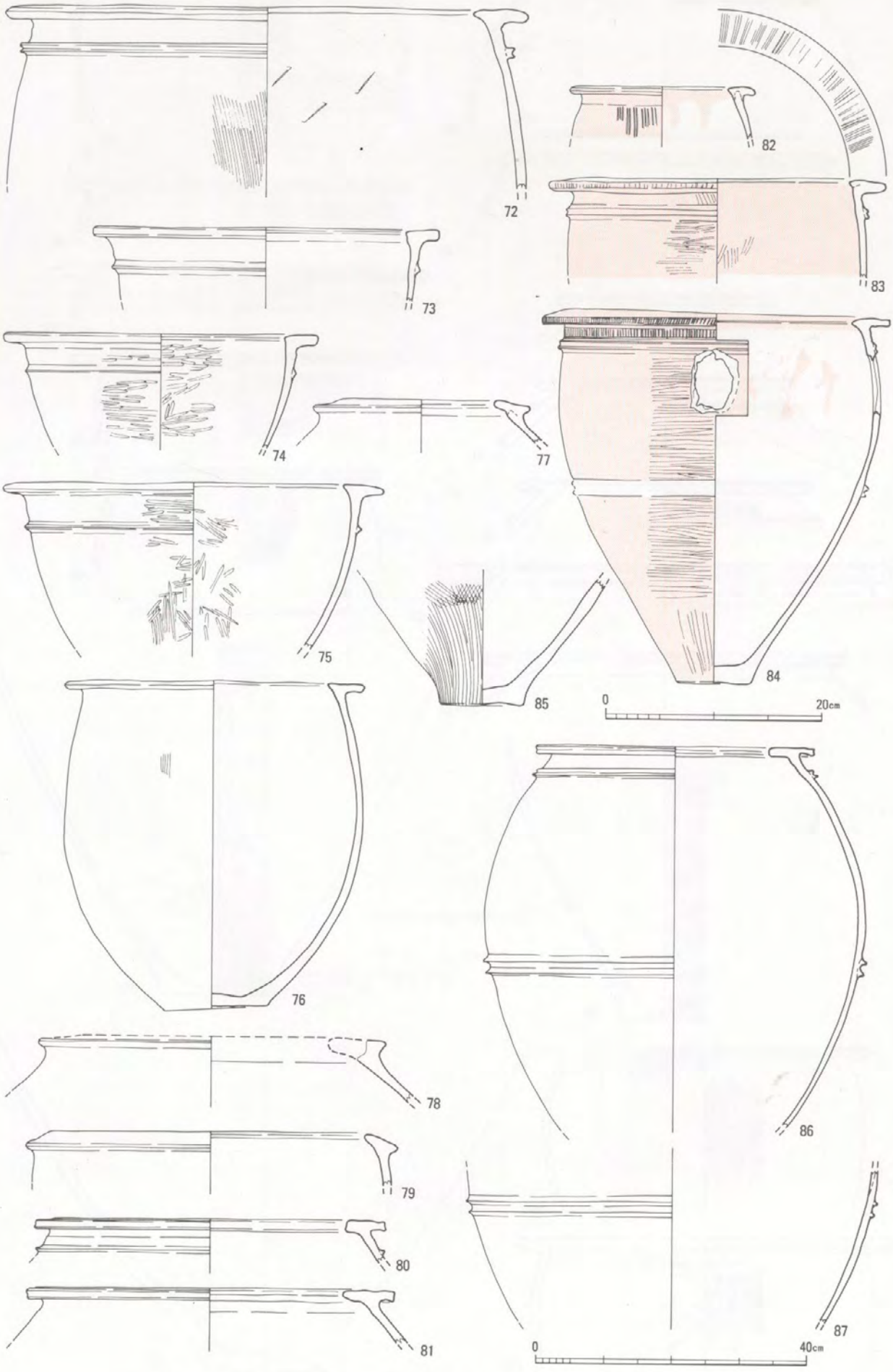
1　暗褐色土
2　橙褐色土
3　淡暗褐色土
4　暗黄灰色土（細砂粒に粗砂粒幾らか含む）
5　淡黄灰色土（細砂粒と粗砂粒の互層）
6　黄灰色土（細砂粒と粗砂粒の互層）
7　淡黄灰色土（粗砂粒が主）
8　淡黄灰色土（やや粘質で細かい粒子）
9　明淡黄灰色土（やや粘質で細かい粒子）
10　淡黄灰色土（やや粗い砂質土）
11　赤黄褐色土（細粒子の粘質土）
12　明黄灰色土（細粒子の粘質土）
13　茶黄灰色土（細砂粒とやや粗砂粒の互層）
14　淡茶灰褐色土（やや細い粘質土）
15　茶灰褐色土（やや細い粘質土）
16　茶灰黄褐色土（細砂粒と粗砂粒の互層）
17　茶灰黄褐色土（粗砂に細砂を含む互層）
18　淡黄灰色土（細砂に粗砂を含む互層）
19　淡茶黄灰色土（粗砂粒層）
20　明茶黄灰色土（細粒子の粘質シルト層）
21　淡褐色土（やや粘質で東半に礫含む）
22　茶黄灰色土（粗砂粒に礫多く含む）
23　暗褐色土（やや粘質の包含層）
24　茶褐色砂利層
25　黒褐色土（黒ボクの地山）
26　暗黄茶色土（溝8埋土，弥生）



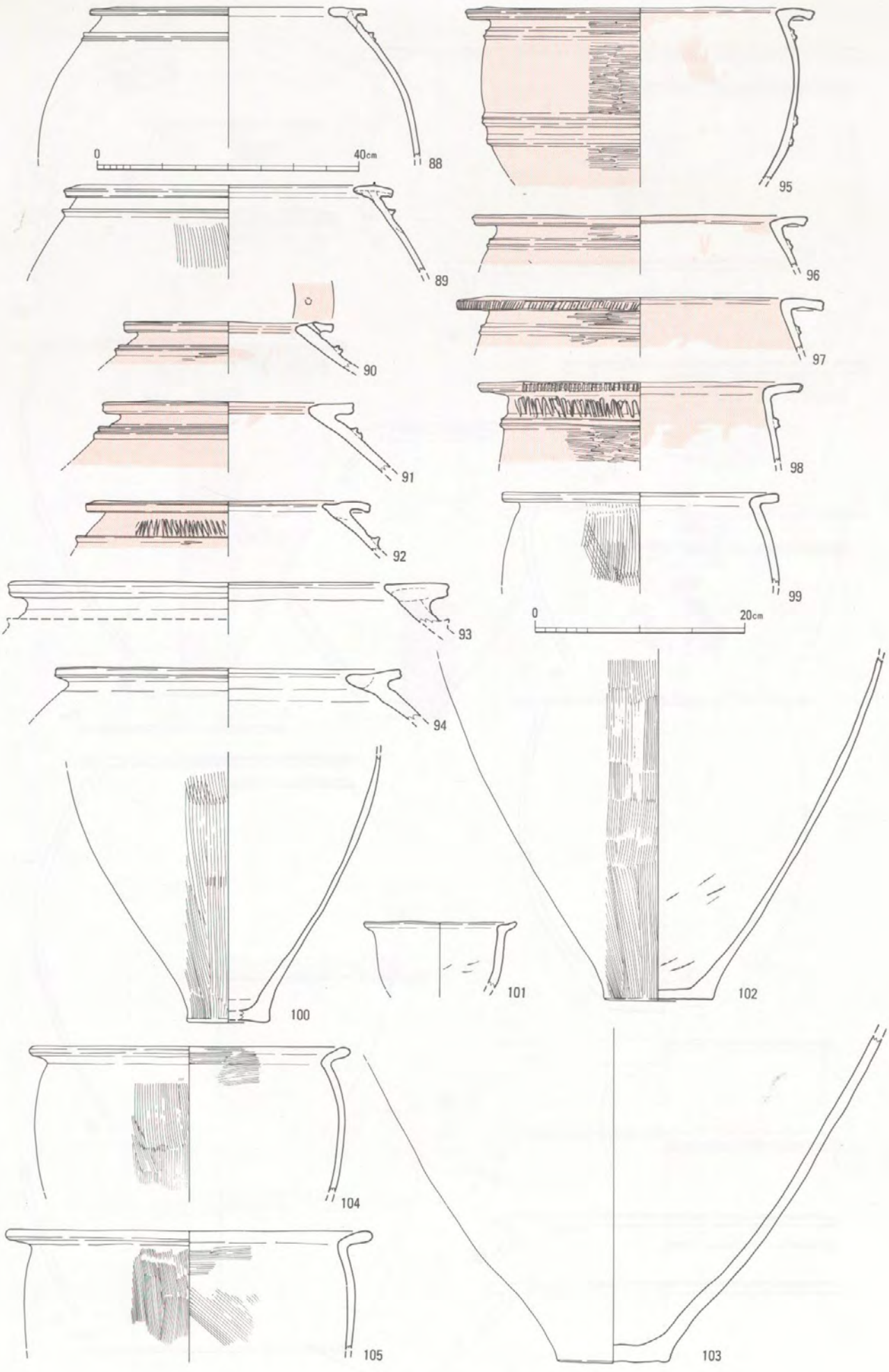
第76図　1号河跡出土土器実測図（その1）（1・21～24は1/4，他は1/5）



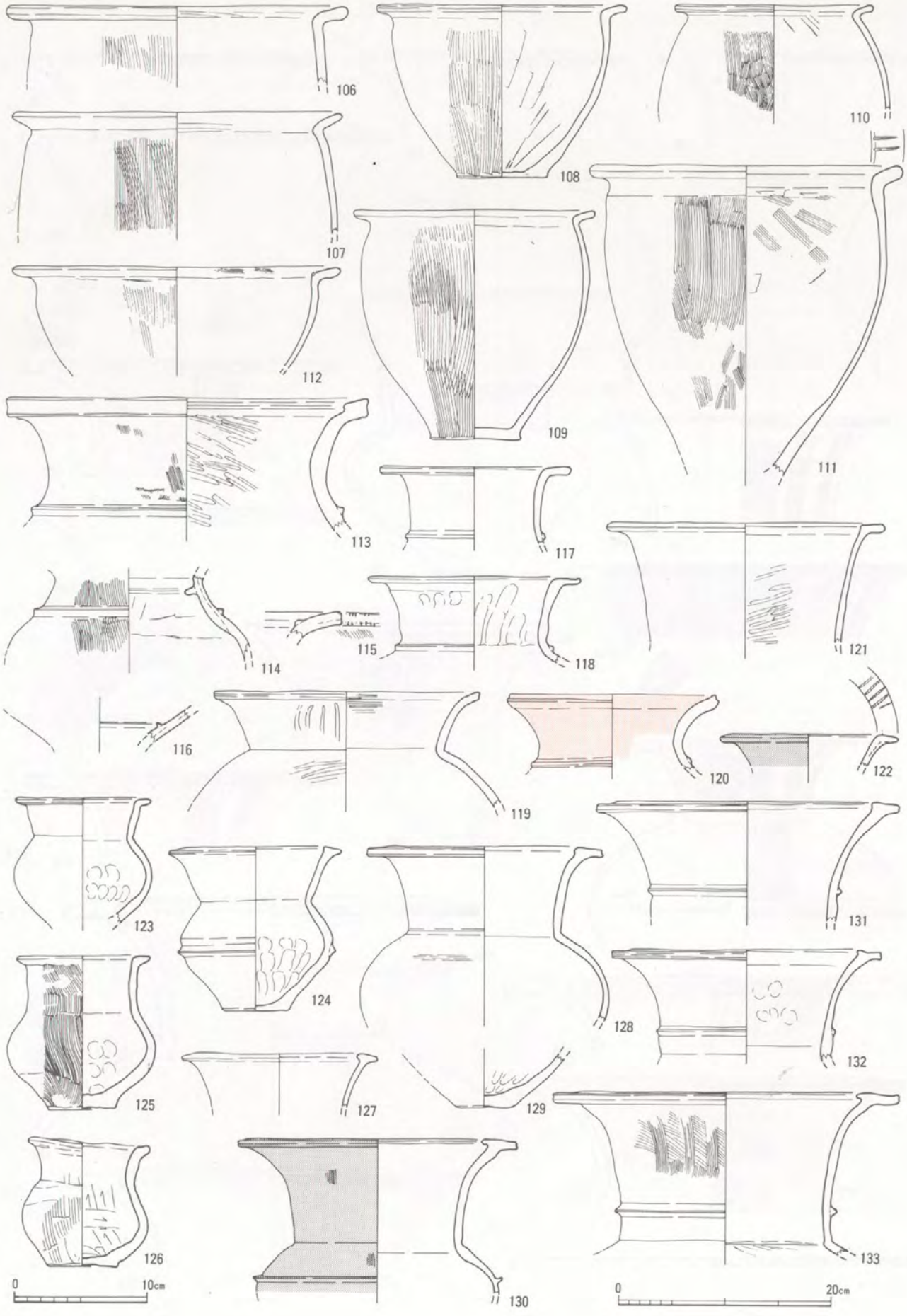
第77図　1号河跡出土土器実測図（その2）（50・54は1/8，他は1/5）



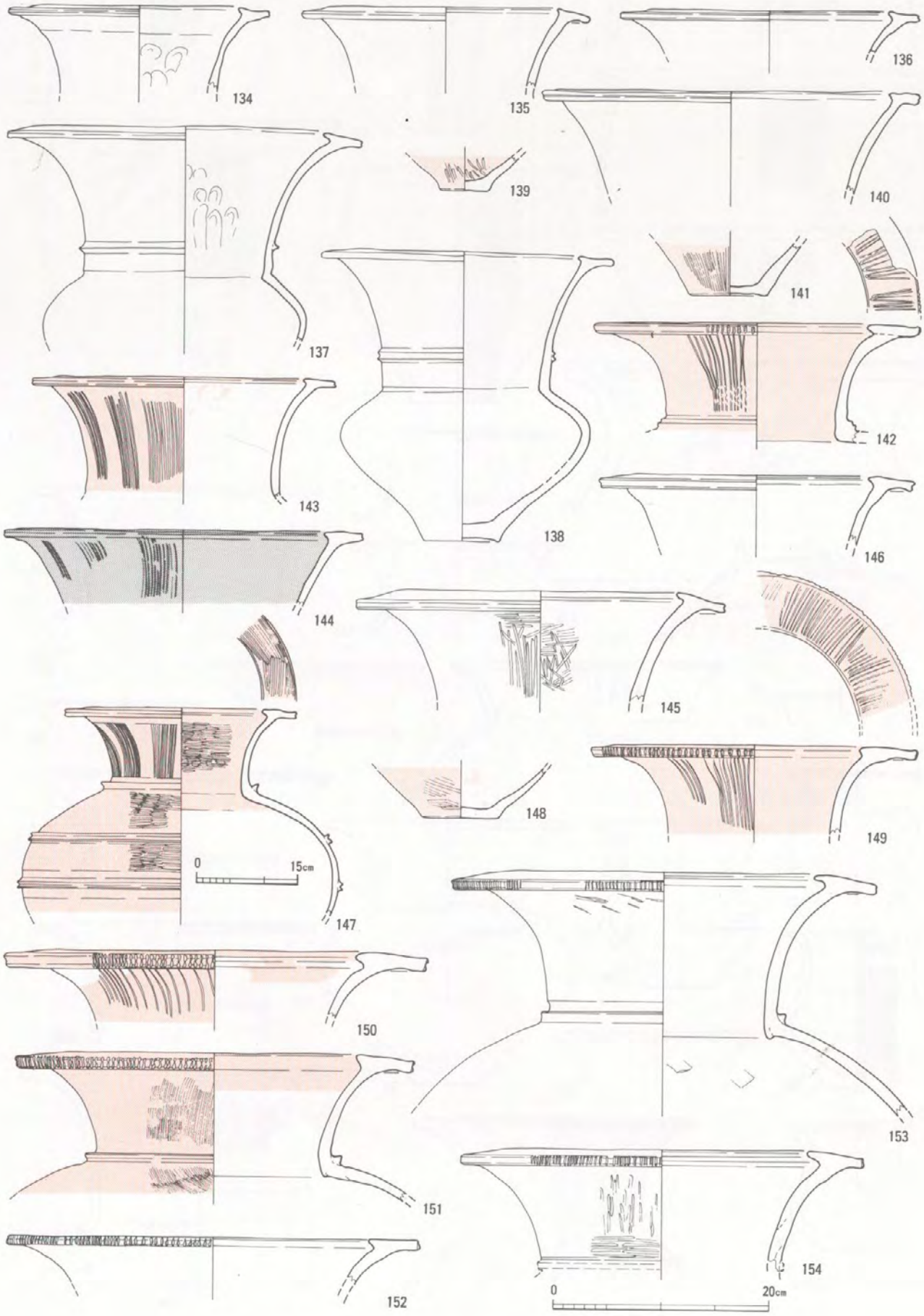
第78図　1号河跡出土土器実測図（その3）（77・79・80・86・87は1/8，他は1/5）



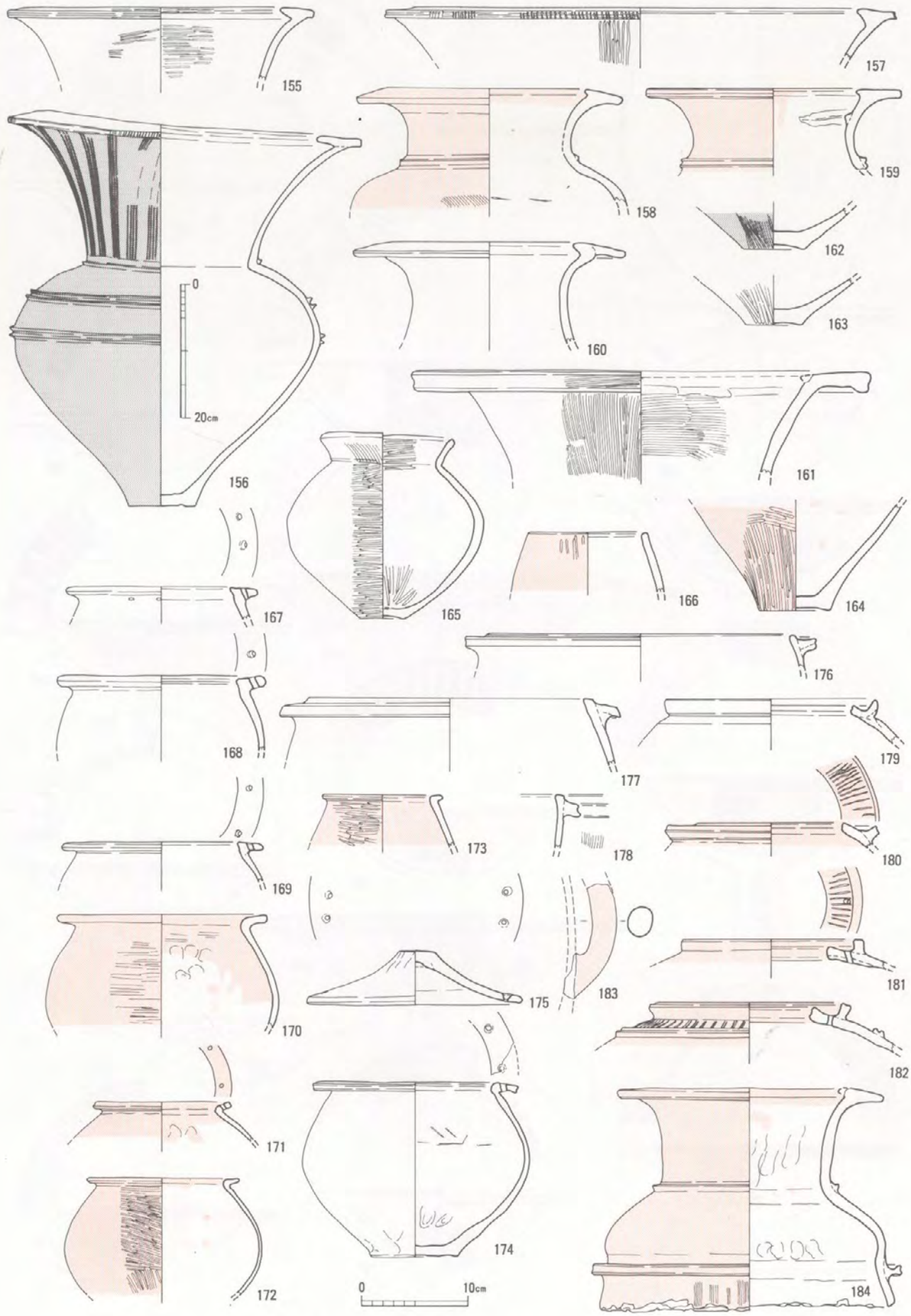
第79図　1号河跡出土土器実測図（その4）（88・89は1/8，他は1/5）



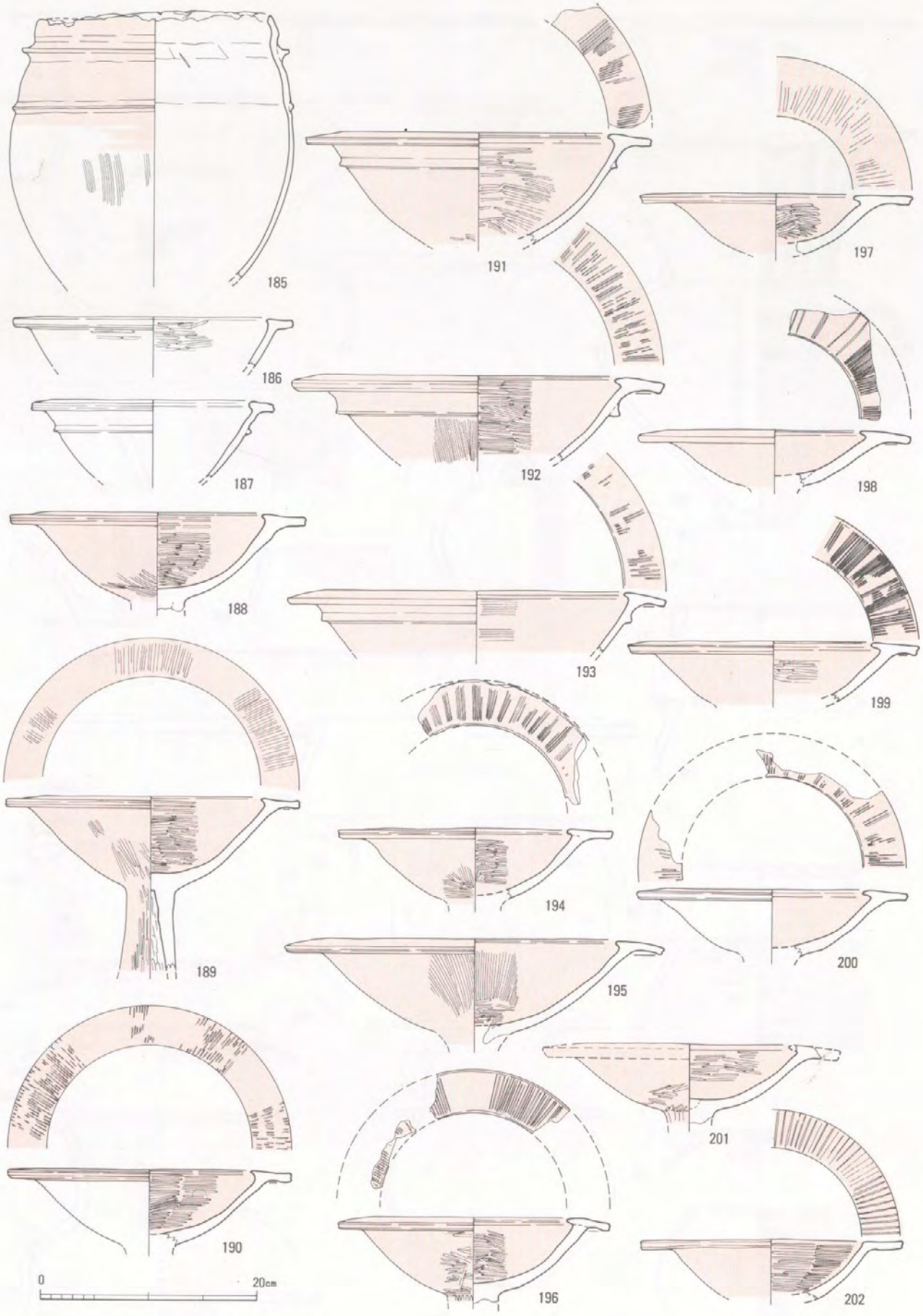
第80図　1号河跡出土土器実測図（その5）（125・126は1/4，他は1/5）



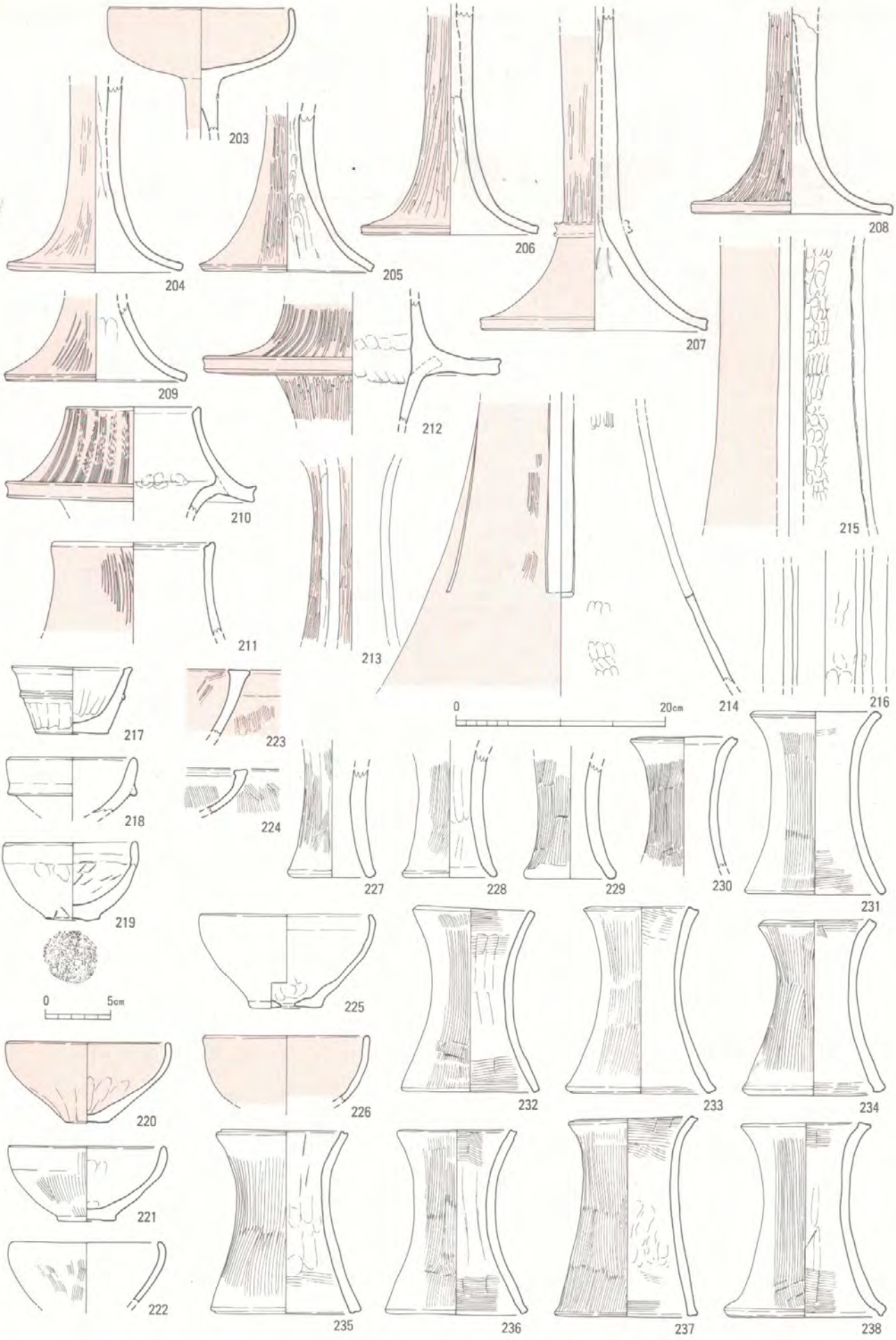
第81図　1号河跡出土土器実測図（その6）（147は1/8，他は1/5）



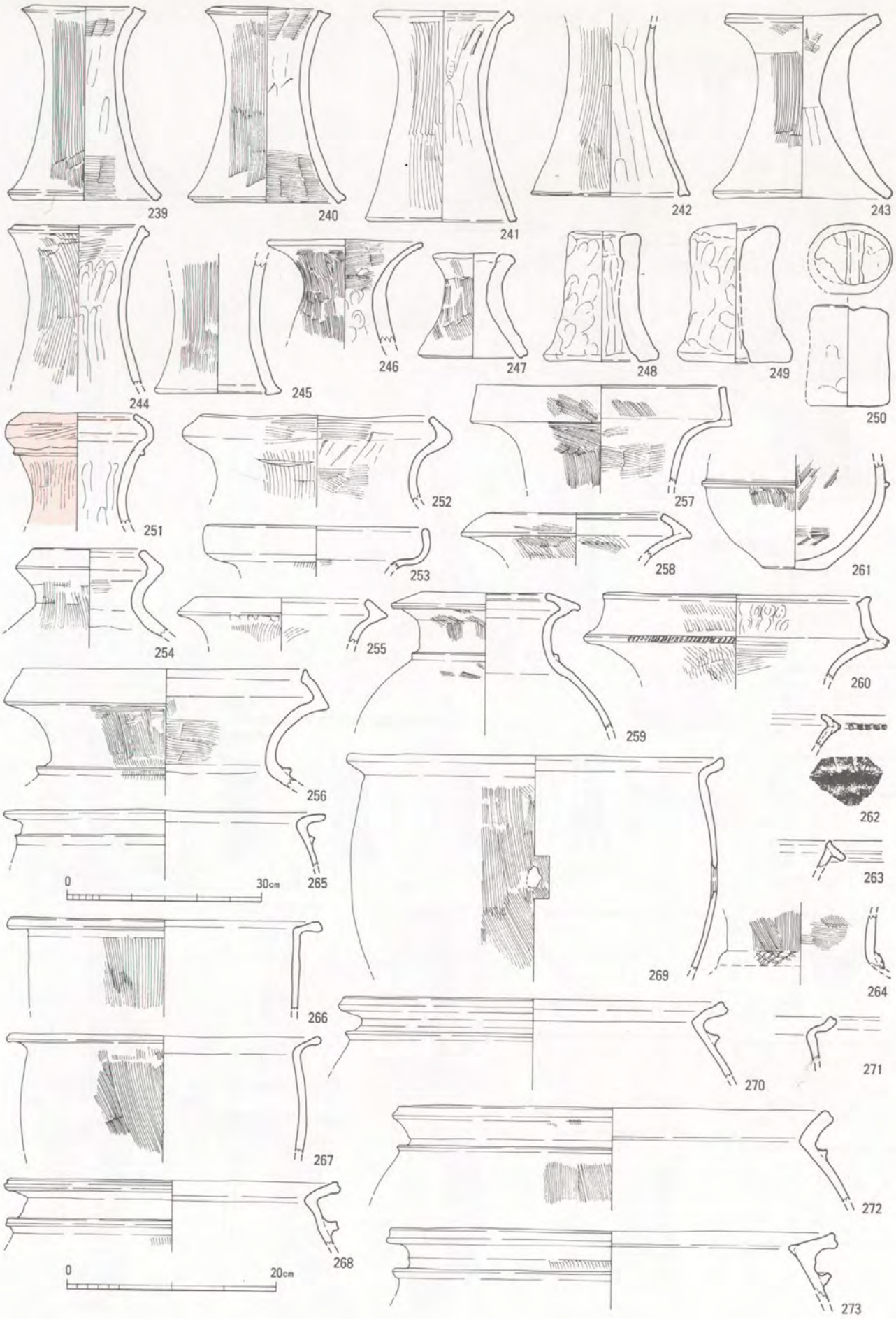
第82図　1号河跡出土土器実測図（その7）（156・157は1/8，他は1/5）



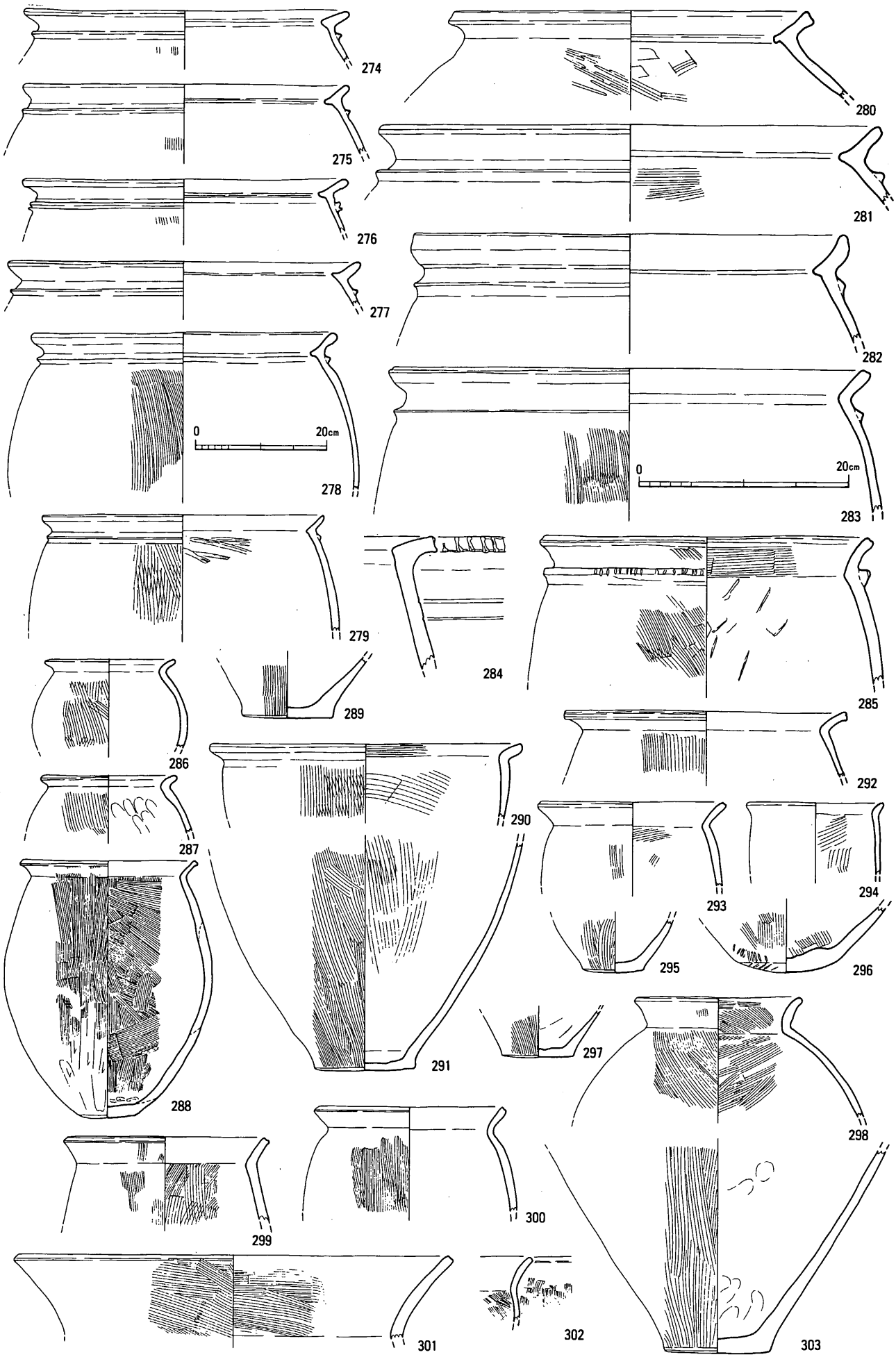
第83図　1号河跡出土土器実測図（その8）(1/5)



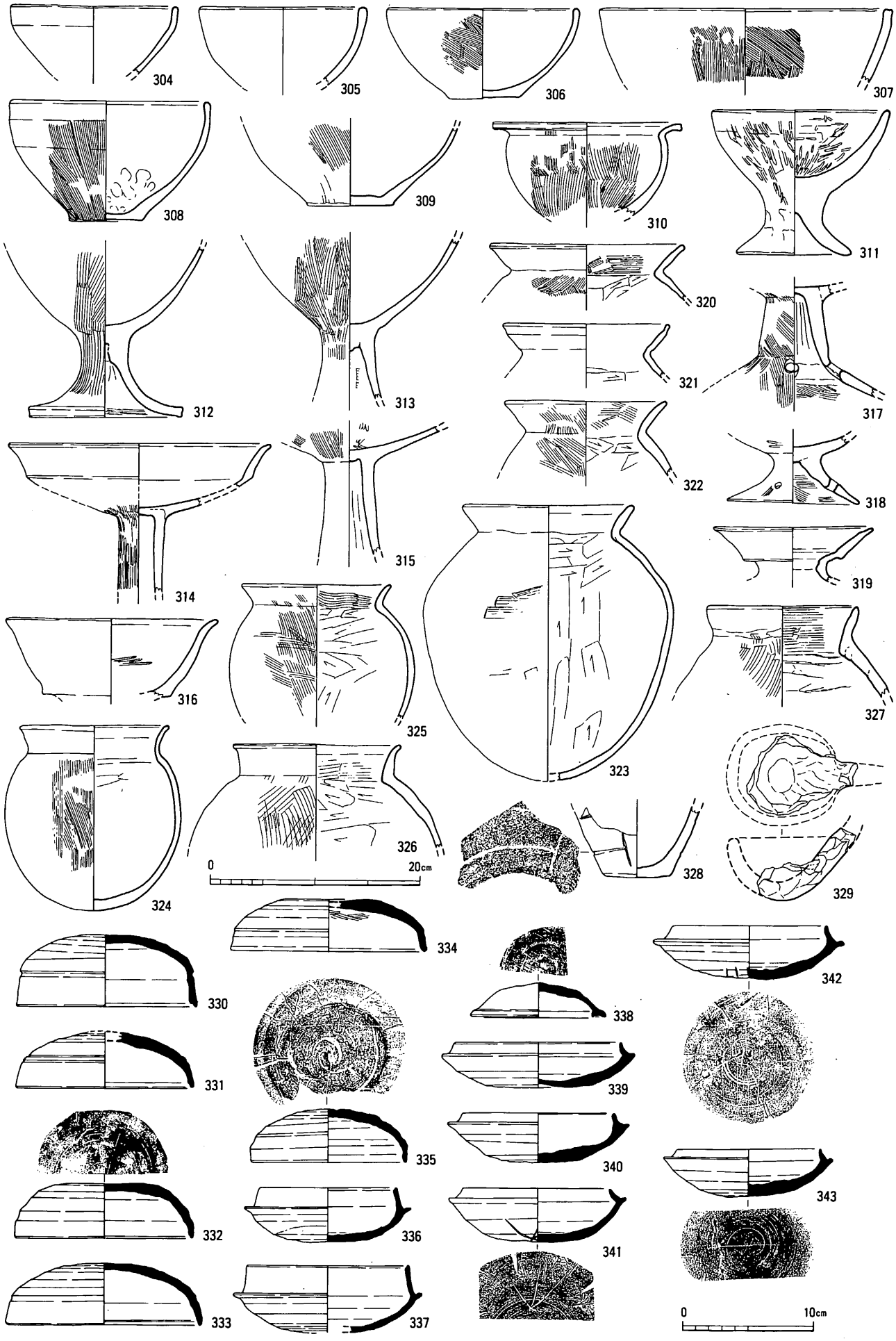
第84図　1号河跡出土土器実測図（その9）（217～219は1/4，他は1/5）



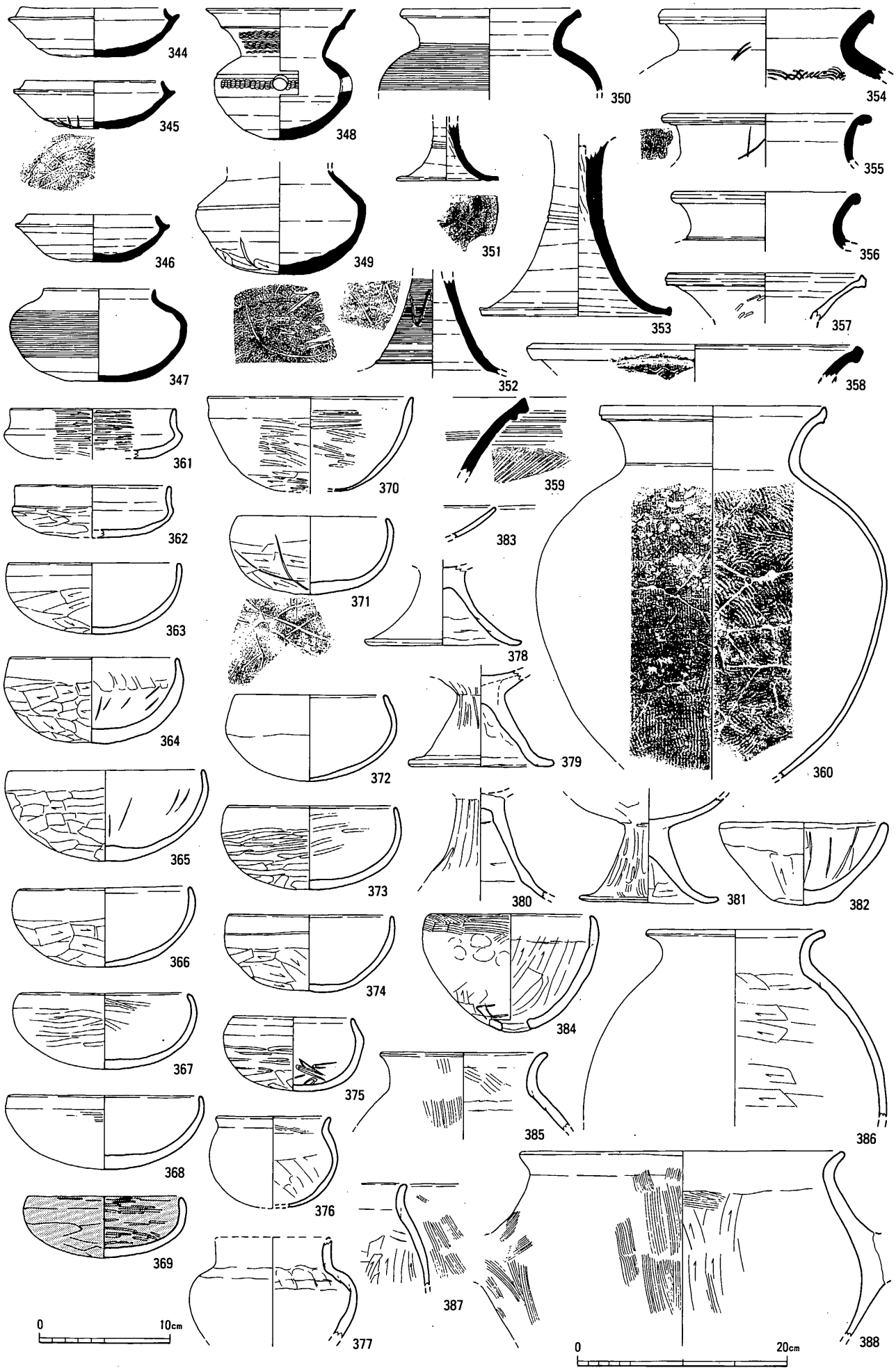
第85図　1号河跡出土土器実測図（その10）（265は1/8，他は1/5）



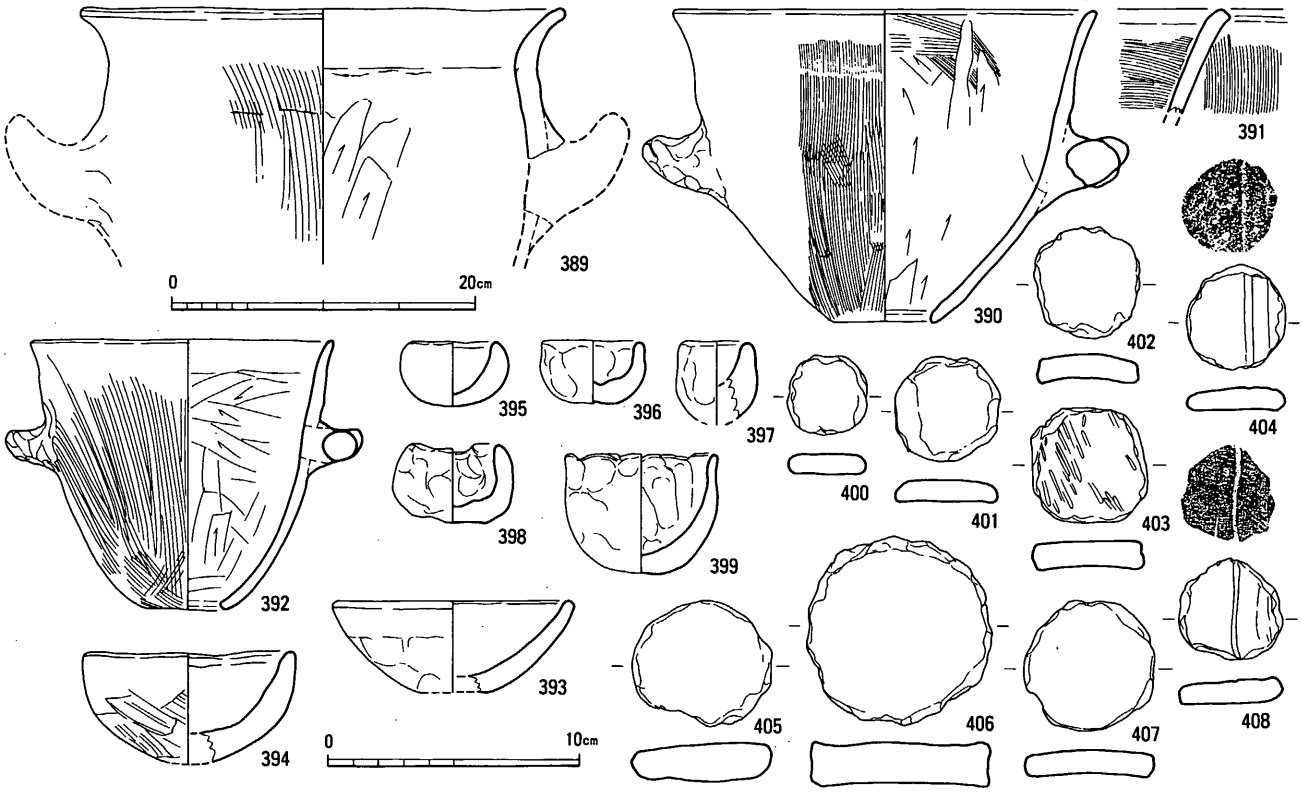
第86図　1号河跡出土土器実測図（その11）（274～279は1/8，他は1/5）



第87図　1号河跡出土土器実測図（その12）（316～319・328～343は1/4，他は1/5）



第88図　1号河跡出土土器実測図（その13）（354～360・383～388は1/5，他は1/4）



第89図　1号河跡出土土器実測図（その14）（389～392は1/5，他は1/3）

からみて西瀬戸内系的。161も中期末葉。166はブランデーグラス形土器で中期後葉。167～169は中期前～中葉。174は中期後葉，170～172は中期末葉。175はやや大ぶりの中期中葉壺蓋。176～182は蓋受付無頸壺で，176～178は中期中葉，180～182は中期後葉，179は中期末葉。183～185は中期中葉。186・187は中期前葉。188～193は中期中葉。194～196・199～201は中期後葉。197・198・202は末葉。203・205は中期前葉，204・206は中期中葉。207・208は中期後葉。210・213は中期中葉，211・212・214～216は中期後葉。217は中期中葉。218は中期前葉。219は木葉圧痕がみられ中期初葉か。221・225は中期前葉。220・222は中期前～中葉。226は中期後葉。227～229は中期前葉。230～236は中期中葉。237～242・244・245は中期後葉。246・247は中期末葉。243は弥生後期初～中葉。248～250は後期前半代。251は中期末。252・253は後期初葉。254・255は後期前葉。256～258は後期後葉。257は山陰系。259はT字口縁系統の他地域出自類で後期初～前葉。260・262はハケ工具端による刻目を持ち，後期末葉。260は北九州市域～遠賀川北部系。263は東瀬戸内系でIV様式か。264は後期末葉。265～267は中期末葉的様相を強く残す。269～271は跳ね上げ口縁的傾向がみられ後期初葉。272・273は後期初葉。274～282は内側への突出が強い中～大型の甕棺片で中期末葉から後期初葉への移行状況がよく判かる。283は後期前葉に近い。284は2沈線とハケ工具による刻目で厚手大型品。中期後葉の他地域からの移入品。285は後期後葉。286・287は後期前葉。288は後期後葉。289・291・295・297・303は僅かな凸レンズ状底部で後期前～中葉。290・293・300は後期後葉。296・298・299・301・302は後期末葉。304・305は弥生中期末葉的。306～309は後期初葉。310は後期中～後葉。311は厚手で中期末～後期前葉か。312・313は後期前葉。314は後期中葉，315は後期末葉で豊前北部地域系。316は5C前半。317は4C末前後。318・319は4C後半。320は庄内新併行期。321は布留中期。322～325は布留新併行期の在地型で5C初～中葉。326・328は5C中葉。328は弥生後期の沈線描画

特殊品。329は弥生後期土製匙。335・336は陶邑Ⅰ型式5段階併行期で，330と337は陶邑産に比べ細部で差異がみられるが，更に先行する5C後葉～末のもの。331～334・340～342は6C中葉で，うち332・334・340・342の内面にはあて具圧痕を残す。343～344は6C後葉，345・346は6C末～7C初。338は7C中葉。348は5C末前後。349・351は6C後葉～7C初。350・352～355・357・358・360は6C前～中葉。356・359は6C後葉～7C初。357・360は赤焼土器。361・362・367～369・373・375は6C前～中葉。364～366・370～372・374・376は5C後葉～末。378・380は5C後葉～末。379・381は6C前半代。383・384は4C後半代の可能性あり。386は5C後葉～末。385・388・390は6C前～中頃。389・392は6C後葉。393・394は弥生後期のミニチュア。398・399は4C後葉～5C中頃。395～397は5C末前後。403・405は弥生壺片，404は弥生中期初葉壺片，406は弥生壺底部片，408は弥生中期初葉甕片を各々再加工しているが，製作時期は不明。

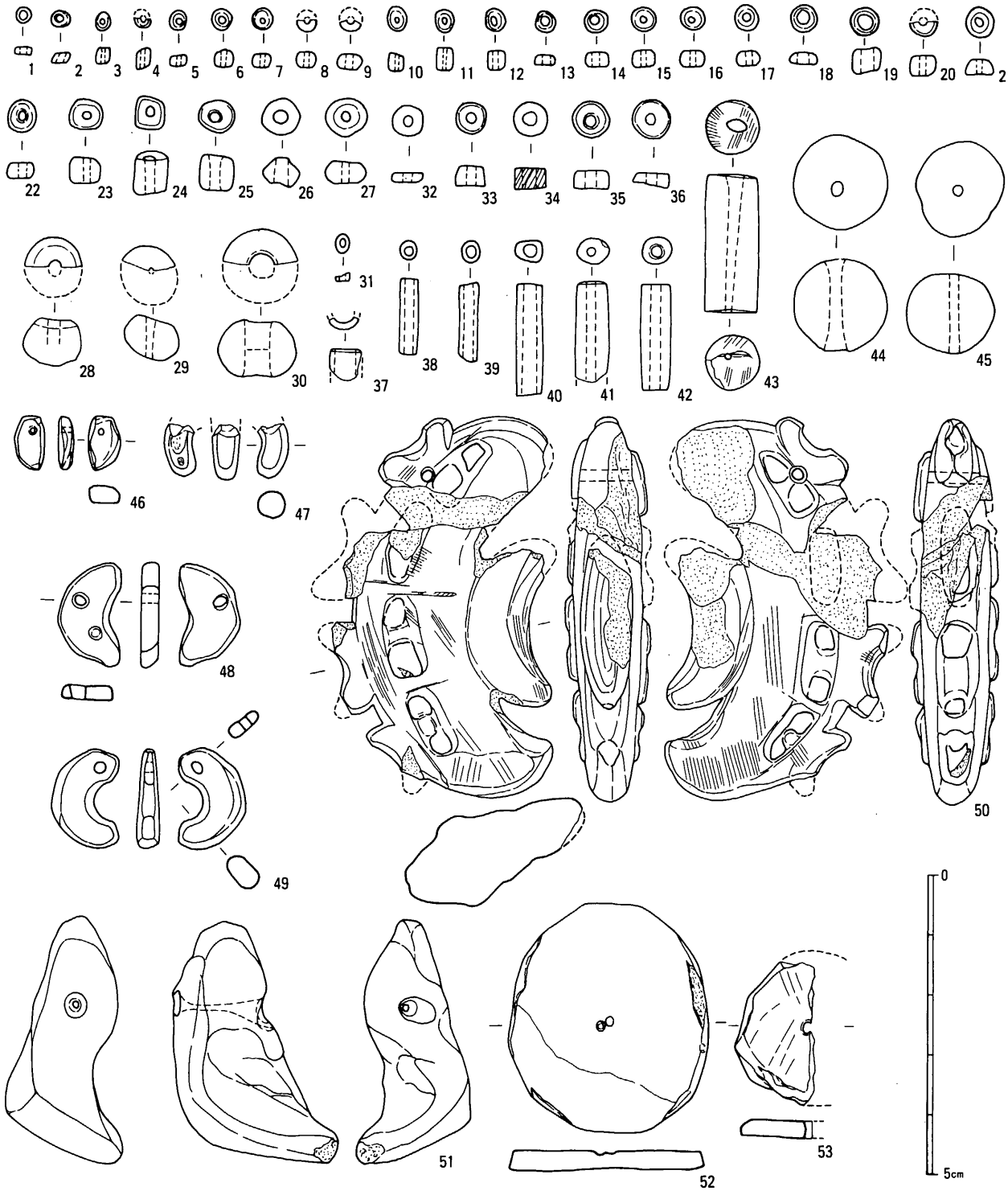
その他の出土遺物　以下に，本書で報告した各遺構出土品のうち，土器以外の遺物について，実測図に一覧表を付して，まとめて掲載しておきたい。

第4表　玉類一覧表

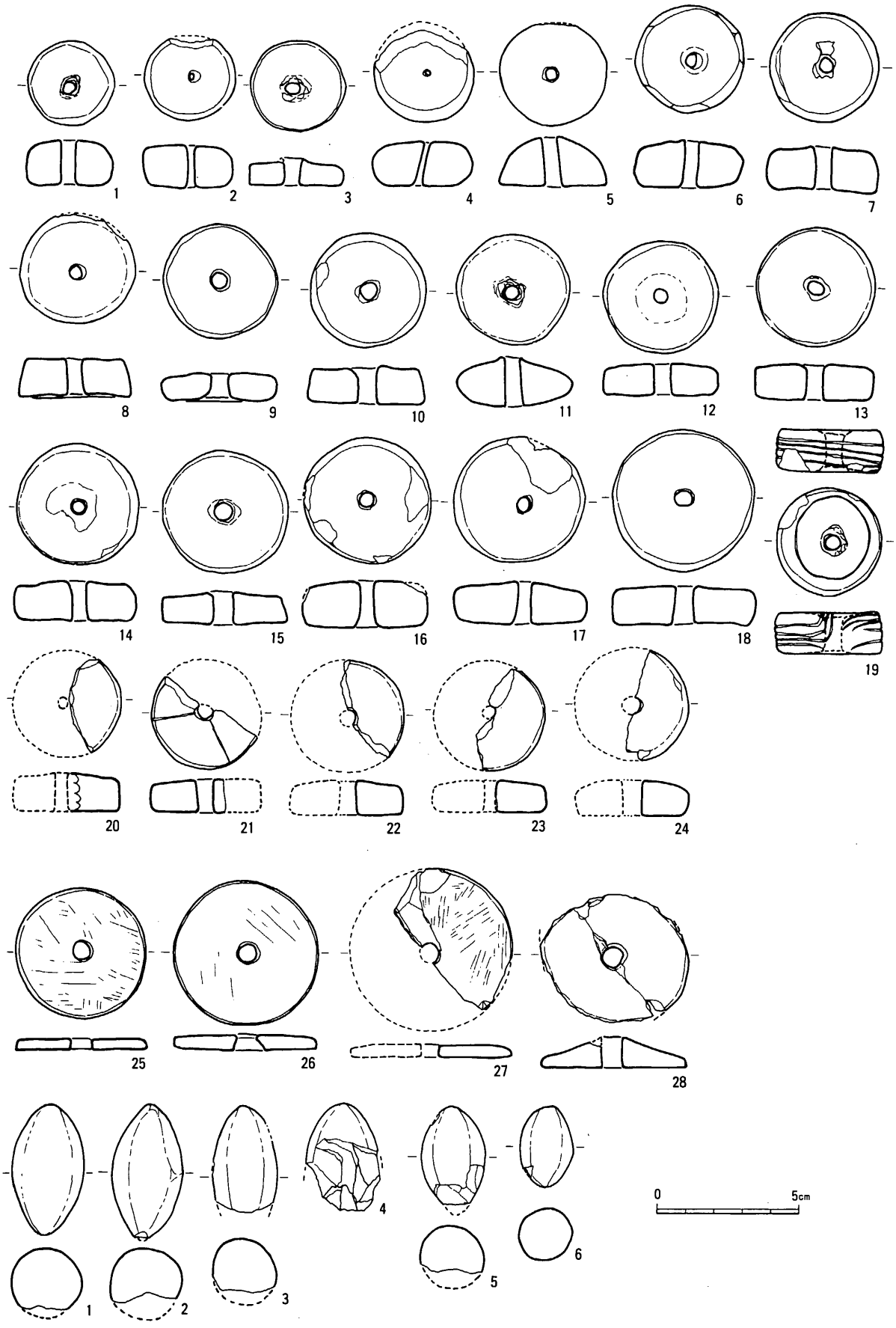
図番号	遺構名	材質	直径(mm)	厚さ(mm)	孔径(mm)	重量(g)	色調
1	住居96下層	ガラス小玉	2.8	1.3	1.2	0.13	紺
2	住居96下層	ガラス小玉	3.1	1.2	1.2	0.12	紺
3	住居424	ガラス小玉	2.9	2.9	1.2	0.14	紺
4	住居258	ガラス小玉	(2.8)	3.0	1.0	(0.13)	ブルー
5	住居350	ガラス小玉	3.5	1.8	1.0	0.14	スカイブルー
6	住居180	ガラス小玉	3.5	2.5	1.4	0.15	黄緑
7	住居383	ガラス小玉	3.6	2.2	1.0	0.15	黄緑
8	住居377	ガラス小玉	破	2.9	破	0.13	ブルー
9	住居350	ガラス小玉	破	2.5	破	0.13	スカイブルー
10	住居345	ガラス小玉	3.8	2.7	1.2	0.16	スカイブルー
11	住居378	ガラス小玉	3.8	3.9	1.0	0.18	スカイブルー
12	住居351	ガラス小玉	3.9	3.0	1.7	0.16	ブルー
13	住居96下層	ガラス小玉	3.5	2.0	1.9	0.13	ブルー
14	Ⅳ区包含層	ガラス小玉	4.0	2.4	1.2	0.16	紺
15	土坑244	ガラス小玉	4.0	2.6	1.4	0.15	トルコブルー
16	住居350	ガラス小玉	4.0	2.8	1.4	0.15	紺
17	住居429	ガラス小玉	4.2	2.5	1.4	0.16	スカイブルー
18	住居350	ガラス小玉	4.5	2.0	2.3	0.17	紺
19	住居247	ガラス小玉	4.6	3.7	2.5	0.19	コバルトブルー
20	住居181	ガラス小玉	(4.7)	3.6	(1.7)	(0.16)	スカイブルー
21	住居350	ガラス小玉	4.8	2.5	1.6	0.17	紺
22	住居423	ガラス小玉	5.2	2.5	1.9	0.18	スカイブルー
23	石棺墓6掘形内	ガラス小玉	5.3	4.3	1.4	0.30	スカイブルー
24	住居226	ガラス小玉	5.7	6.0	2.0	0.35	スカイブルー
25	住居117	ガラス小玉	5.7	5.5	1.7	0.39	スカイブルー
26	溝15最下層	ガラス小玉	6.5	4.6	3.0	0.29	紺
27	住居34	ガラス小玉	6.7	4.0	1.5	0.35	黄緑
28	住居399	ガラス丸玉	9.5	7.7	1.7	0.56	紺
29	住居164床面	ガラス丸玉	破	破	6.5	0.39	紺
30	溝15	ガラス丸玉	12.8	6.2	3.7	1.84	グリーン
31	住居81	石製粟玉	2.6～2.8	1.0～1.5	1.0～1.5	計測不可	赤
32	住居81	滑石白玉	5.3	1.8	1.7	0.18	
33	住居100上層	滑石白玉	5.3	3.5	1.7	0.25	
34	住居355	滑石白玉	5.5	破	2.0	0.26	
35	土坑176	滑石白玉	6.0	3.0	2.0	0.27	
36	Ⅰ区包含層	滑石白玉	6.0	2.5	2.0	0.23	
37	土坑221	碧玉製管玉	破	破	破	計測不可	濃若草
38	住居11	碧玉製管玉	3.0	12.6	1.6	0.28	濃若草
39	土坑176	碧玉製管玉	3.2	23.0	1.0～3.5	3.55	暗緑
40	住居381下層	碧玉製管玉	4.7	18.0	2.8	0.65	暗緑
41	溝15床面	ガラス管玉	5.5	(17.0)	1.7	1.09	エメラルドグリーン
42	住居53	碧玉製管玉	4.6	12.8	1.9	(0.47)	灰緑
43	住居176カマド袖	ガラス管玉	3.6	13.3	1.7	(0.42)	白(透明?)練りガラス斜め巻き付け
44	住居383下層	土玉	16.0	14.0	1.8	2.74	淡橙

図番号	遺構名	材質	直径(mm)	厚さ(mm)	孔径(mm)	重量(g)	色調
45	住居405	土玉	16.0	16.0	2.5	3.03	黒灰
46	住居345	ヒスイ製垂飾	5.0×9.0	23.0	1.0	0.29	エメラルドグリーン
47	P11	ガラス製勾玉	破	(5.0)	破	0.40	コバルトブルー
48	土坑108	蛇紋岩製勾玉	17×8.5	3.0	2.5	0.97	エメラルドグリーン
49	溝15下層	ヒスイ製勾玉	12×17	4.0	2.0	0.93	若草色
50	住居201	土製勾玉	41×20		1.5	9.43	淡橙褐色
51	河跡1	滑石製子持ち勾玉	64×33	38.0	14.0	31.35	
52	住居12埋土中	緑色片岩製有孔円板未製品	38×28	3.0	1.2	8.32	
53	住居238	滑石製有孔円板	破	3.0	1.5	1.87	
	土坑176	ガラス小玉	破	破	破	破	スカイブルー

※　図番号は第90図番号を示す。



第90図　玉類実測図（実大）（出土遺構は第4表参照）



第91図　紡錘車・投弾実測図（1/2）

第5表　紡錘車一覧表

番号	材　質	残　存	出土遺構	直径　(cm)	厚さ　(cm)	孔径　(cm)	重量　(g)	備　考
1	土製	完	土坑48	3.1	1.6	0.5	16.1	
2	土製	ほぼ完	住78	3.2	1.5	0.2	19.5	孔径が小さい
3	土製	完	住70	3.4	1.0	0.5	10.8	
4	土製	1/4欠	住42	3.6	1.5	0.1	(20.2)	垂飾品？　砂粒多
5	土製	ほぼ完	住103	3.8	1.8	0.5	22.7	断面半月形　化粧土?
6	土製	完	住147	3.9	1.7	0.4	25.5	黒斑有
7	土製	完	住132	4.0	1.7	0.5	29.3	黒斑有
8	土製	ほぼ完	住97	4.0	1.4	0.4	26.0	須恵質　生焼け
9	土製	ほぼ完	河跡1	4.1	1.1	0.5	19.6	焼成不良　砂粒多
10	土製	ほぼ完	住110	4.1	1.4	0.6	26.7	断面台形
11	土製	完	土坑43	4.1	1.8	0.5	24.4	断面楕円形　化粧土？
12	土製	ほぼ完	土坑70	4.1	1.2	0.6	22.8	
13	土製	完	土坑48	4.3	1.3	0.5	28.6	焼成不良
14	土製	完	住83	4.4	1.4	0.4	30.7	化粧土？
15	土製	完	住49	4.5	1.2	0.6	24.2	断面台形
16	土製	ほぼ完	住226	4.6	1.7	0.4	37.5	
17	土製	ほぼ完	住158	4.7	1.6	0.4	32.9	
18	土製	完	河跡1	5.1	1.4	0.6	43.2	
19	土製	ほぼ完	住17	3.8	1.5	0.5	26.6	線刻有
20	土製	2/3欠	土坑48	推3.8	1.4	不明	(8.6)	
21	土製	1/2欠	住107	3.9	1.2	0.5	(12.0)	線刻有
22	土製	1/2欠	住107	推4.0	1.2	不明	(8.6)	焼成不良
23	土製	1/2欠	住111	推4.0	1.1	不明	(8.8)	
24	土製	1/2欠	住227	推4.0	1.3	推0.6	(12.4)	
25	石製	完	住71	4.6	0.4	0.6	19.8	雲母片岩
26	石製	完	住315	5.1	0.6	0.7	20.7	砂岩
27	石製	1/2欠	住31	5.8	0.5	0.7	(12.2)	粘板岩
28	石製	1/4欠	住19	5.1	1.1	0.6	30.0	断面三角形　滑石

※　番号は第91図番号と同じ。

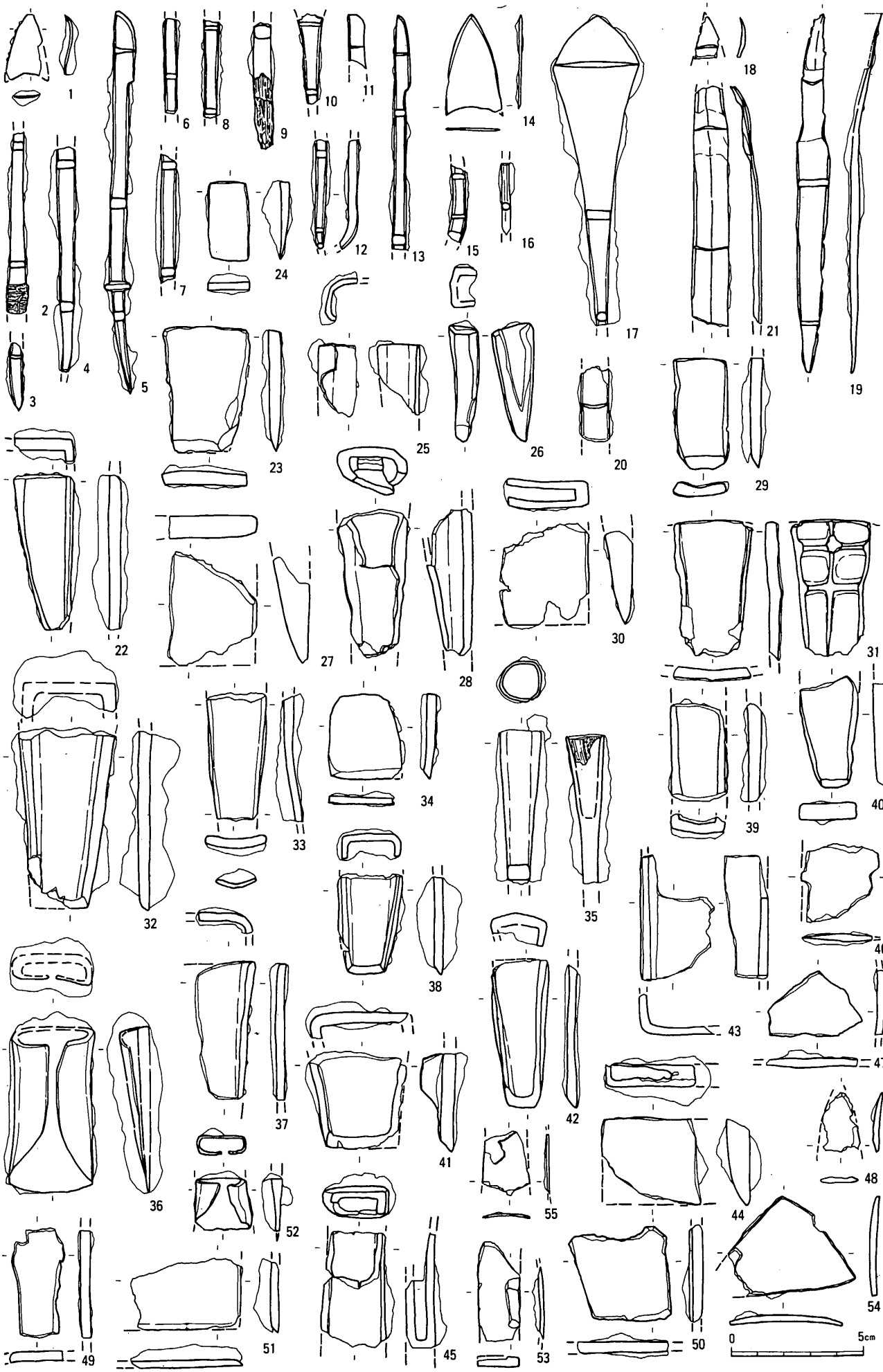
第6表　投弾一覧表

番号	材　質	残　存	出土遺構	長径　(cm)	短径　(cm)	重量　(g)	備　考
1	土製	1/5欠	住42	4.6	2.6	(25.9)	
2	土製	1/3欠	住42	推4.8	2.6	(15.4)	焼成不良
3	土製	1/3欠	河跡1	不明	2.3	(14.1)	
4	土製	2/3欠	住11	不明	不明	(14.4)	焼成不良
5	土製	1/5欠	土82	推3.9	2.3	(12.9)	黒斑有
6	土製	ほぼ完	住27	2.9	1.9	8.0	

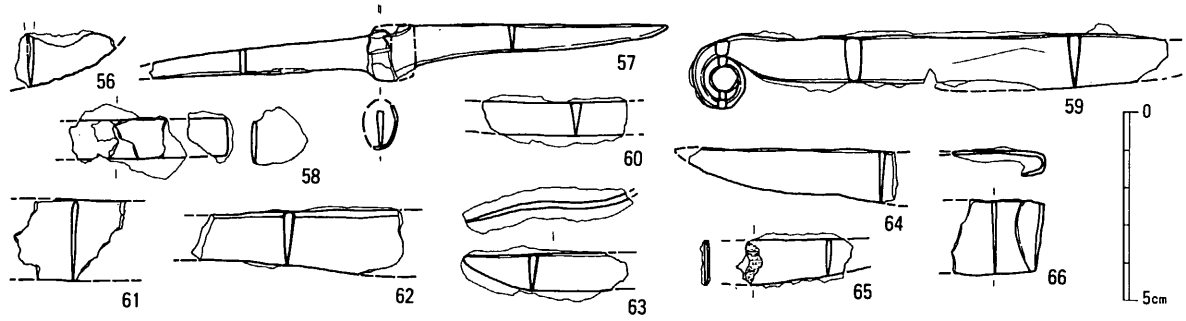
※　番号は第91図番号と同じ。

第7表　鉄器一覧表

番号	図番号	出土遺構	器　種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	備　考
1	56	住3No.5	刀片か	(26)	(15)	1	
2	22	住5埋土中	鉄斧片	(60)	(23)	8	袋部
3	47	住5埋土中	不明鉄片	(25)	(35)	4	
4	18	住5	鉇峰片	(55)	14	2	
5	23	住6床面直上	小型板状鉄斧	48	32	5	
6	48	住10埋土中	不明鉄片	(41)	(21)	4	素材片的
7	3	住14床面	鉄鏃茎部	(26)	5	1	
8	2	住14埋土中	細根鏃片	(68)	8	4	関部に樹皮遺存
9	1	住14ベッド貼床内	無茎三角鏃	23	(13)	1	
10	19	住16埋土	鉇	137	13	4	
11	57	住18カマド内	刀子	(137)	14	2	
12		住23	鉄滓	28	20	13	7.7g　2個体融着
13	24	住26	不明鉄器	(30)	16	3	丸鑿状　錆ふくらみ激しい
14	5	住28	片刃箭式鏃	147	9	5	
15	4	住28下層	細根鏃下半	(85)	8	5	
16	6	住28埋土中	細根鏃片	(36)	5	3	
17	25	住28	鉄斧片	(26)	(14)	17	袋部楕円形
18	26	住31	鉄斧片	44	11	16	袋部台形　片刃
19		住33	不明鉄片	15	15	3	
20		住34	不明鉄片	(13)	(15)	(3)	
21	7	住34	細根鏃片	(48)	6	4	
22	58	住34床面	刀子茎部	(36)	10	2	
23	59	住34下層	蕨手刀子	(125)	14	5	
24	27	住35	鉄斧片	(42)	(34)	(14)	
25	28	住47床面	鑿？	(56)	27	(17)	袋部のみ
26	29	住53	鑿	(42)	(21)	5	片刃　袋部無し
27	30	住53	鉄斧	(42)	(34)	12	小型
28	60	住53	刀子	(48)	10	3	



第92図　鉄器実測図（その１）(1/2)



第93図　鉄器実測図（その２）(1/2)

番号	図番号	出土遺構	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	備考
29	49	住55	不明鉄片	(22)	(14)	3	
30	50	住62	不明鉄片	(36)	(37)	5	素材的
31	31	住64床面	鋳造鉄斧片	(52)	(30)	5	凸線あり　袋部台形
32	66	住65	手鎌	(23)	20	7	
33	32	住71	鉄斧片	(70)	37	14	袋部方形
34		住74	小鉄滓6個	11～24	10～18	10～11	1.9～2.7g
35	33	住80	鉄斧片か鉇	(49)	23	3	
36	8	住82	細根鏃片	(26)	(42)	3	
37	51	住82	不明鉄片	(27)	(42)	3	
38	61	住85	刀子か	(25)	22	2	
39	20	住86	鉇か	(29)	10	1	
40	34	住87	小型板状鉄斧	34	29	4	片刃
41	35	住90	袋部片	(59)	17	15	細身袋付工具か
42	52	住92	不明鉄片	(20)	22	8	鉄斧刃部片か
43	36	住92埋土上層拡張部	鉄斧	64	32	4	袋部楕円形
44	53	住93	不明鉄片	(37)	16	5	
45	37	住93	鉄斧	(53)	(22)	4	袋部楕円形
47	62	住93	刀子	(53)	28	3	
48	9	住93	細根鏃片	(49)	7	6	
49	10	住95	広根鏃片	(34)	11	3	
50	21	住95	鉇	(93)	13	2	
51	54	住96	不明鉄片	38	(45)	3	
52	63	住97	刀子か	(43)	10	3	
53	38	住98	鑿	(38)	25	7	袋部方形的
54	12	土4No.4	細根鏃片	(41)	5	3	下端が曲がり釘の可能性あり
55	39	土4No.5	鉇か鉄斧片	(38)	22	6	袋部片か
56	40	土4No.2	小型板状鉄斧片か	(43)	22	7	片刃　素材片か
57	11	土4No.6	片刃箭式鏃か	(18)	7	1	薄く残りが悪い
58	13	土4	片刃箭式鏃	(90)	7	4	
59	64	土4No.3	刀子	(28)	12	1	木質遺存
60		土4No.1	不明鉄片	(17)	(11)	(2)	
61	55	土12	不明鉄片	(25)	19	1	
62	14	土12	無茎三角鏃	35	22	1	
63	65	土29	刀子か	(28)	12	2	
64		土29	銹部片3個	(14)～(18)	(12)	9～11	
65	15	土31	細根鏃片	(21)	6	2	
66	41	土70	鉄斧片	(37)	38	(11)	袋あり　片刃
67	42	土72	鑿	(56)	21	11	袋部台形的
68	43	住140	鉄斧片	(48)	(29)	(15)	
69	44	土89底面	鉄斧片	33	36	3	
70	16	河跡	細根鏃片	(27)	3	3	
71	17	河跡	広根圭頭鏃	(118)	34	4	
72	45	河跡	小型鉄斧片	(44)	25	11	袋部方形
73	46	河跡	鉄剣	(28)	(28)	3	

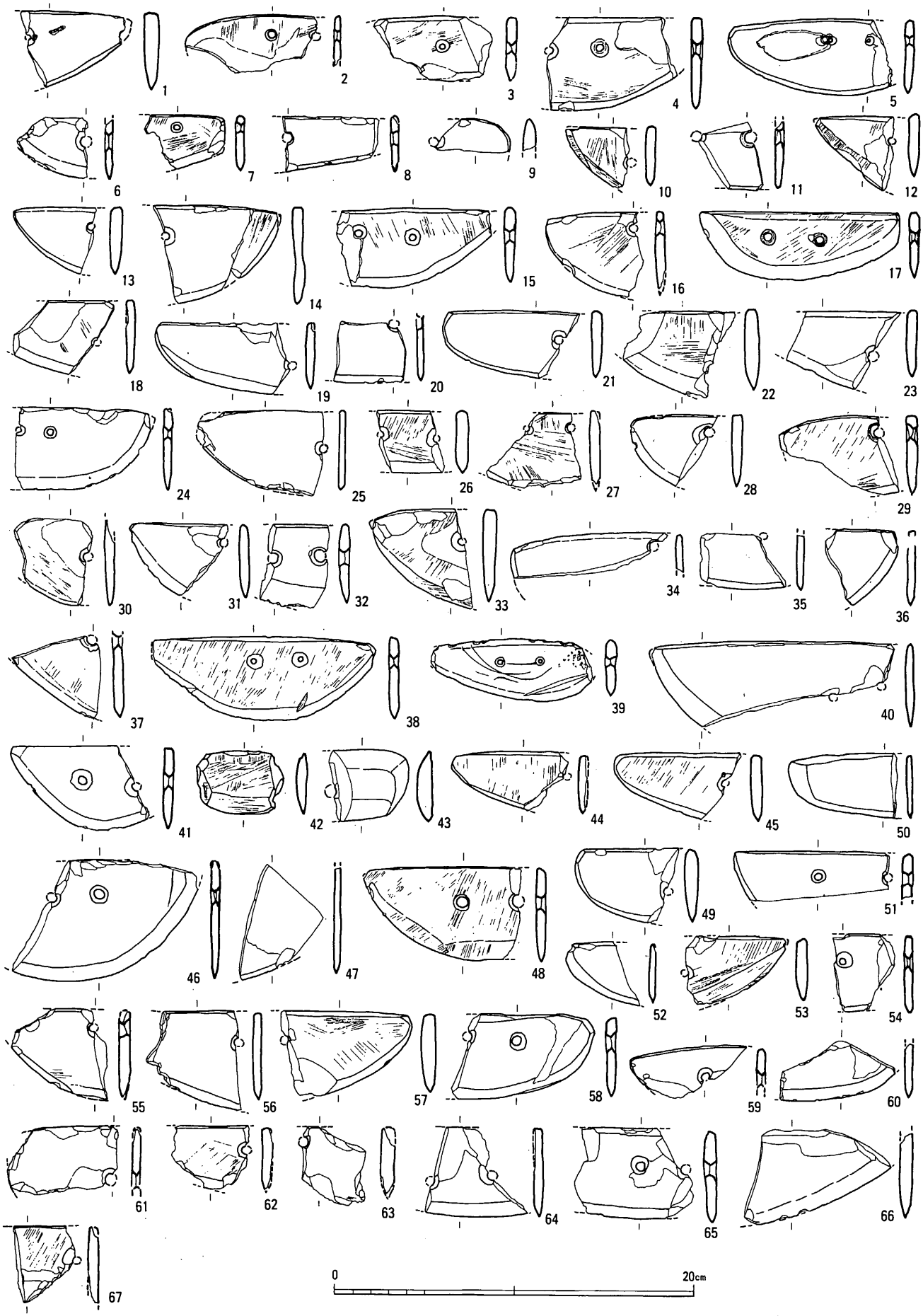
※　図番号は第92・93図番号を示す。

第８表　石庖丁一覧表

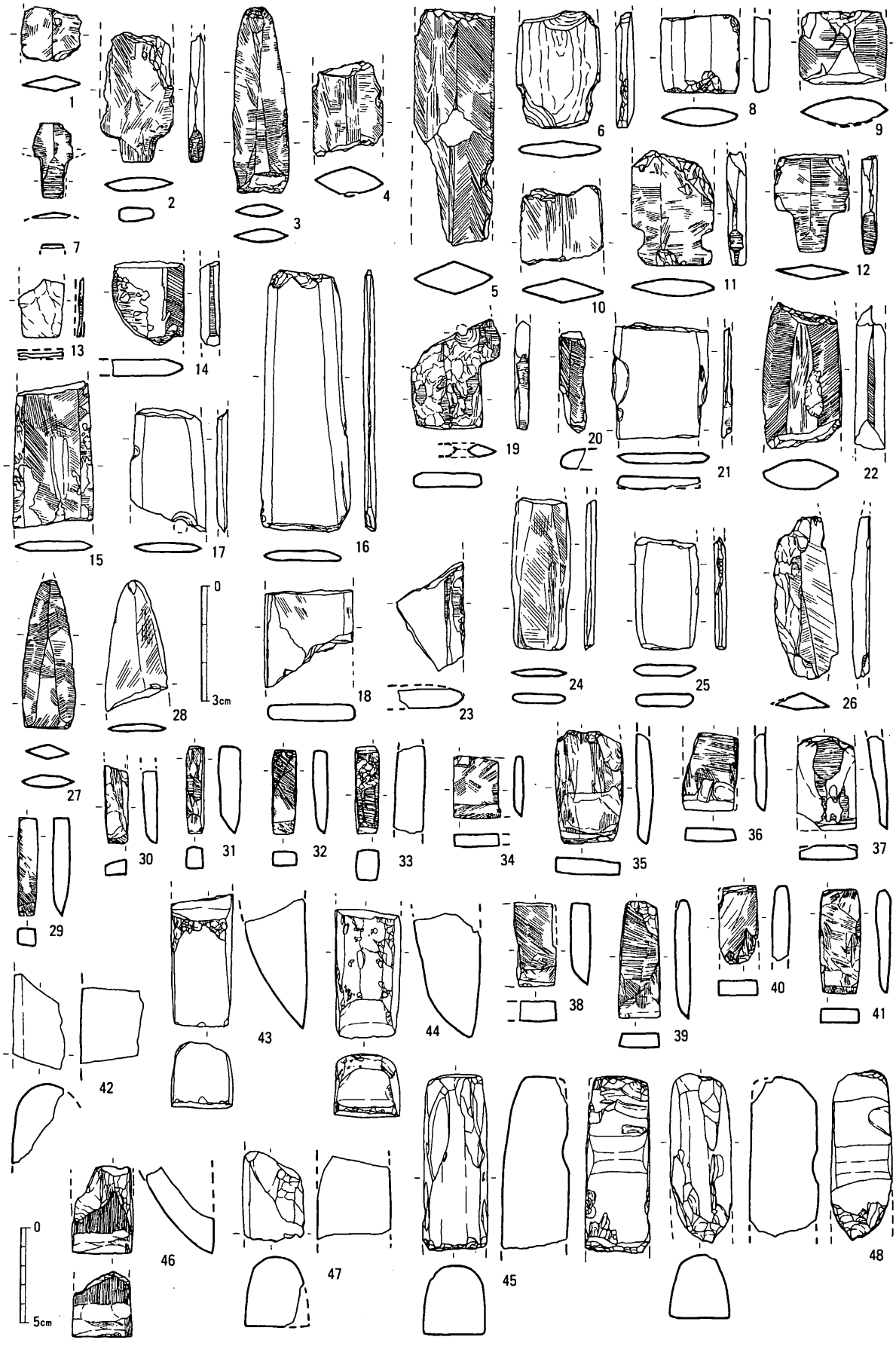
番号	石材	出土遺構	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	整理番号
1	輝緑凝灰岩 ★	5号住居	(58)	(43)	9	(21.3)		22
2	頁岩	5号住居	(74)	(31)	4	(13.8)		14
	砂岩	5号住居	(24)	(22)	6	(4.6)		93
3	頁岩	7号住居	(60)	(36)	6	(15.9)		28
	砂岩	7号住居	(41)	(34)	5	(9.4)		94
	頁岩	8号住居	(50)	(40)	4	(11.2)		88
4	輝緑凝灰岩	10号住居	(73).	52	7	(40.9)	刃部付近剝落後再研磨	2
5	頁岩	10号住居	(92)	43	6	(23.5)	未貫通孔有り	8
6	細粒砂岩	10号住居	(39)	(33)	5	(8.9)		33

番号	石　材	出土遺構	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備　考	整理番号
7	輝緑凝灰岩	11号住居	(45)	(30)	6	(10.5)		21
8	砂岩	11号住居床面	(54)	(31)	5	(14.1)		29
9	細粒砂岩	11号住居	(42)	(19)	8	(7.0)		40
10	輝緑凝灰岩	12号住居	(36)	(34)	6	(10.9)		34
11	凝灰岩	12号住居	(36)	(37)	5	(10.7)		38
12	輝緑凝灰岩 ★	13号住居	(44)	(42)	6	(11.1)	刃部に使用磨滅顕著	20
	頁岩 ★	14号住居	(41)	(18)	5	(4.0)		97
	頁岩 ★	14号住居	(35)	(20)	5	(4.2)		98
13	角閃石ひん岩 ★	15号住居	(45)	(37)	7	(13.7)		18
	凝灰岩	15号住居	(41)	(24)	5	(5.4)		92
14	輝緑凝灰岩 ★	19号住居	(70)	(55)	6	(29.1)		13
15	輝緑凝灰岩	23号住居	(86)	44	7	(34.6)		7
16	輝緑凝灰岩	27号住居	(55)	(48)	6	(21.5)		17
	頁岩	27号住居	(39)	(26)	8	(7.2)		99
17	輝緑凝灰岩	31号住居床面	111	37	6	40.8	完形	11
	凝灰岩	34号住居	(39)	(31)	5	(9.6)		87
	砂岩	35号住居	(49)	(21)	3	(3.7)		89
	頁岩	39号住居	(37)	(25)	5	(4.0)		96
18	凝灰岩	41号住居	(56)	(41)	5	(14.9)		36
19	細粒砂岩	60号住居	(75)	39	5	(24.0)		6
	砂岩	65号住居	(46)	(31)	6	(12.0)		95
20	砂岩	67号住居	(41)	(35)	4	(13.0)		39
21	頁岩	73号住居	(76)	(37)	6	(21.8)		9
22	輝緑凝灰岩 ★	75号住居	(62)	(48)	8	(28.0)		30
23	砂岩	82号住居	(63)	(43)	6	(21.3)		15
	砂岩	85号住居	(36)	(24)	8	(11.6)		90
24	砂岩	90号住居	(74)	46	5	(32.0)		5
25	砂岩	92号住居	(70)	(43)	4	(26.0)		4
	砂岩	92号住居	(28)	(30)	2	(2.7)		91
26	輝緑凝灰岩	93号住居	(38)	35	7	(17.8)		31
27	頁岩	93号住居貼床中	(53)	(42)	6	(15.1)		32
	砂岩	95号住居	(34)	(19)	5	(4.4)		86
28	細粒砂岩	96号住居	(48)	(40)	6	(12.4)		25
29	緑色千枚岩 ★	96号住居	(67)	(43)	6	(21.5)		27
30	砂岩 ★	97号住居	(44)	(48)	6	(15.7)		35
31	砂岩 ★	99号住居	(55)	(41)	6	(15.2)		19
32	輝緑凝灰岩	土坑3	(39)	(48)	7	(16.9)		59
33	輝緑凝灰岩	土坑27	(56)	(55)	8	(26.9)		48
34	砂岩	土坑30	(88)	(26)	4	(14.5)		53
35	砂岩	土坑31	(48)	(31)	4	(10.3)		60
36	砂岩	土坑36	(41)	(43)	5	(10.9)		56
	凝灰岩	土坑36	(28)	(30)	5	(5.7)		102
37	凝灰岩	土坑39	(49)	(47)	6	(16.0)		54
38	輝緑凝灰岩 ★	土坑46	125	47	6	52.1	ほぼ完形	50
39	輝緑凝灰岩 ★	土坑52	(89)	35	7	(29.4)	鉄製工具端による擦痕有	51
40	凝灰岩	土坑52	(134)	(48)	5	(45.0)		49
	砂岩	土坑66	(45)	(21)	4	(6.0)		100
41	砂岩 ★	土坑67	(78)	47	6	(32.5)		47
	頁岩	土坑67	(43)	(27)	6	(6.0)		101
42	頁岩 ★	土坑69	(49)	35	7	(17.9)	再加工品	58
43	ホルンフェルス ★	土坑72	(45)	40	9	(22.9)		57
44	輝緑凝灰岩	土坑72	(65)	(33)	5	(13.9)		55
45	輝緑凝灰岩 ★	土坑72	(71)	(37)	7	(24.9)		52
46	砂岩	土坑74	(102)	68	5	(48.3)		46
47	凝灰岩 ★	土坑75	(46)	(65)	4	(16.4)		61
48	輝緑凝灰岩	河跡	(88)	52	6	(39.5)	紐ずれ痕跡有	62
49	輝緑凝灰岩	河跡	(53)	(41)	8	(26.8)		65
50	凝灰岩	河跡	(60)	(36)	4	(14.4)		67
51	頁岩 ★	河跡	(86)	(29)	6	(26.1)		66
52	砂岩	河跡	(35)	(41)	4	(6.8)	刃部が不明瞭	79
53	頁岩	河跡	(56)	(39)	7	(17.7)		71
54	砂岩	河跡	(34)	43	5	(11.7)		72
55	細粒砂岩 ★	河跡	(54)	(50)	7	(23.8)		69
56	砂岩	河跡	(53)	(56)	5	(23.7)		75
57	輝緑凝灰岩 ★	河跡	(94)	(57)	8	(36.2)		64
58	雲母-石英片岩 ★	河跡	(70)	48	6	(33.5)		63
59	輝緑凝灰岩	河跡	(64)	(30)	5	(14.1)		70
60	砂岩	河跡	(64)	(34)	5	(15.3)		80
61	頁岩	河跡	(62)	(39)	5	(20.5)	剝落後に再研磨	73
62	頁岩	河跡	(43)	(36)	6	(11.5)		74
63	頁岩 ★	河跡	(36)	(44)	8	(15.3)		77
64	砂岩	河跡	(57)	50	6	(19.4)		68
65	砂岩	河跡	(67)	(51)	7	(36.6)		82
66	凝灰岩	河跡	(81)	(53)	7	(37.3)		76
67	砂岩	河跡	(35)	(43)	6	(15.6)		78

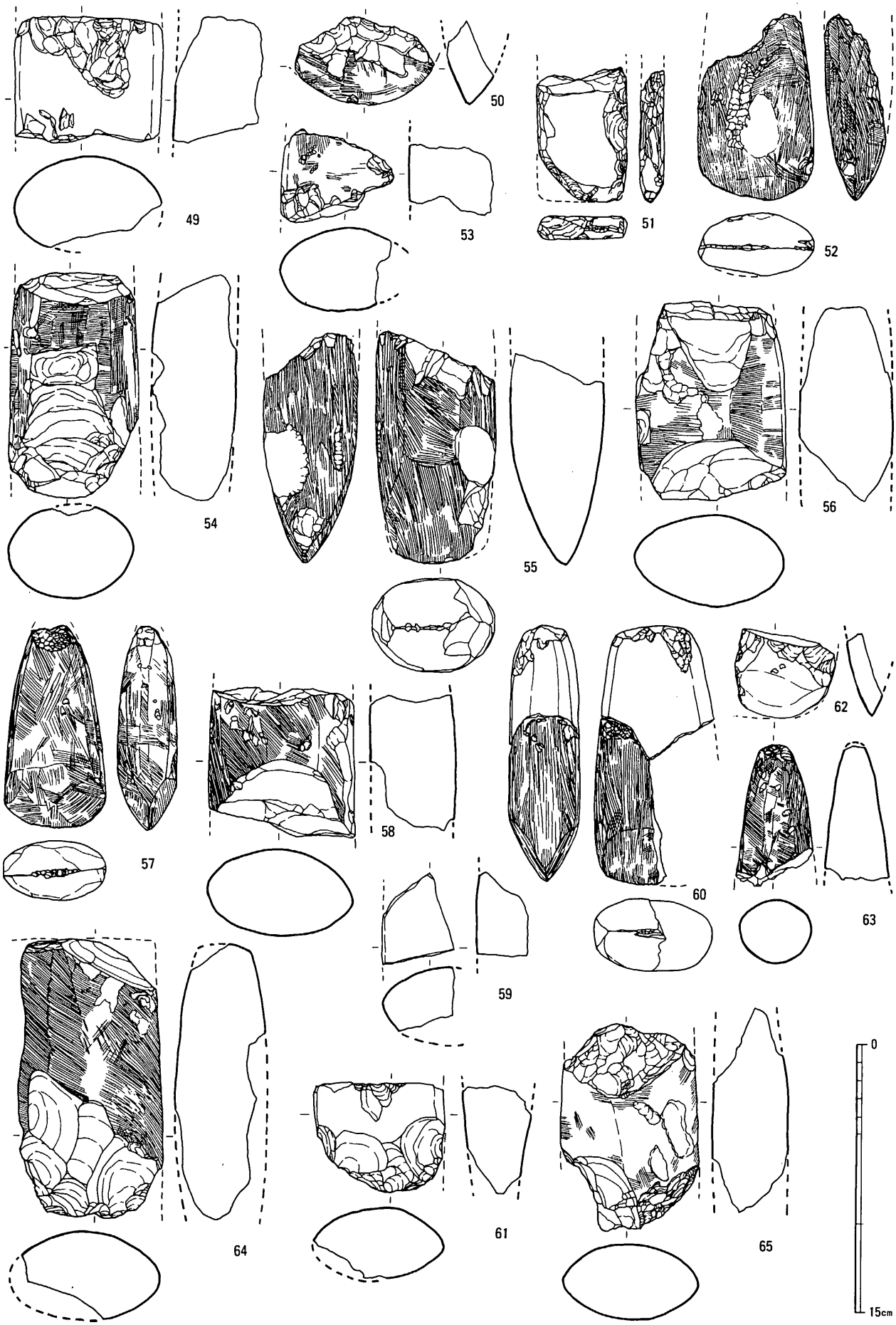
※　番号は第94図番号と同じ。　　( ) は残存値，★は五十嵐俊雄氏の鑑定による。



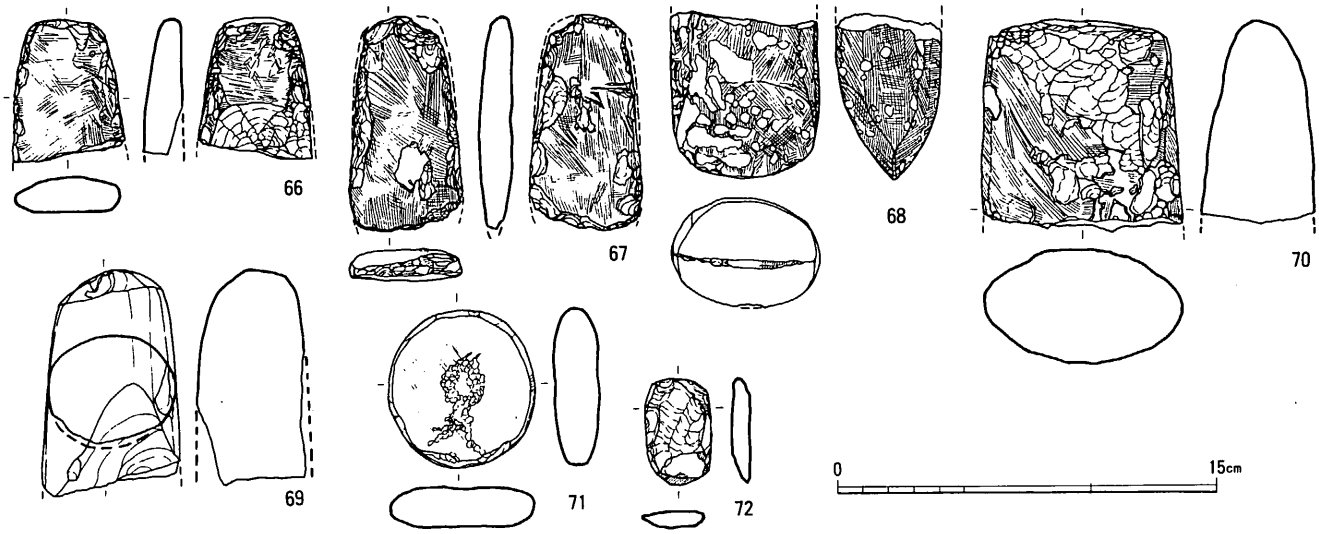
第94図　石庖丁実測図（1/3）



第95図　磨製石剣等実測図（28は2/3，他は1/3）



第96図　磨製石斧実測図（その１）(1/3)



第97図　磨製石斧実測図（その２）(1/3)

第９表　磨製石器類一覧表

番号	図番号	器　種	出土遺構	石　材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備　考
1	1	石　剣	住16	凝灰岩	(28)	(32)	9	(9.4)	
2	2	石　剣	住29	輝緑凝灰岩	(78)	(37)	8	(29.7)	
3	3	石　剣	住64	輝緑凝灰岩	(97)	29	8	(30.5)	欠損後、利器に再利用した可能性あり
4	4	石　剣	住67	凝灰岩	(45)	(47)	14	(25.4)	
5	5	石　剣	住68	凝灰岩	(123)	42	18	(91.8)	
6	6	石　剣	住69	頁岩	(62)	41	10	(40.8)	
7	7	石　剣	住83	凝灰岩	(39)	(21)	(3)	(3.2)	
8	8	石　剣	住71貼床内	凝灰岩	(42)	(41)	9	(31.6)	欠損後、利器に再利用した可能性あり
9	9	石　剣	河跡	輝緑凝灰岩	(38)	46	(15)	(34.4)	
10	10	石　剣	河跡	蛇紋岩	(40)	43	13	(28.1)	
11	11	石　剣	河跡	凝灰岩	(50)	43	14	(33.1)	
12	12	石　剣	河跡	凝灰岩	(52)	39	8	(21.8)	
13	13	石　戈	住8	頁岩	(62)	41	(3)	(2.9)	
14	14	石　戈	住14床面	輝緑凝灰岩	(44)	(38)	10	(28.8)	
15	15	石　戈	住19	輝緑凝灰岩	(73)	43	6	(37.3)	
16	16	石　戈	住84貼床内	凝灰岩	(137)	47	50	(74.5)	欠損後、石庖丁に再利用した可能性あり
17	17	石　戈	住86貼床内	輝緑凝灰岩	(60)	40	6	(26.0)	
18	18	石　戈	住96	輝緑凝灰岩	(52)	51	9	(35.0)	
19	19	石　戈	土67	輝緑凝灰岩	(57)	(40)	9	(32.2)	
20	20	石　戈	土67	凝灰岩	(54)	(14)	11	(11.7)	
21	21	石　戈	土82	輝緑凝灰岩	(60)	50	6	(37.2)	
22	22	石　剣	河跡	凝灰岩	(77)	42	16	(75.5)	欠損後、石戈に再利用した可能性あり
23	23	石　戈	河跡	凝灰岩	(50)	(35)	11	(28.7)	
24	24	石　戈	河跡	凝灰岩	(80)	31	5	(26.5)	
25	25	石　戈	河跡	凝灰岩	(58)	33	6	(30.9)	
26	26	石　戈	河跡	輝緑凝灰岩	(86)	(31)	9	(26.2)	石剣の再利用
27	27	磨製石鏃	住67	凝灰岩	(78)	29	9	(21.6)	石剣の再利用
28	28	磨製石鏃	土26	凝灰岩	(32)	17	3	1.6	
29	29	小型柱状片刃石斧	住7埋土中	頁岩	52	10	9	10.7	偏平片刃石斧片の再利用
30	30	小型柱状片刃石斧	住66	頁岩	(38)	12	7	(7.5)	偏平片刃石斧片の再利用
31	31	小型柱状片刃石斧	住78	凝灰岩	46	9	12	9.8	
32	32	小型柱状片刃石斧	住93	頁岩	44	23	9	10.7	
33	33	小型柱状片刃石斧	土34	頁岩	(46)	13	16	(19.3)	
34	34	偏平片刃石斧	住3	頁岩	32	25	6	(10.5)	基部欠損後の再利用
35		偏平片刃石斧	住12埋土中	頁岩	(54)	(23)	(4)	(7.3)	体部片
36	35	偏平片刃石斧	住16貼床中	頁岩	(60)	35	9	(34.7)	表面剝離後の再利用
37	36	偏平片刃石斧	住38	頁岩　★	41	27	7	(15.9)	
38	37	偏平片刃石斧	住64	頁岩	(49)	31	9	(19.2)	表面剝離後の再利用
39	38	偏平片刃石斧	住64	頁岩	(44)	22	11	(23.6)	
40	39	偏平片刃石斧	住64	頁岩	62	12	9	(22.9)	偏平片刃石斧片欠損後の再利用
41	40	偏平片刃石斧	住97	頁岩	(40)	21	10	(15.9)	
42	41	偏平片刃石斧	河跡	頁岩	56	22	8	(19.0)	
43	42	抉入柱状片刃石斧	住5埋土中	凝灰岩	(41)	28	(30)	(73.3)	

番号	図番号	器　種	出土遺構	石　材	長さ(㎜)	幅(㎜)	厚さ(㎜)	重量(g)	備　考
44	43	抉入柱状片刃石斧	住6	凝灰岩	(68)	32	31	(115.3)	
45	44	抉入柱状片刃石斧	住30	凝灰岩	(68)	35	34	(129.7)	
46	45	抉入柱状片刃石斧	住79	凝灰岩	(92)	33	35	(216.2)	
47	46	抉入柱状片刃石斧	住80	凝灰岩	(46)	32	23	(41.6)	
48		抉入柱状片刃石斧	住87	頁岩	(71)	(18)	(43)	(123.7)	両側面欠損の体部片
49	47	抉入柱状片刃石斧	住92	頁岩	(46)	30	37	(101.7)	
50	48	抉入柱状片刃石斧	住93	凝灰岩	(85)	29	34	(174.2)	
51		蛤刃石斧	住3	凝灰岩	(36)	(11)	9	(10.6)	刃部片
52	49	太型蛤刃石斧	住4	玄武岩	(69)	82	48	(473.2)	
53	50	太型蛤刃石斧	住30	玄武岩	(48)	(77)	23	(83.8)	
54		蛤刃石斧	住34	斑れい岩	(57)	(20)	(13)	(39.2)	刃部片
55	51	蛤刃石斧	住62	凝灰岩	(74)	(50)	(14)	(87.0)	
56	52	蛤刃石斧	住75	蛇紋岩	(110)	64	31	(268.1)	
57	53	太型蛤刃石斧	住82	玄武岩	(52)	(63)	(46)	(200.1)	
58	54	太型蛤刃石斧	住82	玄武岩	(126)	71	48	(755.5)	
59	55	蛤刃石斧	住90	蛇紋岩	(123)	67	52	(644.7)	
60		太型蛤刃石斧	住92	玄武岩	(34)	(27)	(34)	(39.2)	刃部片
61	56	太型蛤刃石斧	住95	玄武岩	(110)	83	52	(755.5)	
62	57	蛤刃石斧	住97	凝灰岩	(112)	57	33	(311.5)	
63	58	太型蛤刃石斧	土50	玄武岩	(81)	81	48	(560.1)	
64	59	太型蛤刃石斧	土63	玄武岩	(46)	(39)	(29)	(88.0)	
65	60	蛤刃石斧	土63＋河跡	斑れい岩　★	144	63	43	(483.4)	接合資料
66	61	太型蛤刃石斧	土72	玄武岩	(61)	72	37	(231.0)	
67	62	太型蛤刃石斧	河跡	玄武岩	(47)	(55)	13	(55.0)	
68	63	蛤刃石斧	河跡	蛇紋岩	(75)	40	36	(122.8)	乳棒状基部片
69	64	太型蛤刃石斧	河跡	玄武岩	(152)	(79)	49	(904.1)	
70	65	太型蛤刃石斧	河跡	玄武岩	(113)	76	43	(508.9)	
71	67	蛤刃石斧	河跡	蛇紋岩	(84)	(45)	13	(89.0)	
72	66	蛤刃石斧	河跡	輝緑凝灰岩	(55)	45	15	(57.8)	
73	68	蛤刃石斧	河跡	斑れい岩　★	(63)	57	31	(241.3)	
74	69	蛤刃石斧	河跡	凝灰岩	(84)	54	42	(327.3)	
75	70	太型蛤刃石斧	河跡	玄武岩	(83)	79	45	(468.7)	
76		太型蛤刃石斧	河跡	玄武岩	(22)	(70)	(38)	(61.0)	体部片
77	71	磨石	河跡	凝灰岩	62	57	17	116	
78	72	小型石斧	住14埋土	輝緑凝灰岩	42	27	(7)	(13.8)	
1	1	砥　石	住5埋土中	粘板岩	(31)	20	5	(3.7)	手持ち用　仕上げ砥
2	2	砥　石	住5埋土中	頁岩	50	34	11	41.1	手持ち用　仕上げ砥
3	3	砥　石	住6	砂岩	(48)	(55)	18	(54.4)	手持ち用　粗砥
4	4	砥　石	住6埋土中	粗砂岩	(80)	72	35	(304.6)	据え用　粗砥
5	5	砥　石	住7床面	花崗岩	(95)	(80)	(67.0)	(617.0)	据え用　中砥
6	6	砥　石	住8	粘板岩	(17.4)	22	20	(119.1)	手持ち用　仕上げ砥
7	7	砥　石	住11	粘板岩	(46)	32	11	(16.3)	手持ち用　仕上げ砥
8	8	砥　石	住11	粘板岩	(50)	(53)	(21)	(67.1)	手持ち用　仕上げ砥
9	9	砥　石	住12埋土中	シルト岩	(30)	(30)	(15)	(16.7)	手持ち用　仕上げ砥
10	10	砥　石	住14壁際土坑内	頁岩	63	35	16	(39.1)	手持ち用　仕上げ砥
11	11	砥　石	住14	砂岩	(45)	65	(14)	(70.3)	据え用　粗砥
12	12	砥　石	住14貼床下	頁岩	(35)	(31)	11	(12.5)	手持ち用　仕上げ砥
13	13	砥　石	住14	頁岩	(36)	41	24	(51.7)	手持ち用　仕上げ砥
14	14	砥　石	住14	頁岩	166	36	(38)	(953.2)	据え用　仕上げ砥
15	15	砥　石	住15	粘板岩	(142)	(38)	(26)	(199.5)	手持ち用　仕上げ砥
16	16	砥　石	住17	流紋岩	(95)	35	30	(174.8)	据え用　仕上げ砥
17	17	砥　石	住21	粘板岩	(16)	(27)	33	(108.7)	据え用　仕上げ砥
18	18	砥　石	住21	粘板岩	163	(55)	33	(321.2)	据え用　仕上げ砥
19	19	砥　石	住21	粘板岩	(120)	28	11	(43.0)	据え用　仕上げ砥
20	20	砥　石	住21	粘板岩	(150)	(31)	(34)	(87.1)	据え用　仕上げ砥
21	21	砥　石	住21埋土中	粘板岩	(81)	(36)	(20)	(74.1)	手持ち用　仕上げ砥
22	22	砥　石	住21	頁岩	(34)	50	31	(73.7)	据え用　仕上げ砥
23	23	砥　石	住27	粗砂岩	86	61	26	182.8	手持ち用　粗砥
24	24	砥　石	住30	砂岩	(69)	(66)	(45)	(239.0)	据え用　粗砥
25	25	砥　石	住31	黒色千枚岩　★	(136)	68	31	(334.2)	据え用　仕上げ砥
26	26	砥　石	住34	砂岩	(34)	(56)	(20)	(35.1)	手持ち用　粗砥
27	27	砥　石	住34	頁岩	59	35	18	61.4	手持ち用　仕上げ砥
28	28	砥　石	住46	粘板岩	132	79	24	416.5	据え用　仕上げ砥
29	29	砥　石	住67	流紋岩	(56)	23	17	(36.2)	手持ち用　仕上げ砥
30	30	砥　石	住67	砂岩	(47)	(33)	23	(56.7)	手持ち用　粗砥
31	31	砥　石	住70	砂岩	(84)	36	30	(123.4)	手持ち用　中砥
32	32	砥　石	住70	頁岩	60	34	20	80.8	手持ち用　仕上げ砥
33	33	砥　石	住74貼床中	頁岩	135	37	30	183.6	据え用　仕上げ砥
34	34	砥　石	住78	粘板岩	(219)	(14)	(11)	(43.3)	手持ち用　仕上げ砥
35	35	砥　石	住82	砂岩	(92)	37	46	(135.6)	手持ち用　仕上げ砥
36	36	砥　石	住82	砂岩	(50)	(44)	(51)	(144.9)	据え用　粗砥火を受ける

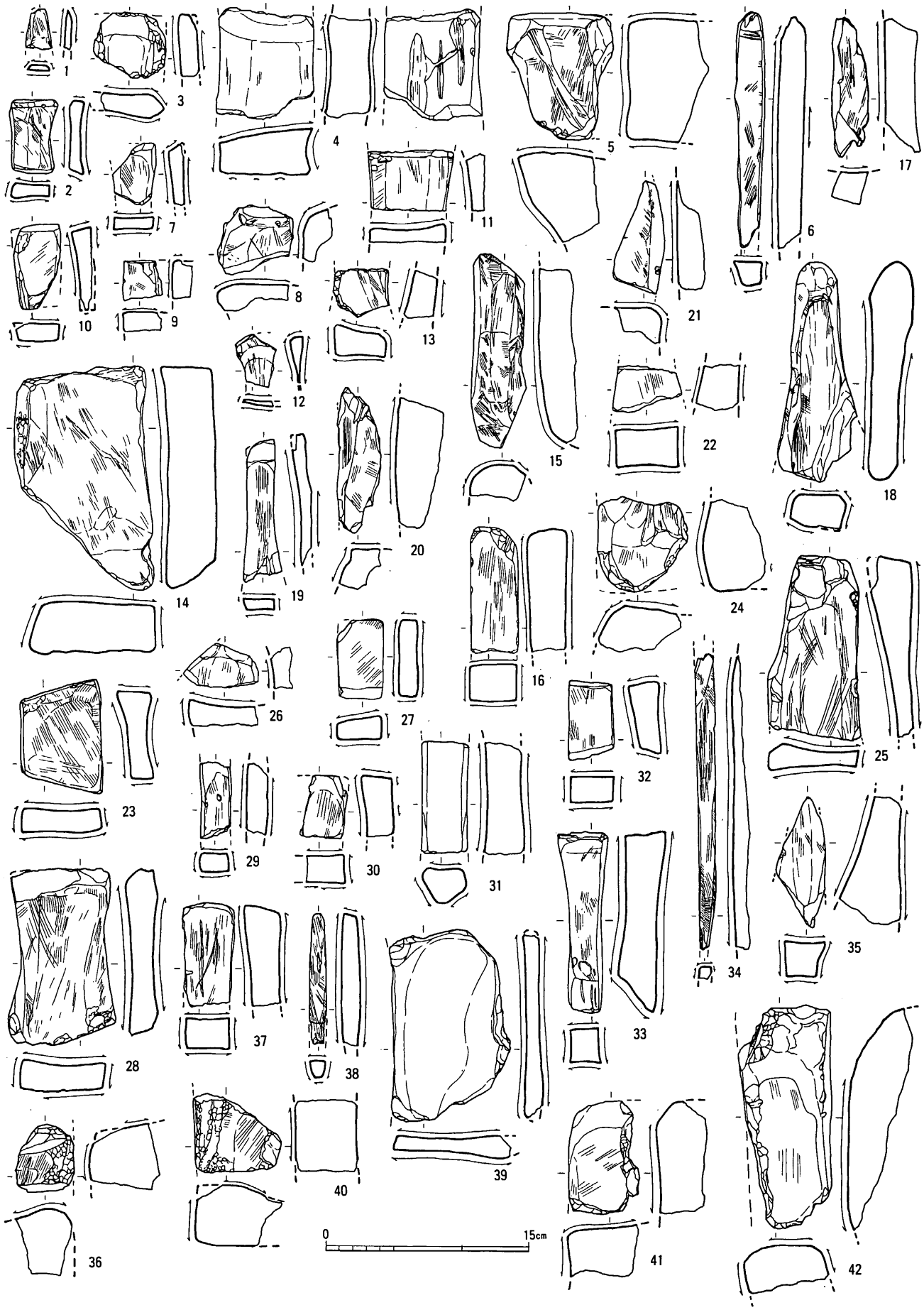
番号	図番号	器　種	出土遺構	石　材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備　考
37	37	砥　石	住84	砂岩	(75)	39	28	(130.1)	手持ち用　仕上げ砥
38	38	砥　石	住88	粘板岩	(99)	13	14	(28.3)	手持ち用　仕上げ砥
39	39	砥　石	住89	結晶片岩	138	87	14	321.6	据え用　中砥
40	40	砥　石	住90	砂岩	(59)	(64)	46	(203.7)	据え用　粗砥
41	41	砥　石	住93	流紋岩　★	(84)	(53)	(38)	(242.6)	据え用　中砥
42	42	砥　石	住96	花崗岩	(165)	(68)	(40)	(545.0)	据え用　中砥
43	43	砥　石	住97	砂岩	(175)	67	56	(1366.2)	据え用　仕上げ砥
44	44	砥　石	土3＋1区包含層	粗シルト岩	(130)	80	(15)	(195.5)	据え用　仕上げ砥
45	45	砥　石	土3	頁岩	95	63	40	406.1	据え用　仕上げ砥
46	46	砥　石	土7	砂岩	(58)	(33)	24	(65.8)	手持ち用　中砥
47	47	砥　石	土8	粗砂岩	(189)	(109)	66	(1535.7)	据え用　粗砥火を受ける
48	48	砥　石	土12	砂岩	(162)	(107)	(42)	(677.5)	据え用　粗砥
49	49	砥　石	土17	砂岩	(69)	(67)	32	(197.8)	手持ち用　粗砥
50	50	砥　石	土20	頁岩	253	94	(97)	(2884.1)	据え用　仕上げ砥
51	51	砥　石	土22	砂岩	(77)	64	23	(118.0)	据え用　中砥
52	52	砥　石	土27	砂岩	(94)	50	34	(164.0)	手持ち用　仕上げ砥
53	53	砥　石	土39	花崗岩	(44)	56	54	(167.0)	据え用　中砥
54	54	砥　石	土56	砂岩	(92)	66	36	(240.8)	据え用　仕上げ砥
55	55	砥　石	土63	シルト岩	(58)	34	15	(44.9)	手持ち用　仕上げ砥
56	56	砥　石	土64	シルト岩	(34)	27	12	(17.1)	手持ち用　仕上げ砥
57	57	砥　石	土71	頁岩	(72)	(17)	19	(45.4)	手持ち用　仕上げ砥
58	58	砥　石	土76	砂岩	(70)	(19)	(20)	(65.0)	手持ち用　中砥
59	59	砥　石	土78	砂岩	(35)	50	13	(38.4)	手持ち用　中砥
60		砥　石	河跡	輝岩　★	(43)	42	7	(27.5)	手持ち用　粗砥　破片
61	60	砥　石	河跡	粘板岩	(35)	18	7	(4.4)	手持ち用　仕上げ砥
62	61	砥　石	河跡	粘板岩	(71)	(10)	(8)	(6.7)	手持ち用　仕上げ砥
63	62	砥　石	河跡	砂岩	(121)	50	50	(347.1)	据え用　仕上げ砥
64	63	砥　石	河跡	細粒砂岩　★	129	80	8	232	据え用　中砥
65	64	砥　石	河跡	細粒砂岩	(90)	(78)	20	(188)	据え用　中砥
66	65	砥　石	河跡	頁岩	(62)	53	(17)	(100.4)	据え用　仕上げ砥
67	66	砥　石	河跡	砂岩	(67)	(71)	14	(82.6)	据え用　中砥
68	67	砥　石	河跡	細粒砂岩	(58)	42	8	(31.6)	据え用　中砥
69	68	砥　石	河跡	砂岩	(64)	56	26	(119.2)	手持ち用　粗砥
70	69	砥　石	河跡	頁岩	107	27	25	158.7	手持ち用　仕上げ砥

※　図番号は第95～99図番号を示す。　　（　）は残存値，★は五十嵐俊雄氏の鑑定による。

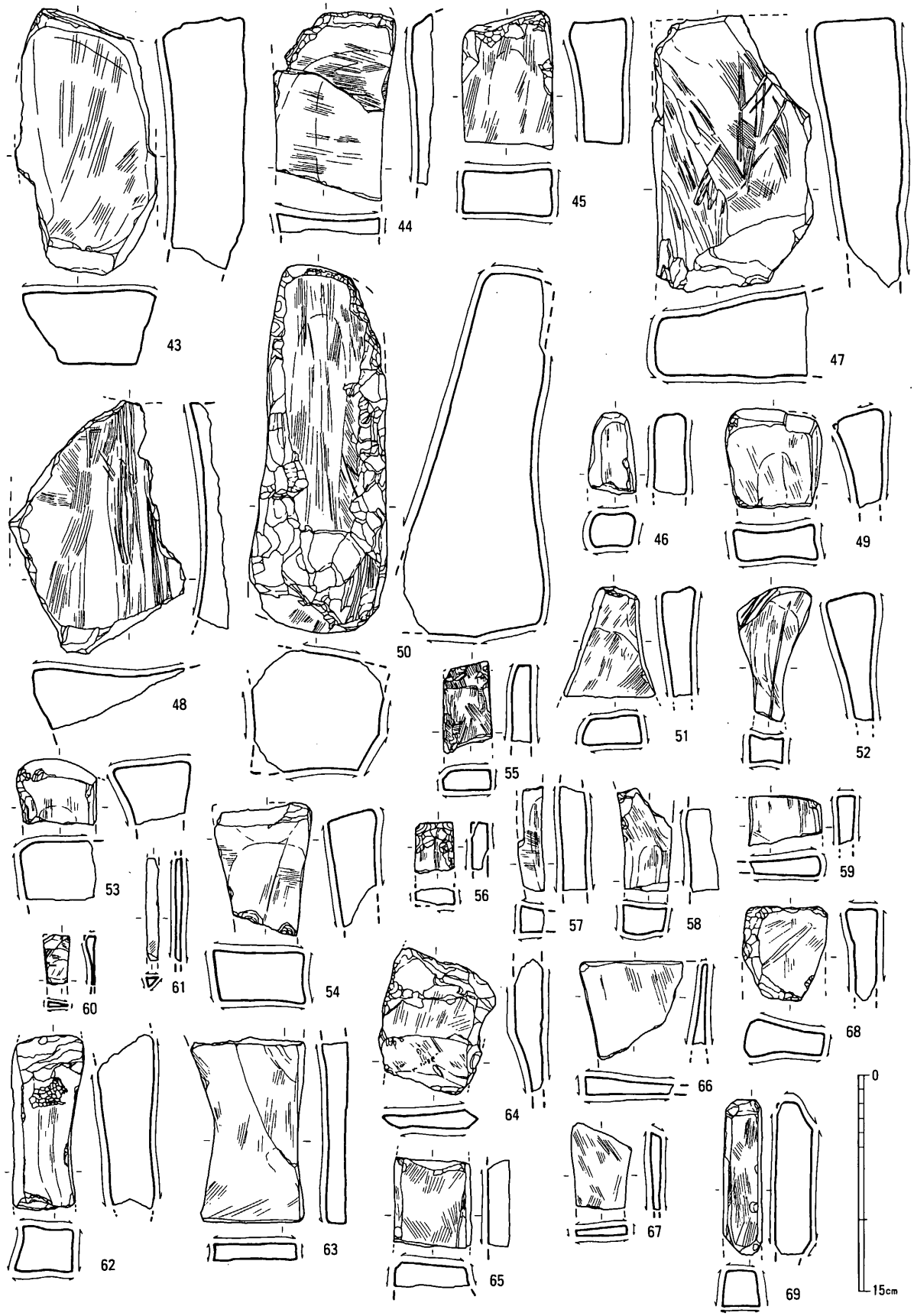
第 10 表　打製石器一覧表

図番号	器　種	石　材	出土遺構	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備　考
1	打製石鏃	安山岩	土3	(30)	23	4	1.6	
2	打製石鏃	安山岩	土19	30	19	3.5	1.4	
3	打製石鏃	黒曜石	住8床面下	(21)	(14)	3.5	(0.9)	
4	打製石鏃	黒曜石	土3	22	16	3	0.9	
5	打製石鏃	黒曜石	住29	(13)	22	2.5	(0.6)	
6	打製石鏃	安山岩	土56	27	13	3.5	0.7	主要剝離面残す
7	打製石鏃	玻璃質安山岩	土8	(25)	(15)	4	(0.8)	
8	打製石鏃	安山岩	住80	22	18	3.5	1.1	
9	打製石鏃	玻璃質安山岩	住11	17	18	3	0.9	主要剝離面残す
10	打製石鏃	黒曜石	住7壁際土坑	(23)	(20)	4.5	(1.7)	礫面・主要剝離面残す
11	打製石鏃	安山岩	住96	29	15	4	1.5	縄文期
12	打製石鏃	安山岩	住93貼床内	(24)	(14)	4	(0.9)	縄文期
13	打製石鏃	玻璃質安山岩	住30	30	(18)	5	(1.8)	主要剝離面残す
14	打製石鏃	黒曜石	住6	24	(17)	4	(1.1)	
15	打製石鏃	安山岩	土8	(13)	14	2.5	(0.3)	主要剝離面残す
16	打製石鏃	黒曜石	住5下層	(11)	19	3	(0.7)	
17	打製石鏃	黒曜石	住7	25	20	3.5	1.8	風化
18	打製石鏃	安山岩	土11	31	17	4	1.6	主要剝離面残す
19	打製石鏃	安山岩	住5柱穴内	(28)	17	3	(1.8)	
20	打製石鏃	玻璃質安山岩	住6	31	29	5	3.3	大型鏃
21	打製石鏃	黒曜石	河跡1	(17)	(20)	4	(1.4)	
22	打製石鏃	黒曜石	住58	(28)	(26)	4	(2.9)	大型鏃，主要剝離面残す
23	打製石鏃	黒曜石	住66	46	19	4.5	(2.6)	大型鏃
24	石　槍	安山岩	住66	40	15	6	3.5	
25	石　槍	安山岩	土67	51	28	12.5	15.1	礫面・主要剝離面残す
26	打製石鏃	黒曜石	住74	34	27	5	4.4	大型鏃
27	使用剝片	黒曜石	河跡1	36	39	11	10	裏面著しく磨耗
28	スクレイパー	安山岩	住21	24	41	8	7	右端は刺突具的
29	使用剝片	安山岩	住43	36	59	7	19	磨滅的風化
30	スクレイパー	安山岩	土52	22	36	8	5	撮部を意識
31	スクレイパー	安山岩	河跡1	23	34	6.5	5	右端は刺突具的
32	スクレイパー	安山岩	住9	39	45	7	12	
33	スクレイパー	安山岩	土52	(49)	(30)	7	(10)	ほとんど風化せず
34	スクレイパー	安山岩	河跡1	81	78	16	134	

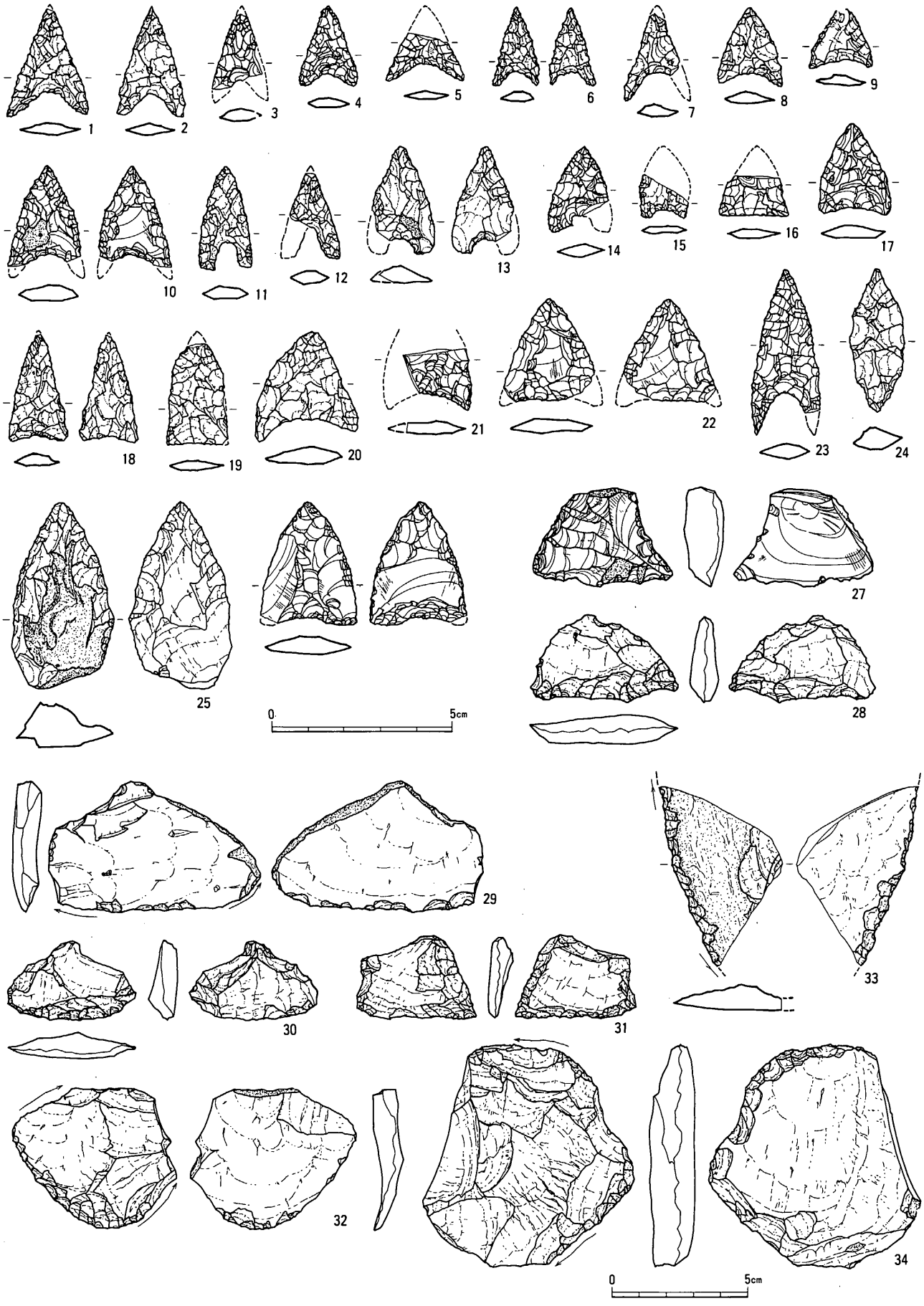
※　番号は第100図番号と同じ。



第98図　砥石実測図（その１）(1/4)



第99図　砥石実測図（その２）(1/4)



第100図　打製石器実測図（34のみ1/2，他は2/3）

貝元遺跡遺構写真

(1) 貝元遺跡　Ⅰ区全景
（東南から・空中撮影）

(2) 貝元遺跡　Ⅰ区上層全景
（南から・空中撮影）

(1) 貝元遺跡　Ⅰ－2区全景
（上が北・空中写真）

(2) 貝元遺跡
Ⅰ－2区上層全景
（上が北・空中写真）

(1) 貝元遺跡
Ⅰ－2区下層全景
（上が北・空中写真）

(2) 貝元遺跡　Ⅱ区全景
（南東から・空中写真）

(1) 貝元遺跡　Ⅱ区西半
（上が北・空中写真）

(2) 貝元遺跡　Ⅱ区東半
（上が北・空中写真）

(1) 貝元遺跡　Ⅲ－1区全景
（下が北・空中写真）

(2) 貝元遺跡
Ⅲ－2区・Ⅳ区全景
（北西から・空中写真）

(1) 貝元遺跡　Ⅳ区上層全景
（上が北・空中写真）

(2) 貝元遺跡　Ⅳ区下層全景
（上が北・空中写真）

(1) 貝元遺跡　Ⅴ－1区全景
(南から・空中写真)

(2) 貝元遺跡　Ⅴ－2区全景
(南から・空中写真)

(1) 1・2号住居跡
(東から)

(2) 3号住居跡・2号土坑
(南から)

(3) 3号住居跡カマド周辺
遺物出土状況
(東から)

(1) 3号住居跡 カマド
(南から)

(2) 同上　完掘後
(南から)

(3) 4号住居跡
(西から)

(1) 5～8・12・28号住居跡他
(左が北・空中写真)

(2) 5号住居跡
(西から)

(3) 6号住居跡
(西から)

(1) 7号住居跡
(東から)

(2) 8号住居跡
(北から)

(3) 9号住居跡
(西から)

(1) 11号住居跡
(東から)

(2) 12・20号住居跡
(西から)

(3) 14号住居跡
(西から)

(1) 15号住居跡
（西から）

(2) 16号住居跡
（西から）

(3) 同上　カマド
（西から）

(1) 17・18・22号住居跡
(西から)

(2) 同上　下層完掘後
(西から)

(3) 17号住居跡 カマド

(1) 18号住居跡 カマド
(西から)

(2) 19号住居跡
(西から)

(3) 同上　遺物出土状況

(1) 21号住居跡
（西から）

(2) 23号住居跡
（西から）

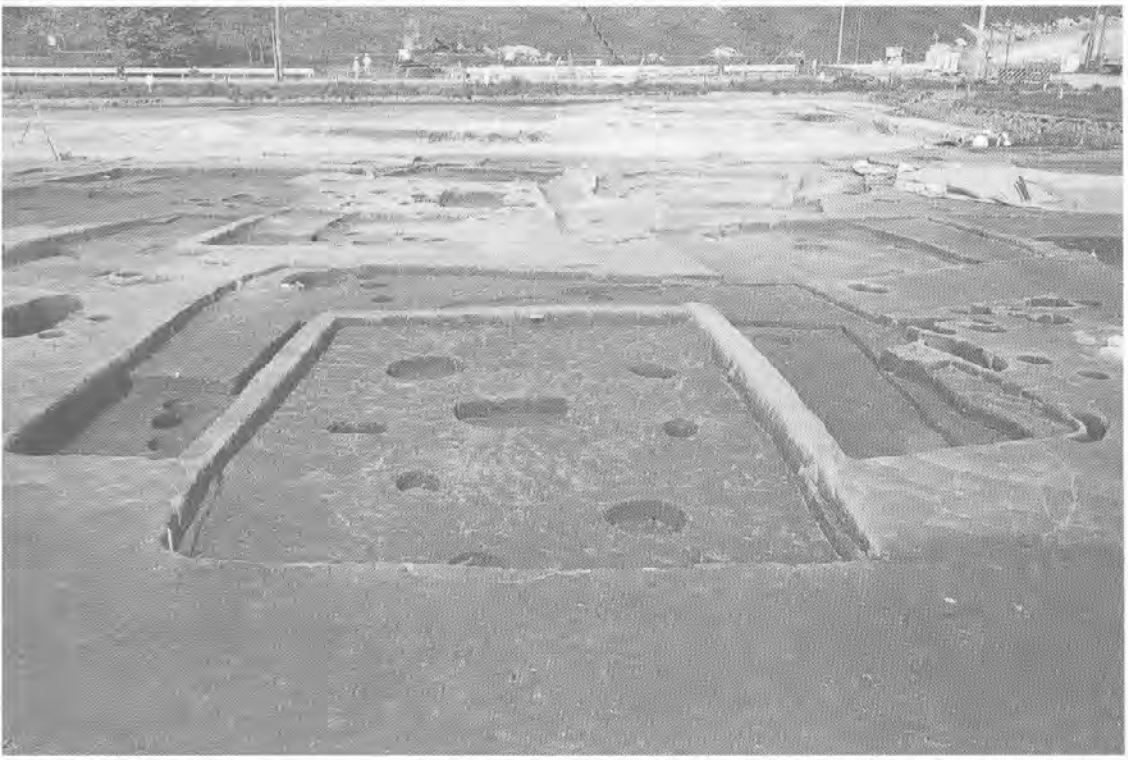
(3) 28号住居跡
（南から）

(1) 28号住居跡 貼床除去後
(東から)

(2) 同上　カマド

(3) 同上　カマド完掘後

(1) 29号住居跡
（南から）



(2) 30・31号住居跡
（東から）

(3) 32号住居跡 土器炉
（北から）

(1) 33～38号住居跡
（東から）

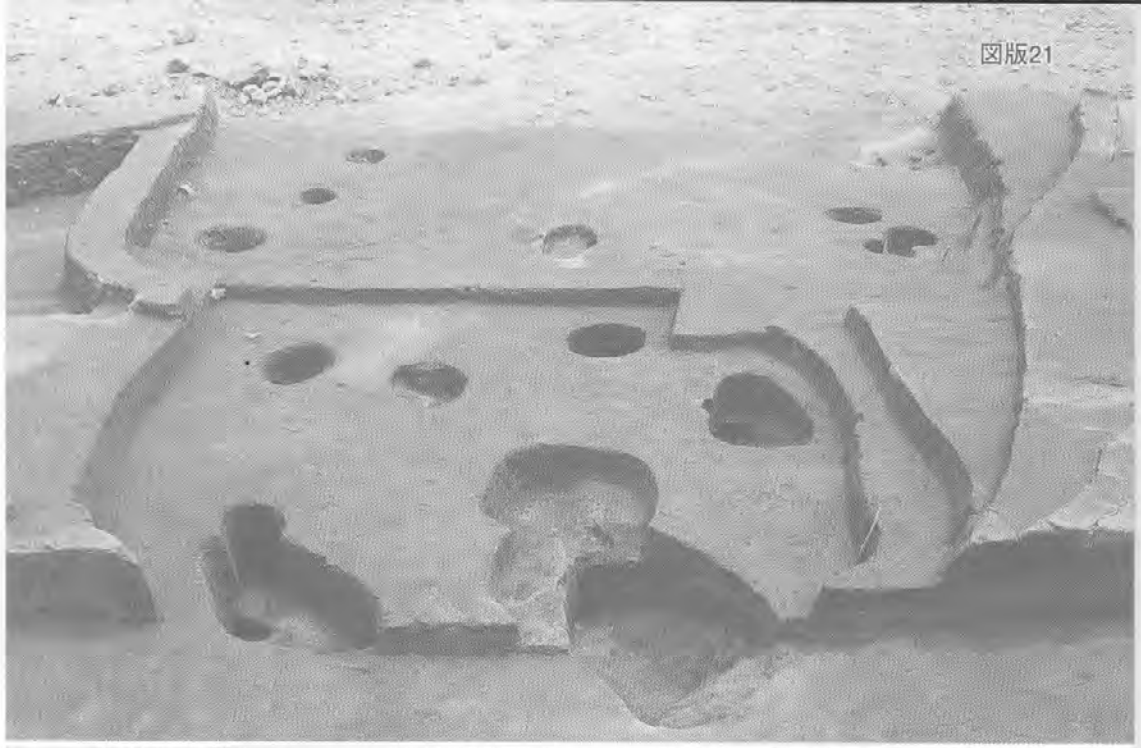
(2) 34号住居跡
（南から）

(3) 36・37号住居跡
（北から）

(1) 39号住居跡
(西から)

(2) 40号住居跡
(東から)

(3) 40・43号住居跡
(北から)



(1) 41・42号住居跡
(西から)

(2) 44・48号住居跡
(北から)

(3) 45号住居跡
(西から)

(1) 46号住居跡
(北から)

(2) 47号住居跡
(西から)

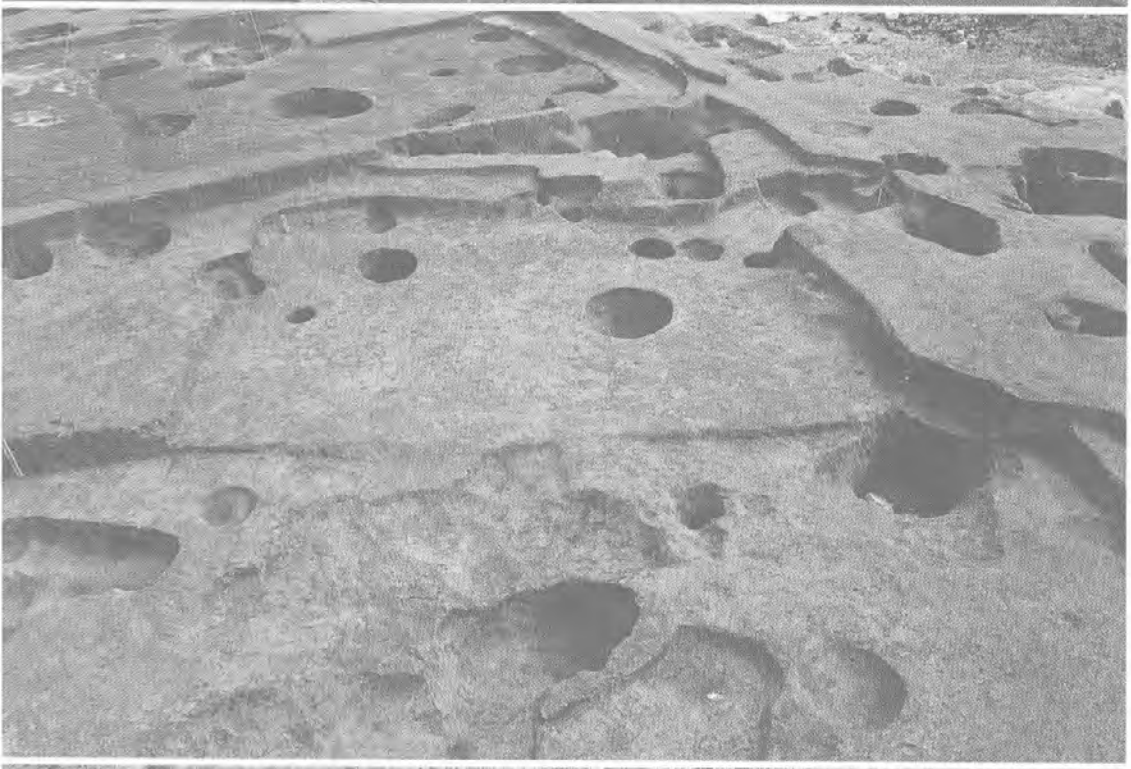
(3) 49号住居跡
(北から)

(1) 49号住居跡ピット内
遺物出土状況
(東から)

(2) 50号住居跡
(北から)

(3) 51号住居跡
(北から)

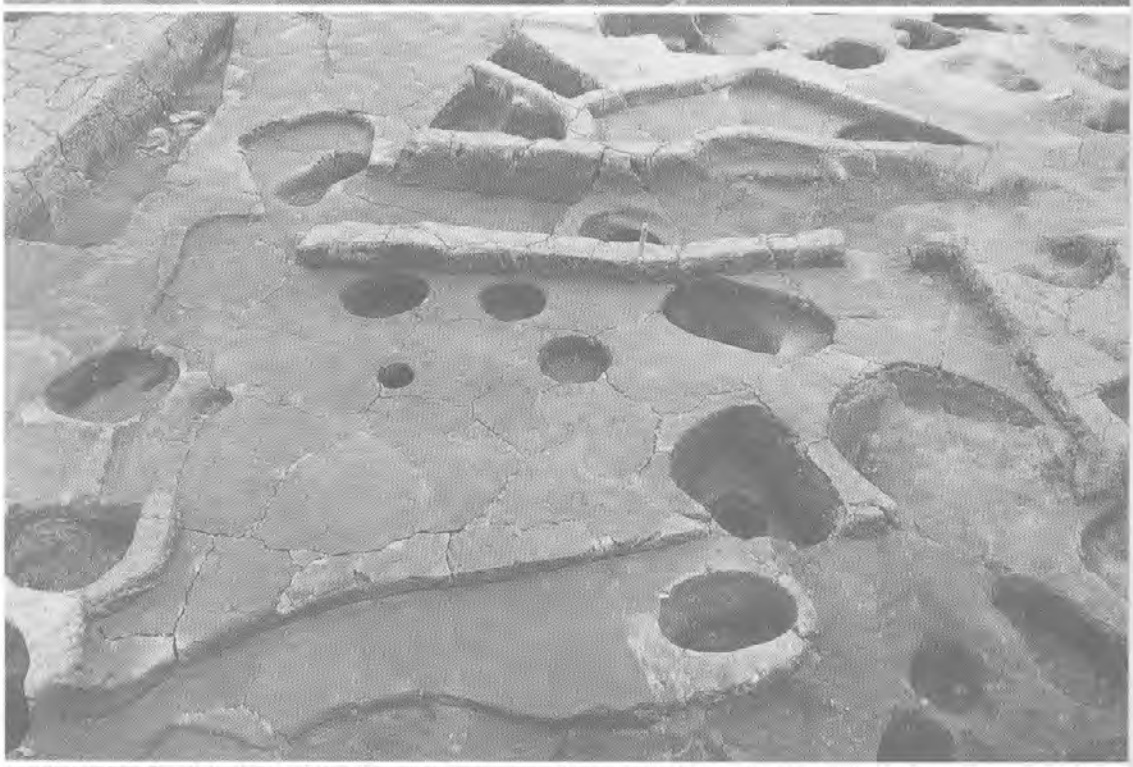
(1) 52号住居跡
(北から)



(2) 53号住居跡
(北から)

(3) 54号住居跡
(南から)

(1) 56号住居跡
（東から）



(2) 57号住居跡
（北から）

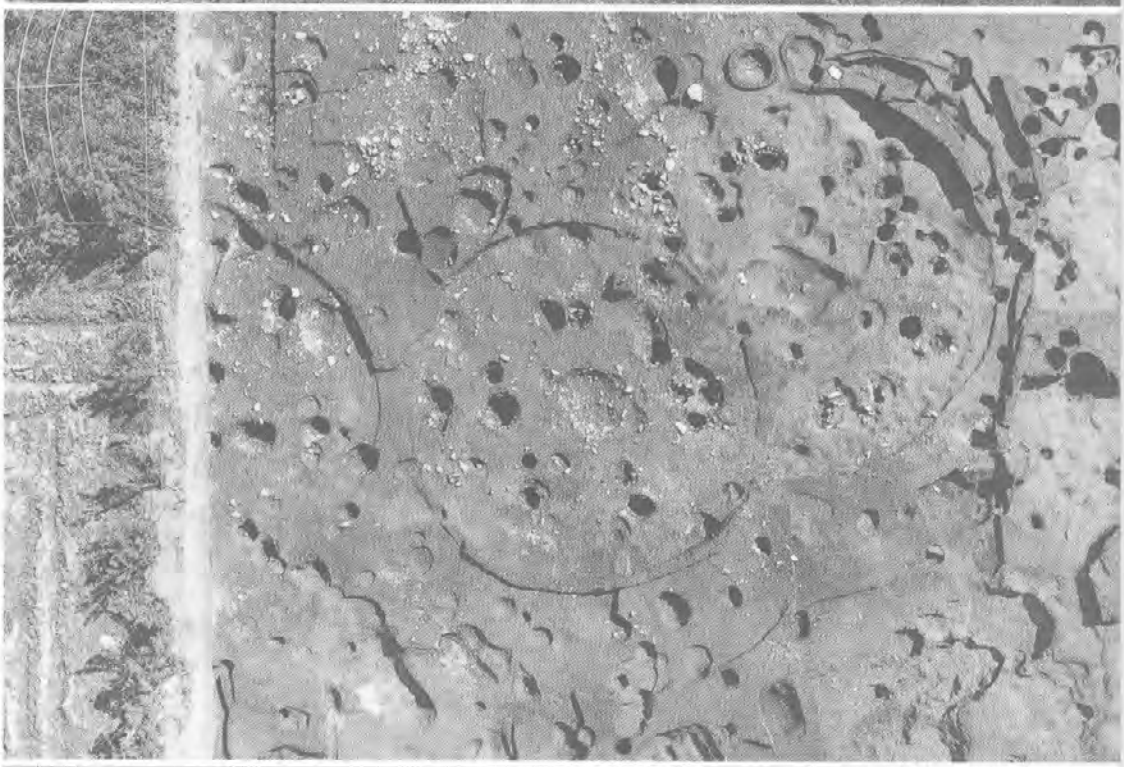
(3) 58号住居跡
（南から）

(1) 59号住居跡
（南から）

(2) 61号住居跡
（南から）

(3) 62号住居跡
（南から）

(1) 63号住居跡
（南から）



(2) 65・67・69・140号住居跡
（左が北・空中写真）

(3) 65号住居跡
（東から）

(1) 66号住居跡
（南から）

(2) 67号住居跡
（東から）

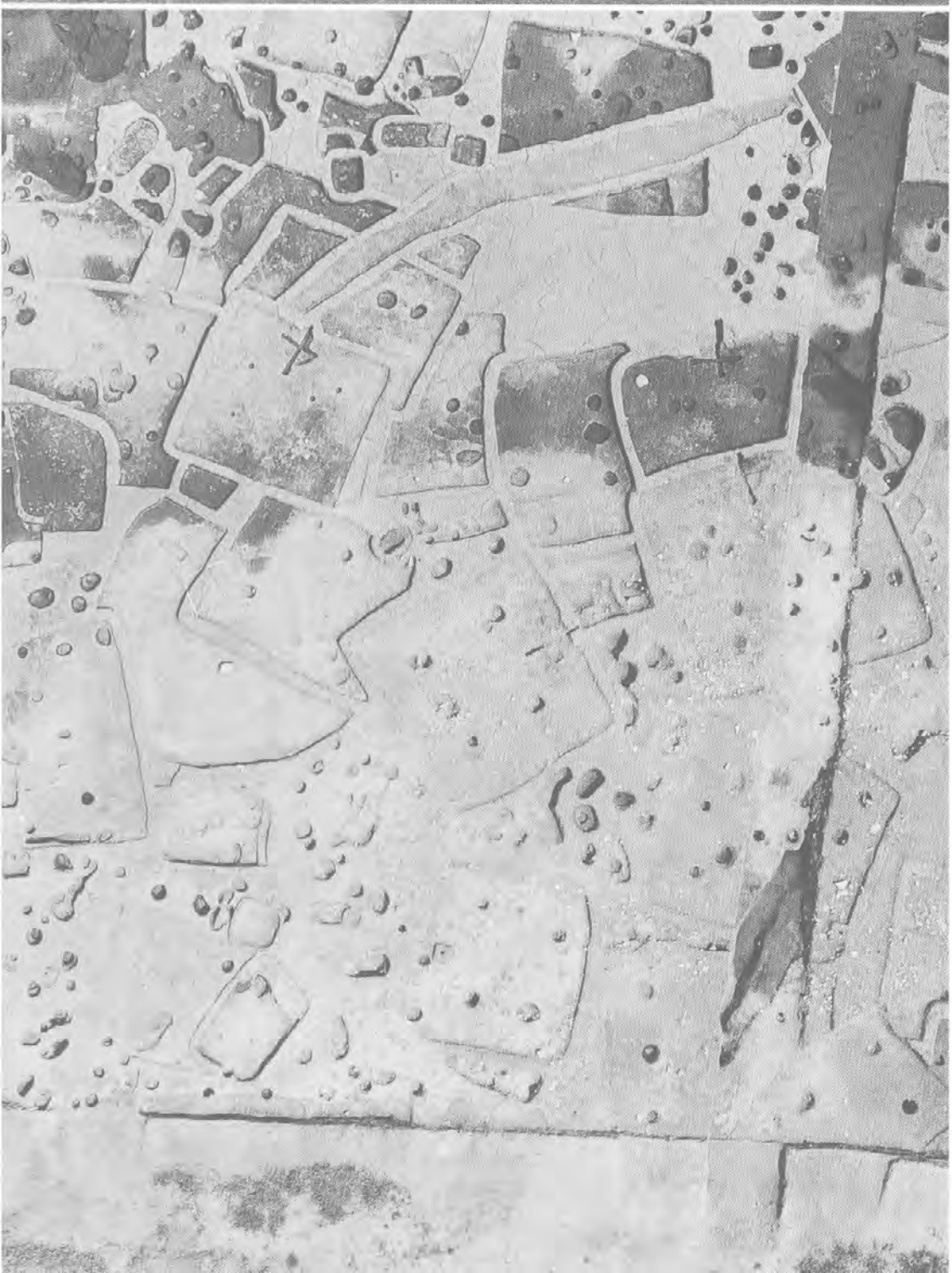
(3) 68号住居跡
（南から）

(1) 69号住居跡
(南から)

(2) 70号住居跡
(南から)

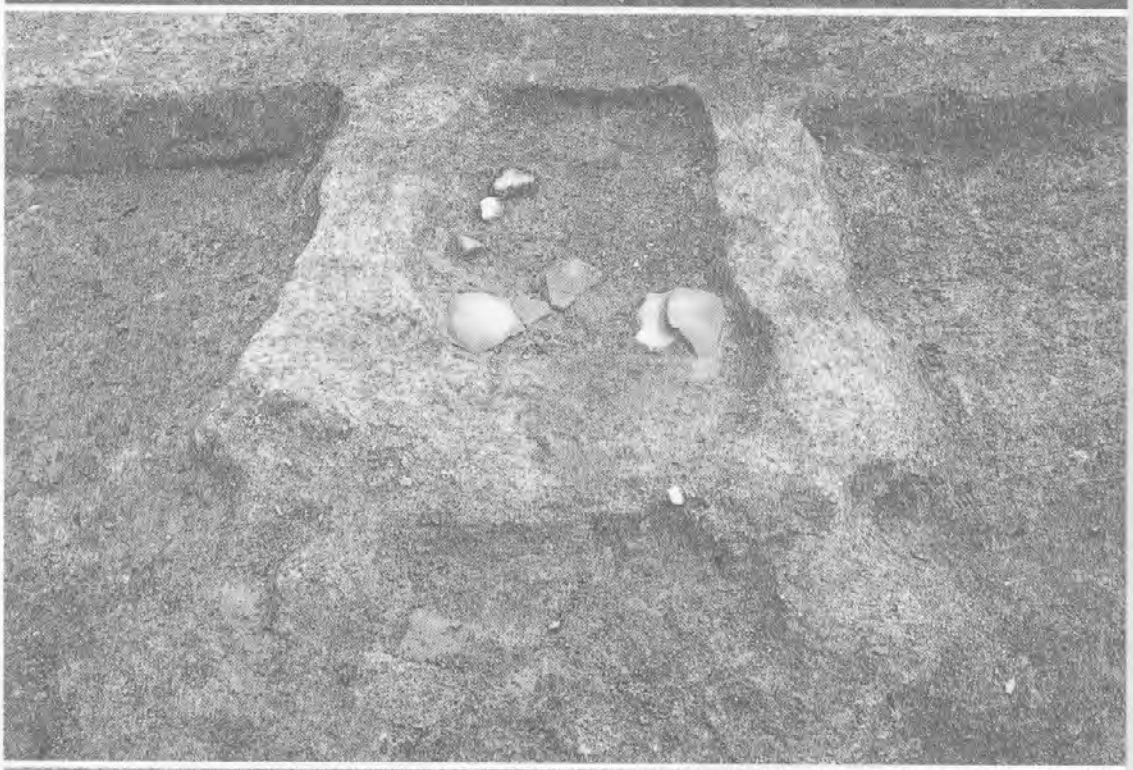
(3) 71号住居跡
(南から)

(1) 73号住居跡
（南から）



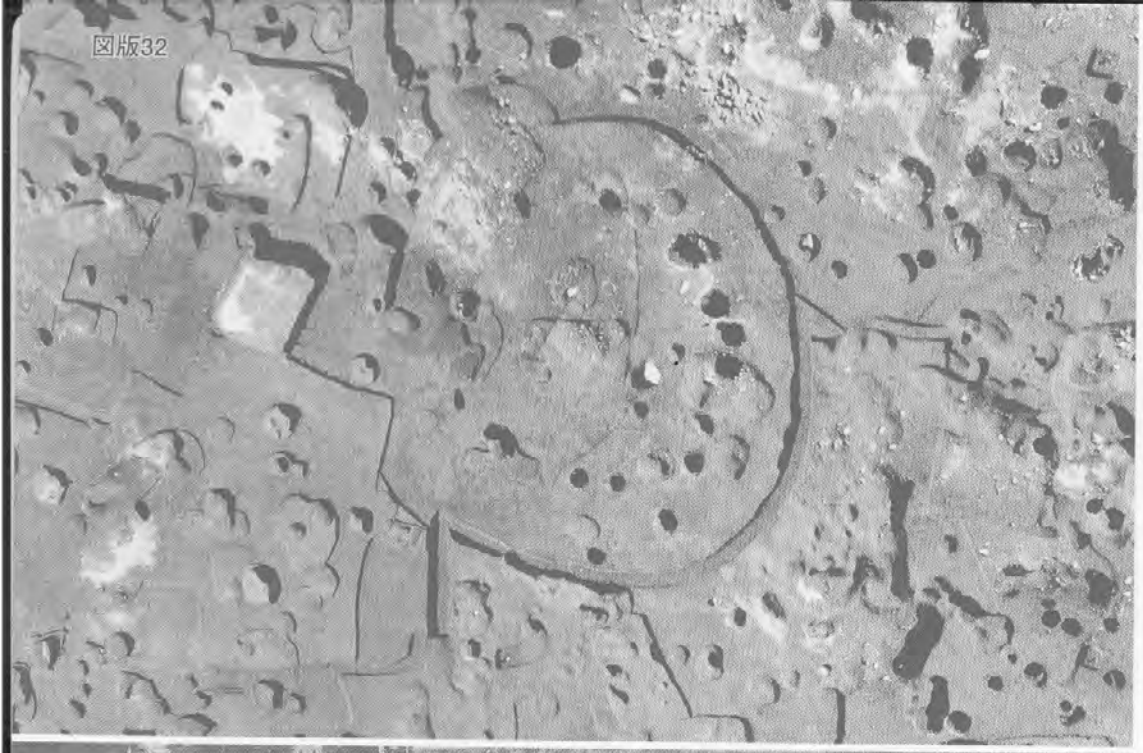
(2) 74・77・81～91号住居跡
（上が北・空中写真）

(1) 74号住居跡
（南から）



(2) 同上　カマド
（南から）

(3) 同上　遺物出土状況
（南から）



(1) 75・82号住居跡
（左が北・空中写真）

(2) 75号住居跡
（南から）

(3) 76号住居跡
（東から）

(1) 77号住居跡
（南から）

(2) 80号住居跡
（東から）

(3) 81号住居跡
（西東から）

(1) 82号住居跡
（南から）

(2) 84・90・101・105号住居跡
（右が北・空中写真）

(3) 84号住居跡
（南東から）

(1) 84号住居跡 カマド
（南から）

(2) 85号住居跡
（南から）

(3) 同上 カマド
（南から）

(1) 86号住居跡
（南から）

(2) 87号住居跡
（南から）

(3) 88号住居跡
（東から）

(1) 89号住居跡
(北から)

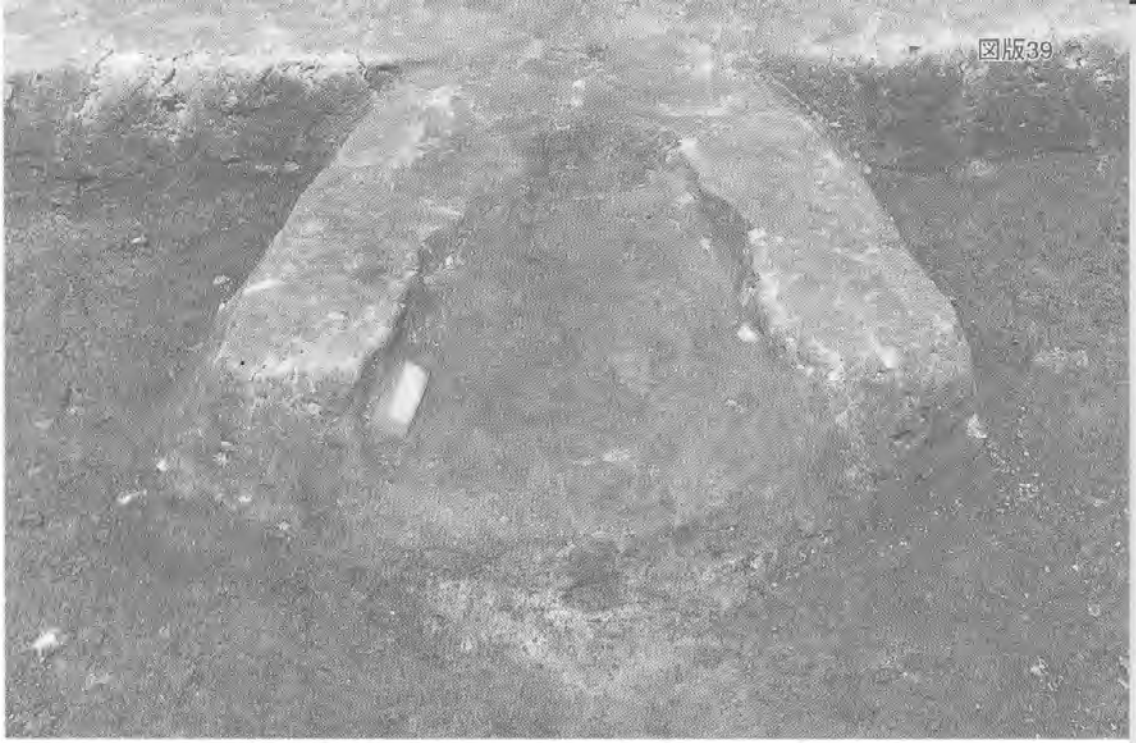
(2) 91号住居跡
(南から)

(3) 92～99・106～110号住居跡
(左が北・空中写真)

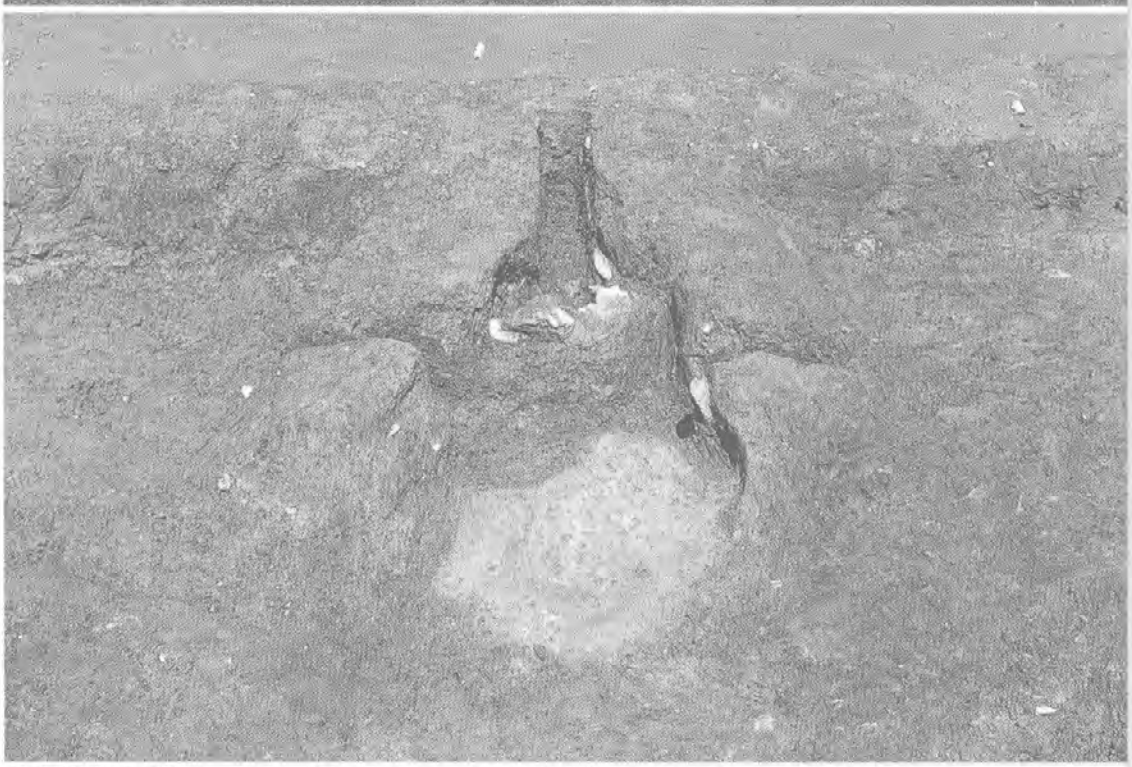
(1) 92号住居跡
（東から）

(2) 同上 カマド
（東から）

(3) 93号住居跡
（東から）



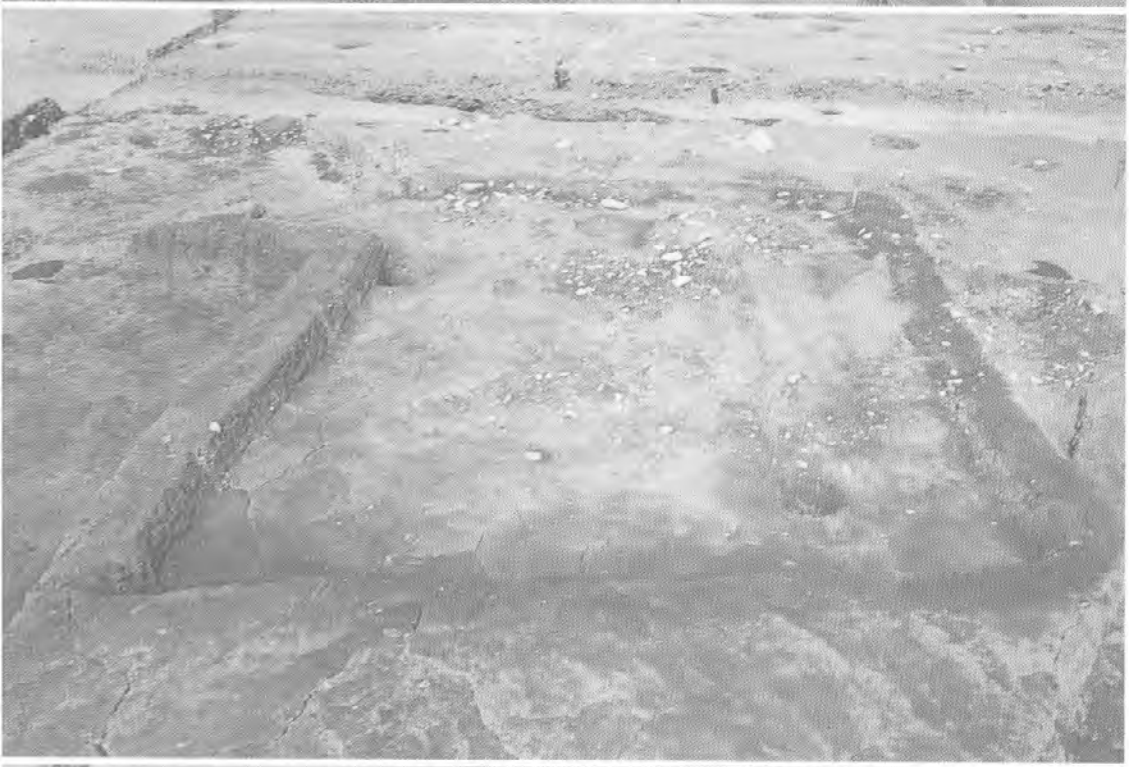
(1) 93号住居跡 カマド
(東から)



(2) 同上　完掘後
(東から)

(3) 97号住居跡
(南から)

(1) 99号住居跡
（東から）



(2) 102号住居跡
（東から）

(3) 104号住居跡
（南東から）

(1) 104号住居跡 カマド
(南東から)

(2) 106・109号住居跡
(西から)

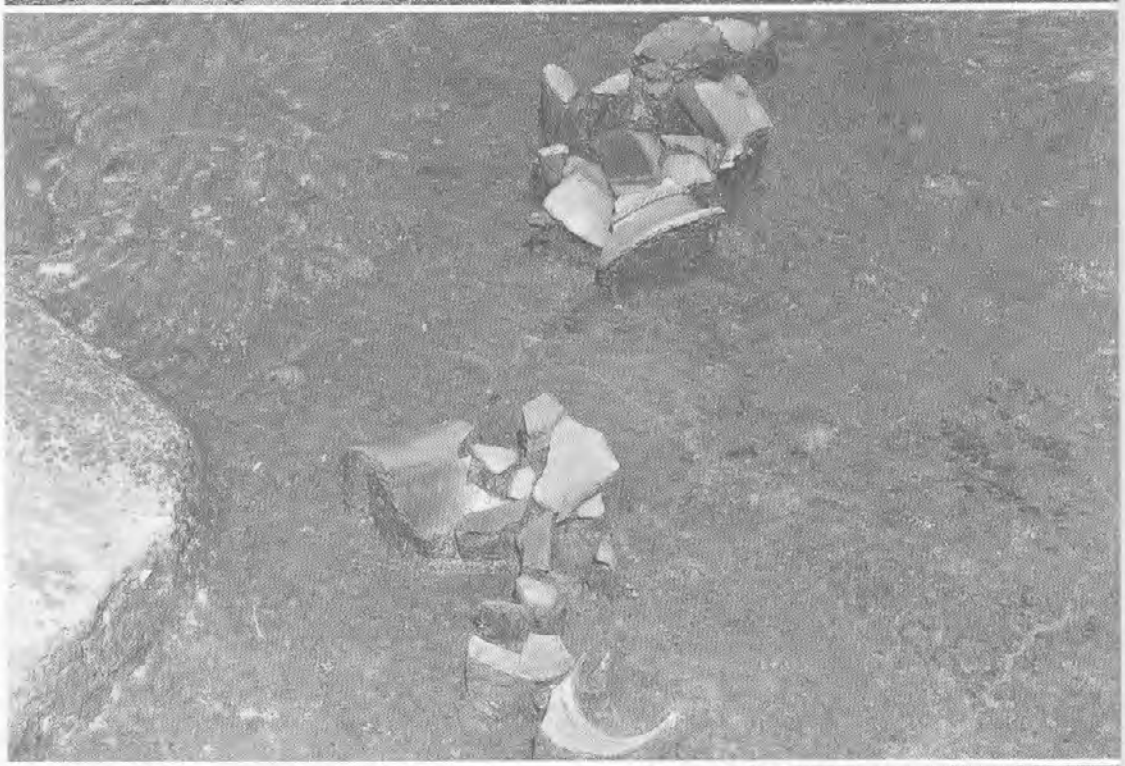
(3) 106号住居跡 土器炉
(南から)

(1) 107・119号住居跡
（東から）

(2) 108号住居跡
（南から）

(3) 110号住居跡
（東から）

(1) 111号住居跡
（東から）



(2) 同上　遺物出土状況
（西から）

(3) 112号住居跡
（南東から）

(1) 113・115・116号住居跡
（上が北・空中写真）

(2) 113号住居跡
（東から）

(3) 同上　貼床除去後
（南東から）

(1) 113号住居跡 カマド
（東から）

(2) 同上　完掘後
（東から）

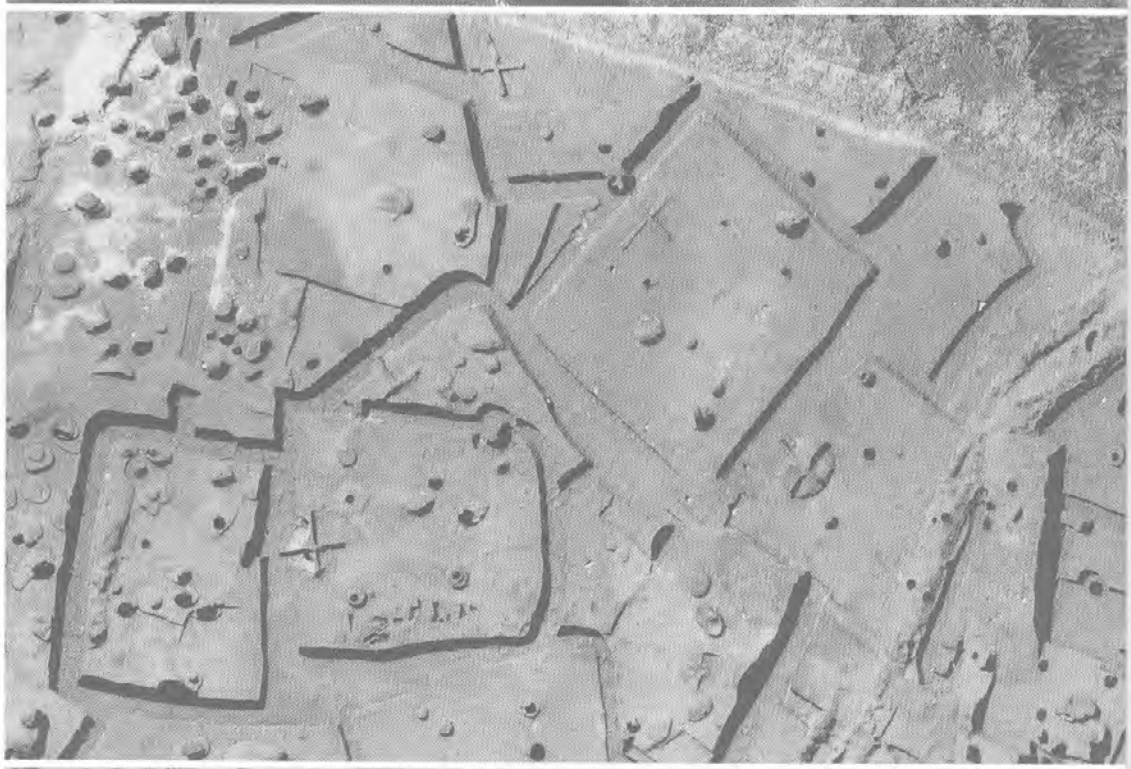
(3) 114号住居跡
（東から）

(1) 115号住居跡
（南から）

(2) 117号住居跡
（東から）

(3) 同上　カマド
（東から）

(1) 119号住居跡
（西から）



(2) 120・121・125号住居跡
（上が北・空中写真）

(3) 120号住居跡
（東から）

(1) 120号住居跡 カマド
(東から)

(2) 同上　完掘後
(東から)

(3) 同上　遺物出土状況
(東から)

(1) 121号住居跡
（東から）

(2) 同上　カマド
（北東から）

(3) 122号住居跡
（南から）

(1) 123号住居跡
(東から)

(2) 同上　カマド
(東から)

(3) 同上　完掘後
(東から)

(1) 124号住居跡
(南から)

(2) 125号住居跡
(南東から)

(3) 同上　カマド
(南東から)

(1) 126号住居跡
(東から)

(2) 同上　カマド
(東から)

(3) 129号住居跡

(1) 131・134・137号住居跡
(南から)

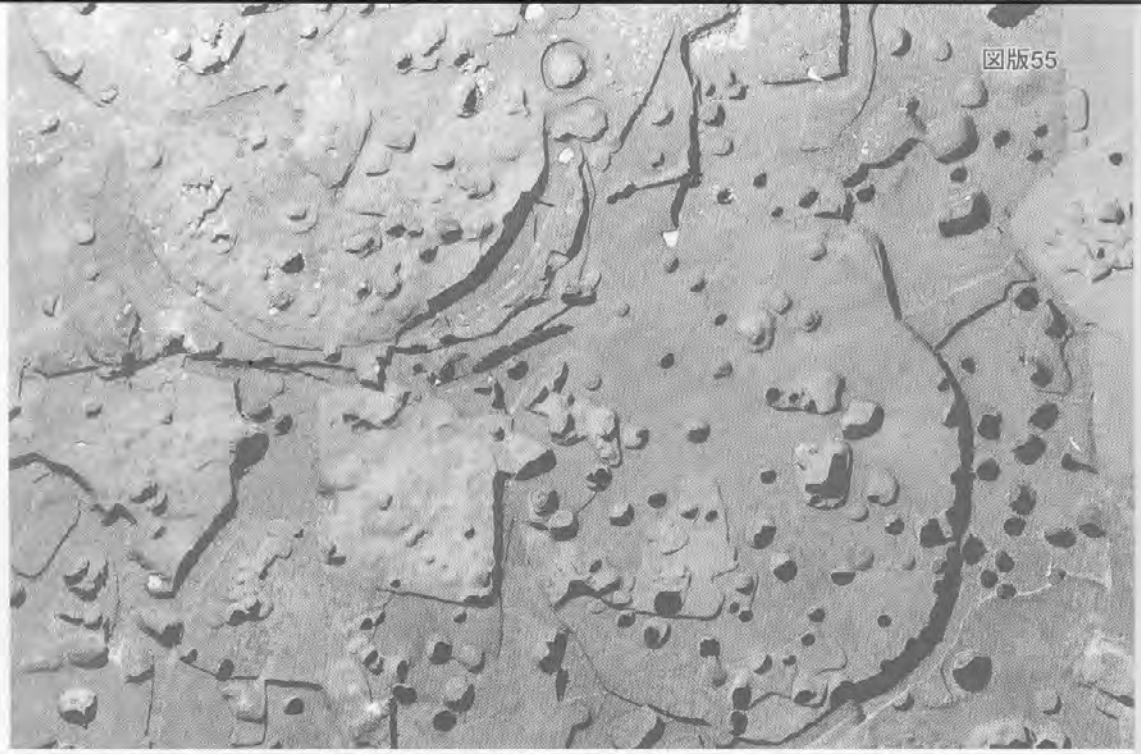
(2) 131号住居跡
(南から)

(3) 135・165号住居跡
(東から)

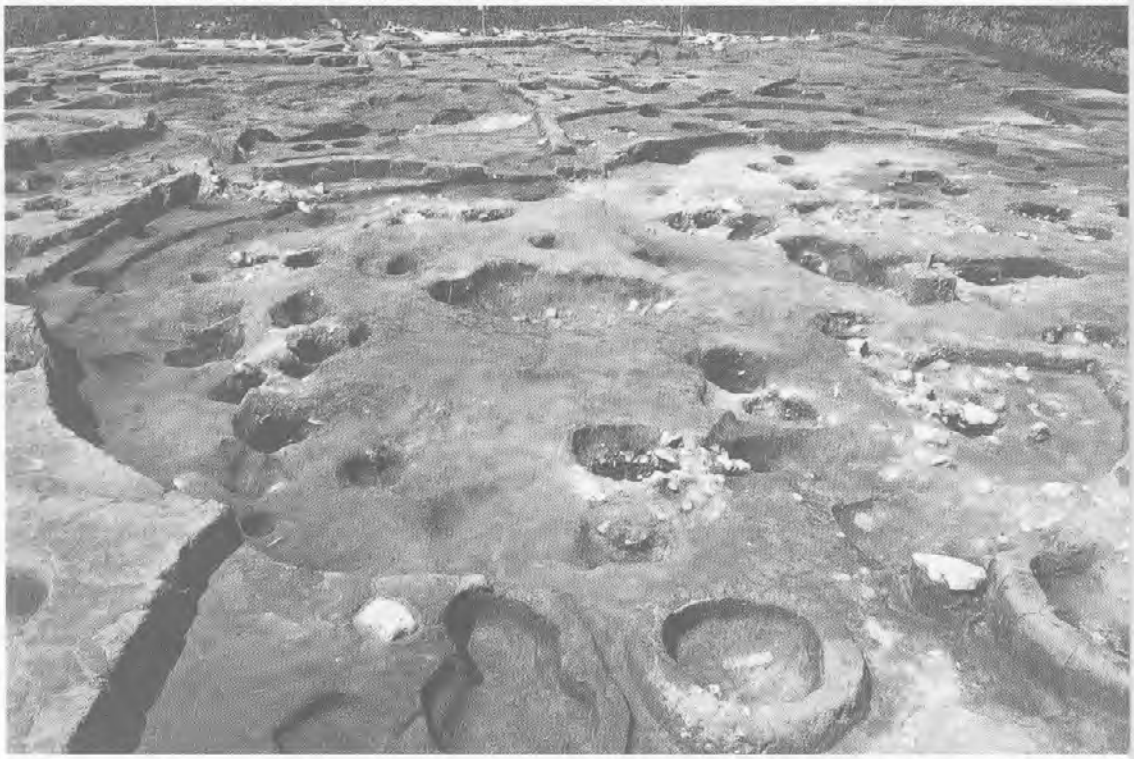
(1) 136号住居跡
（南東から）

(2) 138号住居跡
（西から）

(3) 139号住居跡
（西から）



(1) 140・144号住居跡
（上が北・空中写真）



(2) 140号住居跡
（東から）

(3) 144号住居跡
（南東から）

(1) 145号住居跡
（南東から）

(2) 146号住居跡・94号土坑
（東から）

(3) 147号住居跡
（西から）

(1) 148号住居跡
（東から）

(2) 150号住居跡
（東から）

(3) 151・155号住居跡
（南西から）

(1) 152号住居跡
（南から）

(2) 154号住居跡
（西から）

(3) 156号住居跡
（東北から）

(1) 158号住居跡
（南から）

(2) 159号住居跡
（東から）

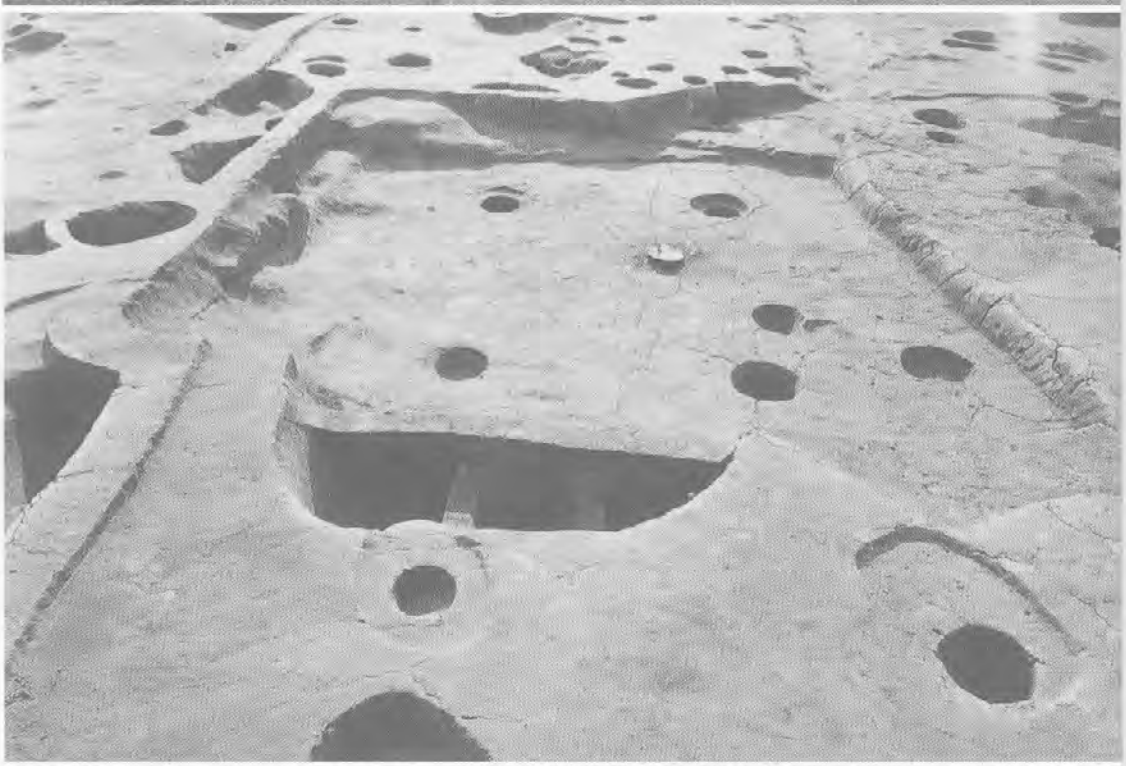
(3) 同上　カマド
（東から）

(1) 160号住居跡
（東から）

(2) 161号住居跡
（東から）

(3) 162号住居跡
（北から）

(1) 164号住居跡
(南から)



(2) 167号住居跡
(北東から)

(3) 同上　土器炉
(北から)

(1) 168号住居跡
(東から)

(2) 同上　カマド
(東から)

(3) 169号住居跡
(南から)

(1) 171・172号住居跡
（東から）

(2) 173号住居跡
（東から）

(3) 174号住居跡
（東から）

(1) 175号住居跡
（北から）

(2) 176号住居跡
（南から）

(3) 同上　カマド
（南から）

(1) 177号住居跡
（東南から）

(2) 178号住居跡
（北から）

(3) 179号住居跡
（東南から）

(1) 180号住居跡
(西から)

(2) 181号住居跡南隅焼土
(北から)

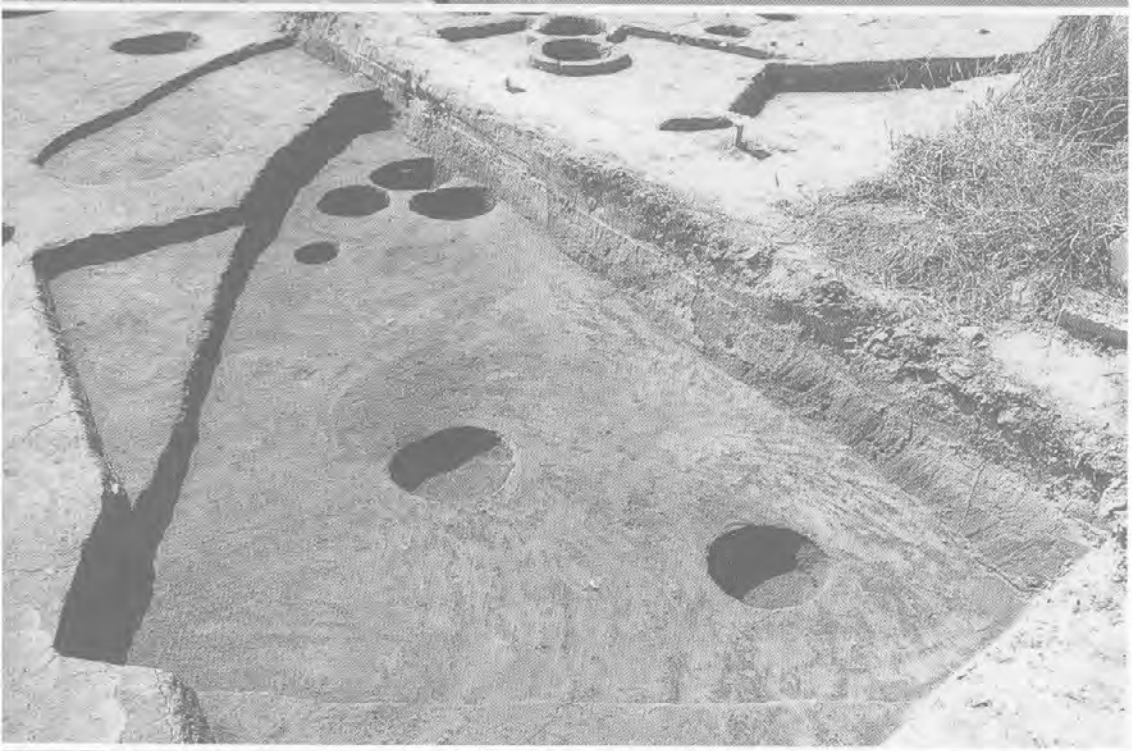
(3) 182号住居跡
(南西から)

(1) 186号住居跡
（南東から）

(2) 188号住居跡
（西から）

(3) 189号住居跡
（西から）

(1) 192号住居跡
(東から)



(2) 194号住居跡
(北東から)

(3) 197号住居跡
(東から)

(1) 197号住居跡 カマド
（東から）

(2) 同上　遺物出土状況
（南東から）

(3) 同上　遺物出土状況
（東から）

(1) 201・202号住居跡
(南東から)

(2) 201号住居跡 カマド
(南東から)

(3) 202号住居跡 カマド
(南東から)

(1) 203号住居跡
（南から）

(2) 224・225号住居跡
（南から）

(3) 226号住居跡
（南から）

(1) 227号住居跡
(東から)

(2) 230号住居跡
(西から)

(3) 同上　カマド
(西から)

(1) 231号住居跡
（東から）

(2) 232号住居跡
（東から）

(3) 同上　カマド
（東から）

(1) 233号住居跡
(西から)

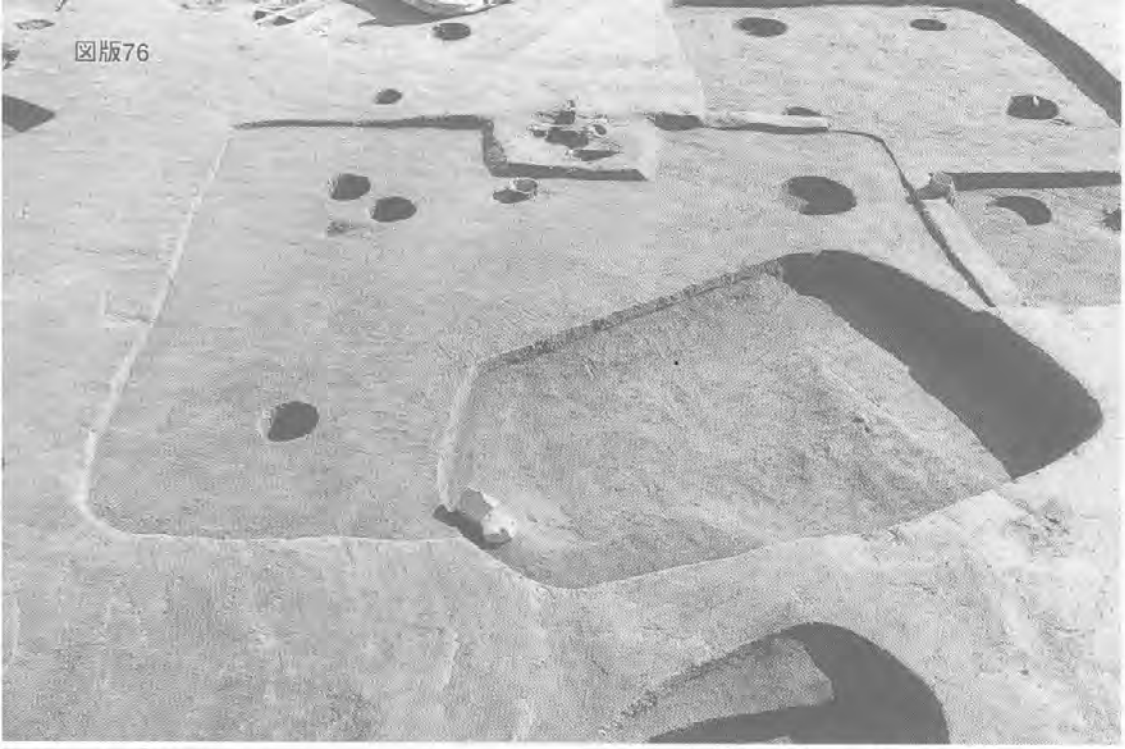
(2) 234号住居跡
(東から)

(3) 同上　カマド
(東から)

(1) 235号住居跡
(東から)

(2) 236号住居跡
(南から)

(3) 同上　カマド
(南から)



(1) 237号住居跡
(北から)

(2) 238号住居跡
(東から)

(3) 239号b住居跡 カマド
(南から)

(1) 240号住居跡
(北西から)

(2) 同上　カマド
(北西から)

(3) 242号住居跡
(北西から)

(1) 243号住居跡
(西から)

(2) 同上　カマド
(西から)

(3) 同上　遺物出土状況
(東から)

(1) 244号住居跡
(北から)

(2) 245号住居跡
(北西から)

(3) 246号住居跡
(北から)

(1) 247号住居跡
(南から)

(2) 248号住居跡 カマド
(南から)

(3) 同上　焚口部天井石除去後
(南から)

(1) 249号住居跡
（北西から）

(2) 250号住居跡
（東から）

(3) 251号住居跡
（南東から）

(1) 252号住居跡
(西から)

(2) 254号住居跡
(東から)

(3) 255号住居跡
(東から)

(1) 256号住居跡
（南東から）

(2) 同上　遺物出土状況
（東から）

(3) 同上　遺物出土状況
（北から）

(1) 257号住居跡
（西から）

(2) 261・266・267号住居跡
（東から）

(3) 262～265・268・291号住居跡
（北から・空中写真）

(1) 262・263号住居跡
（東から）

(2) 262号住居跡 カマド
（東から）

(3) 263号住居跡 カマド
（北東から）

(1) 265号住居跡
(東から)

(2) 同上　カマド
(東から)

(3) 272号住居跡
(東から)

(1) 273～275・277～283号
住居跡
（北から・空中写真）

(2) 273号住居跡
（南東から）

(3) 274号住居跡
（北から）

(1) 275・283号住居跡
(東から)

(2) 275号住居跡 カマド
(東から)

(3) 277号住居跡
(西から)

(1) 278号住居跡
（南から）

(2) 279号住居跡
（北東から）

(3) 281・282号住居跡
（東から）

(1) 287号住居跡
（北東から）

(2) 288・289・305号住居跡
（西から）

(3) 288号住居跡
（南から）

(1) 290・306号住居跡
(西から)

(2) 292号住居跡
(東から)

(3) 同上　遺物出土状況
(北から)

(1) 292号住居跡
（東から）

(2) 294号住居跡
（東南から）

(3) 同上　カマド
（南東から）

(1) 295号住居跡
（南から）

(2) 同上　カマド
（南から）

(3) 296号住居跡
（東から）

(1) 297・303号住居跡
（北西から）

(2) 298号住居跡
（北から）

(3) 299号住居跡
（北東から）

(1) 301号住居跡
（南西から）

(2) 302号住居跡
（南から）

(3) 同上　貼床除去後
（南から）

(1) 306号住居跡
(北から)

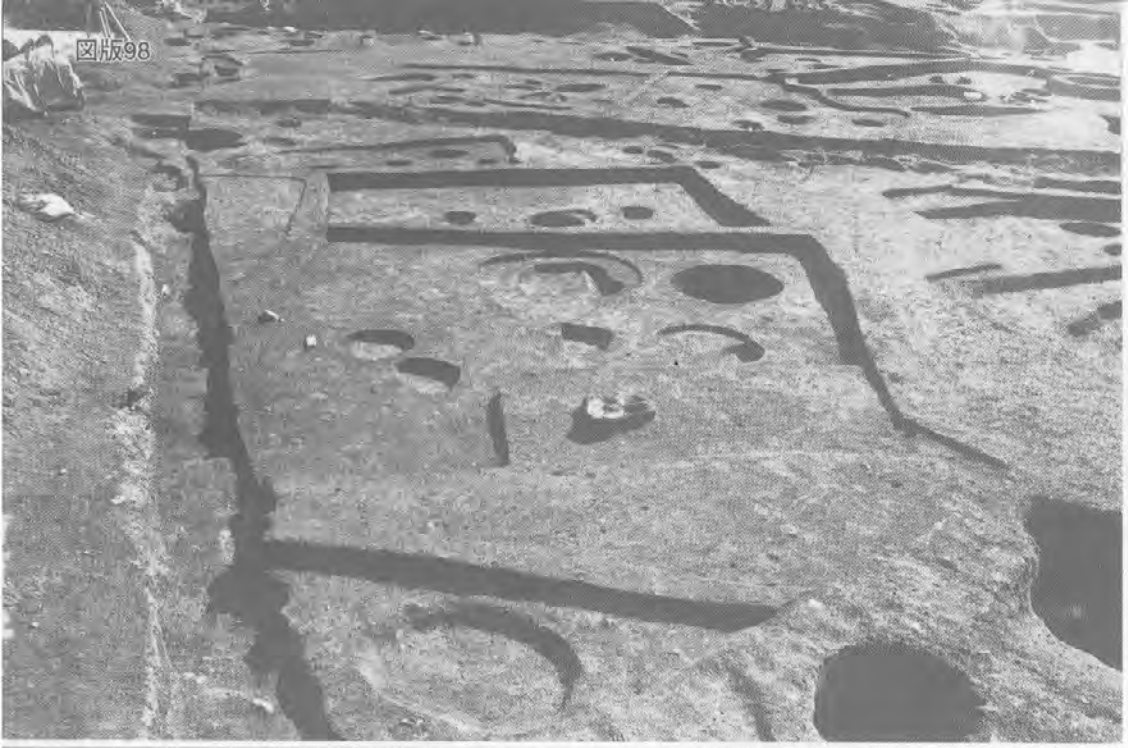
(2) 305号住居跡
(西から)

(3) 307号住居跡
(東から)

(1) 308号住居跡
(西から)

(2) 309号住居跡
(西から)

(3) 311・417号住居跡
(西から)



(1) 312・317・333・335号住居跡
(西から)

(2) 314号住居跡
(南から)

(3) 同上　カマド
(南から)

(1) 315号住居跡
（南から）

(2) 317号住居跡
（西から）

(3) 318号住居跡
（南から）

(1) 319号住居跡
（南から）

(2) 320号住居跡
（北から）

(3) 321～323号住居跡
（東から）

(1) 325・326号住居跡
（東から）

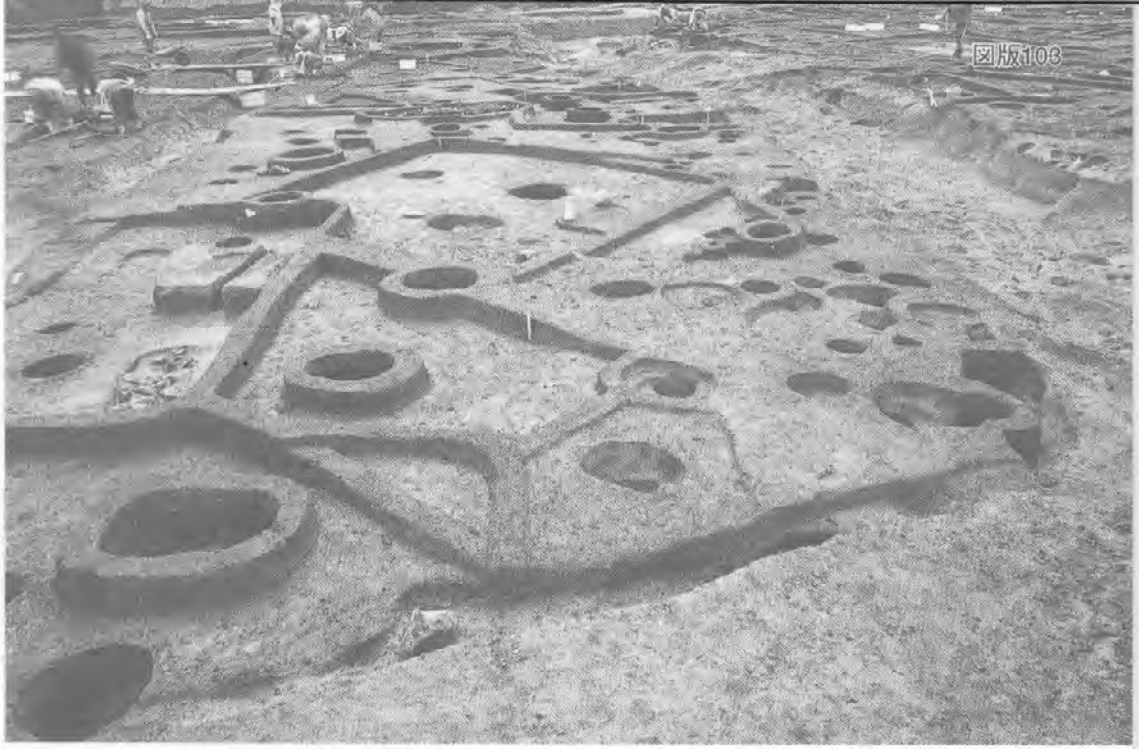
(2) 328・329号住居跡
（東から）

(3) 330・331・343号住居跡
（東から）

(1) 343号住居跡 カマド
(東から)

(2) 332号住居跡・166号土坑
(東から)

(3) 334号住居跡
(西から)



(1) 339・342・344・349号
住居跡
（東から）

(2) 339号住居跡
（南東から）

(3) 同上　カマド
（南東から）

(1) 340号住居跡
(東から)

(2) 同上　カマド
(東から)

(3) 345号住居跡
(東から)

(1) 345号住居跡 カマド
(東から)

(2) 347号住居跡遺物出土状況
(東から・青銅製鋤先)

(3) 348・352号住居跡
(東から)

(1) 350号住居跡
（北から）

(2) 351号住居跡
（東から）

(3) 353号住居跡
（南から）

(1) 353号住居跡 カマド
（南から）

(2) 354・420号住居跡
（東から）

(3) 355・392号住居跡
（東から）

(1) 355号住居跡 カマド
(東から)

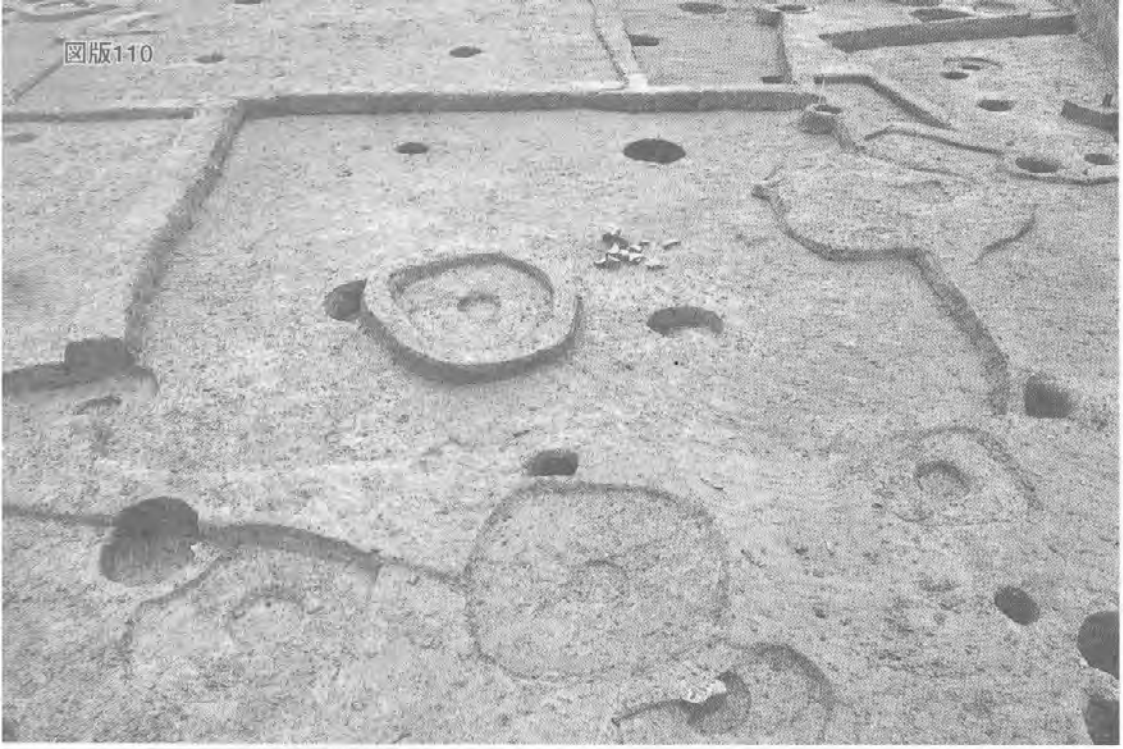
(2) 356号住居跡
(東から)

(3) 同上　カマド
(東から)

(1) 359号住居跡
(北西から)

(2) 361号住居跡
(西から)

(3) 362号住居跡
(東から)

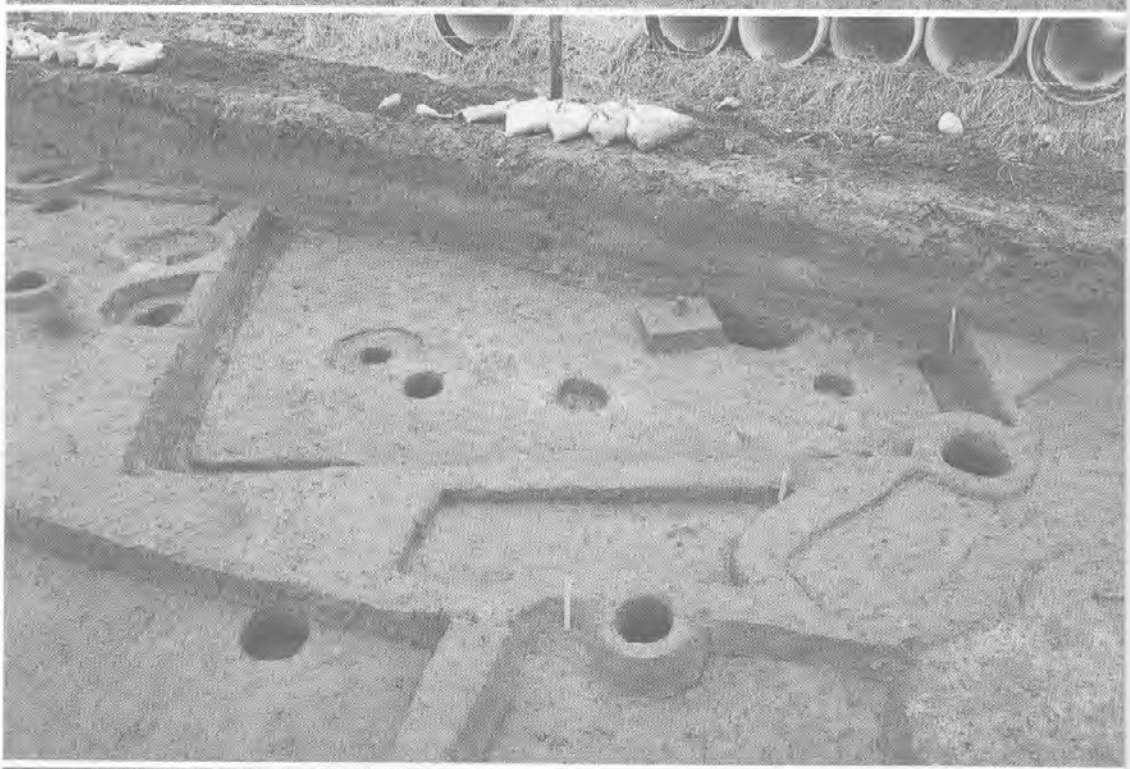


(1) 363号住居跡
（南から）

(2) 同上　カマド
（西から）

(3) 364・371号住居跡
（東から）

(1) 364号住居跡 カマド
（東から）

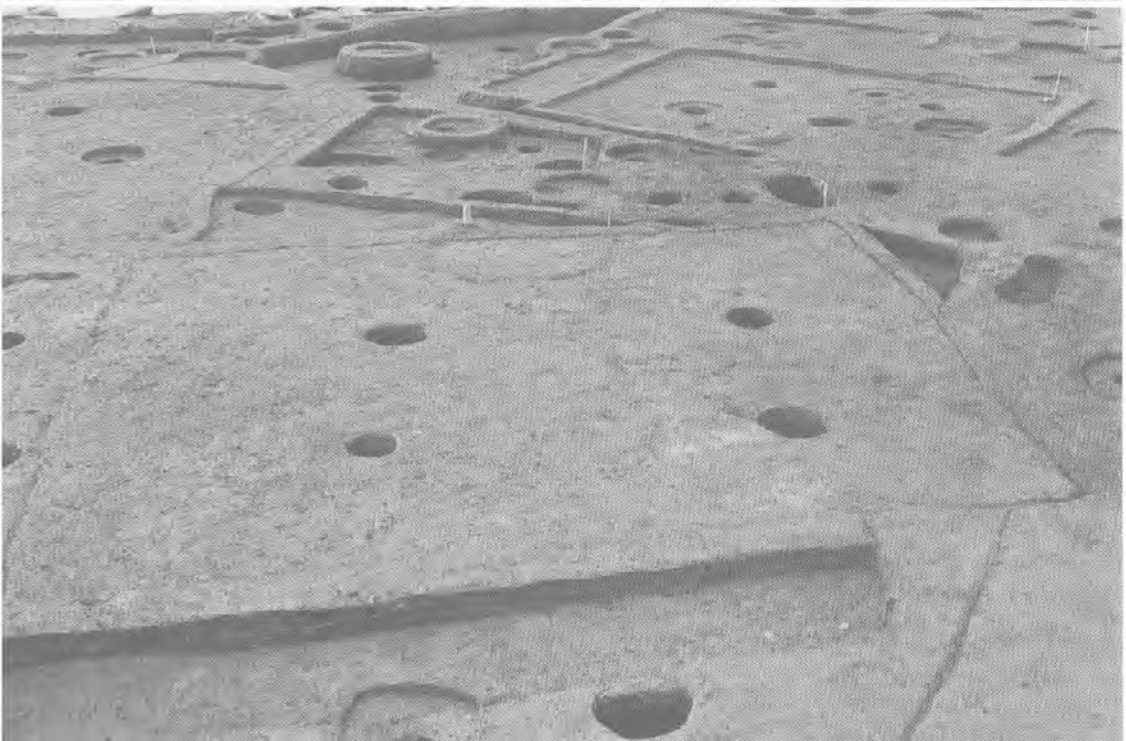


(2) 365号住居跡
（西から）

(3) 366号住居跡 カマド
（南から）

(1) 367号住居跡
（西から）

(2) 368号住居跡
（西から）



(3) 370号住居跡
（東から）

(1) 372号住居跡
（南から）

(2) 373号住居跡
（東から）

(3) 同上　カマド
（東から）

(1) 374号住居跡 カマド
(東から)

(2) 375号住居跡
(東南から)

(3) 同上　土器炉
(東南から)

(1) 378号住居跡
(東から)

(2) 379号住居跡
(西から)

(3) 同上　カマド
(西から)

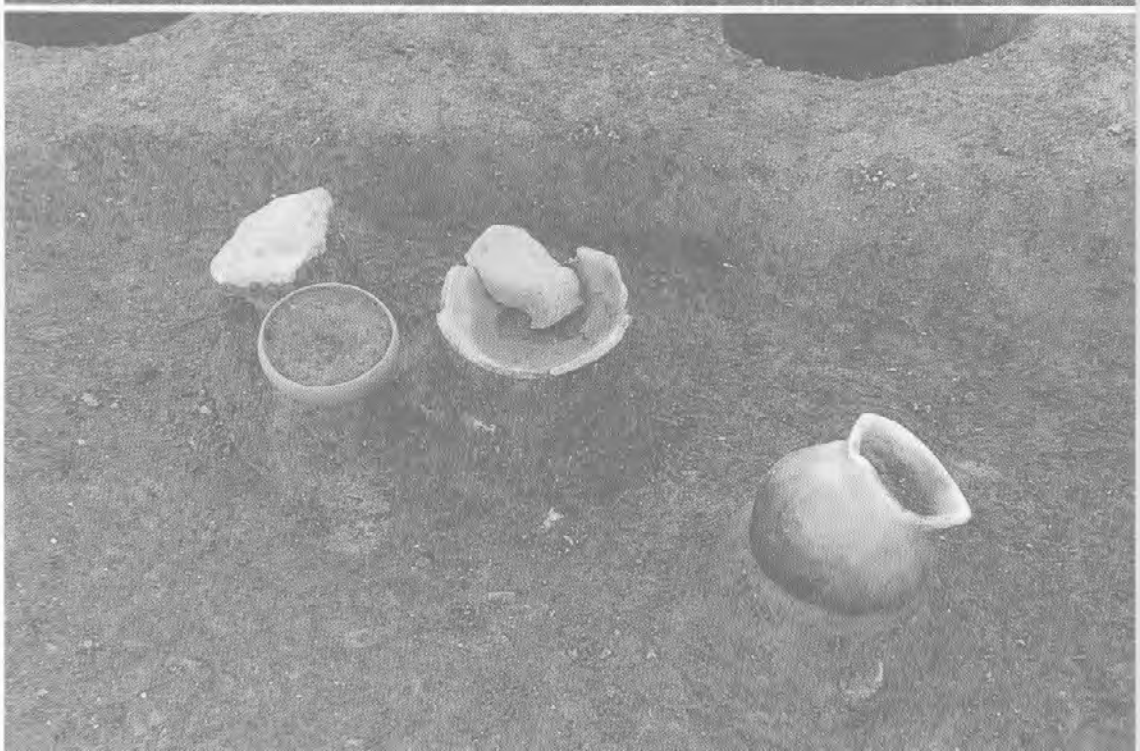
(1) 380号住居跡
（東から）

(2) 同上　カマド
（東から）

(3) 381号住居跡
（南から）

(1) 382号住居跡
(東から)

(2) 同上　遺物出土状況
(東から)



(3) 同上　遺物出土状況
(南から)

(1) 383号住居跡
(東から)

(2) 同上　カマド
(東から)

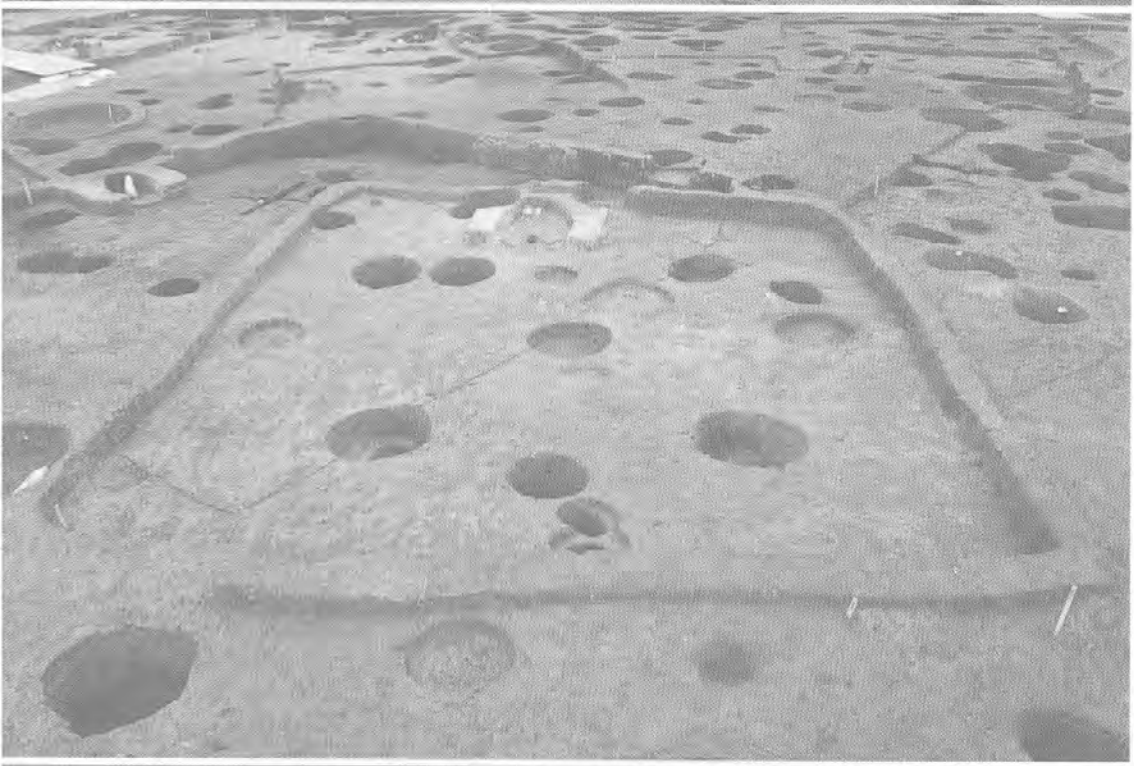
(3) 384号住居跡
(東から)

(1) 385号住居跡
（東から）

(2) 同上　カマド
（東から）

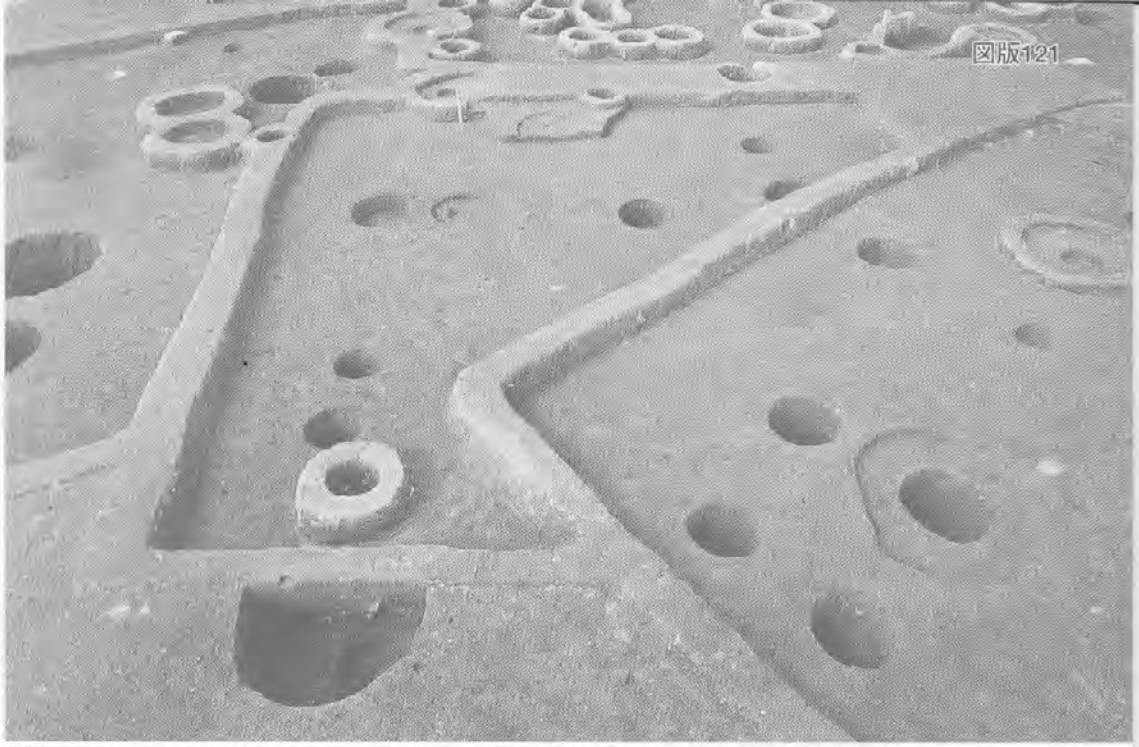
(3) 386・387号住居跡
（西から）

(1) 338号住居跡
（西から）



(2) 392号住居跡
（南から）

(3) 同上　カマド
（南から）



(1) 393号住居跡
（東から）

(2) 394号住居跡
（東から）

(3) 395号住居跡
（北から）

(1) 398号住居跡
(西から)

(2) 402号住居跡
(北から)

(3) 403号住居跡
(北から)

(1) 403号住居跡 カマド
（南から）

(2) 404・408号住居跡
（東から）

(3) 407号住居跡
（東から）

(1) 409号住居跡
（南から）

(2) 410号住居跡
（西から）

(3) 412号住居跡
（東から）

(1) 413号住居跡
(東から)

(2) 415号住居跡
(東から)

(3) 416号住居跡
(北から)

(1) 421号住居跡
（南から）

(2) 同上　カマド
（東から）

(3) 422号住居跡
（南東から）

(1) 422号住居跡 カマド
（南東から）

(2) 424号住居跡
（北から）

(3) 425号住居跡
（東から）

(1) 426号住居跡・245号土坑
(東から)

(2) 427号住居跡・237号土坑
(東から)

(3) 428号住居跡
(東から)

(1) 430号住居跡
(南から)

(2) 同上　カマド
(南から)

(3) 432号住居跡
(北から)

(1) 1・5・6号掘立柱建物
(北から)

(2) 2号掘立柱建物
(北から)

(3) 3・4号掘立柱建物
(東から)

(1) 7号掘立柱建物
(北から)

(2) 8号掘立柱建物
(北から)

(3) 9号掘立柱建物
(南から)

(1) 10号掘立柱建物
（南から）

(2) 11号掘立柱建物
（南東から）

(3) 12号掘立柱建物，310・316号住居跡
（南から）

(1) 13号掘立柱建物
(北から)

(2) 14号掘立柱建物
(南東から)

(3) 15号掘立柱建物
(南から)

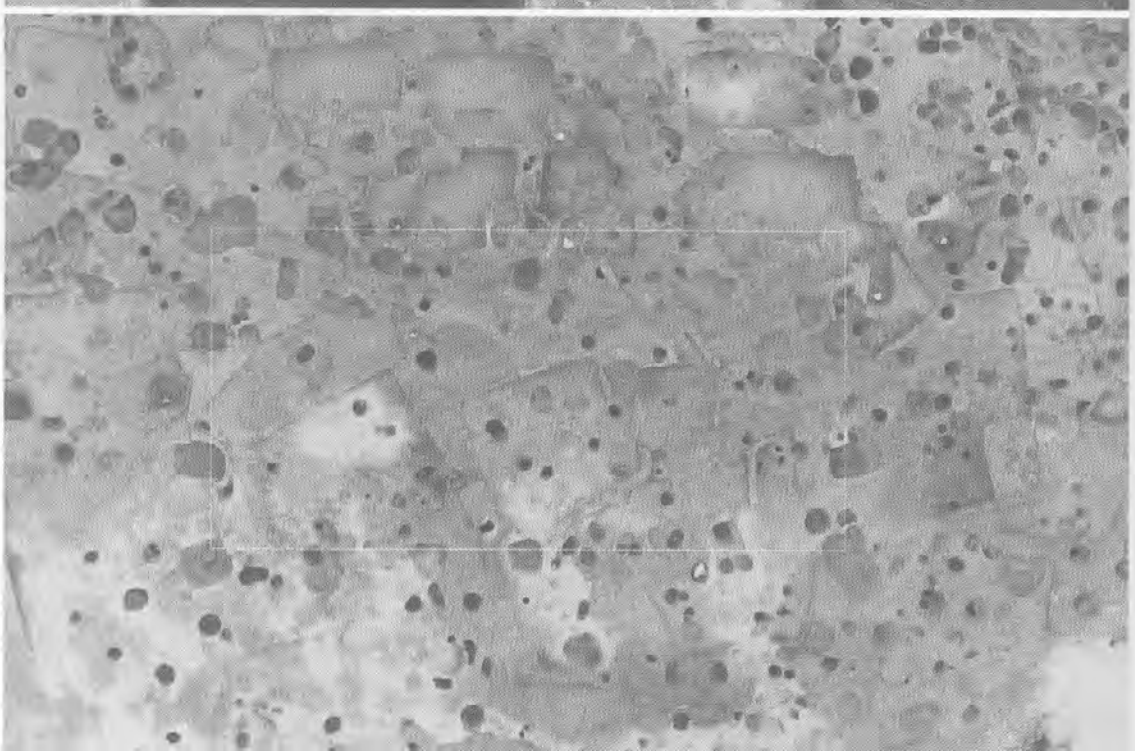
(1) 17号掘立柱建物
（南西から）

(2) 18号掘立柱建物
（南から）

(3) 19号掘立柱建物
（北から）

(1) 20号掘立柱建物
(東から)

(2) 21・26・27号掘立柱建物
(南から)



(3) 24号掘立柱建物
(左が北・空中写真)

(1) 1号甕棺墓
(西から)

(2) 2号甕棺墓
(南から)

(3) 3号甕棺墓
(東から)

(1) 4号甕棺墓
(北から)

(2) 5号甕棺墓
(南東から)

(3) 6～9号甕棺墓
(南東から)

(1) 6号甕棺墓
(南から)

(2) 7号甕棺墓
(南から)

(3) 8・9号甕棺墓
(西から)

(1) 10号甕棺墓
(北東から)

(2) 11号甕棺墓
(南から)

(3) 12号甕棺墓
(東から)

(1) 13号甕棺墓
（南から）

(2) 14号甕棺墓
（東から）

(3) 1号木棺墓
（西から）

(1) 2号木棺墓
(南から)

(2) 1号石棺墓
(北から)

(3) 同上　蓋石除去後
(北から)

(1) 2号石棺墓
(東から)

(2) 3号石棺墓
(北から)

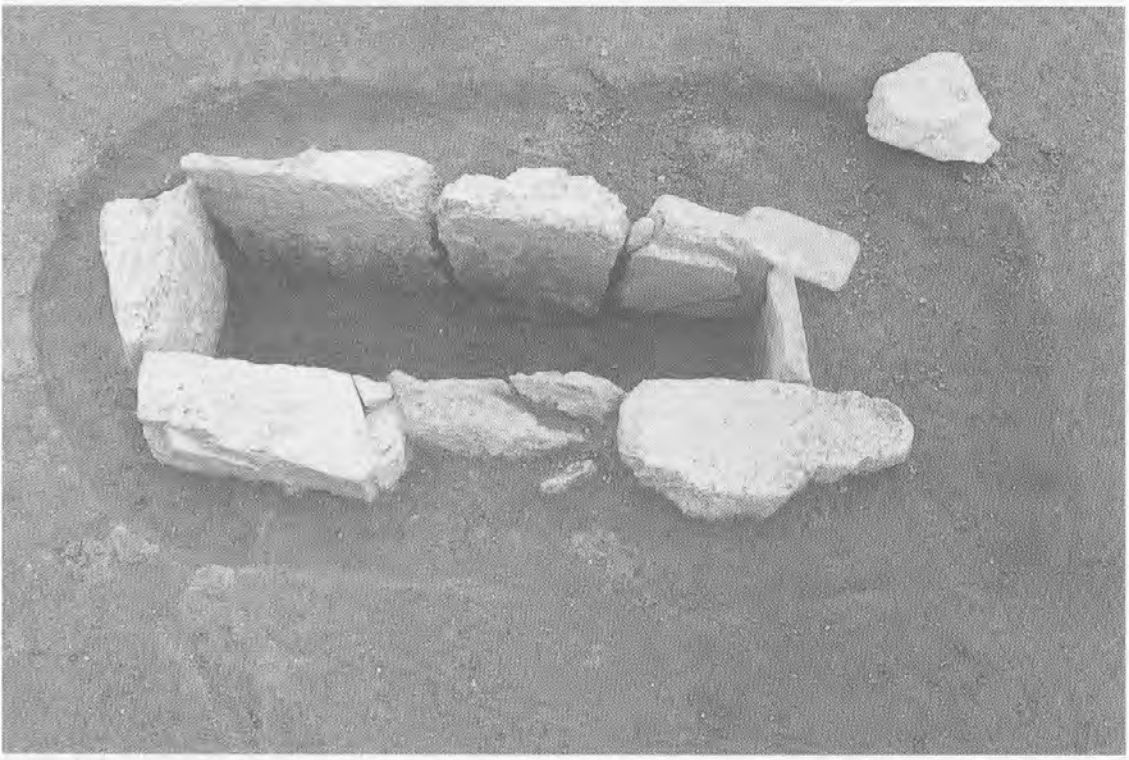
(3) 同上　蓋石除去後
(北から)

(1) 4・5号石棺墓
(東から)

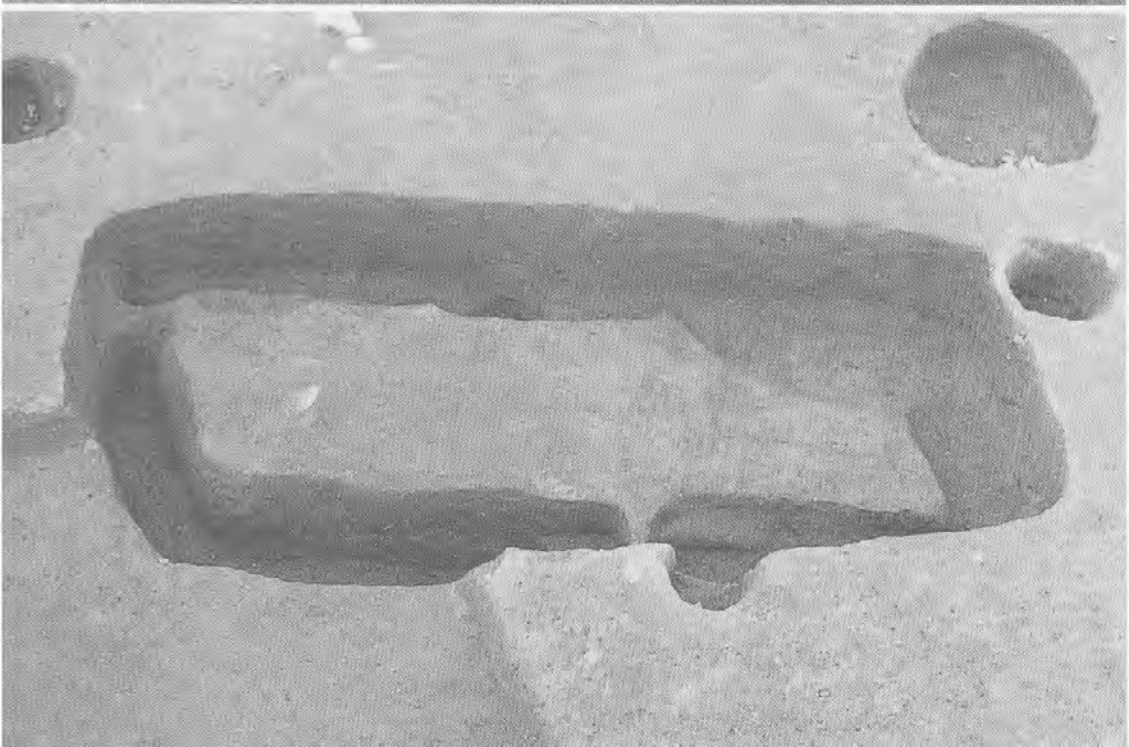
(2) 4号石棺墓
(南から)

(3) 5号石棺墓
(北から)

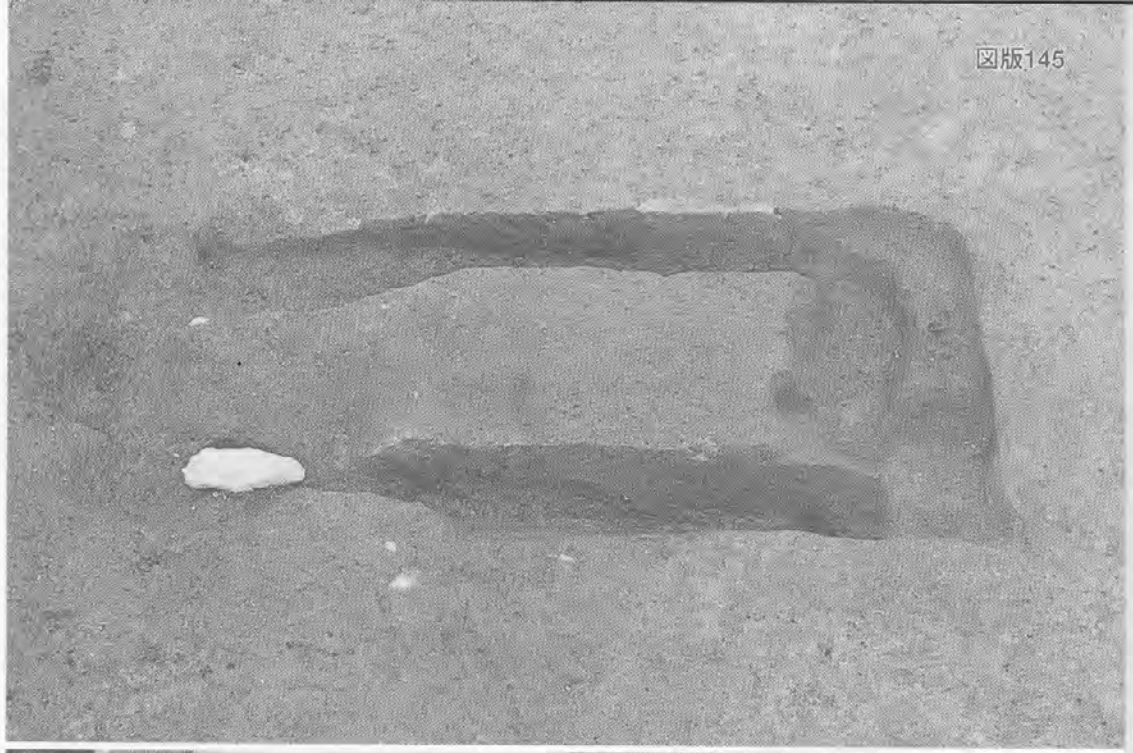
(1) 5号石棺墓 掘り下げ後
(東から)



(2) 6号石棺墓
(西から)



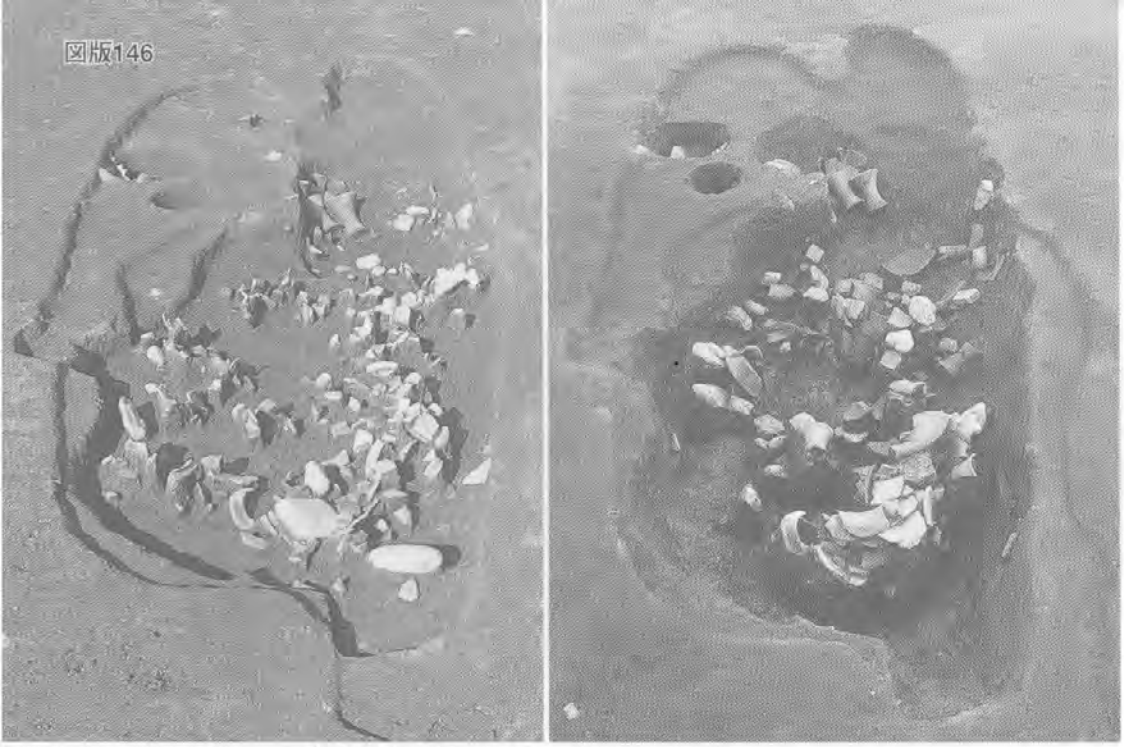
(3) 7号石棺墓
(東南から)



(1) 8号石棺墓
(南東から)

(2) 9号石棺墓
(東から)

(3) 2号土坑
(西から)



(1) 3号土坑
(南から)

(2) 4号土坑
(北西から)

(3) 5号土坑
(西から)

(1) 6号土坑
(西から)

(2) 7号土坑
(西から)

(3) 9号土坑
(北東から)

(1) 8号土坑 集石検出状況
(北から)

(2) 同上　集石除去後
(北から)

(3) 同上　人骨等出土状況
(北から)

(1) 11号土坑
(東から)

(2) 12号土坑
(北から)

(3) 13号土坑
(南から)

(1) 14・15・18・21号土坑
（南から）

(2) 16号土坑
（東から）

(3) 17号土坑
（西から）

(1) 19号土坑
(北から)

(2) 20号土坑
(南から)

(3) 22号土坑
(東から)

(1) 23号土坑
（南から）

(2) 24号土坑
（南から）

(3) 25号土坑
（北から）

(1) 26号土坑
（南から）

(2) 27号土坑
（東から）

(3) 28号土坑
（西から）

(1) 29号土坑
（西から）

(2) 同上　土層断面
（東から）

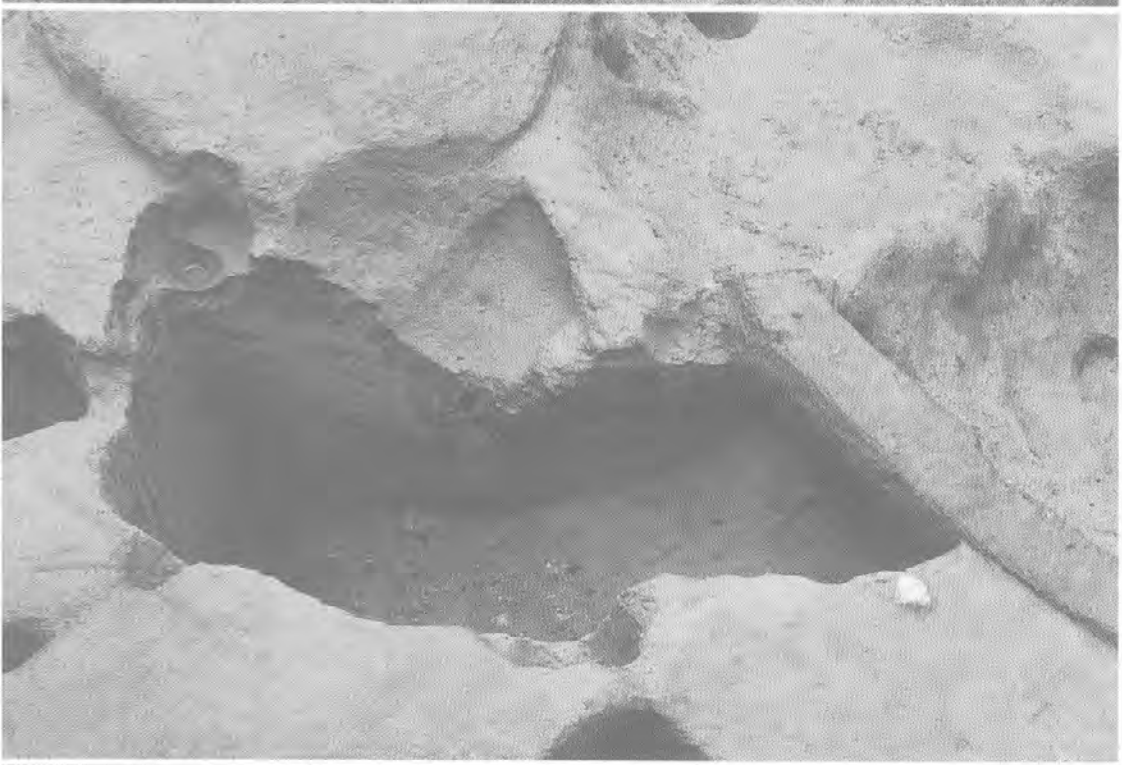
(3) 30号土坑
（東から）

(1) 31・32号土坑
（南から）

(2) 33・34号土坑
（北から）

(3) 35号土坑
（東から）

(1) 38号土坑
(北から)



(2) 39号土坑
(東から)

(3) 41号土坑
(西から)

(1) 41号土坑 掘り下げ後
(西から)

(2) 42号土坑
(南から)

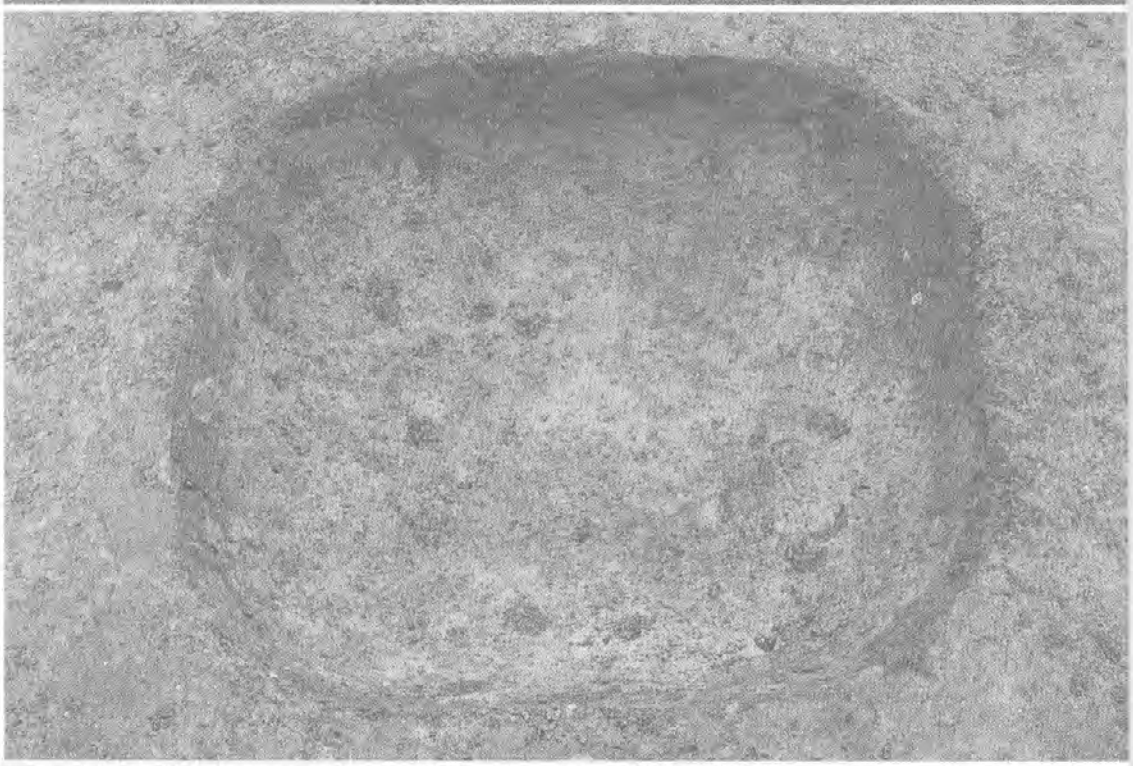
(3) 43号土坑
(西南から)

(1) 44号土坑
（西から）

(2) 47号土坑
（西南から）

(3) 48号土坑
（西南から）

(1) 53号土坑
（南から）



(2) 54号土坑
（南から）

(3) 55号土坑
（西北から）

(1) 56号土坑
(北から)

(2) 57・89号土坑
(東から)

(3) 61号土坑
(北西から)

(1) 62号土坑
（南東から）

(2) 64号土坑
（南東から）

(3) 67号土坑
（南東から）

(1) 72号土坑
（南から）

(2) 74号土坑
（南から）

(3) 75号土坑
（南から）

(1) 76号土坑
（南から）

(2) 77号土坑
（南から）

(3) 84号土坑
（南東から）

(1) 85号土坑
（南から）

(2) 86号土坑
（南から）

(3) 88号土坑
（西から）

(1) 89号土坑
（西から）

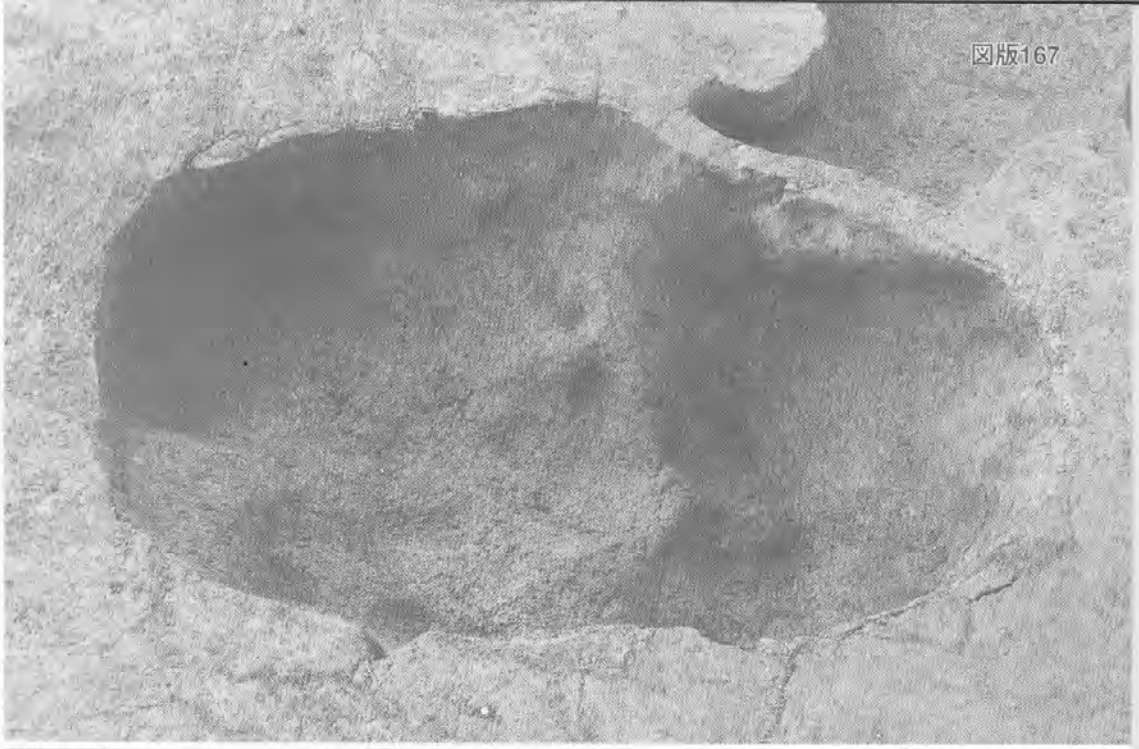
(2) 90号土坑
（北西から）

(3) 91号土坑
（北西から）

(1) 95・97号土坑
（南から）

(2) 96号土坑
（南東から）

(3) 99号土坑
（南から）



(1) 101号土坑
(北から)

(2) 102号土坑
(東から)

(3) 103号土坑
(南から)

(1) 104号土坑
(北から)

(2) 105号土坑
(東から)

(3) 106号土坑
(南西から)

(1) 107号土坑
（北から）

(2) 108号土坑
（西から）

(3) 109号土坑
（南西から）

(1) 110号土坑
（南西から）

(2) 111号土坑
（南東から）

(3) 112号土坑
（東から）

(1) 113号土坑
(東から)

(2) 115号土坑
(南から)

(3) 116号土坑
(北から)

(1) 117号土坑
（東から）

(2) 118号土坑
（南から）

(3) 119号土坑
（南から）

(1) 120号土坑
(東から)

(2) 121号土坑
(南から)

(3) 122号土坑
(北西から)

(1) 123号土坑
(北から)

(2) 124号土坑
(西から)

(3) 125号土坑
(南から)

(1) 126号土坑
(東から)

(2) 127号土坑
(東から)

(3) 128号土坑
(北から)

(1) 130号土坑
(南から)

(2) 131号土坑
(北から)

(3) 132号土坑
(東から)

(1) 135号土坑
（南から）

(2) 137号土坑
（北から）

(3) 138号土坑
（北から）

(1) 139号土坑
（南から）

(2) 141・145号土坑
（西から）

(3) 143号土坑
（北から）

(1) 147号土坑
(東から)

(2) 148号土坑
(東から)

(3) 149号土坑
(西から)

(1) 150号土坑
（東から）

(2) 151号土坑
（東南から）

(3) 152号土坑
（東から）

(1) 159号土坑
(北から)

(2) 同上　遺物出土状況
(南東から)

(3) 165号土坑
(東から)

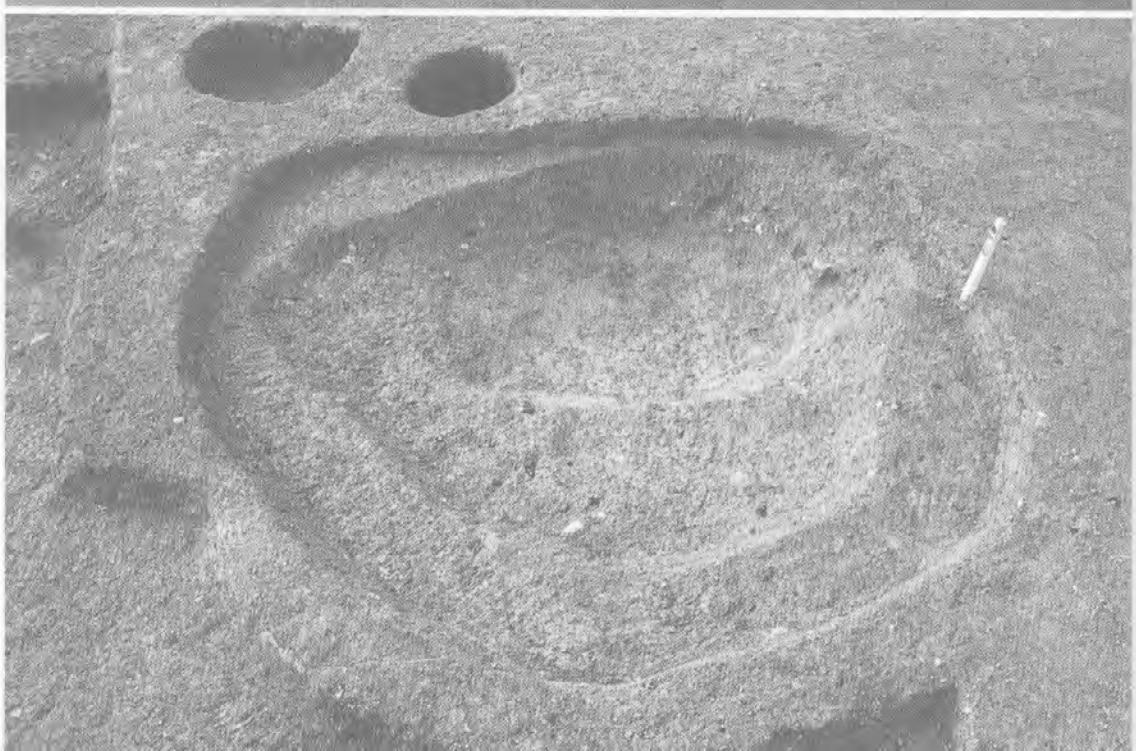
(1) 167号土坑
(南から)

(2) 同上　完掘後
(南から)

(3) 169号土坑
(東から)

(1) 171号土坑
(東から)

(2) 172号土坑
(東から)



(3) 173号土坑
(東から)

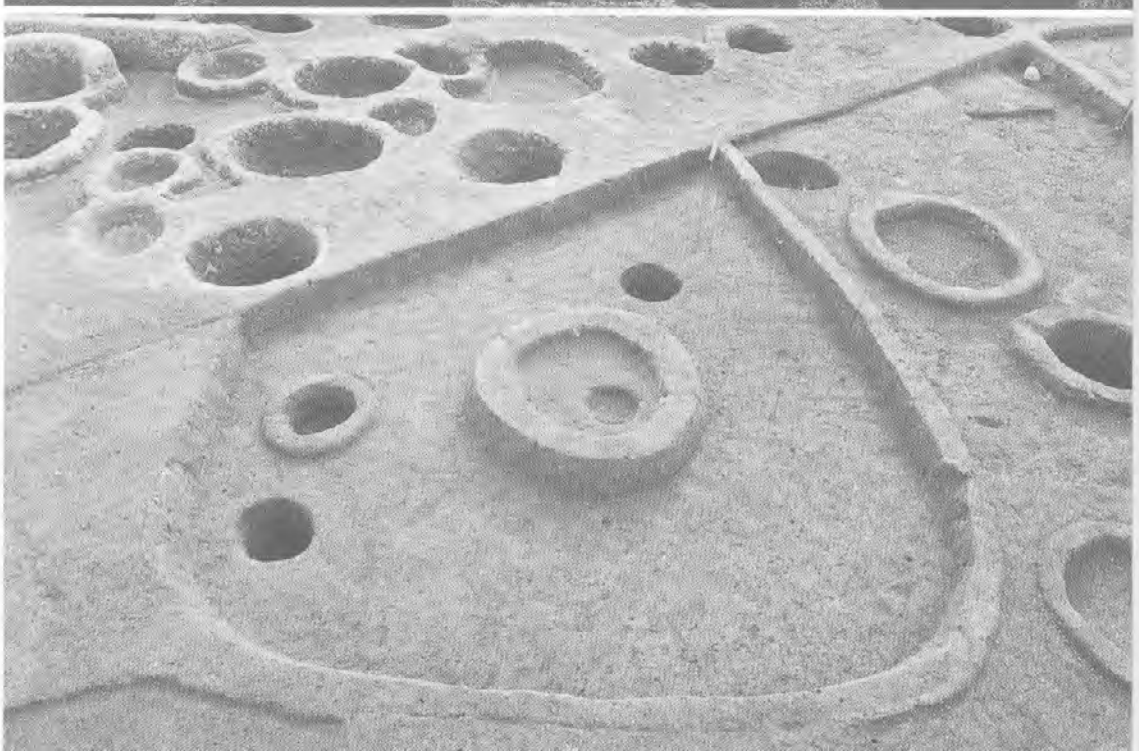
(1) 174号土坑
(東から)

(2) 同上　集石除去後
(東から)

(3) 175号土坑
(東から)

(1) 175号土坑　集石除去後
(東から)

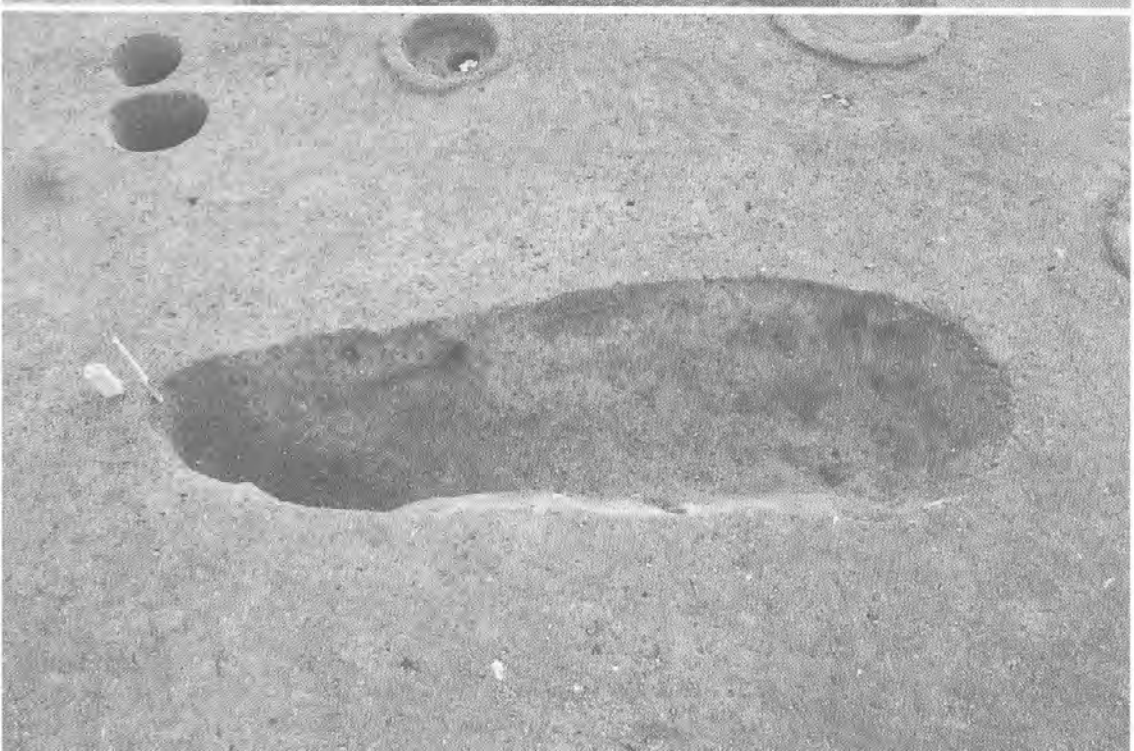
(2) 176号土坑
(北から)



(3) 177号土坑
(北から)

(1) 179号土坑
(東から)

(2) 同上　土層断面
(北から)



(3) 180号土坑
(南から)

(1) 181号土坑
（北から）

(2) 同上　炭化米出土状況
（南から）

(3) 188号土坑
（南から）

(1) 189号土坑
(南から)

(2) 190号土坑
(北から)

(3) 195号土坑
(西から)

(1) 199号土坑
(東から)

(2) 200号土坑
(東から)

(3) 201号土坑
(東から)

(1) 202号土坑
(東から)

(2) 203号土坑
(西から)

(3) 205・207号土坑
(西から)

(1) 206号土坑
(西から)

(2) 209号土坑
(東から)

(3) 210号土坑
(北から)

(1) 211号土坑
(東から)

(2) 215号土坑
(南東から)

(3) 216号土坑
(南から)

(1) 216号土坑 集石除去後
(北から)

(2) 217号土坑
(西から)

(3) 219～221号土坑
(東から)

(1) 223号土坑
（南西から）

(2) 224号土坑
（東から）

(3) 225号土坑
（北から）

(1) 226号土坑
（東から）

(2) 227号土坑
（南から）

(3) 229号土坑
（北から）

(1) 231・237号土坑
（西から）

(2) 232号土坑
（西から）

(3) 同上　ドングリ出土状況
（西から）

(1) 236・239号土坑
(西から)

(2) 238号土坑
(東から)

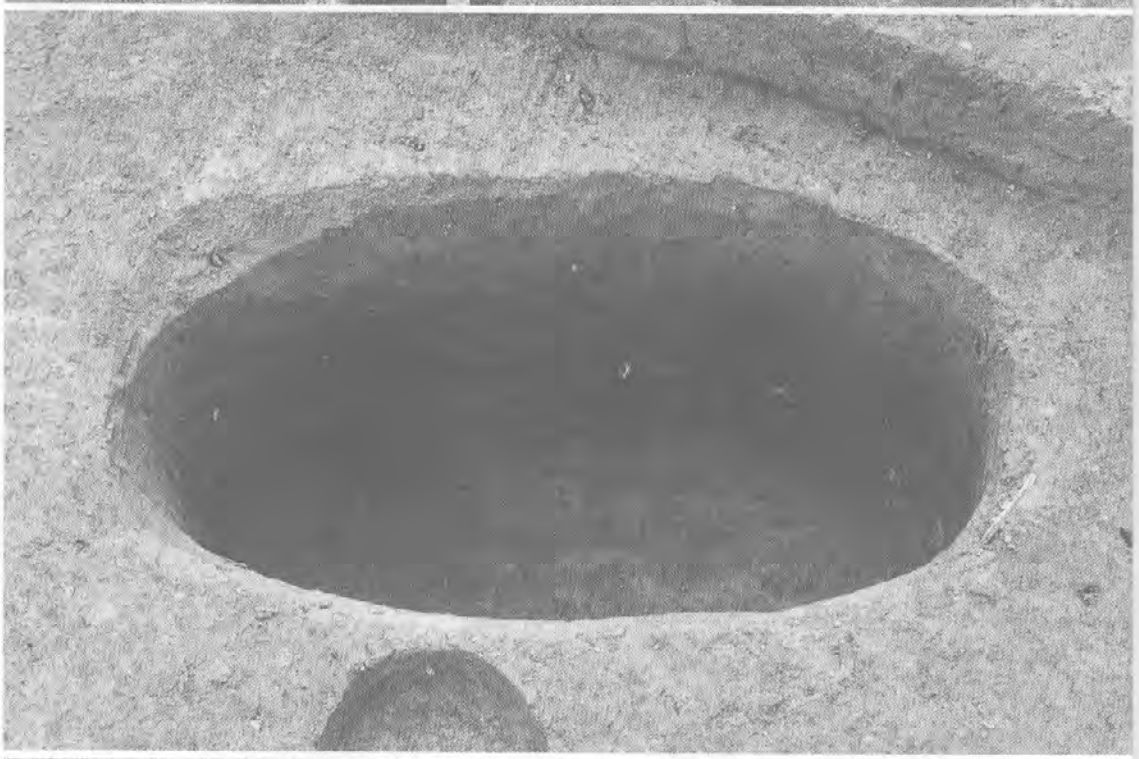
(3) 240号土坑
(西から)

(1) 241号土坑
（東から）

(2) 242号土坑
（東から）

(3) 247号土坑
（北から）

(1) 248号土坑
(南から)



(2) 249号土坑
(北から)

(3) 250号土坑
(東から)

(1) 252号土坑
(北から)

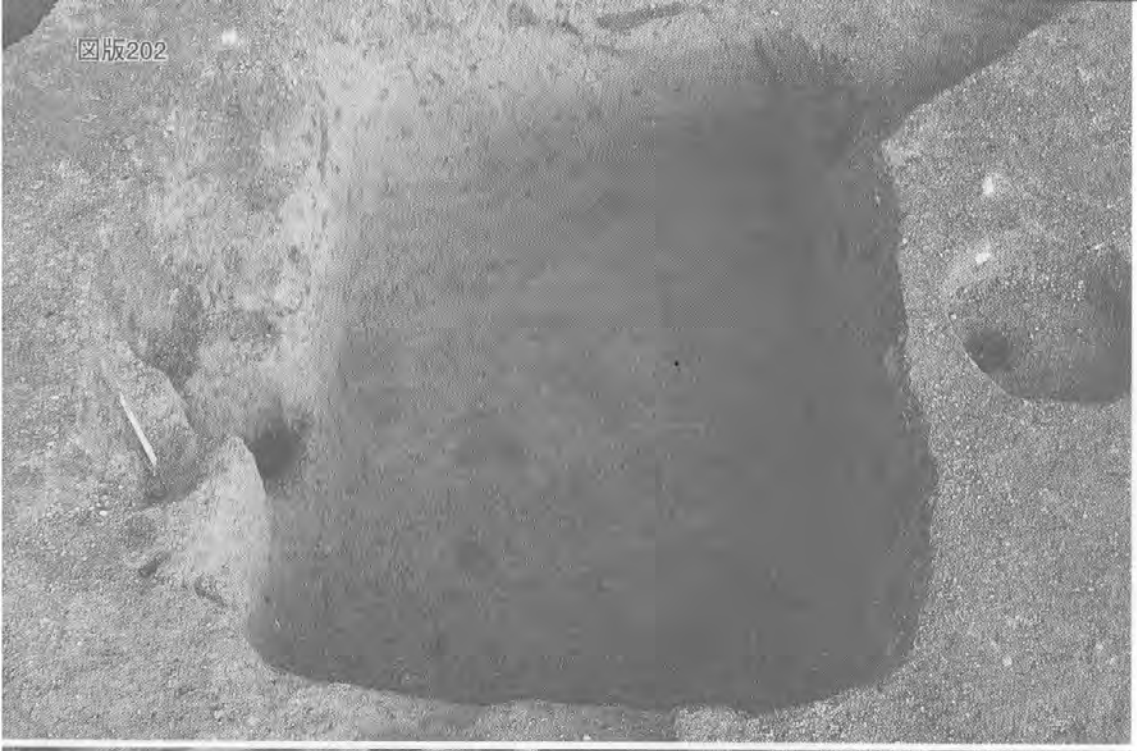
(2) 253号土坑
(東から)

(3) 254号土坑
(北から)

(1) 255号土坑
（南から）

(2) 258号土坑
（西から）

(3) 259号土坑
（南から）

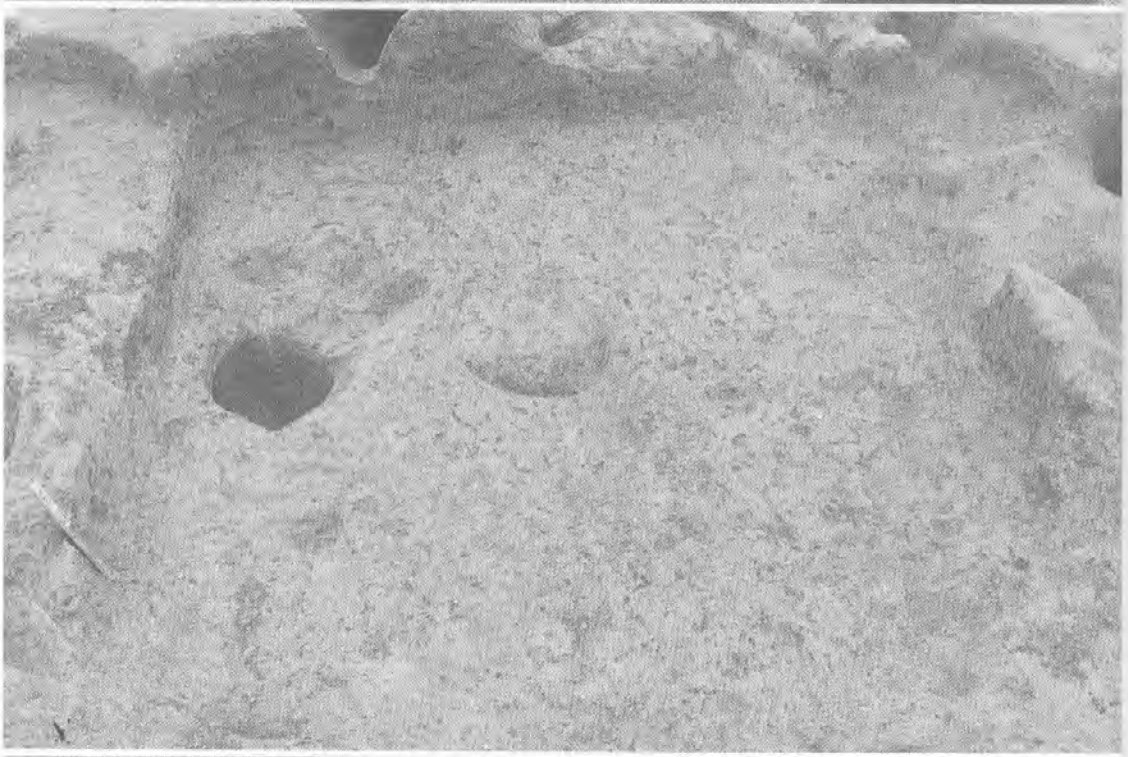


(1) 260号土坑
(西から)

(2) 262号土坑
(東から)

(3) 263号土坑
(北から)

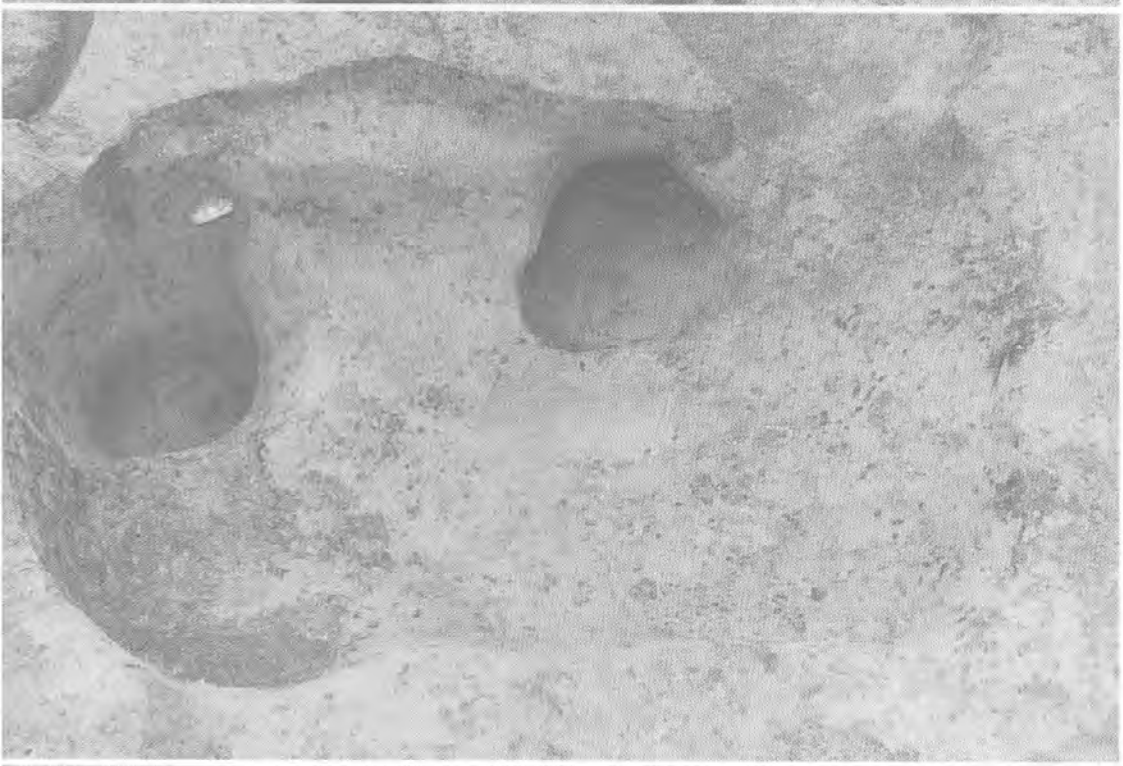
(1) 264号土坑
(北から)



(2) 266号土坑
(西から)

(3) 267号土坑

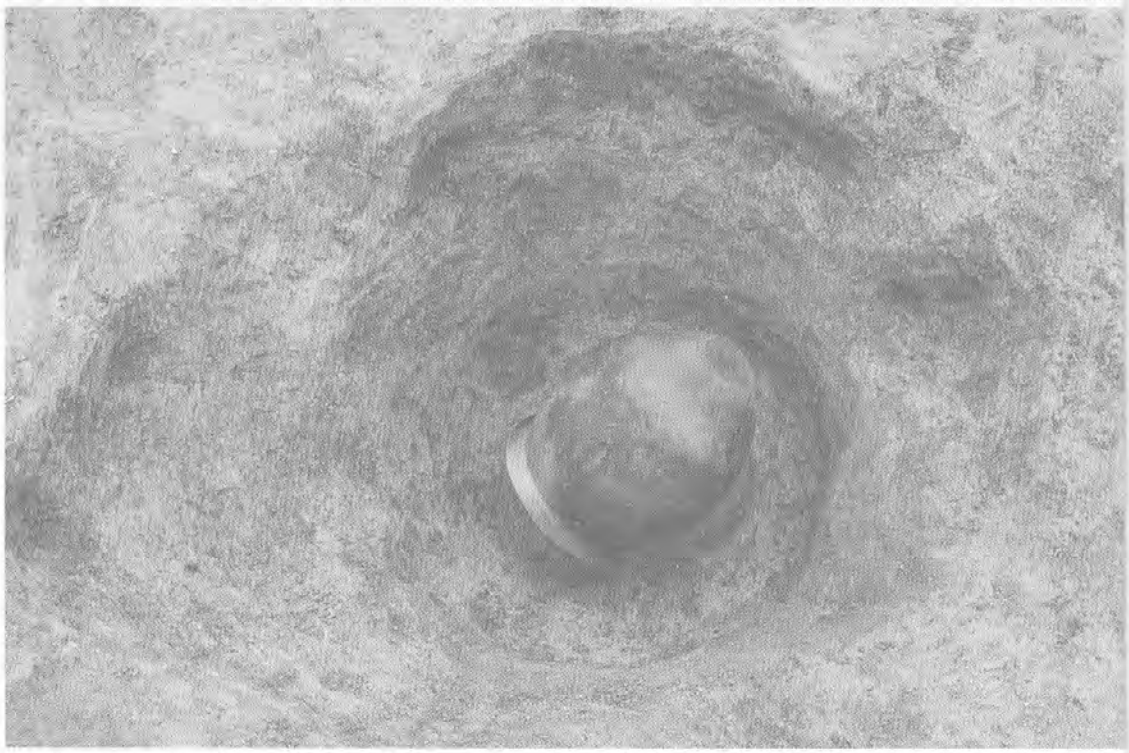
(1) 270号土坑
(北から)



(2) 271号土坑
(西から)

(3) 272号土坑
(北東から)

(1) 1226号ピット
遺物出土状況



(2) 3808号ピット
遺物出土状況

(3) 1・2号須恵器甕
(西から)

(1) 1号炉跡
(東から)

(2) 1号風倒木痕
(北東から)

(3) 2号風倒木痕
(北東から)

(1) 1・2号溝
（南から）

(2) 8号溝北半
（南から）

(3) 8・27号溝南半
（北から）

(1) 8号溝土層断面
(北から)

(2) 13号溝
(南から)

(3) 同上　鏡出土状況

(1) 13号溝土層断面
（南から）

(2) 15号溝土層断面
（北から）

(3) 16号溝土層断面
（北西から）

(1) 河跡北半
(南から)

(2) 河跡南半
(北から)

(3) 河跡土層断面
(北から)

報告書抄録

ふりがな	かいもといせき　いち
書名	貝元遺跡Ⅰ
副書名	九州自動車道筑紫野I.C.建設に伴う筑紫野市所在弥生・古墳時代大集落の発掘調査報告
巻次	Ⅰ
シリーズ名	
シリーズ番号	
編著者名	中間研志　吉村靖徳
編集機関	福岡県教育委員会
所在地	〒812-8575　福岡県福岡市博多区東公園7番7号　TEL092-651-1111
発行年月日	西暦1998年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 m²	調査原因
貝元遺跡 （かいもといせき）	福岡県筑紫野市（ふくおかけんちくしのし） 大字古賀（おおあざこが） 字ヘボノ木（あざへぼのき）		170340	33度 28分 18秒	130度 31分 27秒	19960108 ～ 19970328	12,200	九州 自動車道 筑紫野I.C. 建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
貝元遺跡	集落 墓地	弥生時代 古墳時代 奈良時代	竪穴住居跡　411 土坑　267 掘立柱建物　28 甕棺墓　14 木棺墓　2 石棺墓　10 炉跡　1 須恵甕埋置　2 溝状遺構　35 河跡　1 （以上、各時代を含む）	・弥生・古墳・奈良時代の土器類極めて多量 ・小型仿製鏡2面 ・青銅製鋤先1点 ・古墳時代祭祀玉類 ・弥生時代鉄器多量 ・鐸形土製品 ・弥生時代石器多量 ・滑石製子持勾玉	弥生～古墳時代の巨大集落跡 弥生時代大型建物

貝元遺跡Ⅰ

平成10年3月31日

発行　福岡県教育委員会
福岡市博多区東公園7番7号

印刷　大野印刷株式会社
福岡市博多区榎田2丁目2番65号

福岡県行政資料

分類番号 JH	所属コード 2133051
登録年度 9	登録番号 10